

# 総合政策学部

## 2021年度 シラバス (講義要綱)



四日市大学

# 目 次

## 総合政策学科卒業必要単位数

【2017年度以降入学生】

区 分		卒業必要単位数				
全学共通教育科目	基礎科目	必修	6単位			
	語学科目	必修	4単位 留学生は日本語で4単位			
		選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上			
	情報科目	必修	6単位			
		選択				
	地域科目	選択	4単位以上			
	一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上		
		人文科学系列	選択	4単位以上		
		自然科学系列	選択	4単位以上		
	キャリア科目	必修	4単位			
		選択				
※特別科目	選択					
スキル科目	社会調査士養成ユニット	選択	いずれかのユニットから10単位以上			
	公務員養成ユニット	選択				
	おもてなし経営ユニット	選択				
	英語力養成ユニット	選択				
	メディアデザインユニット	選択				
専門教育科目	学部基礎科目	必修	6単位			
	演習科目	必修	12単位			
	地域・まちづくり分野	選択必修	いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上	選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上	左記の条件を満たし、さらに8単位以上	
		選択				
	スポーツ・人間分野	選択必修				
		選択				
国際・経営分野	選択必修					
分野共通科目	選択					
		50単位以上		全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上		
		62単位以上		合計130単位以上		

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

【2013年度～2016年度入学生】

区 分		卒業必要単位数				
全学共通教育科目	基礎科目	必修	6単位			必修20単位を含めて60単位以上
	語学科目	必修	4単位 留学生は日本語で4単位			
		選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上			
	情報科目	必修	6単位			
		選択				
	系列科目	地域・社会系列	選択	6単位以上		
		人文系列	選択	6単位以上		
自然系列		選択	6単位以上			
キャリア科目	必修	4単位				
	選択					
特別科目	選択					
専門教育科目	公務員養成・資格分野	選択		必修14単位を含めて70単位以上		
	総合分野	必修	4単位			
		選択				
	演習分野	必修	10単位			
		選択				
	地域政策コース	選択				
スポーツ政策コース	選択					
国際政策コース	選択					

カリキュラム表の見方

区 分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授 業 科 目 名	授業科目の名称を記載します。
単 位 数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年 次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ …半期週1回開講 ◎ …半期週2回開講 集 …集中講義 ▲ …その他の開講 ■ …不開講科目
講 師 区 分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 …他学部所属教員 非 …他大学、他組織所属教員 ※空白は本学部所属の教員を表します。
担 当 教 員	科目を担当する教員名を記載します。
ベ ー シ ッ ク	ファンタジスタ科目—三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格科目
実 践	実践交流科目—三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス）資格科目
実 務	実務家教員授業科目（本編科目名末尾に[実務]と記載します。）

※シラバス本編の配当年次は、2017年度以降入学生のカリキュラムに基づき記載します。

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013~2016年度入学生 授業科目名	単位数	配 当 年 次				講師 区分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ ク	実 践	実 務	備 考	
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期								3年次 前期
全 学 科 目	基礎 必修 「人間たれ」		②	○					岩崎 恭典 岩崎 祐子 奥原 貴士 小林 慶太郎 杉谷 克芳 鶴田 利恵	1					
		入門演習 I	入門演習 I	②	○					富田 与博 永井 博 本部 賢一 三田 泰雅 兼 李 修二	1				
	基礎 必修			②	○					岩崎 祐子 奥原 貴士 小林 慶太郎 杉谷 克芳 鶴田 利恵 富田 与博 永井 博 本部 賢一 三田 泰雅 兼 李 修二	2				
		入門演習 II	入門演習 II	②	○										
	共 通 教 育 学 科 目	基礎 必修	基礎英語 I	基礎英語 I	②	○				ゴードン・リース フェリペ・フェハリー 非 ケント・スコット 非 柴田 啓文 非 デビッド・ダイクス	2				
			基礎英語 II	基礎英語 II	②	○				ゴードン・リース フェリペ・フェハリー 非 ケント・スコット 非 柴田 啓文 非 デビッド・ダイクス	3				
		基礎 必修	基礎日本語 I	基礎日本語 I	②	◎				加納 光 非 伊藤 晴苗 非 角田 延之 非 安田由紀子	3				
			基礎日本語 II	基礎日本語 II	②	◎				加納 光 非 伊藤 晴苗 非 角田 延之 非 安田由紀子	4				
		選 択 必 修	英語コミュニケーション I	英語コミュニケーション I	2		○			ゴードン・リース 兼 エリック・ブレイ	4 5				
			英語コミュニケーション II	英語コミュニケーション II	2			○		ゴードン・リース 兼 エリック・ブレイ	5 6				
中国語 I			基礎中国語 I	2		○			加納 光 兼 吉山 青翔	6 7					
中国語 II			基礎中国語 II	2			○		加納 光 兼 吉山 青翔	7 8					
ポルトガル語 I				2		○			フェリペ・フェハリー	8					
ポルトガル語 II				2			○		フェリペ・フェハリー	9					
海外語学研修 a(英語)	海外語学研修		2		▲			武藤 和成	9						
海外語学研修 b(中国語)			2			▲		不 開 講							
基礎 必修	日本語中級 I	日本事情 I	2		○			加納 光 非 伊藤 晴苗 非 角田 延之 非 安田由紀子	10						
	日本語中級 II	日本事情 II	2			○		加納 光 非 伊藤 晴苗 非 角田 延之 非 安田由紀子	10						

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013~2016年度入学生 授業科目名	単 位 数	配 当 年 次				講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ ク	実 践	実 務	備 考
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期							
語 学 科 目	選 択 日 本 語 上 級 I	日 本 語 文 章 表 現 I	2				○		加 納 光 伊 藤 晴 苗 角 田 延 之 安 田 由 紀 子	11				
	日 本 語 上 級 II	日 本 語 文 章 表 現 II	2				○		加 納 光 伊 藤 晴 苗 角 田 延 之 安 田 由 紀 子	11				
情 報 学 科 目	必 修 コ ン ピ ュ ー タ リ テ ラ シ ー	コ ン ピ ュ ー タ リ テ ラ シ ー	④	◎					兼 本 部 賢 一 田 中 伊 知 郎 石 田 修 二 楓 森 博	12				
	情 報 倫 理	情 報 倫 理	②	○					兼 池 田 幹 男 片 山 清 和 田 中 伊 知 郎 千 葉 賢	12				
共 同 目 録	情 報 科 学	情 報 科 学	2	○					兼 千 葉 賢	13				
	情 報 と 職 業	情 報 と 職 業	2	○					兼 井 岡 幹 博	13				
	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 I	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 b	2	○					兼 本 部 賢 一 池 田 幹 男	14				
	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 II	ア プ リ ケ ー シ ョ ン 演 習 a	2		○				兼 池 田 幹 男	14				
地 域 科 目	四 日 市 学	四 日 市 学	2	○					岡 良 浩 鬼 頭 浩 文 永 井 博	15	○			
	地 域 社 会 の 歴 史	地 域 社 会 の 歴 史	2	○					兼 李 修 二	15	○			
	市 民 教 育	市 民 教 育	2	○					岡 佑 哉	16	○			
	人 権 論	人 権 論	2	○					松 井 真 理 子	16	○			
	地 域 社 会 と 環 境		2	○					野 呂 達 哉	17	○	○		
	地 域 防 災	総 合 政 策 特 講 a	2	○					鬼 頭 浩 文	17	○			
	地 域 連 携 特 別 講 義 a		2		▲				小 林 慶 太 郎	18	○	○	○	
地 域 連 携 特 別 講 義 b		2		▲				小 林 慶 太 郎	18	○	○	○		
育 成 目 録	経 営 学	経 営 学	2	○					非 吉 成 亮	19				
	経 済 学	経 済 学	2	○					鬼 頭 浩 文	19				
	政 治 学	政 治 学	2	○					小 林 慶 太 郎	20				
	社 会 学	社 会 学	2	○					三 田 泰 雅	20				
	ジ ェ ン ダ ー 論	ジ ェ ン ダ ー 論	2	○					高 田 晴 美 三 田 泰 雅	21				
	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	2	○					兼 関 根 辰 夫 前 川 督 雄	21				
	社 会 福 祉 概 論	社 会 福 祉 論	2	○					兼 山 本 伸	22				
	日 本 国 憲 法	憲 法	2	○					李 修 二	22				
	法 学 入 門	法 学 入 門	2	○					中 西 紀 夫	23				
	民 法 入 門	民 法 入 門	2	○					非 小 林 聖 仁	23			○	
	倫 理 学	倫 理 学	2	○					フェリベ・フェハーリ	24				
	哲 学	哲 学	2	○					フェリベ・フェハーリ	24				
文 章 表 現 論	文 章 表 現 論	2	○	○				永 井 博 杉 谷 克 芳	25				【留學生以外】	
文 化 論	文 化 論 b	2	○					永 井 博 前 川 督 雄	26				【留學生クラス】	
教 育 学	教 育 学	2	○					兼 不 開 講	26					
日 本 史 概 論	歴 史	2	○					非 岡 佑 哉	27					
世 界 史 概 論	歴 史	2	○					兼 李 修 二	27					
地 理 学 概 論		2	○					非 磯 野 巧	28					
地 理 学 誌		2	○					非 磯 野 巧	28					

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013～2016年度入学生 授業科目名	単位数	配 当 年 次				講師区分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期							
一般教養科目	科学的思考論	科学的思考論	2	○					兼 吉 山 青 翔	29				
	科学思想史	科学思想史	2	○					兼 吉 山 青 翔	29				
	自然科学概論	自然科学概論	2	○					兼 田 中 伊 知 郎	30				
	数学概論	数学概論	2	○					兼 吉 見 勝 治	30			○	
	化学概論	化学 1	2	○					兼 牧 田 直 子	31				
	地学概論		2	○					非 森 康 則	31				
	生物学概論	生物学	2	○					兼 田 中 伊 知 郎	32				
	生物と進化	生物と進化	2	○					兼 田 中 伊 知 郎	32				
	環境論	環境論	2	○					吉 山 青 翔	33				
	環境心理学	環境心理学	2	○					兼 田 中 伊 知 郎	33				
全学共通科目	キャリア基礎Ⅰ	キャリア基礎Ⅰ	②	○					岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	34			○	
	キャリア基礎Ⅱ	キャリア基礎Ⅱ	②		○				高 田 晴 美 中 西 紀 夫 岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	34			○	【公務員クラス】
	キャリア基礎Ⅲ	キャリア基礎Ⅲ	②			○			岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	35			○	
	キャリア基礎Ⅳ	キャリア基礎Ⅳ	②				○		高 田 晴 美 中 西 紀 夫 岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	35			○	【公務員クラス】
	キャリア基礎Ⅴ	キャリア基礎Ⅴ	②				○		岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	36			○	
	キャリア基礎Ⅵ	キャリア基礎Ⅵ	②				○		高 田 晴 美 中 西 紀 夫 岩 崎 祐 子 岡 良 浩 永 井 博 本 部 賢 一 兼 李 修 二 兼 関 根 辰 夫 兼 田 中 伊 知 郎 兼 牧 田 直 子 兼 吉 山 青 翔	36			○	【公務員クラス】
	ボランティア活動 a	ボランティア活動 a	2	▲					松 井 真 理 子	37	○			
	ボランティア活動 b	ボランティア活動 b	2	▲						37	○			
	国際協力研修 インターンシップ	青年海外協力研修 インターンシップ	2		▲				岩 崎 祐 子 鬼 頭 浩 文	37 38	○			
	他大学開放科目 a		2		▲									
他大学開放科目 b		2		▲										
他大学開放科目 c		2		▲										
他大学開放科目 d		2		▲										
他大学開放科目 e		2		▲										
総合政策学部ス キル科目	社会調査入門	社会調査論	2	○					三 田 泰 雅	38				
	社会調査の技法	社会調査方法論	2	○					三 田 泰 雅	39				
	データ分析の基礎	データ分析論	2		○				兼 田 中 伊 知 郎	39				
	統計的分析	社会調査のための統計学	2			○			兼 田 中 伊 知 郎	40				
	データ解析の技法	量的データ解析法	2			○			兼 吉 見 勝 治	40			○	
	フィールドワーク論	比較文化論	2		○				富 田 与	41				
	社会調査実習 1	まちづくり研究	2				○		三 田 泰 雅	41	○			
	社会調査実習 2	コース別研修	2				○		三 田 泰 雅	42	○			

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013～2016年度入学生 授業科目名	単 位 数	配 当 年 次				講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期							
全 学 部 教 育 科 目	公務員養成ユニット	公務のための数的推理	公務のための数的処理	2	○					高田晴美	42			
		公務のための判断推理	公務のための判断推理	2	○					高田晴美	43			
		公務のための現代文	公務のための現代文	2	○					高田晴美	43			
		公務のための政治学	公務のための政治学	2			○			小林慶太郎	44			
		公務のための経済学	公務のための経済学	2			○			鬼頭浩文	44			
		公務のための法学	公務のための法学	2			○			中西紀夫	45			
		公務のための人文科学	公務のための人文科学	2			○		兼	李修二	45			
		公務のための自然科学	公務のための自然科学	2				○		高田晴美	46			
		公務のための英文理解	公務のための英文理解	2					○	ゴードン・リース	46			
		公務のための論文・面接	公務のための論文・面接	2					◎	小林慶太郎	47			
	総合政策学	ビジネスマナー		2	○					岡良浩ほか	47		○	
		サービス経営論		2	○					岡良浩	48			
		販売士講座	販売士論	2			○		非	山川和美	48		○	
		ビジネスコミュニケーション	秘書実務	2			○			岡良浩ほか	49		○	
		グローバルコミュニケーション		2			○			富田与	49			
		オペレーション演習		2			集			岡良浩 永井博	50	○	○	
		ビジネスマネジメント		2				○		杉谷克芳 岩崎祐子	50			
		マーケティング演習		2				○		奥原貴士 岡良浩	51	○	○	
		おもてなし特別講義 a		2			○		非	岩崎祐子 岡良浩	51	○	○	
		おもてなし特別講義 b		2			○		兼	池田幹男 岩崎祐子 岡良浩	52	○	○	
	英語力養成ユニット	観光英語 I	英会話 a	2	○				兼	エリック・ブレイ	52			
		観光英語 II	英会話 b	2	○				兼	エリック・ブレイ	53			
		コンピュータ英語 I	英語でメモ・e-mail	2	○				非	柴田啓文	53			
		コンピュータ英語 II	英語でコンピュータ	2	○				非	柴田啓文	54			
		英語表現 I	英語で映画	2			○			ゴードン・リース	54			
		英語表現 II	英語でドラマ	2			○			ゴードン・リース	55			
		ビジネス英語 I		2			○		非	デイビッド・ダイクス	55			
		ビジネス英語 II	ビジネス英語	2			○		非	デイビッド・ダイクス	56			
		検定英語 I		2				○	非	武藤和成	56			
		検定英語 II	資格のための英語	2				○	非	武藤和成	57			
	メディアデザインユニット	メディアツール a		2	○				兼	池田幹男	57			
				2	○				非	池上貴文	58		○	
				2	○				非	都映里	58		○	
メディアツール b			2	○				兼	池田幹男	59				
			2	○				非	池上貴文	59		○		
			2	○				非	都映里	60		○		
メディアツール c			2			○		非	田中麻衣	60		○		
メディアツール d			2			○		兼	関根辰夫	61		○		
Webデザイン a			2			○		非	堀内敬弘	61		○		
Webデザイン b			2			○		非	堀内敬弘	62		○		
Webプログラミングユニット	Webプログラミング a		2	○				兼	池田幹男 片山清和	62				
	Webプログラミング b		2			○		兼	前川督雄	63				
	インターネット論		2			○		兼	池田幹男 片山清和	63				

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013~2016年度入学生 授業科目名	単 位 数	配 当 年 次				講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ィ ン ジ ツ ク	実 践	実 務	備 考		
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期								3年次 前期	3年次 後期
専 門 演 習 必 修 教 育 科 目	政策科学入門		②	○					永井博ほか	64						
	総合政策論 I	総合政策論 b	②		○				永井博ほか	64						
	総合政策論 II	総合政策論 a	②			○			永井博ほか	65						
	基礎演習 a	基礎演習 a	基礎演習 ②	②						奥原貴士	65					
										鬼頭浩文	66					
										小泉大亮	66					
										小林慶太郎	67					
										高田晴美	67					
										鶴田利恵	68					
										富田与	68					
										中西紀夫	69					
										フェリペ・フェーリ	69					
										松井真理子	70					
										三田泰雅	70					
										若山裕晃	71					
										奥原貴士	71					
										鬼頭浩文	72					
										小泉大亮	72					
	小林慶太郎	73														
	高田晴美	73														
	鶴田利恵	74														
	富田与	74														
	中西紀夫	75														
	フェリペ・フェーリ	75														
	松井真理子	76														
	三田泰雅	76														
	若山裕晃	77														
奥原貴士	77															
鬼頭浩文	78															
小泉大亮	78															
小林慶太郎	79															
高田晴美	79															
鶴田利恵	80															
富田与	80															
中西紀夫	81															
松井真理子	81															
三田泰雅	82															
若山裕晃	82															
奥原貴士	83															
鬼頭浩文	83															
小泉大亮	84															
小林慶太郎	84															
高田晴美	85															
鶴田利恵	85															
富田与	86															
中西紀夫	86															
松井真理子	87															
三田泰雅	87															
若山裕晃	88															
奥原貴士	88															
鬼頭浩文	89															
小泉大亮	89															
小林慶太郎	90															
高田晴美	90															
鶴田利恵	91															
富田与	91															
中西紀夫	92															
松井真理子	92															
三田泰雅	93															
若山裕晃	93															
基礎演習 b	基礎演習 b	専門基礎演習 ②	②													
専門演習 a	専門演習 a	専門演習 a ②	②													
専門演習 b	専門演習 b	専門演習 b ②	②													
専門演習 c	専門演習 c	専門演習 c ②	②													



総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013~2016年度入学生 授業科目名	単 位 数	配 当 年 次				講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ ク	実 践	実 務	備 考			
				1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期								3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期
演習科目	専 門 演 習 d	専 門 演 習 d	②							奥原貴士	94						
												鬼頭浩文	94				
												小泉大亮	95				
												小林慶太郎	95				
												高田晴美	96				
												鶴田利恵	96				
												富田与	97				
												中西紀夫	97				
												松井真理子	98				
												三田泰雅	98				
												若山裕晃	99				
分野必修	地方自治論	地方自治論	②		○					小林慶太郎	99						
	地域経済論		②			○				岡良浩	100						
	政策過程論	政策過程論	②				○			小林慶太郎	100						
	現代財政学		2			○				鶴田利恵	101						
	行政法学	行政法学	2				○			小林慶太郎ほか	101	○		○			
	行政法学	行政法学	2				○		非	藤本和弘	102			○			
	都市法務		2					○		中西紀夫	102						
	政策法務		2					○		中西紀夫	103						
	地域産業論		2			○				岡良浩	103	○					
	地域開発論	地域開発論	2				○			岡良浩	104	○					
	地域福祉論	福祉住環境論	2				○		非	柴田啓文	104						
地域と社会	社会保障論		2				○		兼	李修二	105						
	地域社会学		2				○			三田泰雅	105						
	環境社会学		2				○			吉見勝治	106			○			
	女性学		2				○			不開講							
	食とまちづくり	食とまちづくり	2	○						小林慶太郎	106	○	○	○			
	祭りとまちづくり	祭りとまちづくり	2			○				岩崎恭典ほか	107	○	○	○			
	音楽とまちづくり	芸術学	2				○		兼	鬼頭浩文 関根辰夫	107	○	○	○			
	鉄道とまちづくり	鉄道とまちづくり	2				○			前川督雄 岩崎恭典	108	○	○	○			
	コミュニティ論	コミュニティ論	2		○					岩崎恭典	108	○					
	地方議会論	地方議会論	2			○				不開講		○					
	NPO論	NPO論	2			○				松井真理子	109	○		○			
地域政策	マイノリティ政策	マイノリティ政策	2	○						小林慶太郎	109						
	環境政策	環境政策	2			○				岡良浩 鬼頭浩文	110						
	観光政策	観光実務	2				○		兼	岡良浩 千葉賢	110	○	○				
	経済政策	経済政策	2				○			鬼頭浩文	111						
	都市政策	都市政策	2				○		非	藤本和弘	111						
	交通政策		2				○			本部賢一	112						
	都市計画		2				○			本部賢一	112						
	分野必修	からだところ		②			○			非 非 非	大西信行 杉崎一美 萩典子	113					
		ところの科学		②				○			若山裕晃	113					
		スポーツ政策論	スポーツ政策論	②			○				小泉大亮	114					
		スポーツ指導論	スポーツ指導論	2	○						若山裕晃	114					
スポーツトレーニング論		スポーツトレーニング論	2	○						若山裕晃	115						
スポーツ心理学		スポーツ心理学	2		○					若山裕晃	115						
スポーツ社会学		スポーツ社会学	2				○			若山裕晃	116						
スポーツ生理学		スポーツ生理学	2				○			小泉大亮	116						
健康スポーツ論		健康スポーツ論	2				○			小泉大亮	117						
スポーツ栄養学		スポーツ栄養学	2				○		非	櫻井智美	117			○			

総合政策学科

区分	2017年度以降入学生 授業科目名	2013~2016年度入学生 授業科目名	単 位 数	配 当 年 次				講 師 区 分	担 当 教 員	ペ ー ジ	ベ ー シ ン グ	実 践	実 務	備 考	
				1年次 前期	2年次 前期	3年次 前期	4年次 前期								
専 門 教 育 科 目	スポーツ実践	アスリート育成論	2	○					若山裕晃	118					
		スポーツ応用科学	2		○				小泉大亮	118					
		スポーツメディカル論	2			○			小泉大亮	119					
		地域スポーツ論	2		○				小泉大亮	119					
		スポーツ実技	2	○					若山裕晃	120					
	こころと健康	介護予防スポーツ	スポーツ実技 a	2		○			非池田裕美子	120			○		
		健康スポーツ実技	スポーツ実技 c	2		○			小泉大亮	121					
		こころの健康	健康科学	2		○			非萩典子	121					
		こころと文学		2		○			非工藤安史	121					
		こころと文学		2		○			非後藤由紀	121					
国 際 理 解 ・ 分 野 必 修	国際経済事情論	国際経済事情論	2	○					鶴田利恵	122					
		国際関係論	2	○					富田与	123					
		国際経営管理論	2		○				非楓森博	123			○		
	国際理解	日本経済事情論		2	○					杉谷克芳	124				
		国際金融論		2		○				岩崎祐子	124			○	
		国際経営論		2		○			非吉成亮	125					
	分 野 選 修	国際協力論	国際協力論	2		○				富田与	125				
		開発経済論		2		○				鶴田利恵	126				
		簿記入門	簿記入門	2	○					奥原貴士	126				
		会計学総論		2	○					奥原貴士	127				
財務諸表論			2		○				奥原貴士	127					
経営戦略論			2		○			非西浦尚夫	128			○			
マーケティング論			2		○			非西浦尚夫	128			○			
分 野 選 修	中小企業論		2		○				岡良浩	129					
	人事管理論		2			○		非吉成亮	129						
	ものづくり経営		2			○		非楓森博	130						
	流通論		2		○				杉谷克芳	130					
	農業経営論		2			○			鶴田利恵	131					
分 野 共 通 科 目	総合政策特別講義	起業論	起業論	2		○			岡良ほか	131	○	○			
		総合政策特別講義Ⅰ		2	○										
		総合政策特別講義Ⅱ		2	○										
	文化論	総合政策特別講義Ⅲ		2		○									
		出版文化論		2		○			非稲葉年計	132			○		
		日本文化論		2		○				永井博	132				
		東洋文化論	東洋文化論	2			○			加納光	133				
		西洋文化論	西洋文化論	2			○		非山本伸	133					
		地域文化論	文化論 a	2			○		非前田憲司	134	○	○			
		兼	メディアの150年史	2	○					木村真知子	134				
2013年度~ 2016年度入学生 (13カリ科目)		線型代数	2		○			非金岩稔	135						
		統計学	2		○			非井岡幹博	135						
		卒業研究	2				○	ゴードン・リース他	136						

実務経験教員授業科目

17カリ 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	実務
		1年次		2年次		3年次		4年次					
		前	後	前	後	前	後	前	後				
地域社会と環境	2	○									野呂達哉	17	○
地域連携特別講義 a	2		▲								小林慶太郎	18	○
地域連携特別講義 b	2		▲								小林慶太郎	18	○
民法入門	2	○								非	小林聖仁	23	○
数学概論	2	○								兼	吉見勝治	30	○
キャリア基礎 I	②		○								岡良浩ほか	34	○
キャリア基礎 II	②			○							岡良浩ほか	35	○
キャリア基礎 III	2				○						岡良浩ほか	36	○
データ解析の技法	2				○					兼	吉見勝治	40	○
ビジネスマナー	2		○								岡良浩ほか	47	○
販売士講座	2			○						非	山川和美	48	○
ビジネスコミュニケーション	2			○							岡良浩ほか	49	○
マーケティング演習	2						○				岡良浩	51	○
										非	岩崎祐子		
おもてなし特別講義 a	2			○							西浦尚夫	51	○
											岡良浩		
おもてなし特別講義 b	2				○					兼	池田幹男	52	○
											岩崎祐子		
											岡良浩		
メディアツール a	2	○								非	池上貴文	58	○
										非	都映里	58	○
メディアツール b	2		○							非	池上貴文	59	○
										非	都映里	60	○
メディアツール c	2			○					非	田中麻衣	60	○	
メディアツール d	2				○				兼	関根辰夫	61	○	
Webデザイン a	2				○				非	堀内敬弘	61	○	
Webデザイン b	2					○			非	堀内敬弘	62	○	
行政法	2				○						小林慶太郎ほか	101	○
行政学	2				○				非	藤本和弘	102	○	
環境社会学	2				○						吉見勝治	106	○
食とまちづくり	2	○									小林慶太郎	106	○
祭りとまちづくり	2			○							岩崎恭典ほか	107	○
											鬼頭浩文		
		兼								関根辰夫			
鉄道とまちづくり	2				○						前川督雄	108	○
											岩崎恭典		
NPO論	2				○						松井真理子	109	○
スポーツ栄養学	2				○				非	櫻井智美	117	○	
介護予防スポーツ	2				○				非	池田裕美子	120	○	
経営管理論	②				○				非	楓森博	123	○	
金融論	2				○						岩崎祐子	124	○
経営戦略論	2		○						非	西浦尚夫	128	○	
マーケティング論	2				○				非	西浦尚夫	128	○	
起業論	2				○						岡良浩ほか	131	○
出版文化論	2				○				非	稲葉年計	132	○	
地域文化論	2					○			非	前田憲司	134	○	

## 科目ナンバリングについて

- ・科目ナンバリングは、四日市大学で開講している科目（17カリキュラム）に付けられたナンバーのことです。
- ・科目ナンバリングは、その科目の分野略号、授業水準、履修順序等をあらわします。
- ・科目ナンバリングによって、教育課程の体系的な編成が理解できます。

## 科目ナンバリングの構造

科目ナンバーは分野略号と2種類のコードから構成されています。

ひとつの科目ナンバーの仕組みは以下のとおりです。

- ・分野略号：アルファベット3～4文字で、分野名をあらわします。
- ・水準コード：科目のレベルをあらわします。
- ・番号（ナンバー）：科目分野内での履修順序を示すこともあります。

例	X X X X	1	001
	分野略号	水準	番号

開講科目名「人間たれ」の科目ナンバリング「GEF1001」は以下の内容をあらわします。

分野略号：全学共通科目（GE）の基礎科目（Foundation Courses）⇒GEF

水準コード：全学共通科目（一般教養レベル）⇒1

番号（ナンバー）：001

水準コードは次の通り。

科目のレベル	水準コード
全学共通科目（一般教養レベル）	1
専門科目（基礎科目・実践科目）	2
専門科目（発展科目・応用科目）	3
専門科目（卒業研究、卒業論文等）	4
留学生科目	9
卒業用件外科目	0

# 分類略号は次の通りです

## 総合政策学部

科目区分	分類略号	分野名	領域名	
全学共通科目	G E F	基礎科目		
	G E L	語学科目		
	G E I	情報科目		
	G E C	地域科目		
	G L A S	一般教養科目	社会科学系列	
	G L A H		人文科学系列	
	G L A N		自然科学系列	
	G E C C	キャリア科目		
	G E S C	特別科目		
	G S S R	スキル科目	社会調査士養成ユニット	
	G S P O		公務員養成ユニット	
	G S H M		おもてなし経営ユニット	
	G S E T		英語力養成ユニット	
	G S M D		メディアデザインユニット	
G S M S		数理・統計力養成ユニット		
総合政策学部専門科目	P F C	学部基礎科目	必修	
	P S S	演習科目	必修	
	P C D	地域・まちづくり 分野	分野必修	修論
			政策の理	論
			地域と社会	
			まちづくり	
	P S H	スポーツ・人間 分野	分野必修	修論
			スポーツ基礎	
			スポーツ実践	
			こころと健康	
	P I M	国際・経営分野	分野必修	修論
			国際理解	
ビジネス経営				
P C F	分野共通科目	特別講義		
		文化論		

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング	
全学共通科目	GEF	Foundation Courses	基礎科目		必修	2	「人間たれ」	1	前		GEF1001	
						2	入門演習Ⅰ	1	前		GEF1002	
						2	入門演習Ⅱ	1	後		GEF1003	
	GEL	Language study	語学科目			必修	2	基礎英語Ⅰ	1	前		GEL1001
							2	基礎英語Ⅱ	1	後		GEL1002
							2	基礎日本語Ⅰ	1	前		GEL9001
							2	基礎日本語Ⅱ	1	後		GEL9002
							2	英語コミュニケーションⅠ	2	前		GEL1003
							2	英語コミュニケーションⅡ	2	後		GEL1004
				選択必修	2	中国語Ⅰ	2	前		GEL1005		
					2	中国語Ⅱ	2	後		GEL1006		
					2	ポルトガル語Ⅰ	2	前		GEL1007		
					2	ポルトガル語Ⅱ	2	後		GEL1008		
					2	海外語学研修a(英語)	2	前		GEL1009		
					2	海外語学研修b(中国語)	2	前		GEL1010		
					2	日本語中級Ⅰ	2	前		GEL9003		
					2	日本語中級Ⅱ	2	後		GEL9004		
					2	日本語上級Ⅰ	3	前		GEL9005		
	2	日本語上級Ⅱ	3	後		GEL9006						
	GEI	Information subject	情報科目			必修	4	コンピュータリテラシー	1	前		GEI1001
							2	情報倫理	1	後		GEI1002
							2	情報科学	1	前		GEI1003
						選択	2	情報と職業	1	前		GEI1004
							2	アプリケーション演習Ⅰ	1	後		GEI1005
							2	アプリケーション演習Ⅱ	2	前		GEI1006
	GEC	Community-oriented courses	地域科目				2	四日市学	1	前	★	GEC1001
							2	地域社会の歴史	1	後	★	GEC1002
							2	市民教育	1	後	★	GEC1003
							2	人権論	1	後	★	GEC1004
							2	地域社会と環境	1	後	★	GEC1005
							2	地域防災	1	前	★	GEC1006
							2	地域連携特別講義a	1	前	★	GEC1007
							2	地域連携特別講義b	1	後	★	GEC1008
	GLAS	Liberal Arts	一般教養科目	Society		社会科学系列	2	経営学	1	前		GLAS1001
							2	経済学	1	後		GLAS1002
							2	政治学	1	前		GLAS1003
2							社会学	1	後		GLAS1004	
2							ジェンダー論	1	後		GLAS1005	
Humanities				2			メディアリテラシー	1	前		GLAS1006	
				2			社会福祉概論	1	後		GLAS1007	
				2			日本国憲法	1	後		GLAS1008	
				2			法学	1	前		GLAS1009	
				2			民法入門	1	前		GLAS1010	
GLAH	Liberal Arts	一般教養科目	Humanities		人文科学系列	2	倫理学	1	前		GLAH1001	
						2	哲学	1	後		GLAH1002	
						2	文章表現論	1	前		GLAH1003	
						2	文化論	1	前・後		GLAH1004	
						2	教育学	1	後		GLAH1005	
						2	日本史概論	1	前		GLAH1006	
						2	世界史概論	1	後		GLAH1007	
						2	地理学概論	1	後		GLAH1008	
						2	地誌	1	後		GLAH1009	
						2	地誌	1	後		GLAH1010	

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング	
全学 共通 科目	GLAN	Liberal Arts	一般教養科目	Natural Science	自然科学系列	2	科学的思考論	1	前		GLAN1001	
						2	科学思想史	1	後		GLAN1002	
						2	自然科学概論	1	後		GLAN1003	
						2	数学概論	1	前		GLAN1004	
						2	化学概論	1	前		GLAN1005	
						2	地学概論	1	前		GLAN1006	
						2	生物学概論	1	前		GLAN1007	
						2	生物と進化	1	後		GLAN1008	
						2	環境論	1	後		GLAN1009	
						2	心理学	1	後		GLAN1010	
	GECC	Career courses	キャリア科目				2	キャリア基礎Ⅰ	1	後		GECC1001
							2	キャリア基礎Ⅱ	2	前		GECC1002
							2	キャリア基礎Ⅲ	2	後		GECC1003
	GESC	Special courses	特別科目				2	ボランティア活動 a	1	前	★	GESC1001
							2	ボランティア活動 b	1	前	★	GESC1002
							2	国際協力研修	1	後		GESC1003
							2	インターンシップ	2	前	★	GESC1004
							2	他大学開放科目 a	2	前		GESC1005
							2	他大学開放科目 b	2	前		GESC1006
							2	他大学開放科目 c	2	前		GESC1007
							2	他大学開放科目 d	2	前		GESC1008
							2	他大学開放科目 e	2	前		GESC1009
	GSSR				Social Researcher	社会調査士養成 ユニット	2	社会調査入門	1	前		GSSR1001
							2	社会調査の技法	1	後		GSSR1002
							2	データ分析の基礎	2	前		GSSR1003
							2	統計的分析	2	後		GSSR1004
							2	データ解析の技法	2	後		GSSR1006
							2	フィールドワーク論	2	前		GSSR1005
							2	社会調査実習 1	3	前	★	GSSR1007
							2	社会調査実習 2	3	後	★	GSSR1008
	GSPO	Skills courses	スキル科目		Public officials	公務員養成 ユニット	2	公務のための数的推理	1	前		GSPO1001
							2	公務のための判断推理	1	後		GSPO1002
							2	公務のための現代文	1	後		GSPO1003
							2	公務のための政治学	2	前		GSPO1004
							2	公務のための経済学	2	前		GSPO1005
							2	公務のための法学	2	後		GSPO1006
							2	公務のための人文科学	2	後		GSPO1007
							2	公務のための自然科学	3	前		GSPO1008
							2	公務のための英文理解	3	後		GSPO1009
							2	公務のための論文・面接	4	前		GSPO1010
	GSHM				Hospitality management	おもてなし経営 ユニット	2	ビジネスマナー	1	前		GSHM1001
							2	サービス経営論	1	後		GSHM1002
2							販売士講座	2	前		GSHM1003	
2							ビジネスコミュニケーション	2	前		GSHM1004	
2							グローバルコミュニケーション	2	後		GSHM1005	
2							オペレーション演習	2	前	★	GSHM1006	
2							ビジネスマネジメント	3	前		GSHM1007	
2							マーケティング演習	3	後	★	GSHM1008	
2							おもてなし特別講義 a	2	前	★	GSHM1009	
2							おもてなし特別講義 b	2	後	★	GSHM1010	

<2017カリ全学共通教育科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング
全学共通科目	GSET	Skills courses	スキル科目	English training	英語力養成 ユニット	2	観光英語 I	1	前		GSET1001
						2	観光英語 II	1	後		GSET1002
						2	コンピュータ英語 I	1	前		GSET1003
						2	コンピュータ英語 II	1	後		GSET1004
						2	英語表現 I	2	前		GSET1005
						2	英語表現 II	2	後		GSET1006
						2	ビジネス英語 I	2	前		GSET1007
						2	ビジネス英語 II	2	後		GSET1008
						2	検定英語 I	3	前		GSET1009
						2	検定英語 II	3	後		GSET1010
	GSMD			Media Design	メディア デザイン ユニット	2	メディアツール a	1	前	GSMD1001	
						2	メディアツール b	1	後	GSMD1002	
						2	メディアツール c	2	前	GSMD1003	
						2	メディアツール d	2	後	GSMD1004	
						2	Webデザイン a	2	後	GSMD1005	
						2	Webデザイン b	3	前	GSMD1006	
						2	Webプログラミング a	1	後	GSMD1007	
						2	Webプログラミング b	2	前	GSMD1008	
						2	インターネット論	2	前	GSMD1009	
	GSMS			Mathematical and statistical force	数理・統計力 養成ユニット	2	基礎数学	1	前	GSMS1001	
						2	統計リテラシー	1	後	GSMS1002	
						2	確率基礎	2	前	GSMS1003	
						2	微分積分	2	前	GSMS1004	
						2	線型代数	2	前	GSMS1005	
						2	データ分析の基礎	2	前	GSMS1006	
						2	統計的分析	2	後	GSMS1007	
						2	データ解析の技法	2	後	GSMS1008	
						2	データ統計処理	3	前	GSMS1009	



<2017カリ総合政策学部専門科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング
総合政策学部専門科目	PFC	Foundation Courses	学部基礎科目		必修	2	政策科学入門	1	前		PFC1001
						2	総合政策論Ⅰ	1	後		PFC2001
						2	総合政策論Ⅱ	2	前		PFC2002
	PSS	Seminar subjects	演習科目		必修	2	基礎演習 a	2	前		PSS2001
						2	基礎演習 b	2	後		PSS2002
						2	専門演習 a	3	前		PSS3001
						2	専門演習 b	3	後		PSS3002
						2	専門演習 c	4	前		PSS4001
						2	専門演習 d	4	後		PSS4002
	PCD	Community development	地域・まちづくり分野	Policy theory	政策の理論	2	地方自治論	1	後		PCD2001
						2	地域経済論	2	前		PCD2002
						2	政策過程論	2	後		PCD2003
						2	現代財政学	2	前		PPT2001
						2	行政法	2	前	★	PPT2002
						2	行政学	2	後		PPT2003
						2	都市法	3	前		PPT3001
						2	政策法務	3	後		PPT3002
						Community and society	地域と社会	2	地域産業論	2	前
				2	地域開発論			2	後	★	PCD2004
				2	地域福祉論			2	前		PCD2002
				2	社会保障論			2	後		PCD2005
				2	地域社会学			2	前		PCD2003
				2	環境社会学			2	後		PCD2006
				2	女性学			2	後		PCD2007
				City planning	まちづくり	2	食とまちづくり	1	後	★	PCP2001
						2	祭りとまちづくり	2	前	★	PCO2003
						2	音楽とまちづくり	2	後	★	PCO2006
						2	鉄道とまちづくり	2	後	★	PCO2007
						2	コミュニティ論	1	後	★	PCO2002
						2	地方議会論	2	前	★	PCO2004
						2	N P O 論	2	前	★	PCO2005
						Regional policy	地域政策	2	マイノリティ政策	1	前
				2	環境政策			2	前		PRP2002
				2	観光政策			2	前	★	PRP2003
				2	経済政策			2	後		PRP2005
				2	都市政策			2	前		PRP2004
2	交通政策	2	後		PRP2006						
2	都市計画論	3	前		PRP3001						

<2017カリ総合政策学部専門科目>

科目区分	分類略号	分野英語名	分野名	領域英語名	領域名	単位数	科目名	配当年次	配当学期	地域志向	科目ナンバリング		
総合政策学部専門科目	PSH	Sport and human	スポーツ・人間分野	Sports basics	スポーツ基礎	2	からだところ	2	前		PSH2002		
						2	こころの科学	2	後		PSH2003		
						2	スポーツ政策論	1	後		PSH2001		
						2	スポーツ指導論	1	前		PSB2001		
						2	スポーツトレーニング論	1	前		PSB2002		
						2	スポーツ心理学	1	後		PSB2003		
						2	スポーツ社会学	2	前		PSB2004		
						2	スポーツ生理学	2	前		PSB2005		
						2	健康スポーツ論	2	後		PSB2006		
				2	スポーツ栄養学	2	後		PSB2007				
				Sports practice	スポーツ実践	2	アスリート育成論	1	前		PSP2001		
						2	スポーツ応用科学	2	前		PSP2003		
						2	スポーツメディカル論	2	後		PSP2005		
						2	地域スポーツ論	2	前		PSP2004		
						2	スポーツ実技	1	後		PSP2002		
						Heart and health	こころと健康	2	介護予防スポーツ	2	前		PHH2002
								2	健康スポーツ実技	2	後		PHH2004
								2	こころの健康	1	後		PHH2001
	2	こころと文学	2					前		PHH2003			
	PIM	International / Management	国際・経営分野	International understanding	国際理解	2	国際経済事情	1	後		PIM2001		
						2	国際関係論	2	前		PIM2002		
						2	経営管理論	2	後		PIM2003		
						2	日本経済事情	1	後		PIU2001		
						2	金融論	2	前		PIU2002		
						2	国際経営論	2	前		PIU2003		
						2	国際協力論	2	後		PIU2004		
						2	開発経済学	2	後		PIU2005		
						Business management	ビジネス経営	2	簿記入門	1	前		PBM2001
				2	会計学総論			1	後		PBM2002		
				2	財務諸表論			2	前		PBM2004		
				2	経営戦略論			1	後		PBM2003		
				2	マーケティング論			2	前		PBM2005		
				2	中小企業論			2	後		PBM2008		
2				人事管理論	3			前		PBM3001			
2				ものづくり経営	2			前		PBM2006			
2				流通論	2			前		PBM2007			
2				農業経営論	2			後		PBM2009			
2				起業論	2			後	★	PBM2010			
PCF				Common field	分野共通科目			Special lecture	特別講義文化論	2	総合政策特別講義Ⅰ	1	前
						2	総合政策特別講義Ⅱ			1	前	★	PSL2002
	2	総合政策特別講義Ⅲ	1			後	★			PSL2003			
	2	出版文化論	2			前				PCF2001			
	2	日本文化論	2			前				PCF2002			
	2	東洋文化論	2			後				PCF2003			
	2	西洋文化論	2			後				PCF2004			
	2	地域文化論	3			前	★			PCF2005			

# シラバスの見方

<p>①「人間たれ」</p> <p>②岩崎 恭典</p>	<p>実務</p> <p>科目ナンバリング</p> <p>③G3301</p>	<p>④4</p> <p>⑤1</p> <p>⑥1</p> <p>⑦1</p>	<p>授業の位置づけ</p> <p>「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。</p>
<p>授業のねらい</p> <p>本学に入学生した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>			<p>授業計画</p> <p>第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。</p> <p>第1講 ガイダンス 成長スケールの記入          第2講 大学生活を充実させるボランティア活動          第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること          第4講 本学の建学の精神について          第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園          第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学          第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会          第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シンギュラリティ、Society5.0          第9講 日本の財政状況と税金・金融知識(財務省津財務事務所)          第10講 人口減少社会を生きる方          第11講 SDGsとGAFSA          第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか          第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る          第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて          第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る</p> <p>定期試験</p>
<p>到達目標</p> <p>1. 本学の建学の精神を理解する。          2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく上で、何かについて理解を深める。          3. 地域志向科目等本学の特色、また、校友会主催事業等についての理解を深める。</p>			<p>テキスト・教材(参考文献含む)</p> <p>できるだけレジュメと資料を配布する。</p>
<p>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</p> <p>出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。コロナ禍が続いている場合は、オンライン方式となる。その場合は、モデルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。</p>			<p>担当者から一言</p> <p>私立大学には「建学の精神」といふものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育力、教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基盤としての講義を通じて、作っていただく。</p>
<p>事前・事後学習</p> <p>大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。</p>			

- ①本年度開講の授業科目名です。実務経験のある教員が担当する科目は科目名の後に「実務」と記載があります。
- ②授業科目担当者です。
- ③科目ナンバリングを表記しています。前掲の科目ナンバリングを参照のこと。
- ④学年(年次)は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています(配当年次)。
- ⑤単位数を表記しています。
- ⑥開講期は、授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
- ⑦「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。のカリキュラム表で確認してください。
- ⑧授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針(DP)と当該授業科目の関連が記載されています。
- ⑨授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
- ⑩到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能(スキル)を身につけることができるか、教育目標としているかについて記載されています。
- ⑪授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
- ⑫成績 評価方法・課題・フィードバック方法：定期試験 60%、小テスト 40%のように、評価(ポイント)基準を明記しています。また、課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ⑬テキスト・教材(参考文献含む)：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
- ⑭事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○I」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
- ⑮担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

その他

- ・授業形態(面接授業、オンデマンド授業などのオンライン授業等)が変更になる場合があります。
- ・所属学科ごとに履修条件が異なるので、必ず「履修要綱」で確認をしてください。

「人間たれ」  岩崎恭典	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
 本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。

**到達目標**  
 1. 本学の建学の精神を理解する。  
 2. 満30周年を迎えた本学の歴史を、まもなく満75周年を迎える学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。  
 3. 地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 出席することを基本として、時折実施する小テスト(50%)、定期試験の成績(50%)により評価する。なお、講義のフィードバックは、「大福帳」を通じて行う。  
 コロナ禍が続いている場合は、オンデマンド方式となる。その場合は、ムードルによる出席確認小レポートが課せられる。また、定期試験代替のレポート試験となるので注意が必要である。

**事前・事後学習**  
 大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください(1日30分以上)。

入門演習 I  三田・岩崎祐・奥原・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・李	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1002	前学期	必 修

**授業のねらい**  
 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル(四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など)を学びます。  
 1. 授業を受ける上で必要なスキル  
 2. 人間関係の基礎を作るスキル  
 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること  
 4. 自分が所属する学部のことを知ること

**到達目標**  
 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践していただく。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 定期試験を行いません。  
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。  
 課題は必ず個別指導します。

**事前・事後学習**  
 新聞の第一面を読む。(1日20分)  
 授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)  
 ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

**授業の位置づけ**  
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

**授業計画**  
 第1講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。  
 第1講 ガイダンス 成長スケールの記入  
 第2講 大学生活を充実させるボランティア活動  
 第3講 地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること  
 第4講 本学の建学の精神について  
 第5講 暁学園・四日市大学の歴史 昭和時代の暁学園  
 第6講 暁学園・四日市大学の歴史 平成時代・令和の四日市大学  
 第7講 本学の建学の精神と君たちの将来 人口減少社会  
 第8講 本学の建学の精神と君たちの将来 シングularity、Society5.0  
 第9講 日本の財政状況と税金、家計、金融知識(財務省津財務事務所)  
 第10講 人口減少社会を生きる力  
 第11講 SDGsとGAFAs  
 第12講 目指すべき職業人とは ジョブキャラバン 大学1年生で何をなすべきか  
 第13講 人生の先輩に聴く① 社会人学生OBが語る  
 第14講 人生の先輩に聴く② 就職活動を終えて  
 第15講 夏休みを前に 産婦人科医は語る  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 できるだけレジメと資料を配布する。

**担当者から一言**  
 私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作っていきましょう。

**授業の位置づけ**  
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 授業の受け方、ノートの取り方  
 第3講 授業を受ける、ノートを取る  
 第4講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する  
 第5講 4年間の学修計画を考えてみる  
 第6講 自分を知るためのプレゼンテーションの準備  
 第7講 自分と他者を知るためのプレゼンテーションの実践  
 第8講 学修を助けてくれる施設を知る  
 第9講 学修を助けてくれる資料を知る  
 第10講 皆さんに期待するマナーとルール  
 第11講 学部企画①  
 第12講 学部企画②  
 第13講 学部企画③  
 第14講 学部企画④  
 第15講 学部企画⑤

※講義の順番については、入れ替わる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

**担当者から一言**  
 大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないません。毎回必ず出席してください。

入門演習Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEF1003	後学期	必修

**授業のねらい**  
 大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。  
 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル  
 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル  
 3. 資料を発表し、議論するスキル

**到達目標**  
 大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 定期試験を行いません。  
 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。  
 課題は必ず個別指導します。

**事前・事後学習**  
 新聞の第一面を読む。(1日20分)  
 授業内容の資料を事前に読んでくる。(10分)  
 ノートと使用したプリントなどを読む。(30分)

基礎英語Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL1001	前学期	選択必修

**授業のねらい**  
 大学生としての英語の教養を身に付けます。英語で「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」を常に意識して学ぶことが大切です。語学学習は毎日が基本です。毎日、単語、熟語、リスニング、音読を積み重ね、授業でその成果を確認しましょう。半年後、1年後に英語力が向上できる取り組みを実行しましょう。  
 クラスは複数ありますが、指定されています。

**到達目標**  
 それぞれのクラスで活用するテキストをマスターすることによって、大学生としての英語の教養は確実に習得できます。各自の目標に応じて、貪欲に高みを目指して下さい。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業の担当者によく確認して下さい。  
 一般論では授業態度、提出物、小テストといった平常点が 50%  
 定期テストが 50%

**事前・事後学習**  
 講義の予習(単語、熟語の意味調べ 英文の翻訳 音読など)  
 講義の復習(単語、熟語が書けるようにし、意味が分かるようにする 英文の意味が分かるようにする  
 文法事項が理解できるようにする すらすら音読等ができるようになる)  
 毎日、1時間前後の事前事後学習に取り組むことが必要です。

**授業の位置づけ**  
 「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 テーマを決める  
 第3講 調べる①  
 第4講 調べる②  
 第5講 読む①  
 第6講 読む②  
 第7講 まとめる①  
 第8講 まとめる②  
 第9講 まとめる③  
 第10講 発表する①  
 第11講 発表する②  
 第12講 話し合う①  
 第13講 話し合う②  
 第14講 話し合う③  
 第15講 基礎演習について  
 ※ 講義の順番については、入れ替わる場合があります。  
 第12・13・14講でディスカッションを行います。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 担当者が適宜指示します。ノートを必ず用意してください。

**担当者から一言**  
 「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 クラスごとにガイダンス:講義の内容、方法、課題、テスト、評価等について  
 第2講 各クラスによる内容  
 第3講 各クラスによる内容  
 第4講 各クラスによる内容  
 第5講 各クラスによる内容  
 第6講 各クラスによる内容  
 第7講 各クラスによる内容  
 第8講 各クラスによる内容  
 第9講 各クラスによる内容  
 第10講 各クラスによる内容  
 第11講 各クラスによる内容  
 第12講 各クラスによる内容  
 第13講 各クラスによる内容  
 第14講 各クラスによる内容  
 第15講 各クラスによる内容  
 定期テスト 各講の内容をまとめたテスト

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 それぞれのクラスに応じて異なります。  
 第1講のガイダンスで指示された教材を必ず購入し、辞書（電子辞書可）、参考書も自分で準備しておいてください。

**担当者から一言**  
 国際社会の一員として、コミュニケーションツールとしての英語を、興味がわく話題(教材)から学ぶことによって自分が活用できる言語の一つにしましょう。毎日英語を学修することによって、あなたは英語を活用できるようになります。

基礎英語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	リース・フェーリ・スコット・柴田・ダイクス	GEL1002	後学期 選択必修

**授業のねらい**  
英語で「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」の4つの技能を高めることをねらいとしています。  
この4つの技能が日に日に高まるように、授業の準備、授業そして授業後の学習が良き習慣として身につくようにしましょう。半年後、1年後にあなたの英語力はどのように高まっているのか、自分で確認し、次の到達点を定めましょう。  
クラスは複数ありますが、指定されています。

**到達目標**  
1 授業の内容をマスターすることがすべての始まりです。各クラスに応じたテキスト、授業内容、課題に集中して取り組み、4つの技能の習得に努め、総合的な英語の教養を身に付けましょう。  
2 各自の目標に応じて学び、資格試験にも挑戦しましょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業担当者に確認して下さい。  
一般論では授業態度、提出物、小テストといった平常点が 50%  
定期テストが 50%

**事前・事後学習**  
基礎英語Ⅰの内容と同じように、毎日、1時間前後の事前事後学習に取り組むことが必要です。

基礎日本語Ⅰ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	加納・伊藤晴・角田・安田	GEL9001	前学期 選択必修

**授業のねらい**  
言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

**到達目標**  
この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。  
(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業での積極性やレポート、小テスト(採点、添削後授業時に返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
N1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)  
毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)  
事前に授業内容を調べ学習しておくこと(90分)  
授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと(90分)

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス・授業導入等  
第2講 各クラスの内容  
第3講 各クラスの内容  
第4講 各クラスの内容  
第5講 各クラスの内容  
第6講 各クラスの内容  
第7講 各クラスの内容  
第8講 各クラスの内容  
第9講 各クラスの内容  
第10講 各クラスの内容  
第11講 各クラスの内容  
第12講 各クラスの内容  
第13講 各クラスの内容  
第14講 各クラスの内容  
第15講 まとめ  
定期テスト 各講をまとめた理解力テスト

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキスト 各クラスで指示されたテキスト(必ず購入すること)  
参考文献 辞書・電子辞書、参考書を各自で授業には持参するとよい

**担当者から一言**  
英語力のアップ、英語の4技能・スキル力の向上には毎日の努力の積み重ねが定番です。これ以外に道はないと言っても過言ではありません。大学での授業を土台として、単純な毎日の積み重ねが1つのものを、1つの事柄を成功に導くことをよく認識し、励んで下さい。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙①  
第2講 レポート作成、読解、語彙②  
第3講 レポート作成、読解、語彙③  
第4講 レポート作成、読解、語彙④  
第5講 能力試験対策模擬試験①、②  
第6講 能力試験対策①(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第7講 能力試験対策②(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第8講 能力試験対策③(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第9講 能力試験対策④(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第10講 能力試験対策⑤(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第11講 能力試験対策⑥(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第12講 能力試験対策⑦(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
第13講 レポート作成、読解、語彙⑤  
第14講 レポート作成、読解、語彙⑥  
第15講 レポート作成、読解、語彙⑦  
定期試験  
※N2クラスは学期を通してレポート作成も学習します。また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水  
『日本語能力試験問題N1・2語彙 スピードマスター』リサーチ出版 菊池  
『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』 有田  
『1回で合格 日本語能力試験N2文法』ナツメ社 渡辺

**担当者から一言**  
日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

基礎日本語Ⅱ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GEL9002	後学期	選択必修

**授業のねらい**  
 言語の四技能－読む、書く、聞く、話す－を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業に必要な専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。

**到達目標**  
 この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、積極的に授業に参加するために必要となる日本語力を身につけることを、到達目標とします。(※日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業での積極性やレポート、小テスト(採点、添削後授業時に返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
 N1 向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。(30分)  
 毎日、継続的に新聞を読むこと。(30分)  
 事前に授業内容を調べ予習しておくこと。(90分)  
 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと。(90分)

英語コミュニケーションⅠ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させることである。

**到達目標**  
 1. 英語の聴解力と話す力を高める。  
 2. 英語の語彙を増やす。  
 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 学習態度 20%  
 課題・小テスト 20%  
 スピーキングテスト・スキット(4) 40%  
 定期試験 20%  
 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
 1. 講座が始まる前に『基礎英語Ⅰ and Ⅱ』のテキストを復習する。  
 2. In addition to any homework assignments, after each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス レポート作成、読解、語彙①  
 第2講 レポート作成、読解、語彙②  
 第3講 能力試験対策模擬試験①、②  
 第4講 能力試験対策①(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第5講 能力試験対策②(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第6講 能力試験対策③(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第7講 能力試験対策④(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第8講 能力試験対策⑤(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第9講 能力試験対策⑥(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第10講 能力試験対策⑦(聴解、文字・語彙、文法、読解から)  
 第11講 レポート作成、読解、語彙③  
 第12講 レポート作成、読解、語彙④  
 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤  
 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥  
 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦  
 定期試験  
 ※なお、N2クラスは学期を通してレポート作成の応用も学習します。  
 また、授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 『読解厳選テーマ10[中、中上級]』凡人社 清水  
 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池  
 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』 有田  
 『1回で合格 日本語能力試験N2文法』ナツメ社 渡辺

**担当者から一言**  
 日本語学校やアルバイト先での日本語と大学に必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から積極的に日本語を話し、読み、書くことに心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 1. Guidance, Greetings and Introductions  
 2. Greetings and Introductions  
 3. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 1  
 4. Greetings and Introductions- Introduction English Speaking Test 1- Round 2  
 5. Good morning World- A New Host  
 6. Good Morning World- A New Host- スキット 1  
 7. Self-introduction  
 8. Self-introduction  
 9. Self-introduction- Speaking Test 2  
 10. Countries and Nationalities  
 11. Countries and Nationalities  
 12. Countries and Nationalities  
 13. Activities and Interests- Meet Kim-  
 14. Activities and Interests- Meet Kim- スキット 2  
 15. Review and test preparation  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 World Link Combo Split Intro A w/Online Workbook- Stu. Book - 3rd Ed.-  
 James R. Morgan- Cengage Learning - ¥2,650  
 英語コミュニケーションⅠとⅡのテキストは同じ。

**担当者から一言**  
 対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。5回以上欠席すると単位なし。履修者が22名を超えた場合は抽選あり。

英語コミュニケーションⅠ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

**到達目標**  
このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a Final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

**事前・事後学習**  
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

- 1 Class Introduction/Guidance
- 2 Meeting People 1
- 3 Meeting People 2
- 4 Talking about Classes 1
- 5 Talking about Classes 2
- 6 Talking about Daily Life 1
- 7 Talking about Daily Life 2
- 8 Talking about Personality 1
- 9 Talking about Personality 2
- 10 Talking about Appearance 1
- 11 Talking about Appearance 2
- 12 Talking about Last Weekend 1
- 13 Talking about Last Weekend 2
- 14 Talking about Vacation Plans
- 15 Review and Reflection

定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
Textbook: New Time to Communicate  
Publisher: Nan'un-do Publishing

**担当者から一言**  
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

英語コミュニケーションⅡ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1004	後学期	選 択

**授業のねらい**  
This course is a continuation of 英語コミュニケーションⅠ. The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The textbook for this course utilizes DVD video.  
この講座の狙いは学生の英語の基本的な技能であるリスニングとスピーキングを向上させること。

**到達目標**

1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 人の前で英語で話す自信を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

学習態度	20%
課題・小テスト	30%
スピーキング・テスト(2)	30%
定期試験	20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**

1. 講座が始まる前に『基礎英語Ⅰ and Ⅱ』のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class try and spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following class.

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

1. Guidance/ Talking about the past/ "How was your vacation?"
2. Talking about the past/"How was your vacation?"
3. "How was your vacation?" - Speaking Test #1
4. Unit 3- Possesions- Lesson A- Gifts
5. Unit 3- Possesions- Lesson B- Important items
6. Unit 4- Activities- Lesson A- What are you doing?
7. Unit 4- Activities- Lesson B- At school
8. 小テスト
9. Unit 5 - Food- Lesson A- What's on the menu?
10. Unit 5 - Food- Lesson B- Eating right?
11. "My favorite restaurant speech"- Speaking Test #2
12. "How the Grinch Stole Christmas"
13. "How the Grinch Stole Christmas"
14. Unit 6- Relationships- Lesson A- Family
15. Unit 6- Relationships- Lesson B- Marriage

定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
World Link Combo Split Intro A with Online Workbook- Stu. Book - 3rd Edition  
James R. Morgan- Cengage Learning-¥2,650  
英語コミュニケーションⅠとⅡのテキストは同じ。

**担当者から一言**  
対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。テキストにオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加が不可。5回以上欠席すると単位なし。履修者が22名を超えた場合は抽選あり。



英語コミュニケーションⅡ エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1004	後学期	選 択

**授業のねらい**  
このクラスの目標は、英語で日常生活についてコミュニケーションできる基礎能力を得る事にある。授業では主にlisteningとspeaking練習を行う。speaking練習は、1)発音練習と、2)クラスメートとの日常生活についての会話練習から成る。ここで大事なことは、不完全な英語(ブローケンイングリッシュ)で話すことを恥ずかしがらないで、ともかく英語で話そうとする積極的な姿勢である。ほぼ毎回宿題を課す。学期末にはクラスメートに手紙を書いてもらう予定である。

**到達目標**  
このクラスで学んだことは、将来仕事で英語を使う時や、外国の人達と接する時に大いに役立つだろう。日常生活について英語でコミュニケーション出来るようになり、英語圏文化の理解も深まる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (40%) and a final test (20%). Feedback will be given on a regular basis.

**事前・事後学習**  
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes)

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
1 - Class Introduction/Guidance  
2 - Talking about the vacation 1  
3 - Talking about the vacation 2  
4 - Talking about Weekend plans 1  
5 - Talking about Weekend plans 2  
6 - Talking about Food and Recipes 1  
7 - Talking about Food and Recipes 2  
8 - Talking about Travel 1  
9 - Talking about Travel 2  
10 - Talking about Hometowns 1  
11 - Talking about Hometowns 2  
12 - Talking about Opinions 1  
13 - Talking about Opinions 2  
14 - Talking about The Future  
15 - Review and Reflection  
定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
Textbook: New Time to Communicate  
Publisher: Nan'un-do Publishing

**担当者から一言**  
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

中国語Ⅰ / 基礎中国語Ⅰ 加納 光	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1005	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通して、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調(高低アクセント)と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。

**到達目標**  
この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしなが、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題(評価した後返却します)20%により総合的に評価します。

**事前・事後学習**  
毎回与えられる復習(90分)、予習(90分)のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要1  
第2講 中国語概要2、中国概況1  
第3講 声調(4)と単母音(7)の発音、概況2  
第4講 複合母音(13)の発音、概況3  
第5講 鼻母音(16)の発音、概況4  
第6講 子音(21)の発音、概況5  
第7講 発音、表記上の規則、概況6  
第8講 発音のまとめ、小テスト、概況7  
第9講 どうぞよろしく(point 1~4)、概況8  
第10講 お名前は(point 1~4)、概況9  
第11講 ご出身は(point 1~4)、概況10  
第12講 飲み物は(point 1~4)、概況11  
第13講 おいくつ(point 1~4)、概況12  
第14講 和食はいかが?(point 1~4)、概況13  
第15講 復習、概況14  
定期試験  
注 授業内容、進捗については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
1)教材:相原茂他『日中いぶこみ交差点(エッセンシャル版)』(朝日出版社)2,400円+税  
2)参考書:『WHY?に答えるはじめての中国語の文法書』(相原茂)  
3)辞書:『簡約現代中国語辞典』(光生館)

**担当者から一言**  
初めて学ぶ外国語です。旺盛な知的好奇心を持って授業に臨んでください。予習。復習を欠かさないようにしてください。遅刻、授業中の私語、中座、居眠りなどは、原則禁止します。

中国語 I / 基礎中国語 I 吉山 青翔	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1005	前学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語 (= 普通話) の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。

**到達目標**  
中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
平常授業中に行われる書き取りテスト (40点) (採点后返却し、フィードバックします)・会話練習などの出来具合と期末定期試験 (60点) の出来具合により総合評価。

**事前・事後学習**  
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、中国語と日本語の相違点  
第2講 中国語発音1、あいさつの表現1  
第3講 復習と小テスト、中国語発音2、あいさつの表現2  
第4講 復習と小テスト、中国語発音復習、中国語による唐詩鑑賞  
第5講 中国語人称代名詞、語順、「Yes/No式疑問文」、「是」の用法  
第6講 復習と小テスト、会話「我是日本人」(私は日本人です)  
第7講 中国語の「Wh式疑問文1」、「什么」、名前の名乗りかたと尋ねかた  
第8講 復習と小テスト、会話「我姓小林」(小林と申します)  
第9講 中国語の指示代名詞、動詞述語文、「的・都・也」の用法  
第10講 復習と小テスト、会話「妈妈也是老师」(母親も教師です)  
第11講 中国語の「Wh式疑問文2」「動詞否定表現」、「打算」「想」「喜欢」の用法  
第12講 復習と小テスト、会話「你想不想吃蛋糕」(ケーキを食べたくありませんか)  
第13講 中国語の数詞量詞表現、年齢の言い方、「有」の用法  
第14講 復習と小テスト、会話「我今年十九岁、有一个弟弟」  
第15講 総括

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
テキスト  
相原茂他『日中いぶこみ交差点』(朝日出版社、2019年)  
参考文献  
王青翔(=吉山青翔)・栄隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

**担当者から一言**  
本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

中国語 II / 基礎中国語 II 加納 光	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL1006	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業は中国語 I を継続するものです。中国語 I と同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。  
コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。

**到達目標**  
中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題(採点后返却します)20%をもとにして、総合的に評価します。

**事前・事後学習**  
授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください(予習90分+復習90分)。  
加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください(毎日30分以上)。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
「中国語 I」からの継続  
第1講: ガイダンス、授業の概要、家庭訪問(1)  
第2講: 家庭訪問(2)、買い物(1)  
第3講: 買い物(2)、道案内(1)  
第4講: 道案内(2)、中秋節(1)  
第5講: 中秋節(2)、食事の前は(1)  
第6講: 食事の前は(2)、第1~5講の復習(1)  
第7講: 第1~5講の復習(2)  
第8講: 手作り料理(1)  
第9講: 手作り料理(2)、カニの季節(1)  
第10講: カニの季節(2)、スキー場で(1)  
第11講: スキー場で(2)、おみやげ(1)  
第12講: おみやげ(2)、空港まで(1)  
第13講: 空港まで(2)、第6~12講の復習(1)  
第14講: 第6~12講の復習(2)  
第15講: 総復習とまとめ  
定期試験  
注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
1) 教材: 『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』(朝日出版社)、相原茂 他  
2) 副教材: 『中国語の文法書』(同学社)  
3) 辞書: 『中国語辞典』(光生館)  
4) 参考書: 『中国語はじめての一步』(ちくま新書)

**担当者から一言**  
予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。

中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ 吉山青翔	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1006	後学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。

**到達目標**  
前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
平常授業中に行われる書き取りテスト(40)(採点後返却し、フィードバックします)・会話練習などの出来具合と期末定期試験(60点)の出来具合により総合評価。

**事前・事後学習**  
授業前に90分ほどをかけて予習しておき、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。そうしなければ、授業についていけません。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、中国語Ⅰの復習  
第2講 中国語の選択疑問文、形容詞述語文、動詞過去経験表現、「还是」の用法  
第3講 復習と小テスト、会話「你吃过日本料理吗」  
第4講 中国語述術文、比較の表現、助動詞「要」の用法、前置詞「跟」の用法  
第5講 復習と小テスト、会話「你比照片漂亮」  
第6講 中国語助動詞「可以」、動詞の重ね型、方向補語、連動文、お金の言い方  
第7講 復習と小テスト、会話「这个多少钱」  
第8講 中国語の動作の完了実現表現「了」、前置詞「从」「得」「在」の用法  
第9講 復習と小テスト、会話「去北京站怎么走」  
第10講 中国語年月日曜日の言い方、状態変化と新事態発生の表現  
第11講 復習と小テスト、会話「今天几月几号」  
第12講 中国語辞書の使い方  
第13講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」1 ユーモア:「助听器」「二十年后的我」  
第14講 中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」2 漫画:「考试」「外面吃」  
第15講 総復習

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキスト  
相原茂他『日中いぶこみ交差点』(エッセンシャル版)(朝日出版社、2019年)  
参考資料  
玉青翔(=吉山青翔)・梁隈真人司共著『徹底復習式 きょう忘れてもあした覚える 実用中国語』(東洋書店、2013年)

**担当者から一言**  
本講義では平常授業中にはほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。

ポルトガル語Ⅰ フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1007	前学期	選 択

**授業のねらい**  
日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジルの交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

**到達目標**  
ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。  
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
小テスト:50%  
定期試験:50%

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 アルファベットと発音  
第3講 挨拶と自己紹介  
第4講 名詞の性と数  
第5講 冠詞と数字  
第6講 ser動詞(1)  
第7講 ser動詞(2)  
第8講 所有表現(1)  
第9講 所有表現(2)  
第10講 所有表現(3)  
第11講 gostar動詞  
第12講 規則動詞(1)  
第13講 規則動詞(2)  
第14講 規則動詞(3)  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
Vamos falar português! Edição Revisada『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』  
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)  
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

**担当者から一言**  
ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

ポルトガル語Ⅱ  フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1008	後学期	選 択

**授業のねらい**  
本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係(日本-ブラジル間の交流関係)の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地(約150万の日系ブラジル人がいます)です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。

**到達目標**  
ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。  
ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
小テスト:20%  
定期試験:50%

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う(毎週約60分)。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 前期の総合復習  
第2講 前置詞  
第3講 不規則動詞:ir  
第4講 不規則動詞:terとfazer  
第5講 不規則動詞:poder  
第6講 不規則動詞:querer  
第7講 estar動詞  
第8講 ser動詞とestar動詞の違い  
第9講 現在分詞と現在進行形  
第10講 規則動詞の過去形(1)  
第11講 規則動詞の過去形(2)  
第12講 規則動詞の過去形(3)  
第13講 様々な表現(1)  
第14講 様々な表現(2)  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
Vamos falar português! Edição Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう!改訂版』  
重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari(朝日出版社)  
(2,300円+税)ISBN 978-4-255-55505-8

**担当者から一言**  
ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう!

海外語学研修a(英語) / 海外語学研修  武藤和成	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	GEL1009	後学期	選 択

**授業のねらい**  
平時であれば、春季・夏季の休業期間を活用し、海外で語学の研修を実施します。  
コロナ禍で海外研修が実施できない場合は、国内の英語施設での集中的な英語合宿を考慮します。  
大学、語学学校、語学施設においての集中した研修によって、短期間で実感できる英語力と異文化理解力の向上をめざします。  
1年生も参加はできますが、単位が認定されるのは2年生以上に限られます。

**到達目標**  
1 異文化を体感することにより、異文化への興味・関心を深め、異文化理解力を高めます。  
2 英語によるコミュニケーション能力を高めます。  
3 総合的な英語力を高めます。  
4 国際的な親交を深める機会とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
評価  
1 事前指導、面接、現地での参加姿勢・内容、現地スタッフの評価、帰国後のレポート等により総合的に評価します。  
課題  
1 ガイダンス、事前指導(プリント教材を含む)、研修後のレポート、現地での学校によって課せられるものがすべて課題となります。  
フィードバック  
1 語学の習得度は経験によって飛躍的に向上します。事前、現地、そして事後の継続学習によって「英語」の活用能力を飛躍的に向上させましょう。

**事前・事後学習**  
事前学習  
1 渡航先の地理、政治、経済、歴史、文化、生活様式等について毎日研究、確認をしましょう。  
2 英語のテキストを毎日学修しましょう。  
3 英会話の番組、英語のDVDを利用し、楽しみを根底にして毎日1時間前後英語で耳、脳、口、目を鍛えましょう。  
事後学習  
1 研修で感じたことを起点に、英語力を高めましょう。  
2 より良き世界市民の一員になることを自覚し、成長しましょう。

**授業の位置づけ**  
「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
1 平時の場合の説明会実施予定(夏季研修は4月 春季研修は9月)  
2 希望者への面接(研修参加目的等を深めます)  
3 参加申し込みの確認(参加申込書提出 手配開始)  
4 ガイダンス(事前指導 日常会話の特別講座)  
5 現地校での研修  
6 帰国後のレポート提出(帰国後に研修内容に関わったレポートを提出します)  
7 単位認定(研修中の参加態度とレポートによって単位を認定します)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
渡航先の大学や語学学校で配布されるテキストを用います。

**担当者から一言**  
「健康」、「人としてのマナー」、「学修・研究」、「危機管理」を自分に課せられたテーマとして捉え、熱い気持ちと期待感を持って海外語学研修に参加して下さい。

日本語中級Ⅰ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL9003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることのできる日本語能力の養成をそのねらいとします。

**到達目標**  
 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりする日本語コミュニケーション能力の習得を到達目標とします。  
 (\*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

日本語中級Ⅱ	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GEL9004	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、与えられたテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、それをもとに議論をしたり、発表したりすることができる日本語能力の養成が、授業のねらいです。

**到達目標**  
 この授業では、日本社会に対する理解を深めるとともに、与えられたさまざまなテーマについて、多様な観点から検討、分析を加え、その結果をもとにして議論をしたり、自分の考えを発表したりすることのできる日本語のコミュニケーション能力の習得が到達目標です。  
 (\*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
 授業で扱うテーマについて、事前に新聞やニュースなどで関連記事を読んだり、学内外の日本人や留学生と話し合うなどして、授業に臨む十分な準備をおこなっておくこと(90分)。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)  
 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①  
 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②  
 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③  
 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④  
 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤  
 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥  
 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦  
 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧  
 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨  
 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩  
 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪  
 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫  
 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬  
 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ  
 定期試験  
 \*授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著  
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

**担当者から一言**  
 コミュニケーション能力の向上を目指して積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞く姿勢も忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 合同ガイダンス(クラス分け日本語テストも含む)  
 第2講 日本を知る 議論、発表① 語彙学習①  
 第3講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習②  
 第4講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③  
 第5講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④  
 第6講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤  
 第7講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥  
 第8講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦  
 第9講 日本を知る 議論、発表⑧ 語彙学習⑧  
 第10講 日本を知る 議論、発表⑨ 語彙学習⑨  
 第11講 日本を知る 議論、発表⑩ 語彙学習⑩  
 第12講 日本を知る 議論、発表⑪ 語彙学習⑪  
 第13講 日本を知る 議論、発表⑫ 語彙学習⑫  
 第14講 日本を知る 議論、発表⑬ 語彙学習⑬  
 第15講 日本を知る 議論、発表⑭ 語彙学習⑭ まとめ  
 定期試験  
 \*授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 『日本語能力試験問題集 N1(N2)読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1(N2)語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著  
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

**担当者から一言**  
 コミュニケーション能力の向上を目指し、積極的に発言してください。また、他人の意見をしっかりと聞くことも忘れないようにしてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

日本語上級Ⅰ	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GEL9005	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

**到達目標**  
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。  
 (\*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

日本語上級Ⅱ	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GEL9006	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 言語の四技能一読む、書く、聞く、話すを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインターネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。

**到達目標**  
 この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。  
 (\*日本語能力試験N1レベルの語彙、文法を用いる)

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業での積極性や発表、議論、小テスト(採点后返却します)50%、期末試験50%。

**事前・事後学習**  
 授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨むにあたり十分な準備をおこなうこと(90分)。授業後は、内容を振り返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 合同ガイダンス (クラス分けアンケートも含む)  
 第2講 文章読解① 語彙学習①  
 第3講 文章読解② 語彙学習②  
 第4講 文章読解③ 語彙学習③  
 第5講 文章読解④ 語彙学習④  
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤  
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥  
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦  
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧  
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨  
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩  
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪  
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫  
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬  
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ  
 定期試験  
 \*授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著  
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

**担当者から一言**  
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

**授業の位置づけ**  
 「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 合同ガイダンス (クラス分けアンケートも含む)  
 第2講 文章読解① 語彙学習①  
 第3講 文章読解② 語彙学習②  
 第4講 文章読解③ 語彙学習③  
 第5講 文章読解④ 語彙学習④  
 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤  
 第7講 文章読解⑥ 語彙学習⑥  
 第8講 文章読解⑦ 語彙学習⑦  
 第9講 文章読解⑧ 語彙学習⑧  
 第10講 文章読解⑨ 語彙学習⑨  
 第11講 文章読解⑩ 語彙学習⑩  
 第12講 文章読解⑪ 語彙学習⑪  
 第13講 文章読解⑫ 語彙学習⑫  
 第14講 文章読解⑬ 語彙学習⑬  
 第15講 文章読解⑭ 語彙学習⑭ まとめ  
 定期試験  
 \*授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習していきます。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読解 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著『日本語能力試験問題集 N1 (N2) 読彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著  
 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。

**担当者から一言**  
 日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことが心げること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。

コンピュータリテラシー	科目 ナンバリング	1年次	4単位
	GEI1001	前学期	必修

**授業のねらい**  
コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。  
具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、キーボードのタイピング練習から入り、それから実際にデータを入力して加工する実習を主体に行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。

**到達目標**  
ワープロソフトWord2016と表計算ソフトExcel2016の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回の演習の提出物4点とタイピングテスト(0.1×タイピングテストの点数)とExcelの小テスト(20点)の合計で評価します。適宜、提出物に対してコメントを付けてフィードバックします。

**事前・事後学習**  
授業を履修するための予備知識は要求しません。習うより慣れるという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、タイピングの練習方法を指導するので毎日続けて20分間ほど練習してください。さらに授業で行った実習を忘れないように毎日20分ほど復習して下さい。

情報倫理	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	GEI1002	後学期	必修

**授業のねらい**  
インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成されつつある。またデジタル技術の進展により、高品質の著作物を皆で共有し楽しめるようになった。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしているが、人が集まれば多くの問題も生じる。この講義では、コンピュータやインターネットなどの利用に際して、他人の権利を侵害したり自分の権利を侵されたりすることがないように必要な知識を身につけることを目的とする。

**到達目標**  
①情報セキュリティについて説明できる。  
②個人情報について説明できる。  
③著作権について説明できる。  
④暗号技術について説明できる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
ノートやレポート(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)  
ノート、レポート、小テストは採点后、以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
講義前には、講義内容をシラバスで確認し、教科書の該当部分を読んで来ること(30分)。  
講義後には、講義内容を復習し、問題などをやり直すこと(60分)。

**授業の位置づけ**  
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンスとタイピングテストによるクラス分け  
第2講 キーボード入力練習(タッチタイピング)  
第3講 Word①:文字の入力  
第4講 Word②:文書の作成  
第5講 Word③:編集・表の作成・画像の挿入  
第6講 Word④:まとめの演習  
第7講 メール:携帯メールとの連携・エチケット  
第8講 PowerPoint:簡単な利用法  
第9講 Excel①:データの入力、タイピングテスト  
第10講 Excel②:ワークシートの編集  
第11講 Excel③:グラフの作成  
第12講 Excel④:グラフの編集と表計算  
第13講 Excel⑤:基本的な関数と条件関数  
第14講 Excel⑥:データベース機能  
第15講 Excelの小テスト  
他の授業との連携の都合により内容が前後することがあります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキスト(必須)「30時間でマスターWord&Excel 2016」実教出版 950円  
教科書が無いと実習が出来ません。

**担当者から一言**  
コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。また、提出物が多いので、時間内に全ては完成しない場合があります。残った課題も必ず完成させて提出してください。

**授業の位置づけ**  
「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、情報倫理とは、最近の話題(掲示板、2ch、ブログ、SNS、ケータイ)  
第2講 情報セキュリティ(1)  
第3講 情報セキュリティ(2)  
第4講 コンピュータウイルス(1)  
第5講 小テスト、コンピュータウイルス(2)  
第6講 個人情報とプライバシー(1)  
第7講 個人情報とプライバシー(2)  
第8講 知的財産保護(1)  
第9講 知的財産保護(2)  
第10講 小テスト、知的財産保護(3)  
第11講 知的財産保護(4)  
第12講 暗号技術(1)  
第13講 暗号技術(2)  
第14講 小テスト、暗号技術(3)  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
「四日市大学生のための情報倫理」四日市大学情報系教員グループ著 400円

**担当者から一言**  
情報倫理は、情報化社会・ネット社会を生きていく上で必須の知識です。やや硬い内容ですが楽しみながら受講できるよう身近な話題を多く扱います。  
ノートを定期的に確認し創意工夫と学ぶ姿勢の表れたものに高い点数を与えます。ノートの書き方は指導します。

情報科学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	千葉 賢	GEI1003	前学期 選 択

### 授業のねらい

コンピュータの歴史は浅く、電子計算機が開発されたのは約70年前、最初のパソコンが発売されたのは約45年前である。それ以降の情報技術の発展は驚異的で、現在はパソコンやスマホを通じて自分から世界に情報を発信できる世の中となった。さらに最近では、AI技術の普及も目覚ましく、情報技術が人間社会の在り方や運命を変えようとしている。本講義では、現代社会で必要とされるコンピュータに関する知識を概説する。予備知識は必要ない。本大学で行われる情報系授業の基礎となる内容を教えるので、できるだけ早期に受講することを薦める。

### 到達目標

①デジタルの特質を知る、②コンピュータの内部構造の概要を知る、③コンピュータの動作原理の概念を知る、④コンピュータの歴史を知る、⑤情報分野の用語や単位を知る、⑥情報分野の資格取得に備えた知識を得る。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義毎のレポート(40%)と期末試験(60%)。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートに出題した内容から出題する。レポートに予習復習で得た知識を書くと良い。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。

### 事前・事後学習

全く新しい話題の準備学習は難しいので、連続する話題(例えば「情報と情報量」)の1回目を聴講したら、それを復習(90分)するとともに、ネット等で関連知識を得る(90分)ようにすると良い。そのような準備学習をすることで、理解度は格段に高まる。

情報と職業	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	井岡 幹博	GEI1004	前学期 選 択

### 授業のねらい

本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思えます。

### 到達目標

ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート50%、定期試験50% レポート課題に問題があればフィードバックします。

### 事前・事後学習

情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読(予習90分)。各回で課されるレポート課題を作成すること(復習90分)。

### 授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、情報と情報量
  - 第2講 情報と情報量
  - 第3講 デジタルとアナログ①
  - 第4講 デジタルとアナログ②
  - 第5講 コンピュータの歴史①
  - 第6講 コンピュータの歴史②
  - 第7講 コンピュータの内部装置①
  - 第8講 コンピュータの内部装置②
  - 第9講 コンピュータ内部の数値の表現方法①
  - 第10講 コンピュータ内部の数値の表現方法②
  - 第11講 コンピュータ内部の文字の表現方法③
  - 第12講 コンピュータ内部の文字の表現方法④
  - 第13講 コンピュータとCPUの動作原理①
  - 第14講 コンピュータとCPUの動作原理②
  - 第15講 論理回路
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

使用しない。資料を配布する。

### 担当者から一言

ケイタイもスマホもコンピュータです。情報社会の一員として生きてゆく皆さんにとって、コンピュータの使い方を覚えるだけで十分でしょうか。コンピュータという機械に「使われない」ためには、そのしくみを知り、使いこなすことが大切です。

### 授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講：ガイダンス、iPhoneのビジネスモデル
  - 第2講：情報のデジタル化
  - 第3講：インターネット
  - 第4講：インターネットビジネス アマゾン
  - 第5講：インターネットビジネス アマゾンと楽天のビジネスモデルの違い
  - 第6講：デジタル社会と製造 SCM①
  - 第7講：デジタル社会と製造 SCM②
  - 第8講：知的財産権とビジネス 産業財産権
  - 第9講：知的財産権とビジネス 著作権
  - 第10講：情報セキュリティ①
  - 第11講：情報セキュリティ②
  - 第12講：自動識別技術
  - 第13講：Googleのビジネスモデル
  - 第14講：GAF Aと個人情報保護
  - 第15講：まとめ
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

プリント配布。

### 担当者から一言

急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。



アプリケーション演習I/アプリケーション演習b	科目 ナンバリング	1年次	2単位
池田幹男・本部賢一	GEI1005	後学期	選 択

### 授業のねらい

Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。

### 到達目標

MOS Excel 2016の資格試験の準備が整うようにします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題（40%）、模擬試験演習（60%）で評価します。定期テストは実施しません。適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。

### 事前・事後学習

テキストの練習問題と模擬練習問題の予習と復習を繰り返し実施してください。（週180分）可能ならば、個人のPCにテキスト付属の模擬テストプログラムをインストールして模擬テストを実施してください。

### 授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、クラス分け
- 第2講 ワークシートやブックの作成と管理(1)
- 第3講 ワークシートやブックの作成と管理(2)
- 第4講 ワークシートやブックの作成と管理(3)
- 第5講 セルやセル範囲の作成(1)
- 第6講 セルやセル範囲の作成(2)
- 第7講 テーブルの作成
- 第8講 数式や関数の適用(1)
- 第9講 数式や関数の適用(2)
- 第10講 グラフやオブジェクトの作成
- 第11講 模擬試験演習(1)
- 第12講 模擬試験演習(2)
- 第13講 模擬試験演習(3)
- 第14講 模擬試験演習(4)
- 第15講 模擬試験演習(5)

### テキスト・教材（参考文献含む）

佐藤 薫「MOS攻略問題集Excel 2016」日経BP社 ¥1,944  
 テキストは必須です。特に実際にMOSを受験する人は、テキスト付属の模擬テストプログラムが必要になります。

### 担当者から一言

積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

アプリケーション演習II/アプリケーション演習a	科目 ナンバリング	2年次	2単位
本部賢一・池田幹男	GEI1006	前学期	選 択

### 授業のねらい

Wordは、卒業後の実社会（プレゼンや書類などのコミュニケーション中心）では必須の道具です。Wordは2016になり、実社会で必ず使う機能も増え、それらを理解し、使用できるようになることがねらいです。

### 到達目標

Word 2016の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word 2016の資格取得試験の準備が整うようにします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義は演習形式で行います。授業への参加態度30%、演習の課題の提出30%と模擬試験問題の成績40%で評価します。

### 事前・事後学習

大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）

### 授業の位置づけ

「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス・クラス分け
- 第2講 文書の作成
- 第3講 文書の管理
- 第4講 文字・段落の書式設定
- 第5講 セクションの書式設定
- 第6講 表やリストの作成と変更
- 第7講 引用文献
- 第8講 図表の管理
- 第9講 文書パーツ
- 第10講 SmartArt
- 第11講 画像の挿入
- 第12講 MOS word 2016模擬試験問題 1
- 第13講 MOS word 2016模擬試験問題 2
- 第14講 MOS word 2016模擬試験問題 3
- 第15講 MOS word 2016模擬試験問題 4

### テキスト・教材（参考文献含む）

MOS攻略問題集 Microsoft Word 2016 佐藤薫（著）日経BP社 定価:1,980円(税込)

### 担当者から一言

人数制限があり、また、初回の授業でクラス分けを行いますので、初回は必ず出席してください。

四日市学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	鬼頭・岡良・永井・李	GEC1001	前学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。

**到達目標**  
講義は8回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価は、1～8週目に課す簡単なアクションペーパー各200字程度(40%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(30%)で総合評価します。提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、最終の振り返りでフィードバックします。

**事前・事後学習**  
次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報を見る準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。

地域社会の歴史	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岡 佑哉	GEC1002	後学期 選 択

**授業のねらい**  
本講義は、地域における歴史の展開を知ること、歴史が政治の中心地のみでは語りきれないものであると理解することを目的とする。歴史は単なる「暗記科目」ではなく、事実に基づき思考する学問である。本講義を通して、地域社会の視点から日本全体の問題を考察するという姿勢を養う。題材として、2016年のサミット開催地三重県の「伊勢神宮」の近現代史をとり上げる。

**到達目標**  
①地域社会の歴史に対する知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③地域社会から日本全体の問題を考える姿勢を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
①筆記試験(70%)、②平常点(30%)。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

**事前・事後学習**  
本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。大学生として新聞を読むこと。また、伊勢神宮や天皇家に関わる記事がないかも注意するとよい。(90分)

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
第1講(4/9) ガイダンス+フィールドワークの説明(鬼頭)  
第2講(4/16) 「地域と宗教的文化・伝統」(李; ゲスト講師 北島義信)  
第3講(4/23) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭; ゲスト講師 四日市公害と環境未来館職員)  
第4講(5/7) 「四日市の産業」(岡)  
第5講(5/14) 「ふるさと・四日市の文学者たち」(永井)  
第6講(5/21) 「四日市の抱える今日的問題～人権問題～」(李)  
第7講(5/28) 「四日市の歴史」(永井; ゲスト講師 四日市市博物館学芸員)  
第8講(6/4) 「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」(鬼頭; ゲスト講師 四日市市観光・シティプロモーション課職員)  
■第9～11講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」  
■第12～14講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」  
\*感染拡大の状況によっては、オンデマンドでのバーチャル・フィールドワークになります。  
15週目(7/23) 振り返りとフィールドワーク課題の提出(鬼頭)

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。

**担当者から一言**  
四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
第1回 ガイダンスー地域社会史の意義ー  
第2回 前近代の伊勢神宮①ー古代～中世ー  
第3回 前近代の伊勢神宮②ー近世ー  
第4回 近代の伊勢神宮を知ることの意味  
第5回 明治維新と伊勢神宮  
第6回 明治期における宇治山田の変容  
第7回 明治期における「神都」としての伊勢の形成  
第8回 1929年の式年遷宮ー国家儀礼としてー  
第9回 戦前のメディア・教育の中の伊勢神宮  
第10回 戦前の伊勢神宮参拝の諸相  
第11回 終戦の危機と1953年の式年遷宮  
第12回 「脱法人化」と1973年の式年遷宮  
第13回 1993年の式年遷宮ー聖地と俗地としての伊勢ー  
第14回 伊勢神宮の現在  
第15回 講義の総括  
定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
テキストはなし。毎回プリントを配布する。  
参考文献: ジョン・グリーン『神都物語 伊勢神宮の近現代史』(吉川弘文館、2015)

**担当者から一言**  
・遅刻・私語・他ごと厳禁。遅刻者にプリント・出席カードは配布しない。  
・バイトなどと称した無断早退、無断退出厳禁。  
・コメントペーパー代筆厳禁。  
・コロナ感染状況の悪化の場合  
オンデマンド型に変更。講義内容を文章化した資料を配布する。試験はレポートに(剽窃=他人の文章を盗むこと、は失格)。

市民教育	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	松井真理子	GEC1003	前学期 選 択

**授業のねらい**  
近年、「新しい公共」の理念のもと、市民が果たす役割がかつてなく期待されています。また、18歳選挙権の導入に伴い、選挙をはじめとする主権者としてのあり方について、若い世代が学習することはきわめて意義が大きくなっています。この授業では、主権者としての基礎知識、市民の権利と責任、市民の行動の3つの観点から、入門的な主権者教育を行います。三重県における市民としての権利と責任を自覚し、行動することができる人材の養成を目指します。

- 到達目標**
- 1 政治・行政・司法への市民参加の仕組みを理解する。
  - 2 地域において市民として生活する上での権利と責任を理解し、行動する力を養成する。
  - 3 地域における市民としての活動のあり方について、具体的に理解する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎講義時の課題 30%  
定期試験 70%  
毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

**事前・事後学習**  
(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
(授業後)学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと(90分)

人権論	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	松井真理子	GEC1004	後学期 選 択

**授業のねらい**  
私たちは生まれながらに、誰にも奪われることのない権利として人権を持っていますが、私たちが住んでいる地域は、人間らしい生活ができていますか。この授業では、人権を差別の問題だけに狭く捉えず、基本からしっかり学びます。また差別を受けやすい立場にいるマイノリティの人たちが抱えている課題についても、地域の当事者を招いて実践的に学びます。社会構造の根底に人権があることを理解し、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりの必要性を理解する、人権感覚に敏感な人づくりを目指します。

- 到達目標**
- 1 人権の概念を正確に理解する。
  - 2 人権を自分事にとらえ、社会構造と人権の関係に敏感になる。
  - 3 マイノリティの人権について、個別の内容を理解する。
  - 4 多様な人々が共生する地域社会づくりと人権との関係について正しく理解する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎講義時の課題 30%  
定期試験 70%  
毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

**事前・事後学習**  
(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
(授業後)学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと(90分)

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス・市民教育とは何か
  - 第2講 日本国憲法の3原則
  - 第3講 政治・行政のしくみ
  - 第4講 税と財政
  - 第5講 労働
  - 第6講 社会保障
  - 第7講 SDGs
  - 第8講 選挙
  - 第9講 議会への参加
  - 第10講 身近な行政への参加
  - 第11講 司法と裁判員制度
  - 第12講 市民活動
  - 第13講 消費者
  - 第14講 情報社会
  - 第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
毎回講義時に資料を配布します。

**担当者から一言**  
社会をよくするのも悪くするのも究極は市民です。社会とつながっている自覚を持ち、行動するようになってもらいたいと思います。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス・人権とは何か
  - 第2講 人権の体系
  - 第3講 人権の歴史
  - 第4講 表現の自由
  - 第5講 刑事手続と人権
  - 第6講 生存権
  - 第7講 マイノリティの人権(障害がある人)
  - 第8講 マイノリティの人権(子ども)
  - 第9講 マイノリティの人権(ジェンダー)
  - 第10講 マイノリティの人権(外国人①ニューカマー)
  - 第11講 マイノリティの人権(外国人②オールドカマー)
  - 第12講 マイノリティの人権(部落問題)
  - 第13講 暮らしの中の人権
  - 第14講 ダイバーシティ社会
  - 第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。  
(参考文献)  
四日市市人権センターの人権教育・啓発推進プログラム各種パンフレット

**担当者から一言**  
わかりやすい資料や地域の当事者の話によって理解を深めます。あらゆる社会システムや学術研究の目的は「人権」だと考えています。ぜひ受講してください。

地域社会と環境	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	野呂達哉	GEC1005	前学期	選 択

**授業のねらい**  
現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」を取りあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。

**到達目標**  
農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業に対する積極性(50%)、定期試験(50%)を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。

**事前・事後学習**  
前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください(毎週30分)。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください(1日平均30分)。

地域防災／総合政策特講 a (地域防災)	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	鬼頭浩文	GEC1006	前学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指す。この資格は、就職においても有利になる。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘する。  
\* 6月の週末3日間(18時間)は、外部からの受講生も参加する「防災士養成講座」に参加することをもって6週分の講義とする。  
\* テキスト・受験料などの実費12,500円が必要です。  
\* 防災士試験に合格すると、別途5,000円の登録費用が必要です。

**到達目標**  
この講義を通して、災害時には復旧活動をリードできる人材になるのが目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
講義で学んだことをまとめる小レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正して返却をする。

**事前・事後学習**  
事前にテキストの要点を30分ほどかけて予習する。また、講義を録音して公開するので(全部で10時間ほど)、必ず1回は復習として聴き、理解を深める。また、週末の演習で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験の1週間前に必ず復習をする。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 地域社会と環境問題  
第3講 農村と里山  
第4講 里山の自然と維持管理  
第5講 里山の衰退と獣害問題  
第6講 里山の再利用とエコツーリズム  
第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失  
第8講 都市の自然と生物多様性  
第9講 外来生物問題  
第10講 ベットの遺棄と地域ネコ  
第11講 グローバル化と感染症問題  
第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物  
第13講 地域住民による外来生物対策  
第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献:「里山の環境学(武内和彦ほか)東京大学出版会, 2001」、「都市で進化する生物たち(メノ・スヒルトハウゼン)草思社, 2020」「野生動物問題への挑戦(羽山伸一)東京大学出版会, 2019」など。

**担当者から一言**  
環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
1 4/12 ガイダンス、テキスト1講:地震・津波  
2 4/19 2・3・4講:風水害、火山災害  
3 4/26 5講、補講1、6講:大規模火災、近年の災害、予報や警報  
4 5/10 7・8・9講:ハザードマップ、災害情報、行政の危機管理  
5 5/17 10・11・12講:救助と応急対策、復旧と復興・こころのケア  
6 5/24 13・14講:ライフライン、事業継続  
7 5/31 15・16講、補講2:地震・津波・風水害への備え、耐震補強  
8 6/7 補講3、17・18講:保険、地区の防災、避難所  
9 6/14 19・20・21講、補講4:多様性配慮ボラ、防災士とは  
10 6/19(土)午前:近年の災害とその仕組み(講師:自衛官ほか)  
11 6/19(土)午後:避難所運営訓練  
12 6/20(日)午前:地域防災(講師:四日市市危機管理室職員)  
13 6/20(日)午後:災害ボラセン運営(講師:四日市市社協職員)  
14 6/26(土)午前:自分たちで地域を守る(講師:消防団・自主防災組織など)  
15 6/26(土)午後:普通救命講習  
★8月25日(日)午後に防災士試験を実施する。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
『防災士教本』日本防災士機構  
テキスト代は、実費負担¥12,500に含まれる。

**担当者から一言**  
講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。

地域連携特別講義 a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
小林慶太郎		GEC1007		

**授業のねらい**  
食と観光に関して、松阪市においてフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光地としての魅力発信や観光客向けのインフラ整備といった課題を理解するとともに、地域で培われてきた食文化をどのように継承し発展させていくのかの考え方を身につける。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、地域住民や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。

**到達目標**  
地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・グループワーク等への取組姿勢 60%  
・成果発表レポート 40%  
※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。  
※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。

**事前・事後学習**  
松阪市の観光業の現状・課題や、松阪市周辺の多様な食文化の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく(36時間)。成果発表表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う(9時間)。

地域連携特別講義 b	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
小林慶太郎		GEC1008		

**授業のねらい**  
この授業では、スポーツ基本法に定める重要行事の一つとして、都道府県対抗・各都道府県持ち回り方式で、日本スポーツ協会・文部科学省・開催地都道府県の三者共催で毎年開催されている国民体育大会(国体)について扱います。2021年には、三重県が開催県となって「三重とこわか国体」が開催されることから、国体について学ぶとともに、競技補助員をして実際の大会の運営にも貢献してもらいます。学生諸君が、スポーツと行政について、その実績に触れ、理解を深めてくれることを、ねらいとしています。

**到達目標**  
この授業では、学生諸君が、競技補助員として国体の運営に関わることを通じて、スポーツと行政についての、自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
実習を欠席したものは単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。  
・講義や実習への取組姿勢:50%  
・事後課題(レポート):50%  
なお、講義時などの質問に対しては、その場でフィードバックします。

**事前・事後学習**  
日頃からオリンピック組織委員会やJOC、国体など、スポーツ行政に関するテレビや新聞などのニュースに目を通すこと(毎週3時間程度)。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
10月上旬 13:00-17:00 @三重大学  
ガイダンス@三重大学  
13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方(池山)  
14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし(小林)  
15:20-17:00 グループワーク  
10月中旬 13:00-17:00 @MieMu  
三重県の基礎情報を学ぶ  
13:00-15:30 展示見学・講義(太田学芸員)  
15:40-17:00 グループワーク  
10月下旬 10:00-16:10 @松阪農業公園ベルファーム  
10:00-12:00 施設見学・体験  
12:00-13:00 昼食・移動  
13:00-14:00 食を通じた観光開発(富本)  
14:10-16:10 グループワーク  
11月下旬 10:00-16:10 @松阪市内  
10:00-12:00 フィールドワーク  
12:00-13:00 昼食  
13:00-16:10 フィールドワーク  
12月上旬 13:00-17:00 @三重大学  
13:00-17:00 グループワーク  
12月中旬 13:00-17:00 @三重大学  
13:00-16:00 成果発表会  
16:00-17:00 講評・まとめ  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先に都合などによっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。(必要に応じて資料等を配布する場合があります)

**担当者から一言**  
県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずですので、他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。

**授業の位置づけ**  
「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

**授業計画**  
講義(7~8月頃の週末もしくは夏休み中:日程未定)  
そもそも国体とは何か  
国体の歴史と課題・問題点  
国体の準備と予算  
競技補助員の担う役割  
実習(9月中に計30時間程度)  
三重とこわか国体の各競技会場(四日市市内)において競技補助員としての業務に従事  
※ 四日市市役所国体競技課の職員の方にも講義いただく予定です。詳細は確定次第、提示等により告知します。また、5~6月頃に事前説明会を開催します。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。(必要に応じて資料等を配布する場合があります)

**担当者から一言**  
実習に参加できない学生には、単位は与えられません。履修者は必ず実習に参加するようにして下さい。なお、実習先までの交通費は、原則として個人負担となります。

経営学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉成 亮	GLAS1001	前学期 選 択

### 授業のねらい

本講義では、経営学の概要を学ぶために、毎回、時事的なテーマのもとに、われわれが身近に関わっている具体的な企業を取り上げ、「企業はいったい何をしているのか?」ということを授業の狙いとしています。

### 到達目標

本講義を終了した後は、受講者は、企業の具体的な活動に、積極的に興味・関心を抱くようになります。さらに、企業をはじめとする組織を経営する専門知識の基礎を備え、自分で起業するプランを考えることが出来るようになれば、本講義の内容を十分把握していると言えるでしょう。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

各授業の小テスト 90%、まとめテスト10%。以上の割合を基本にしながらか総合的に判断します。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックします。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。

### 事前・事後学習

講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習(それぞれ1日30分程度)を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

経済学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	鬼頭 浩文	GLAS1002	後学期 選 択

### 授業のねらい

企業や消費者の行動は、経済を理解する上で最も基本的なテーマになる。この講義では、企業や消費者がどのように行動し、それが経済に対してどのようなインパクトを持つのか考えていく。とくに「競争」については、日ごろ意識することが少ないため、ここで勉強することは社会に出てから大いに役立つと思う。理論的な考察も重要だが、ここでは参加・体験型のアクティブ・ラーニングを中心に展開し、直感的・感覚的に経済を学ぶ。  
(受講生数が多い場合、オンデマンド型授業になることがある)

### 到達目標

経済学の基本的知識を参加型・双方向型講義を通して直感的に理解することが到達目標である。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

アクティブ・ラーニングにおけるパフォーマンス(20%)、テーマごとに実施する小テスト3回(30%)、学期末試験(50%)により、総合的に評価する。フィードバックは、テストの解説をして自己採点させ、要望のある学生には点数を伝える。

### 事前・事後学習

この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2~3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。

<b>授業の位置づけ</b> 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

### 授業計画

- |      |               |
|------|---------------|
| 第1講  | ガイダンス         |
| 第2講  | 企業の役割を考えよう    |
| 第3講  | 企業がイメージできる    |
| 第4講  | 行政、NPOとの関係をみる |
| 第5講  | 企業を理解しよう      |
| 第6講  | 経営者の仕事を学ぶ     |
| 第7講  | 企業の仕組みを学ぶ     |
| 第8講  | 起業を学ぶ(1)      |
| 第9講  | 起業を学ぶ(2)      |
| 第10講 | 企業間関係を学ぶ      |
| 第11講 | 経営戦略を学ぶ(1)    |
| 第12講 | 経営戦略を学ぶ(2)    |
| 第13講 | 組織をどうつくるか     |
| 第14講 | 環境をどうとらえるか    |
| 第15講 | 経営資源を学ぶ       |
- 定期試験

本授業では、各回の授業においてディスカッション、ディベート、グループワークを行います。

### テキスト・教材(参考文献含む)

教科書は齊藤 毅憲(著、編集)『経営学を楽しく学ぶ Ver.4』、中央経済社、2,530円(税込)。

### 担当者から一言

国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。

<b>授業の位置づけ</b> 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。
--

### 授業計画

- |    |       |   |
|----|-------|---|
| 1  | 9/28  | 4/21放送「コロナショック 苦渋の解雇の裏で~密着・あるバス会社の3か月~」 |
| 2  | 10/5  | 4/16放送「新型コロナフリーランスをどう守るのか」              |
| 3  | 10/12 | 4/22放送「イベント自粛」の波紋 文化を守るのか」              |
| 4  | 10/19 | 消費者の行動①個別需要曲線の理論:スタート                   |
| 5  | 10/26 | 消費者の行動②練習問題を解き、コラムを簡単に説明                |
| 6  | 11/2  | 消費者の行動③コラムの復習をして、最後の問題を解かせる             |
| 7  | 11/9  | 税を知る週刊(四日市市税務署)                         |
| 8  | 11/16 | 6/29クロ現「あきらめない人々の物語」                    |
| 9  | 11/30 | 9/10クロ現「逆境に挑むヒント」                       |
| 10 | 12/7  | 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給①                 |
| 11 | 12/14 | 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給②                 |
| 12 | 12/21 | 市場の競争、サッカーチケット市場の需要と供給③                 |
| 13 | 1/11  | 7/25BSスペ「コロナに揺れる多国籍タウン~東京新大久保~」         |
| 14 | 1/18  | 経済のいまを映像で知る⑦コロナ渦を振り返る                   |
| 15 | 1/25  | 復習とレポート試験の説明                            |

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

### 担当者から一言

出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。小テストによって参加意欲と理解度を判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

政治学	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	小林慶太郎 GLAS1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では主に、政策の決定や政府の役割など、政治の仕組みについて、扱っていきます。  
例えば選挙。いったいどのような仕組みで行われているのでしょうか。そして選挙というものは、本当に民主的な仕組みなのでしょうか。そもそも選挙はなぜ必要なのでしょうか。そして政府は、どのような役割を担っているのでしょうか。  
できるだけ、その時々の政治ニュースの解説なども行っていくことで、学生諸君に、日本の政治や社会の仕組みに対する関心を高めてもらうことを、この講義のねらいとしています。

**到達目標**  
この授業では、学生諸君が、日本の政治や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の政治ニュースをある程度理解できるようになることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%  
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%  
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビや新聞の政治ニュースに目を通すこと(毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

社会学	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	三田泰雅 GLAS1004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。

**到達目標**  
社会学的なものの見方や考え方を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
<評価>小レポート30%, 中間試験15%, 期末試験55%  
<課題>毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。  
<フィードバック>小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
新聞やニュースに目を通す。(毎日20分)

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 政治と政治学  
第2講 政治と政策  
第3講 政策の決定と民主主義(グループワーク)  
第4講 選挙とマニフェスト  
第5講 压力団体と政治的景気循環  
第6講 さまざまな選挙制度① 小選挙区制  
第7講 さまざまな選挙制度② 大選挙区制  
第8講 さまざまな選挙制度③ 比例代表制  
第9講 選挙制度改革の動き  
第10講 多数決と話し合い(ディベート)  
第11講 もしも政府が無かったら(グループワーク)  
第12講 市民革命と夜警国家  
第13講 市場の失敗と福祉国家  
第14講 政府の失敗と行政改革  
第15講 政治的対立を超えて  
定期試験  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)  
【参考文献】  
浅羽通明「新書で大学の教養科目をモノにする政治学」光文社新書(2011年)  
北山俊哉、久米郁男、真淵勝「はじめて出会う政治学[第3版]」有斐閣アルマ(2009年)

**担当者から一言**  
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 規範と価値  
第3講 私(わたし)とは何か  
第4講 近代化とスポーツ  
第5講 つながりとしての家族  
第6講 社会の中のジェンダー  
第7講 社会階層と格差  
第8講 社会における学校と教育  
第9講 国家とナショナリズム  
第10講 都市の社会生活  
第11講 村落の社会構造  
第12講 少子高齢社会の背景  
第13講 個人化のゆくえ  
第14講 社会とリスク  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
<参考文献>  
倉沢進・秋元律郎・岩永雅也, 2001, 『新訂 社会学入門』放送大学出版協会.  
石黒格編, 2018, 『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房.

**担当者から一言**  
学生諸君の積極的な参加を期待します。

ジェンダー論 高田晴美・三田泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1005	後学期	選 択

### 授業のねらい

ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかなければいけません。理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決するものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員(高田・三田)で実施します。

### 到達目標

- ①ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。
- ②社会の中にあるジェンダーに気づき、説明できる。
- ③現代社会でなぜ男女共同参画が重要なのか、説明することができる。
- ④性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小レポート 50%  
定期試験 50%  
小レポートについては、次回の講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。

### 事前・事後学習

(授業前)日頃からニュースなどに目を通しておく。(毎日20分程度)  
(授業後)学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面、場所に授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。(40分)

メディアリテラシー 前川督雄・関根辰夫・山本 伸	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1006	前学期	選 択

### 授業のねらい

メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力です。この説明だけでは、諸君は理解出来ないかもしれません。何故ならメディアがあまりにも溢れすぎている環境で育ってきたからです。  
そこで3名(関根、山本、前川)の教員で構成するこの授業では、まずは「メディアの楽しみ方」を伝授したいと思います。メディアに対する接し方をちょっと変えるだけで、新鮮な発見と感動を体験できるようになります。

### 到達目標

各自のメディア環境下で、無意識に当たり前と思っている事柄に対して、なんらかの観察意識や他のコンテンツやテーマと比較する意識を持てるようになってもらうことです。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験を行いません。  
講義時に何回か小レポートなどを教室で書いてもらいます。それらの評価の平均点で総合評価します。  
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

### 事前・事後学習

各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください(90分)。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください(90分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス(高田)
  - 第2講 ネーミング問題(高田)
  - 第3講 〈女らしさ〉の罫一女はつらいよ(高田)
  - 第4講 家制度(高田)
  - 第5講 性別役割分業①-家庭編(高田)
  - 第6講 不払い労働、見えない家事問題(高田)
  - 第7講 性別役割分業②-社会編(高田)
  - 第8講 メディアにおけるジェンダー表現①——フィクション編(高田)
  - 第9講 メディアにおけるジェンダー表現③——CM・広告編(高田)
  - 第10講 ワーク・ライフ・バランス(三田)
  - 第11講 男性性とジェンダー-男もつらいよ(三田)
  - 第12講 社会の中のジェンダー(三田)
  - 第13講 恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉(高田)
  - 第14講 身体にまつわる男女の非対称(高田)
  - 第15講 まとめ(高田)
- 講義内容の順番が入れ替わる可能性があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。

### 担当者から一言

「女性学」「男性学」の視点を持った2人の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス/各講義内容の説明
- 第2講 メディアとは(前川)
- 第3講 デジタルネイティブ ~幼少時からバーチャル世界に慣れ親しむ世代~(前川)
- 第4講 メディアと音の関わり(関根)
- 第5講 日本における音楽メディアと音楽業界の変遷(関根)
- 第6講 ラジostarの悲劇 ~なぜラジオは衰退したのか~(山本)
- 第7講 ラジostarの歓び ~ラジオの魅力を考える~(山本)
- 第8講 特別講義(外部講師等)
- 第9講 メディアエコロジー ~情報環境が心身に及ぼす良い影響と悪い影響~(前川)
- 第10講 インターネットとマスメディア ~マスメディアの責務~(前川)
- 第11講 CDというメディアに潜んでいる常識と真実のギャップ(関根)
- 第12講 K-POPに見る韓国「人」と「文化」(関根)
- 第13講 ラジostarの憂い ~ラジオの現在~(山本)
- 第14講 ラジostarの未来 ~ラジオの未来はどうか?~(山本)
- 第15講 まとめ  
(内容・順序を変更することがあります)

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありません。  
講義中に、適宜、各先生方が資料を配布するかもしれません。

### 担当者から一言

環境情報学部メディア情報分野を専攻する学生は、この科目を受講することが望ましい。



社会福祉概論／社会福祉論  李 修二	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1007	前学期	選 択

### 授業のねらい

社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。

### 到達目標

社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

### 事前・事後学習

毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)  
さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。(30分以上)

日本国憲法／憲法  中西紀夫	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAS1008	後学期	選 択

### 授業のねらい

憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC(国家安全保障会議)の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。

### 到達目標

大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 30%:授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。  
定期試験 70%:試験は論述形式で、すべて持込可です。  
なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

### 事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

1. ガイダンス、社会福祉の理念
2. 社会福祉の歴史 イギリス(1)
3. 社会福祉の歴史 イギリス(2)
4. 社会福祉の歴史 イギリス(3)
5. 社会福祉の歴史 アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本
6. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1)
7. 少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2)
8. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1)
9. 日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2)
10. 資本主義経済の歴史的变化と福祉国家
11. これからの社会保障(1)
12. これからの社会保障(2)
13. 医療への新たな視点(1)
14. 医療への新たな視点(2)
15. 持続可能な福祉社会に向けて

### テキスト・教材(参考文献含む)

書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。  
参考文献:  
武川正吾『福祉社会(新版)』2011年、有斐閣  
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済

### 担当者から一言

社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- |      |                 |
|------|-----------------|
| 第1講  | ガイダンス           |
| 第2講  | 憲法の機能           |
| 第3講  | 天皇と国民の関係        |
| 第4講  | 国民の三大義務         |
| 第5講  | 基本的人権とその種類      |
| 第6講  | 環境権(判例的考察)      |
| 第7講  | 憲法上の権利と義務       |
| 第8講  | 法の下での平等         |
| 第9講  | 絶対平和主義          |
| 第10講 | 国家機密と国民の知る権利    |
| 第11講 | 平等な投票にするための権利義務 |
| 第12講 | 行政救済            |
| 第13講 | 国際私法            |
| 第14講 | 憲法改正問題          |
| 第15講 | まとめ             |
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。  
参考文献:中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

法学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	中西紀夫 GLAS1009	前学期	選 択

### 授業のねらい

法学の発達史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法(憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法)の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。

### 到達目標

社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思っておりますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 30%:授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。  
定期試験 70%:試験は論述形式で、すべて持込可です。  
なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

### 事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくともよいでしょう。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 第1講  | ガイダンス             |
| 第2講  | 六法の意味、社会規範        |
| 第3講  | 実定法と自然法、法源        |
| 第4講  | 制定法の体系、法の形式による分類  |
| 第5講  | 法の種別(国内法)、国内法と国際法 |
| 第6講  | 公法と私法、裁判による権利の実現  |
| 第7講  | 法の適用、法解釈における問題点   |
| 第8講  | 権利と義務、権利義務の主体と客体  |
| 第9講  | 罪刑法定主義            |
| 第10講 | 法と裁判(裁判の仕組み)      |
| 第11講 | 民事裁判、刑事裁判、行政裁判    |
| 第12講 | 司法権の独立と公開主義       |
| 第13講 | 自由心証主義、今日までの裁判の課題 |
| 第14講 | 裁判員制度とその課題        |
| 第15講 | まとめ<br>定期試験       |

### テキスト・教材(参考文献含む)

本年度は下記の著書を印刷して配布します。なお、修正や補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。  
参考文献:中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年11月30日)

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

民法入門	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	小林聖仁	GLAS1010	前学期	選 択

### 授業のねらい

法の分類には様々な分類方法があるが、民法とよばれる法分野に属する法は、その分量だけでも非常に多い。しかし、今後において他の法律を学んで行くにあたっては、契約・代理・不法行為・相続などの概念の理解が他の法分野の学習の理解に必須であるといえる。もっとも民法は昨年120年ぶりの大改正を迎えた。そこで、1年次に、民法の基礎をしっかりと学んでいただき、そこから法分野を学ぶ基礎とすることを目指したい。

### 到達目標

民法条文の主要部分につき基本的な定義(用語の意味)を正確に理解するとともに、就職するのであれば上司に、経営を志すのであれば専門職に対して、法的問題点の状況を適切に報告できることを目標とする。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

小テスト60%、定期試験40%  
講義の後には随時で小テストを予定している。解答及び解説は次の講義の冒頭にプリントで配布するので、誤答した問題についてはテキストの記述との関連を確認しておくこと。

### 事前・事後学習

講義を受ける前に予定されているテーマにつき、テキストを読んでおくこと(60分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- |      |                           |
|------|---------------------------|
| 第1講  | ガイダンス、講義の概要(はじめに)         |
| 第2講  | 民法とは何か                    |
| 第3講  | 財産法の仕組み(物権と債権)①           |
| 第4講  | 財産法の仕組み(物権と債権)②           |
| 第5講  | 財産法の全体像、権利の主体、契約の成立要件     |
| 第6講  | 契約の有効要件と代理総論              |
| 第7講  | 無権代理と表見代理、契約の効力発生要件、物権総論① |
| 第8講  | 物権総論②                     |
| 第9講  | 用益物権と債権総論①                |
| 第10講 | 債権総論②                     |
| 第11講 | 債権総論③                     |
| 第12講 | 債権の履行確保の手段①               |
| 第13講 | 債権の履行確保の手段②               |
| 第14講 | 家族法                       |
| 第15講 | まとめ<br>定期試験               |

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト 伊藤真「伊藤真の民法入門(第7版)」日本評論社(2020年)定価:1,870円(税込)  
教材 適宜プリントを配布する。

### 担当者から一言

私語は厳禁。テキスト・教材・筆記具等を持参し、授業を受ける体制で参加すること。テレビ・新聞紙上で紹介される法的問題にも注意し、事前知識を得ておくともよい。

倫理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	フェリペ・フェハリー GLAH1001	後学期	選 択

**授業のねらい**  
ギリシャ語では、「倫理学」は「エトスに関する諸々の事柄」という意味をもつが、「エトス」とは何であるのか。この語は「いつもの場所」、「慣れた行動の仕方」や「性格」などと様々な異なる意味もっている。本講義の目的は、「エトス」とは何であるのかを考えながら、この言葉から派生した「倫理学(ethica)」の意味を探ることである。

**到達目標**  
倫理学の立場から、現代社会の問題を議論すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
ミニレポート:20%  
最終レポート:50%  
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

哲学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	フェリペ・フェハリー GLAH1002	前学期	選 択

**授業のねらい**  
哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学(philosophia)の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。  
また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。

**到達目標**  
現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
ミニレポート:20%  
最終レポート:50%  
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで(毎週約60分)、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の12分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス・「倫理」とは何か  
第2講 エトス  
第3講 古代倫理  
第4講 幸福論  
第5講 中世倫理  
第6講 近代倫理  
第7講 現代倫理  
第8講 「力」と「責任」  
第9講 世界人権宣言  
第10講 生命倫理  
第11講 動物の権利  
第12講 ジェンダー  
第13講 マイノリティーの権利  
第14講 人工知能とロボット工学三原則  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
毎回、教員が資料を配布する。

**担当者から一言**  
真剣に倫理学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず倫理的に生活していると思いませんか？  
善と悪、正と邪などは、時代、地域、宗教や文化などの要因によって変化しますが、「絶対的な倫理」と言うものはありますか？  
上述のような問題を考えながら、一緒に「エトス」の意味、倫理学の意味を探しましょう。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の13分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か  
第2講 哲学の起源  
第3講 哲学の三つの伝統  
第4講 西洋と東洋  
第5講 無知の知  
第6講 洞窟の比喩  
第7講 現実とは何か  
第8講 ファルサファ  
第9講 中世哲学  
第10講 理性主義  
第11講 近代哲学  
第12講 超越とは何か  
第13講 懐疑的解釈学  
第14講 現代哲学  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
毎回、教員が資料を配布する。

**担当者から一言**  
本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。

文学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	永井 博 GLAH1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では、近代日本の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による集団的自衛権の行使容認についての閣議決定は2014年7月1日、そしていわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことであった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのである。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることは非常に大きな意義がある。

**到達目標**  
近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想とともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

**事前・事後学習**  
普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。(90分)  
また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。(90分)

**文章表現論(留学生以外のクラス)**

杉谷 克芳	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

**授業のねらい**  
日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。  
日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。  
なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。

**到達目標**  
この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度40%、提出物60%を目安に総合的に判断する(定期試験は行わない)。提出物は翌週以降の講義で返却する。

**事前・事後学習**  
予習としてテキスト読み次回の学習内容を理解しておくこと(90分)。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

第1回	ガイダンス
第2回	日清戦争概説
第3回	与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」
第4回	日露戦争概説
第5回	陸羯南などの日露戦争主戦論
第6回	トルストイ「汝悔い改めよ」
第7回	幸徳秋水「戦争来」
第8回	内村鑑三の日露戦争非戦論
第9回	前半のまとめと復習(グループワーク)
第10回	ヴェトナム戦争概説
第11回	ボブ・ディラン「風に吹かれて」
第12回	武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」
第13回	日本国憲法第9条概説
第14回	加藤周一他「9条の会」
第15回	全体のまとめと復習(グループワーク)

定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
プリントなどの資料を配布する。

**担当者から一言**  
この講義のテーマは反戦文学・反戦思想なので、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

第1講	ガイダンス
第2講	言葉と表現を知ろう、その1(同音異義語、同訓異義語)
第3講	〃 その2(同音異義語、同訓異義語)
第4講	〃 その3(四字熟語)
第5講	〃 その4(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第6講	〃 その5(慣用表現、ことわざ、故事成語)
第7講	日本語の作文技術 その1
第8講	〃 その2
第9講	〃 その3
第10講	書いてみよう、その1
第11講	〃 その2
第12講	〃 その3
第13講	〃 その4
第14講	〃 その5
第15講	まとめ

\*授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**

①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート(改訂版)』(風間書房、1,000円+税)  
②本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫) 660円  
そのほか適宜プリント教材も配付します。

**担当者から一言**  
日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。

文章表現論(留学生クラス)  永井 博	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1004	前学期 後学期	選 択

### 授業のねらい

日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶことである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。

### 到達目標

ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

漢字小テスト30%、定期試験50%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。

### 事前・事後学習

予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。(90分)  
復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所正しい書き方を自分で振り返っておくこと。(90分)  
また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみる。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 原稿用紙の使い方①
- 第3回 原稿用紙の使い方②(実習)
- 第4回 推敲のしかた①
- 第5回 推敲のしかた②(実習)
- 第6回 テーマの決め方
- 第7回 資料の探し方①
- 第8回 資料の探し方②(実習)
- 第9回 論理的文章の書き方①
- 第10回 論理的文章の書き方②(実習)
- 第11回 文章作成の実際①(実習)
- 第12回 文章作成の実際②(実習)
- 第13回 文章作成の実際③(実習)
- 第14回 文章作成の実際④(実習)
- 第15回 文章作成の実際⑤(実習)

### テキスト・教材(参考文献含む)

プリントなどの資料を配布する。

### 担当者から一言

ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。

文化論／文化論b  前川 督雄	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAH1005	後学期	選 択

### 授業のねらい

この講義の主題は、人間と文化です。  
文化をもち言語を使う動物はたくさんいます。しかし、祝祭や葬礼を行う生き物は人類だけです。音楽は祝祭と密接に結びつき、古来、祝祭のなかで大切な役割を果たしてきました。世界各地の音楽には、民族の太古からの智慧が詰まっています。また音楽は娯楽やコミュニケーションの重要な鍵となります。  
「文化論(文化論b)」では、音楽と祭りを主な切り口にして文化人類学・民族芸術学の基礎を学びます。

### 到達目標

人類史の中で自分の立つ位置、現代の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

次の配分で総合評価します。  
受講態度、学習意欲、小レポート等(40%)  
定期試験(60%)  
小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。

### 事前・事後学習

毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り(90分)、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい(90分)。

環境情報学部学生は、前後して「生命-情報-環境」(2年次前期開講)とあわせて履修することで、より重層的な理解が得られるでしょう。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス／人間と動物の違い
  - 第2講 人類はいつどこで生まれたのか
  - 第3講 人類はどのように世界にひろがったのか
  - 第4講 文化をつくる脳の働き
  - 第5講 民族と文化(1) アフリカ
  - 第6講 文化の発展・伝播
  - 第7講 民族と文化(2) ペルシャ
  - 第8講 民族と文化(3) シルクロード
  - 第9講 民族と文化(4) 日本
  - 第10講 文明の生態史観
  - 第11講 文化の衝突
  - 第12講 文化相対主義
  - 第13講 多文化共生と世界遺産
  - 第14講 神と祭り 宗教と音楽
  - 第15講 まとめ
- 定期試験  
(内容・順序を必要に応じて変更することがあります)

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストはありません。  
必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。

### 担当者から一言

人文系列の枠組みを超えた学際的・総合的な講義内容になります。  
この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。

日本史概論／歴史学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岡 佑哉	GLAH1007	前学期 選 択

**授業のねらい**  
 現代の国際秩序・国家体制・社会状況・価値観などは、すべて歴史的な背景のもとに形成されているが、歴史という単なる「暗記科目」という印象を持つ人も多いと思われる。  
 しかし、歴史学という学問は、常識にとらわれず通説を疑い、史料という根拠に基づき歴史上の人物・出来事・時代の捉え方を考察するものである。  
 本講義は、日本史(特に近現代史)を中心に教養としての知識のみならず、歴史学という学問の意義を学習する。その際、教科書的な通説とあわせて近年の研究を紹介し、歴史には多様な捉え方が存在することを学ぶ。

**到達目標**  
 ①教養としての歴史(本講義は日本史中心)の知識を身につける。②知識を活用し文章で説明する力を身につける。③物事を複眼的・客観的に捉える力を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 ①筆記試験(70%)、②平常点(30%)。出席が前提で、毎回講義の終わりに内容についての感想・質問を書いたペーパーを提出。その取り組みを評価する。コメントペーパーは次の回の講義で、質問への回答や事実関係の確認を行うことで、学生の理解の向上につなげる。

**事前・事後学習**  
 ①本講義は特に復習に力を入れてほしい。講義のプリントを熟読しつつ、板書内容を整理し次回の講義に備える。②歴史は現代の世界・日本の出来事と繋がっている。大学生として新聞・ニュースを読むこと。(90分)

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

世界史概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	李 修二	GLAH1008	後学期 選 択

**授業のねらい**  
 近代19世紀以降の世界史は、私たちの現代社会に直接連なる歴史です。今日の政治制度、社会制度、経済体制などの重要で基本的な物事は、ほとんどこの19世紀以降の歴史の中で形成されてきました。そこで、この講義のねらいは、19世紀における主要な幾つかの国々の歴史を、主として経済の動きを中心に比較検討しながら順次学んでいくことです。さらに20世紀に入って、第一次世界大戦から第二次世界大戦にいたる時期における世界史の動向を概観し、20世紀前半の世界史と世界経済の流れを大づかみに理解することです。

**到達目標**  
 講義での到達目標は、①欧米を中心とした世界の主要な国々の歴史を経済の動きを中心に比較しながら学ぶことによって、それらの国々の今日の社会・経済的な特質の歴史的由来を理解すること、②20世紀以降、ますます緊密に相互関連してきた世界各国の歴史の流れを十分に理解すること、以上の2つです。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)なお、筆記試験時の持ち込みは不可。試験終了後、希望者には解答を公表します。

**事前・事後学習**  
 毎回の授業の後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(復習・予習、計60分以上)  
 さらに、参考文献など授業内容に関連した歴史書を図書館などで毎週読書するようにしてください。(30分以上)

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1回 ガイダンス  
 第2回 日本文化のはじまり—縄文・弥生・古墳時代—  
 第3回 律令国家から王朝国家へ—飛鳥・奈良・平安時代—  
 第4回 武家政権の成立と展開—鎌倉・室町・戦国時代—  
 第5回 江戸幕府の支配体制—江戸時代—  
 第6回 討幕運動と明治新政府の成立—幕末・維新—  
 第7回 国会開設運動と憲法制定—明治時代中期—  
 第8回 日清戦争と日露戦争—明治時代後期—  
 第9回 大正デモクラシー—大正時代—  
 第10回 満洲事変と「国家改造」運動—昭和戦前期—  
 第11回 日中戦争から日米開戦へ—昭和戦時期(1)—  
 第12回 アジア・太平洋戦争—昭和戦時期(2)—  
 第13回 戦後日本と象徴天皇制—昭和戦後期—  
 第14回 平成日本の政治と社会—現代—  
 第15回 講義の総括  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 なし。毎回プリントを配布する。

**担当者から一言**  
 ・遅刻・私語・他ごと厳禁。遅刻者にプリント・出席カードは配布しない。  
 ・バイトなどと称した無断早退、無断退出厳禁。  
 ・コメントペーパー代筆厳禁。  
 ・コロナ感染状況の悪化の場合オンデマンド型に変更。講義内容を文章化した資料を配布する。試験はレポートに(剽窃=他人の文章を盗むこと、は失格)。

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス、世界史概論の視角と課題  
 第2講 19世紀の世界の中心 ～イギリス(その1)  
 第3講 19世紀の世界の中心 ～イギリス(その2)  
 第4講 19世紀ヨーロッパの主要国1 ～フランス  
 第5講 19世紀ヨーロッパの主要国2 ～ドイツ  
 第6講 19世紀北アメリカの主要国 ～アメリカ  
 第7講 19世紀ユーラシアの主要国 ～ロシア  
 第8講 19世紀東アジアの新興国 ～日本  
 第9講 19世紀東アジアの王朝 ～中国  
 第10講 19世紀世界の典型的な従属地域 ～アイルランドとインド  
 第11講 19世紀から20世紀にかけてのイギリスにおける社会福祉の発達  
 第12講 第一次世界大戦後1920年代の国際関係  
 第13講 1929年世界大恐慌  
 第14講 両大戦間期1930年代の混迷  
 第15講 第二次世界大戦期の戦後世界秩序の再建構想  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。  
 参考文献:  
 W・H・マクニール『世界史(下)』(2008年、中公文庫)

**担当者から一言**  
 暗記に偏りがちな高校までの歴史学習とは違い、歴史の因果関係を理解することに歴史を学ぶ醍醐味があります。理解すること、意味を探ることの面白さを味わってください。それと共に、身に付いた世界史の教養そのものが、ちょっとした、人生の自信にもなるはずです。

地理学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	磯野 巧 GLAH1009	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 地理学的な視点から、地球環境と人間活動との相互関係について解説する。その中で、地域を分析する方法(地図の読み方、図・表・写真の解釈など)を習得し、地域という観点から人間をとりまく多様な「環境」について考えることができるようになる。

**到達目標**  
 地理学に関する基礎知識およびその運用能力を身につけ、地球環境と人間活動の相互関係を説明できる「地理学的なモノの見方」を習得すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 試験100% (論述形式)  
 授業内容などで質問がありましたら、講義終了後にメールにてお知らせください。返信にてお答えいたします。  
 (質問の際、学籍番号と氏名を記載してください)

**事前・事後学習**  
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい。(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

地誌	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	磯野 巧 GLAH1010	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 多様な地域の関係性や空間的スケールに着目しつつ、日本および世界の地域的特性および地域構造について説明する。その中で、地域概念について理解し、空間的スケールの相違に着目しながら日本および世界の地域的多様性とその諸相に関する知見を深めていく。

**到達目標**  
 ある特定の地域の特性や構造を、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できるようになる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 試験100% (論述形式)  
 授業内容などで質問がありましたら、講義終了後にメールにてお知らせください。返信にてお答えいたします。  
 (質問の際、学籍番号と氏名を記載してください)

**事前・事後学習**  
 予習の必要はありません。授業内容の復習を重視して下さい。(必要に応じて、毎授業の最後に発展的な学習に必要な参考文献やURLを提示します)

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

1. ガイダンス ー地理学とはー
2. 日本の国土・自然・生活①
3. 日本の国土・自然・生活②
4. 人口移動①(少子高齢化問題など)
5. 人口移動②(在留外国人, 移民問題など)
6. 産業と地域①
7. 産業と地域②
8. 農村地域の動態①(ツーリズム)
9. 農村地域の動態②(地域創生など)
10. 都市地域の動態①(都市とは/歴史的町並み)
11. 都市地域の動態②(コンテンツ, 聖地巡礼, 都市とツーリズム)
12. 観光地域の動態①(ツーリズムの基礎)
13. 観光地域の動態②(インバウンド, ナイトタイムエコノミー, 夜のツーリズム)
14. 観光地域の動態③(スポーツ・ツーリズム1)
15. 観光地域の動態④(スポーツ・ツーリズム2)

定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

**担当者から一言**  
 地理学は我々の日常生活と密接にかかわり合う学問です。地理学の基礎を学び、身近な地域の性格や課題について考えてみましょう。

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**

1. ガイダンス ー地誌学とはー
2. 関東地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
3. 関東地方の地誌②(観光, 開発, 在留外国人, 人口動態など)
4. 近畿地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 郊外化など)
5. 近畿地方の地誌②(伝統文化, 観光, 人口動態, 都市圏など)
6. 中部地方の地誌①(自然, 農業, 工業, 歴史, 郊外化など)
7. 中部地方の地誌②(観光, 交通, スポーツ, 山村集落など)
8. 三重県の地誌①(地域区分, 人口動態, 歴史, 工業, 環境など)
9. 三重県の地誌②(観光, 都市圏, 5地域の性格など)
10. 徳島県の地誌①(四国の概観, 人口問題, 交通など)
11. 徳島県の地誌②(徳島県の構造, 観光, 地域創生, ICTなど)
12. オーストラリア地誌①(自然環境, 歴史, 都市構造, 歴史, 移民など)
13. オーストラリア地誌②(ウルル・カタジュタ国立公園の観光と文化)
14. オーストラリア地誌③(地方都市, 貿易, 資源開発など)
15. オーストラリア地誌④(マイノリティ, インナーシティ問題, 多文化共生など)

定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 特になし。毎回プリント教材を配布します。地図帳を毎時持参して下さい。

**担当者から一言**  
 地誌学は地域の性格を相対的に理解するおらかな学問です。日本だけでなく世界各地の性格や構造、そして地域間の関係性を解明し、世界観を広げていきましょう。

科学的思考論  吉山青翔	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1001	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 今日、国際社会で、日本が果たす役割が大きくなりつつあり、そして、近年、数多くの日本人科学者がノーベル賞を受賞しているに伴い、日本の科学、技術、さらに日本人の科学的な独創力と科学的思考方式はますます注目されています。  
 本講義は、江戸時代における日本人の数学の思考様式と特徴、その形成と社会的創造風土の関係、さらに近代日本社会とのつながりを中心として日本人の科学的思考様式をさぐります。

**到達目標**  
 日本人の科学的思考様式および科学上の発見と発明の特徴を歴史的に把握し、日本の科学技術に関する諸社会的問題に関する理解に思想的な基礎を据えることができるでしょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 中間テスト(30点)と定期試験(70点)により総合評価。

**事前・事後学習**  
 授業前に90分ほどをかけて指定された資料とテキストを予習しておく、授業後にも90分ほどをかけて、配布された資料、自分が取ったノート、テキストを使って復習してください。

科学思想史  吉山青翔	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1002	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学の誕生過程と発展の特徴、科学的な宇宙観、および社会や宗教等との関係を探り、科学の本当の姿に迫ります。

**到達目標**  
 自然科学の全体的な姿を歴史的に把握すること、また、科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができるでしょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 中間テスト(30点)・定期試験(70点)により総合評価。

**事前・事後学習**  
 授業前に1時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておく、授業後にも1時間半ほどをかけて配布された資料と自分のとったノートを使って、授業の内容を復習してください。

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 科学、技術、そして社会との基本的な関係  
 第3講 日本における伝統科学と近代科学の構図  
 第4講 日本の伝統天文学と医学、及びその基礎～中国の伝統天文学と医学  
 第5講 日本の伝統科学と朝鮮の伝統科学との関連性  
 第6講 日本数学の基礎1:中国の数学記号体系  
 第7講 日本数学の基礎2:中国の代数学思想  
 第8講 日本数学の基礎3:中国の方程式思想  
 第9講 日本数学の伝統:遺題継承と算額奉掲  
 第10講 日本の伝統的な数学記号体系:傍書法  
 第11講 日本の伝統的な導関数:窮商  
 第12講 日本の伝統的な極限法:増約術  
 第13講 日本の伝統的な積分法:円理  
 第14講 日本伝統科学の衰退と近代西洋科学の受容  
 第15講 総括  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 テキスト  
 王青翔(=吉山青翔)著『算木を超えた男～もう一つの近代数学と関孝和』(東洋書店、2004年第2刷発行)  
 参考文献  
 数内 清著『中国の数学』(岩波文庫)  
 小倉金之助著『日本の数学』(岩波文庫)

**担当者から一言**  
 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験など資格試験には直接役に立ちません。2) 授業中、パワーポイントなど電子機器を使わず、板書がやや多いので、ノートを取らない者は本講義には不向きです。

**授業の位置づけ**  
 「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 古代オリエント科学の概観  
 第3講 古代ギリシア科学の概観  
 第4講 アリストテレスの自然学  
 第5講 中世の科学と近代大学の誕生  
 第6講 近代科学の開始:コペルニクスの地動説の成立  
 第7講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争:ガリレオ裁判  
 第8講 万有引力法則の発見と近代力学の成立  
 第9講 理髪師から近代解剖学へ  
 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立  
 第11講 酸素の発見と近代化学の成立  
 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立  
 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生  
 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生  
 第15講 総括  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。

**担当者から一言**  
 1) 本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。2) 授業中、必要時に資料を配布しますが、パワーポイントなど電子機器を基本的に使わず、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。



自然科学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中伊知郎 GLAN1003	後学期	選 択

**授業のねらい**  
個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集合的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。

**到達目標**  
文学のように個人を扱うだけでなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
講義内各回の終わりに練習問題(実習：実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

**事前・事後学習**  
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

数学概論	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		吉見勝治 GLAN1004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
金融、マーケット調査、遺伝学、薬学、人口統計、政治学など幅広い分野で確率論、特にマルコフ連鎖という考え方が応用されています。本講義では確率論とマルコフ連鎖の基本的な考え方を理解し、演習問題を解けるようにすることを目標とします。

**到達目標**  
(1)確率が使われる場面を知ること  
(2)行列の簡単な演算ができるようになること  
(3)マルコフ連鎖について理解すること

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
出席率と積極性(40%)、定期試験の結果(60%)を元に評価します。都度宿題を出した場合にはその内容についても加味します。提出された宿題は、以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
講義内容について配布資料とノートを見直し、復習するようして下さい(60分)。インターネットや新聞で統計データや予測データを見かけた時に、その根拠と推計方法について考えるよう意識して下さい(60分)。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス:自然観察の有益性  
第2講 自然現象と人間の思いの違い  
第3講 事実  
第4講 仲間(人間社会)から自然へ  
第5講 個別でなく集団で考える:集合(分類からの実習)  
第6講 自然数から連続量へ  
第7講 指数の導入:細菌の増殖  
第8講 桁数と指数(計算実習)  
第9講 日常の指数:複利と物価(計算実習)  
第10講 借金と情報の非対称性(ローン計算実習)  
第11講 客観的な関係である関数:一次関数と予測可能性の実習  
第12講 指数関数:立ち上がりの早さ(グラフ作成実習)  
第13講 ゆらぎ  
第14講 統計的比較と有意確率)  
第15講 まとめ:自然科学の客観性  
定期試験 持ち込み不可

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス -世の中は確率に溢れている-  
第2講 論理  
第3講 集合  
第4講 数え上げの原理  
第5講 順列と組合せ  
第6講 標本空間、事象、確率  
第7講 和事象、共通事象、余事象  
第8講 条件付き確率  
第9講 ベイズの公式  
第10講 確率変数、確率分布、期待値  
第11講 マルコフ連鎖の性質  
第12講 正則マルコフ連鎖  
第13講 吸収マルコフ連鎖  
第14講 演習  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキスト:配布資料、プレゼン資料  
参考資料:R.A.Barnett他著、柳沼壽訳「初歩からの数学Ⅲ」丸善出版(2015年)

**担当者から一言**  
世の中、様々な未来の「推計値」が出されています。単純に信用していませんか?本講義を通じて、確率やマルコフ連鎖の考え方を理解し、推計値がどのような計算で出されているか意識できるようにしてもらいたいと思います。

化学概論／化学 1	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	牧田直子	GLAN1005	前学期 選 択

### 授業のねらい

化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの講義のねらいである。自然界は様々な物質によって成り立っており、それらの正体は何なのか、その物質に関する自然の法則を探求していくのが化学である。物質を作る原子や変化のしくみを学び、様々な角度から物質を眺めることによって、物質の本質に迫る手段を増やすことができる。これらは電子の配置や挙動を追うことで説明できるので、電子については詳しく解説する。

関連科目は「環境化学」、「環境化学実験」など。

### 到達目標

「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」

物質の構成要素がわかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。周期表を使いこなせるようになろう。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

宿題プリント(13回分):25%、定期試験:75%

宿題は翌週の講義開始10分以内に提出。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。宿題の評価は正解率ではなく、解答率(問題数に対する解答数)に準ずる。

宿題プリントと授業内に行った演習プリントは、採点して返却する。

### 事前・事後学習

- (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する(90分)。
- (2) 教科書を読む(60分)。 各回の講義に該当する教科書のページ数を明記した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。
- (3) ノートの見直し、まとめ(30分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- |      |              |
|------|--------------|
| 第1講  | ガイダンス、化学の学び方 |
| 第2講  | 物質とは何か       |
| 第3講  | 身の回りの物質      |
| 第4講  | 物質の性質        |
| 第5講  | 物質の状態        |
| 第6講  | 原子と電子軌道      |
| 第7講  | 電子配置と周期表     |
| 第8講  | 化学結合1        |
| 第9講  | 化学結合2、物質量    |
| 第10講 | 気体と溶液の性質     |
| 第11講 | 化学反応         |
| 第12講 | 酸と塩基         |
| 第13講 | 酸化と還元        |
| 第14講 | 光            |
| 第15講 | まとめ          |
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

教科書:

日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編『「化学」入門編 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ』化学同人(2007)、2,160円(税込)

### 担当者から一言

ノートを用意して下さい(ルーズリーフは不可)。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。

地学概論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	森 康則	GLAN1006	前学期 選 択

### 授業のねらい

環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など実際の地学的事象を通じて学びます。

### 到達目標

地球の成り立ちやその構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

- (1) 各回の講義時に小テストを提出する  
5点×15回 = 75点  
遅刻・早退等は減点対象とする
- (2) 大レポート 25点  
計 100点

### 事前・事後学習

講義は板書とスライドにより進めていきます。各講義の小テストや大レポートの内容は、板書内容あるいはそれに関連する内容から出題します。講義毎に出される次回講義内容に関連した課題に取り組む(90分)。講義内容を基に講義ノートとして整理する(90分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- |      |            |
|------|------------|
| 第1講  | ガイダンス・地学とは |
| 第2講  | 地球の構造と形状   |
| 第3講  | 岩石と鉱物 1    |
| 第4講  | 岩石と鉱物 2    |
| 第5講  | 堆積作用       |
| 第6講  | 化石と地質年代 1  |
| 第7講  | 化石と地質年代 2  |
| 第8講  | プレートテクトニクス |
| 第9講  | 火山         |
| 第10講 | 地震         |
| 第11講 | 自然災害       |
| 第12講 | 地下水        |
| 第13講 | 大気と海洋      |
| 第14講 | 宇宙と地球      |
| 第15講 | まとめ        |

### テキスト・教材(参考文献含む)

特になし。

### 担当者から一言

高等学校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、それを想定の上で講義を進めます。

生物学概論／生物学  田中伊知郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1007	前学期	選 択

### 授業のねらい

自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。

### 到達目標

人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

### 事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
  - 第2講 生物のエネルギー：代謝
  - 第3講 光合成：エネルギーの生産
  - 第4講 呼吸：エネルギーの活用
  - 第5講 生体物質：反応できる窒素
  - 第6講 タンパク質：安定した生体物質
  - 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習)
  - 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA
  - 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム
  - 第10講 遺伝子発現の情報処理
  - 第11講 生物の環境応答：刺激の受容
  - 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム
  - 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制
  - 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉
  - 第15講 行動：統合された反応
- 定期試験 持ち込み不可

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

### 担当者から一言

生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

生物と進化  田中伊知郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GLAN1008	後学期	選 択

### 授業のねらい

自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。

### 到達目標

環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産・生態系)を養うこと、人間の生物としての特徴を進化の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60% 定期試験 40%

### 事前・事後学習

授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

### 授業の位置づけ

「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク)
  - 第2講 生態系：動物と植物の関係
  - 第3講 生態系：草食動物と肉食動物
  - 第4講 生態系：肉食動物と食物連鎖(海中)
  - 第5講 生態系：疎水性物質の生物濃縮
  - 第6講 生態系：環境との相互作用・日本の植生の特徴
  - 第7講 生態系：採集狩猟社会と環境変化
  - 第8講 生態系：農業の特徴
  - 第9講 進化の定義
  - 第10講 進化：分岐年代
  - 第11講 進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習)
  - 第12講 進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習)
  - 第13講 進化：直立二足歩行の起源(腕渡りとの関係の作図実習)
  - 第14講 進化：人類進化のまとめ
  - 第15講 進化：ダイナミックな進化の示唆
- 定期試験 持ち込み不可

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

### 担当者から一言

生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているが誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。

環境論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	吉山青翔 GLAN1009	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。

**到達目標**  
環境問題の全体像を把握し、自分の環境観の形成を期待することができるでしょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
中間テスト(30点)・定期試験(70点)により総合評価。毎回授業が終わる前に、授業の内容と質問に関するミニレポートを提出してもらい、次回授業でそれに基づいて再確認とコメントする。

**事前・事後学習**  
授業前に次回の授業内容を確認し、それに関する指定、あるいは配布された資料を使って1時間半ほどをかけて予習しておき、授業後に自分の取ったノートと配布された資料を使って1時間半ほどをかけて復習してください。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス：環境論の仕組み及び課題  
第2講 「自然」の定義と仕組み  
第3講 「環境」の定義と仕組み  
第4講 「文化」の定義と仕組み  
第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性  
第6講 環境に関する人類の認識1：ヒポクラテスによる医学上の見解  
第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解  
第8講 中間テスト  
第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナルによる生理学上の見解  
第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラツェルによる地理学上の見解  
第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見  
第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生  
第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告  
第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化  
第15講 総括：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
参考資料  
王青翔(吉山青翔)著『算木を超えた男～もう一つの近代数学の誕生と関孝和』(東洋書店、1999年)  
小川 東『和算 江戸の数学文化』(中央公論新社、2021年)  
他、随時に授業内容に関する予習などの資料を指定、配布します。

**担当者から一言**  
この講義は板書がやや多いので、ノートを取るものが苦手な者には不向きです。

心理学	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	田中伊知郎 GLAN1010	後学期	選 択

**授業のねらい**  
情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえらる情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。

**到達目標**  
生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20%  
講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理  
第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習)  
第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用  
第4講 資格情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習)  
第5講 視覚情報・形 両眼視  
第6講 視覚情報・形 アフォーダンス  
第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ボケの効果  
第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習)  
第9講 実験心理学からみた学習  
第10講 個別学習と社会学習の違い  
第11講 社会学習における課題  
第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布)  
第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感  
第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして  
第15講 レポート返却(コメント付き)・講評  
定期試験 各自のコメントに関連した問題

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
教育は一方の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。

キャリア基礎Ⅰ	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	必修
岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		GECC1001		

**授業のねらい**  
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方・経営者の考え方・労働者の権利・大学生の雇用・求人・情勢・キャリアサポートセンターなどを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

**到達目標**  
以下の3つが目標です。  
① 働く意義について考える。  
② 就業環境について理解する。  
③ 採用試験の基礎知識を習得する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**  
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス／キャリアをどう考えるか 9/27  
第2講 課題と実習(社会人基礎力①)10/4  
第3講 課題と実習(社会人基礎力②)10/11  
第4講 知っておきたい採用試験の基礎① 10/18  
第5講 知っておきたい採用試験の基礎② 10/25  
第6講 働き方はどうなっているか 11/1  
第7講 経営者によるキャリア講演会 11/8  
第8講 課題と実習11/15  
第9講 知っておきたい採用試験の基礎③ 11/22  
第10講 働く者の権利 11/29  
第11講 知っておきたい採用試験の基礎④ 12/6  
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/13  
第13講 大学生の雇用と求人の情勢 12/20  
第14講 キャリアサポートセンターについて 1/7  
第15講 まとめ 1/24

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**  
就職は何より学生自身の問題です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅰ(公務員クラス)	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	必修
高田晴美・中西紀夫		GECC1001		

**授業のねらい**  
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、公務員だけでなく一般企業も含めた就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人・情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

**到達目標**  
以下の3つが目標です。  
① 働く意義について考える。  
② 就業環境について理解する。  
③ 公務員試験、一般企業の採用試験の基礎知識を習得する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**  
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス／キャリアをどう考えるか  
第2講 課題と実習(社会人基礎力①)  
第3講 課題と実習(社会人基礎力②)  
第4講 知っておきたい採用試験の基礎①  
第5講 知っておきたい採用試験の基礎②  
第6講 働き方はどうなっているか  
第7講 知っておきたい採用試験の基礎③  
第8講 公務員の職種について  
第9講 知っておきたい採用試験の基礎④  
第10講 働く者の権利  
第11講 知っておきたい採用試験の基礎⑤  
第12講 知っておきたい採用試験の基礎⑥  
第13講 大学生の雇用と求人の情勢  
第14講 キャリアサポートセンターについて  
第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑦

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**  
公務員志望者のためのクラスです。1年生前学期中に「キャリア科目」の公務員クラスを希望するかを調査します。志望者はこの科目と並行して、スキル科目「公務員養成ユニット」科目も全科目、開講年次通りに履修してください。

キャリア基礎Ⅱ	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	必修
岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		GECC1002		

**授業のねらい**  
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。  
「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。

- 到達目標**  
以下の4つの到達目標があります。
- ① 自己分析・自己PRの手法を修得し、実際に行ってみること。
  - ② 業界研究の方法を修得すること。
  - ③ 履歴書やエントリーシートを書けるようになること。
  - ④ 採用試験の基礎を習得すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**  
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス 4/12
  - 第2講 自己分析のすすめ 4/19
  - 第3講 自己分析実習①過去の自分をふりかえる 4/26
  - 第4講 自己分析実習②他者の意見を聞く 5/10
  - 第5講 知っておきたい採用試験の基礎⑥ 5/17
  - 第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/24
  - 第7講 自己分析実習③未来の自分を考える 5/31
  - 第8講 自己分析実習④自己PRを考える 6/7
  - 第9講 業界・企業研究のすすめ 6/14
  - 第10講 企業研究実習 6/21
  - 第11講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)① 6/28
  - 第12講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)② 7/5
  - 第13講 知っておきたい採用試験の基礎⑧ 7/12
  - 第14講 知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/19
  - 第15講 知っておきたい採用試験の基礎⑩ 7/26

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**  
自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。

キャリア基礎Ⅱ(公務員クラス)	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	必修
高田晴美・中西紀夫		GECC1002		

**授業のねらい**  
この科目では「キャリア基礎Ⅰ」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己PRを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社・自治体・組織に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己PRを行う学生に対してその手法を学びながら自己分析・自己PRを作成します。あわせて公務員試験に備えた基礎学力の習得(「数的推理」の補足)をめざします。

- 到達目標**  
以下の4つの到達目標があります。
- ① 自己分析・自己PRの手法を習得し、実際に行ってみること。
  - ② 業界研究の方法を習得すること。(公務員だけでなく一般企業も研究しよう)
  - ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。
  - ④ 採用試験の基礎(数的推理の図形分野)を習得すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**  
予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
  - 第2講 自己分析のすすめ
  - 第3講 自己分析実習①過去の自分をふりかえる
  - 第4講 自己分析実習②他者の意見を聞く
  - 第5講 知っておきたい採用試験の基礎⑧
  - 第6講 知っておきたい採用試験の基礎⑨
  - 第7講 自己分析実習③未来の自分を考える
  - 第8講 自己分析実習④自己PRを考える
  - 第9講 業界・企業研究のすすめ
  - 第10講 企業研究実習
  - 第11講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)①
  - 第12講 履歴書・エントリーシートを書く(実習)②
  - 第13講 知っておきたい作用試験の基礎⑩
  - 第14講 知っておきたい作用試験の基礎⑪
  - 第15講 知っておきたい作用試験の基礎⑫

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**  
公務員志望者のためのクラスです。公務員として働く自分の姿を想像してみましょう。また、「公務のための数的推理」ではやらなかった数学の図形問題も、ここで学ぶことで、数的推理の土台部分が完成します。

キャリア基礎Ⅲ	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山		GECC1003		

**授業のねらい**

キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひとつおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

**到達目標**

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

**授業計画**

第1講 ガイダンス 9/27  
第2講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか 10/4  
第3講 新聞を読む(講義) 10/11  
第4講 新聞を読む(実習) 10/18  
第5講 ビジネスマナー①(面接) 10/25  
第6講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応)① 11/1  
第7講 模擬合同企業説明会 11/8  
第8講 エントリーシートの作成 11/15  
第9講 模擬面接(実習)① 11/22  
第10講 模擬面接(実習)② 11/29  
第11講 プレゼン面接(実習)① 12/6  
第12講 プレゼン面接(実習)② 12/13  
第13講 グループディスカッション② 12/20  
第14講 グループディスカッション③ 1/7  
第15講 まとめ 1/24

**テキスト・教材(参考文献含む)**

テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**

3年生では就職ガイダンスがはじまります。最近では企業によるインターンシップも頻繁に行われるようになってつつあります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。

キャリア基礎Ⅲ(公務員クラス)	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
高田晴美・中西紀夫		GECC1003		

**授業のねらい**

「キャリア基礎Ⅲ」では、具体的な就職活動を想定し、情報収集・エントリー・面接など、ひとつおりの公務員や一般企業の就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。

**到達目標**

模擬的な就職活動を行うことによって以下の5つの能力を養うことが目標です。

- ① キャリアⅡで行った自己分析・自己PRを実践的にブラッシュアップすること
- ② 就職活動を行うための経済・社会・自治体・職種の情報収集方法を身につけること
- ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること
- ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと
- ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

期末試験50%、平常点(受講態度および課題の取り組み姿勢)50%  
課題は適宜コメントをして返却します。

**事前・事後学習**

予習:あらかじめテキストを読んでおくこと(90分)。  
復習:講義の内容や課題を復習しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**

「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。

**授業計画**

第1講 ガイダンス  
第2講 日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか  
第3講 新聞を読む(講義)  
第4講 新聞を読む(実習)  
第5講 ビジネスマナー①(面接)  
第6講 ビジネスマナー②(書類の送付、メール・電話対応)  
第7講 模擬自治体研究と情報収集  
第8講 エントリーシートの作成  
第9講 模擬面接(実習)①  
第10講 模擬面接(実習)②  
第11講 プレゼン面接(実習)①  
第12講 プレゼン面接(実習)②  
第13講 グループディスカッション①  
第14講 グループディスカッション②  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**

テキストはクラス担当教員から配付します。  
毎回の講義には必ず持参してください。

**担当者から一言**

3年生では就職ガイダンスがはじまります。公務員試験の対策も本格化します。綿密な準備がどれだけできたかが問われます。公務員となった自分の姿を思い描きながら、しっかり取り組んでいきましょう。

ボランティア活動 a・b 松井真理子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GESC1001 GESC1002	前学期	選 択

**授業のねらい**  
障害がある人、子どもなどを支援する活動、災害救援活動、環境保全活動など、地域にはさまざまな社会貢献活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない生きた学びの機会となるとともに、ともに支えあう地域社会づくりに貢献するなど、大きな意義を持っています。四日市大学では、多くのが学生の参加促進のため、一定の時間参加した場合は、所定の手続きを経て単位認定します。  
\* ボランティア活動 a の単位修得後、b を取得します。

**到達目標**  
1 現場体験を通じて、社会の様々な課題を深く理解すること。  
2 主体的な行動力を身に着けること。  
3 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身に着けること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定します。  
評価は「認(認定)」となります。(履修制限単位に含まれない)  
提出したレポートについて、希望により面談やコメントをします。

**事前・事後学習**  
(事前)参加する活動や団体に関する情報を収集し、よく内容を理解しておくこと。(90分)  
(事後)学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

国際協力研修／青年海外協力研修 岩崎祐子	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GESC1003	後学期	選 択

**授業のねらい**  
青年海外協力隊、NGO(非政府団体)、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。

**到達目標**  
1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。  
2 国際感覚を身に付けます。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書(様式自由)および活動日誌(様式自由)・レポート(1200字以上)を提出すること。  
レポートは、研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及すること。

**事前・事後学習**  
事前：参加する活動や団体に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと(90分)  
事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも目を通すこと(90分)

**授業の位置づけ**  
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

**授業計画**  
1 対象となる活動  
① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動  
② 別に大学の審査により認められたボランティア活動  
2 単位認定に必要な活動時間  
実労働時間60時間以上  
(複数の活動や、年度を超えた活動でもかまいません。)  
3 活動時期  
授業や大学行事に支障がないと判断される時期  
4 事前申請  
参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」(教務課にあります)を教学課に提出してください。  
5 単位認定申請  
実労働時間が60時間が予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出してください。(卒業年次の1月末日まで)  
① ボランティア活動 a 単位認定申請書  
② ボランティア活動団体発行の証明書  
③ 活動日誌・レポート(様式自由、1000字程度)  
注)活動の経験を三重県内の地域でどう活かすか言及してください。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
ボランティアセンターのボランティア情報を活用するほか、これ以外のボランティア活動の紹介もします。積極的に参加されることを期待しています。

**授業の位置づけ**  
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス(集中講義期間)  
第2講 事前研修(集中講義期間)  
第3講 事前研修(集中講義期間)  
第4講 海外現地研修  
第5講 海外現地研修  
第6講 海外現地研修  
第7講 海外現地研修  
第8講 海外現地研修  
第9講 海外現地研修  
第10講 海外現地研修  
第11講 海外現地研修  
第12講 海外現地研修  
第13講 海外現地研修  
第14講 海外現地研修  
第15講 海外研修の振り返り  
※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。  
・四日市大学では、タイ・スタディツアーを2022年2月に実施予定です。期間は1週間、海外研修に関わる説明会には参加してください。  
・大学外の海外研修・海外協力活動への参加の場合には、事前申請を行ってください。  
第2講～第15講 ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
四日市大学の海外研修の場合、研修国、研修訪問先(団体、プロジェクト)に関する資料を配布します。

**担当者から一言**  
四日市大学の研修参加希望者は学内で開催する説明会に必ず参加してください。研修終了後は、自分はいかに活動を継続的に関わることができるか考えてください。  
大学の研修では、時期・研修国が決まっています。自分の希望に合わせて、関心のある研修先を探して(事前申請をして)海外研修とすることができます。



インターンシップ 鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GESC1004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。  
■インターンシップを履修するための条件  
・3か月以上のアルバイトの経験(週2日以上)の定期アルバイト)があること  
・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと  
・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること

**到達目標**  
正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価・フィードバックする。

**事前・事後学習**  
講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。

**事前・事後学習**  
講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。

社会調査入門／社会調査論 三田 泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSSR1001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
世の中のできごとを知る方法のひとつに社会調査がある。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えてゆく。これまでに行なわれた調査の実例を紹介し、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の解釈について学ぶ。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することがねらいである。

**到達目標**  
社会調査の基本的知識を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価:平常点30%、中間試験15%、期末試験55%  
課題:各回の最後に小レポートを課す  
フィードバック方法:小レポートのいくつかをとりあげ次回にコメントする

**事前・事後学習**  
新聞・ニュース等に目を通す(10分)。  
授業のノートを確認する(10分)。

**事前・事後学習**  
新聞・ニュース等に目を通す(10分)。  
授業のノートを確認する(10分)。

**授業の位置づけ**  
「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

**授業計画**  
★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること  
★詳細は、履修要綱に記載  
4月:説明会(CSC主催)・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布  
4月末:申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表  
5月中旬～下旬:面接 ⇒ 面接の合格者を発表  
5月下旬:直前ガイダンス・・・受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等  
6月下旬:研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定  
7月中旬:事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等  
7月下旬:直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等  
8～9月上旬:インターンシップ研修  
11月:事後研修・・・レポート提出  
12月頃:単位認定  
\*春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
1 ガイダンス  
2 社会調査の歴史  
3 社会調査の発展  
4 日本における社会調査  
5 質的調査と量的調査  
6 社会調査の種類と方法  
7 サンプリングの発展  
8 公的統計の意義と活用  
9 二次分析の例  
10 量的な社会調査の例  
11 質的な社会調査の例①  
12 質的な社会調査の例②  
13 実験的方法の例  
14 社会調査をめぐる環境  
15 調査の倫理  
  
授業内で必要に応じてグループワークを行いません。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013

**担当者から一言**  
この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(A)になっています。

社会調査の技法／社会調査方法論  三田 泰雅	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSSR1002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では社会調査を行なう際に必要となる知識と、注意すべき点を紹介する。広い意味での社会調査は誰でも簡単に始められるが、より確かで質の良いデータを集めようとするとき一定の知識が必要になる。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に習得をはかる。

**到達目標**  
必要に応じて調査の実例を紹介しながら、社会調査の方法、目的に合わせた方法の選択、調査結果の分析について学ぶ。社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業内の小レポート30%、中間試験15%、期末試験55%。  
小レポートは翌週の授業でコメントする。

**事前・事後学習**  
新聞やニュースに目を通しておくこと(毎日20分以上)。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授 業 計 画**

- 1 ガイダンス
- 2 社会調査の企画
- 3 質的調査の方法
- 4 インタビューの準備
- 5 インタビューの実践
- 6 質的データの分析
- 7 質的調査のまとめ
- 8 量的調査の方法
- 9 調査票の作成1
- 10 調査票の作成2
- 11 標本抽出の考え方
- 12 実査とデータ作成
- 13 量的データ分析の基礎
- 14 量的調査のまとめ
- 15 調査の倫理

授業では必要に応じてグループワークを行いません。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
(参考文献)玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社、2008。

**担当者から一言**  
この科目は社会調査士養成ユニットに含まれており、社会調査士資格の対象科目(B)になっています。

データ分析の基礎／データ分析論  田中 伊知郎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。

**到達目標**  
相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身につけて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示し、次回までの課題も示します。

**事前・事後学習**  
授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授 業 計 画**

- 第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認
- 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん
- 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差)
- 第4講 既存統計資料の読み方と使い方
- 第5講 量的データと伴って変わる量
- 第6講 比例と1次関数
- 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図
- 第8講 Excelを使つての散布図の作成
- 第9講 1次関数と相関係数
- 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方
- 第11講 相関係数の性質
- 第12講 データの性質の拡張：質的データ
- 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて)
- 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明
- 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画

定期試験 持ち込み不可  
第2講から第14講までパソコンを使つての実習となります。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

統計的分析／社会調査のための統計学 田中伊知郎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1004	後学期	選 択

### 授業のねらい

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、サンプリングの理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。

### 到達目標

量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。点数を提示して、次回への課題も示します。

### 事前・事後学習

授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。

データ解析の技法／量的データ解析法 <b>実務</b> 吉見勝冶	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1006	後学期	選 択

### 授業のねらい

複雑な現代社会を読み解く方法の一つに、数量データを用いた多変量解析があります。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法を理解し、それらを活用するための基礎力を身に付けることを目的とします。具体的な事例も交え、各種のデータ解析手法が身近なものであることを理解してもらいます。

### 到達目標

- (1) 代表的な確率分布を理解すること
- (2) 統計的な推測を理解すること
- (3) 仮説検定を理解すること
- (4) 各種多変量解析(重回帰分析、分散分析、主成分分析等)を理解すること

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

出席率と積極性(40%)、定期試験(60%)を元に総合的に評価します。宿題を出した場合にはその内容についても加味します。提出された宿題は以降の講義で返却します。

### 事前・事後学習

インターネットや新聞で「統計データ」を日々確認して下さい(60分)。その統計データの母集団や検定について、講義で学んだ内容を元に考える癖をつけて下さい(60分)。

<b>授業の位置づけ</b> 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
---

### 授業計画

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 第1講         | ガイダンス:平均値・中央値と度数分布の確認          |
| 第2講         | サンプリング:標本と母集団の関係とヒストグラムの作成     |
| 第3講         | 正規分布:確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得      |
| 第4講         | 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定) |
| 第5講         | 平均値の差の検定:二つの正規分布か、同じ分布か:実習     |
| 第6講         | 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量           |
| 第7講         | 分散分析の実習                        |
| 第8講         | 一次関数と相関係数:Excelを使っての求め方        |
| 第9講         | 相関係数の性質と回帰分析                   |
| 第10講        | データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など      |
| 第11講        | ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合)         |
| 第12講        | クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・     |
| 第13講        | クロス集計の実践:質的アンケートと円グラフ          |
| 第14講        | クロス集計の検定(正確確率検定など)             |
| 第15講        | クロス集計の検定:実習                    |
| 定期試験        | 持ち込み不可                         |
| 第2講から第15講まで | パソコンを用いた実習となります。               |

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

### 担当者から一言

パソコン教室の実習形式で行います。パソコンを使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。

<b>授業の位置づけ</b> 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
---

### 授業計画

- |      |                 |
|------|-----------------|
| 第1講  | ガイダンス -多変量解析とは- |
| 第2講  | 数学の復習           |
| 第3講  | 平均値、分散、共分散      |
| 第4講  | 正規分布            |
| 第5講  | 標準化             |
| 第6講  | 回帰分析1-回帰分析とは    |
| 第7講  | 回帰分析2-平面の当てはめ   |
| 第8講  | 回帰分析3-事例の演習     |
| 第9講  | 主成分分析1-主成分分析とは  |
| 第10講 | 主成分分析2-主成分分析の式  |
| 第11講 | 主成分分析3-事例の演習    |
| 第12講 | 因子分析1-因子分析とは    |
| 第13講 | 因子分析2-因子分析の式    |
| 第14講 | 因子分析3-事例の演習     |
| 第15講 | まとめ             |
| 定期試験 |                 |

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト:配布資料、プレゼン資料  
参考資料:久保川達也、国友直人「統計学」東京大学出版会(2016年)

### 担当者から一言

どのような会社に就職しても、売上予測や市場動向など、様々なデータ解析が行われています。自分がその解析を行わなくてもその基礎を理解していることは社会人として大きな力になります。是非一緒に学びましょう。

フィールドワーク論／比較文化論 富田 与	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSSR1005	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では、「聞き取り」と「参与観察」での発問の仕方を中心に考えていきます。「聞き取り」と「参与観察」では、ある目的を持って質問していくことが求められます。何を、どのように質問したらいいのでしょうか。講義では、具体的なフィールドワークの報告を読みながら、「ライフストーリー」、「談話分析」などそれぞれの報告で使われている方法を踏まえた、発問の仕方を考えていきます。毎回の課題に関するディスカッションの形で講義を進めます。

**到達目標**  
調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
講義への参加度（発言等）：30% 各回のレポート：30% 最終レポート：40%  
各回のレポートは講義の中で発表してもらいます。  
最終レポートは希望者には返却します。

**事前・事後学習**  
各章のレポートを作成してもらいます(180分)。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 序章 現代文化のフィールドワークとは何か  
第3講 第1章 出産：ドキュメント分析とインタビュー調査の齟齬から  
第4講 第2章 地域政策：ドキュメント分析からインタビュー調査へ  
第5講 第3章 共生文化：談話分析と参与観察の齟齬から  
第6講 第4章 介助者：参与観察からライフストーリー(キャリア・パス分析)へ  
第7講 第5章 祭り：儀礼調査から見た社会変容  
第8講 第6章 民藝：「モノ」への注目  
第9講 第7章 頼母子講：参与観察(生活者として)  
第10講 第8章 引揚者：ドキュメント分析・オーラルストーリーの比較  
第11講 第9章 信心：オーラルストーリーと世界観  
第12講 第10章 エスノメソッド：エスノメソッドロジー  
第13講 第11章 住民のためらい：エスノメソッドロジーの発明(メディア社会との関係)  
第14講 調査計画とは(レポートのガイダンス)  
第15講 まとめ

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
『現代文化のフィールドワーク入門』 山泰幸・足立重和編 ミネルヴァ書房 3,000円  
絶版となっているため、基本的にはコピーを用意します。

**担当者から一言**  
調査やインタビューに関する面白い新書の出版が相次いでいます。ぜひ手にとって読んでみてください。  
\*経済経営学科の再履修があるため、今年も同じテキスト使うことになりました。

社会調査実習1／まちづくり研究 三田 泰雅	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSSR1007	前学期	選 択

**授業のねらい**  
社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。とくに、以下の4つの項目を重点的に、実習を運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データの分析を通してレポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの基礎強化を図ること、などが期待できる。

**到達目標**  
本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価方法：実習への参加度50%、期末レポート50%  
課題：不定期に中間報告の機会を設ける  
フィードバック方法：報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする

**事前・事後学習**  
報告準備をする(30分)。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
1. ガイダンス  
2. 問題の整理  
3. 対象について学ぶ  
4. 問いを立てる  
5. 先行研究をさがす  
6. 先行研究の検討(1)  
7. 先行研究の検討(2)  
8. 仮説の形成  
9. 調査項目の洗い出し  
10. 調査表作成の基礎  
11. 調査票の作成(1)  
12. 調査票の作成(2)  
13. 調査票の完成  
14. 調査の実施  
15. まとめ  
  
授業内では必要に応じてグループワークを行いません。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013.

**担当者から一言**  
社会調査士養成ユニットの実習です。この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから6単位(3科目)以上取得している必要があります。

社会調査実習2 / コース別研修  三田 泰雅	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSSR1008	後学期	選 択

### 授業のねらい

社会調査を実施して成果物を作成する技法の習得を目的とする。以下の5項目に重点を置いて運営してゆく。(1)テーマに沿って、問いと仮説をたてる。(2)先行研究を調べる。(3)調査票を作成する。(4)データを分析する。(5)レポートを執筆する。本実習を履修することにより、これまでに習得してきた社会調査の基礎を、実践的に理解すること、調査分析スキルの強化を図ること、などが期待できる。

### 到達目標

本実習の履修者には、自らの問いをもとにして、先行研究を整理することが求められる。そして調査をつうじて得られたデータを、適切な方法を用いて分析し、考察を加えて成果の形にまとめることで、社会調査の一連の過程を学ぶことができる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価方法：実習への参加度50%、期末レポート50%  
 課題：不定期に中間報告の機会を設ける  
 フィードバック方法：報告をもとに教員を含めた全員でディスカッションする。

### 事前・事後学習

報告準備(30分)。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. データの整理
3. データ入力(1)
4. データ入力(2)
5. データ分析の基本
6. データの分析(1)
7. データの分析(2)
8. 分析結果の報告(1)
9. 分析結果の報告(2)
10. 分析結果の報告(3)
11. レポートのまとめ方
12. 報告原稿の発表(1)
13. 報告原稿の発表(2)
14. 報告原稿の発表(3)
15. 報告書の作成

授業内では必要に応じてグループワークを行いません。

### テキスト・教材 (参考文献含む)

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房、2013

### 担当者から一言

この科目を履修するには、社会調査士養成ユニットから6単位(3科目)以上、かつ「社会調査実習Ⅰ」の単位を取得している必要があります。社会調査士資格を取得するには「社会調査実習Ⅰ」と同一年度に単位取得することが必要です。

公務のための数的推理 / 公務のための数的処理  高田 晴美	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSPO1001	後学期	選 択

### 授業のねらい

皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならぬ重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。

### 到達目標

- 1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。
- 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト 30%  
 定期試験(資料持ち込み不可) 70%  
 授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

### 事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。  
 ・講義で扱った問題の解きなおし(90分)  
 ・講義では飛ばした問題を解く(90分)  
 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- |      |             |
|------|-------------|
| 第1講  | ガイダンス、整数の性質 |
| 第2講  | 比と割合        |
| 第3講  | 方程式と不等式①    |
| 第4講  | 方程式と不等式②    |
| 第5講  | 濃度          |
| 第6講  | 仕事算、ニュートン算  |
| 第7講  | 年齢算、平均算など   |
| 第8講  | 集合          |
| 第9講  | 速さ①         |
| 第10講 | 速さ②         |
| 第11講 | 場合の数        |
| 第12講 | 確率          |
| 第13講 | 剰余系の問題      |
| 第14講 | n進法         |
| 第15講 | 数列          |
- 定期試験

### テキスト・教材 (参考文献含む)

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理 / 資料解釈 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

### 担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための判断推理 高田晴美	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSP01002	前学期	選 択

### 授業のねらい

公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。

### 到達目標

- 1 判断推理の解法を一通り身に付ける。
- 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。
- 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト 30%  
定期試験(資料持ち込み不可) 70%  
授業時に行う小テストに関しては、後に解説を行います。

### 事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。  
・講義で扱った問題の解きなおし(90分)  
・講義では飛ばした問題を解く(90分)  
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- |      |            |
|------|------------|
| 第1講  | ガイダンス、順序関係 |
| 第2講  | 順序関係       |
| 第3講  | 位置関係       |
| 第4講  | 対応関係       |
| 第5講  | 試合         |
| 第6講  | 数量関係       |
| 第7講  | 命題と論理      |
| 第8講  | 真偽         |
| 第9講  | 暗号と規則性     |
| 第10講 | 操作・手順      |
| 第11講 | パズル問題      |
| 第12講 | 移動と軌跡      |
| 第13講 | 立体図形       |
| 第14講 | 展開図        |
| 第15講 | サイコロと位相    |
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 判断推理 第2版』エクシア出版(2019年)1,650円

### 担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための現代文 高田晴美	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSP01003	後学期	選 択

### 授業のねらい

公務員試験科目のうち「文章理解(国語分野)」の「現代文」と「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解(国語)」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいでしょう。

### 到達目標

- 1 「文章理解(国語分野)」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。
- 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の小テスト(漢字) 30%  
定期試験(資料持ち込み不可) 70%  
小テストに関しては、後に要注意ポイントを解説します。

### 事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元(授業でやったあたり)について、以下のことをしておくこと。  
・(特に「資料解釈」では)講義で扱った問題の解きなおし(90分)  
・講義では飛ばした問題を解く(90分)  
自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。上記に加えて、毎回の漢字テストの対策をすること。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- |      |                  |
|------|------------------|
| 第1講  | ガイダンス、現代文①——内容把握 |
| 第2講  | 現代文②——内容把握       |
| 第3講  | 現代文③——要旨把握       |
| 第4講  | 現代文④——要旨把握       |
| 第5講  | 現代文⑤——文章整序       |
| 第6講  | 現代文⑥——文章整序       |
| 第7講  | 現代文⑦——空欄補充       |
| 第8講  | 資料解釈①——実数        |
| 第9講  | 資料解釈②——実数        |
| 第10講 | 資料解釈③——割合・構成比    |
| 第11講 | 資料解釈④——割合・構成比    |
| 第12講 | 資料解釈⑤——指数・増加率    |
| 第13講 | 資料解釈⑥——指数・増加率    |
| 第14講 | 資料解釈⑦——特殊な問題     |
| 第15講 | 資料解釈⑧——特殊な問題     |
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける(直観ルール)ブック[改訂版]』実務教育出版(2020年)  
畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト プラス 数的推理/資料解釈第2版』エクシア出版(2019年) (「公務のための数的推理」と同テキスト)

### 担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

公務のための政治学 小林慶太郎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSP01004	後学期	選 択

### 授業のねらい

わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや歴史があるのでしょうか。

この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

### 到達目標

市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。

・講義時に指示する小テストの提出状況:30%

・定期試験(持込不可):70%

毎回実施する小テストは、回収・採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。

### 事前・事後学習

必ず予習・復習(各90分)をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

第1講	ガイダンス:この授業の進め方
第2講	三権分立と法の支配
第3講	議院内閣制
第4講	国会
第5講	内閣
第6講	官僚制と行政
第7講	裁判所
第8講	地方自治
第9講	直接請求権
第10講	選挙
第11講	政党政治
第12講	政治理論
第13講	各国の政治制度
第14講	国際政治
第15講	時事問題
定期試験	

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,430円(税込)

※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

### 担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

公務のための経済学 鬼頭浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSP01005	後学期	選 択

### 授業のねらい

この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。

### 到達目標

経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業を理解した上で課題(8回を予定)を提出することが、単位認定の最低条件。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。課題は、添削やコメントを記して返却する。

### 事前・事後学習

指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備しておくこと。8回の課題には、各3時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

9/28	1. ガイダンス<課題①>
10/5	2. 無差別曲線と消費者の行動①
10/12	3. 無差別曲線と消費者の行動②<課題②>
10/19	4. 企業の行動①
10/26	5. 企業の行動②<課題③>
11/2	6. 需要の価格弾力性①
11/9	7. 需要の価格弾力性②<課題④>
11/16	8. 市場メカニズムと安定性
11/30	9. 比較優位の理論①<課題⑤>
12/7	10. 比較優位の理論②
12/14	11. 財政政策・金融政策①<課題⑥>
12/21	12. 財政政策・金融政策②
1/11	13. 公共財の供給<課題⑦>
1/18	14. 外部不経済
1/25	15. その他の経済学の問題演習

### テキスト・教材(参考文献含む)

資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]」実務教育出版(2018年)1,430円(税込)

※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。

### 担当者から一言

公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。

公務のための法学  中西紀夫	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSP01006	前学期	選 択

**授業のねらい**  
公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。

**到達目標**  
法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含まれます。  
定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。(毎回の予習90分と復習90分)

**授業のねらい**  
非常に幅広い人文科学の知識を、問題演習を通じて効率良く学び、それによって、どこでも通用するような、この分野の基礎知識を身に付けることをねらいとした授業です。公務員試験を目指す学生のみならず、様々な業種の就職試験などで課せられる一般教養の知識をできるだけ身に付けておきたいような学生にも適した授業となるはずです。

公務のための人文科学  李 修二	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSP01007	前学期	選 択

**到達目標**  
幅広い人文科学の知識を、それらの意味も十分に理解したうえで確実に身に付けることを目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパーの評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

**事前・事後学習**  
毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。そのため、授業の復習に30分以上、予習に60分以上かける必要があるでしょう。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈  
第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き  
第4講 人権の発達、基本的人権の原理  
第5講 日本国憲法における基本的人権の種類  
第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権  
第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務  
第8講 要約(これまでの確認)  
第9講 民法、刑法、その他の法律  
第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質  
第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題  
第12講 社会保障、高齢社会、少子社会  
第13講 地球環境問題  
第14講 資源・エネルギー問題  
第15講 要約(これまでの確認)  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学[改訂第2版]』実務教育出版(2018年)1,300円+税(価格) 必要に応じて、プリントでも補足します。  
※このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。

**担当者から一言**  
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
1. ガイダンス  
2. 日本史①  
3. 日本史②  
4. 日本史③  
5. 世界史①  
6. 世界史②  
7. 世界史③  
8. 世界史④  
9. 地理①  
10. 地理②  
11. 地理③  
12. 思想  
13. 文学・芸術①  
14. 文学・芸術②  
15. 国語  
16. 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂第2版』実務教育出版、2018年刊、1,300円+税

**担当者から一言**  
あきらめずに最後までやり抜くことが大事です。やり終えた後、必ず何がしかの自信が湧いてくることでしょう。



公務のための自然科学 高田晴美	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSP01008	前学期	選 択

### 授業のねらい

公務員試験の「自然科学」の内容は、「物理」「化学」「生物」「地学」「数学」(高校数学)です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。

### 到達目標

公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験(資料持込不可) 70%  
課題 30%  
課題に関しては、講義で解説も行います。

### 事前・事後学習

次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。

- ・講義で扱った問題の解きなおし(90分)
  - ・講義では飛ばした問題を解く(90分)
- 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。

公務のための英文理解 ゴードン・リース	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSP01009	後学期	選 択

### 授業のねらい

現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。そのため、English Boosterというテキストを採用しました。

### 到達目標

1. 英語の読解力を向上させる。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 英文法の基礎を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度 30%  
課題・小テスト 30%  
プレゼンテーション(1) 20%  
定期試験 20%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

1. 講座が始まる前に『資格英語』や『基礎英語 I and II』のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class spend about 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson.

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、物理①
  - 第2講 物理②
  - 第3講 物理③
  - 第4講 物理④
  - 第5講 化学①
  - 第6講 化学②
  - 第7講 化学③
  - 第8講 化学④
  - 第9講 地学①
  - 第10講 地学②
  - 第11講 地学③
  - 第12講 地学④
  - 第13講 生物①
  - 第14講 生物②
  - 第15講 生物③
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第2版』実務教育出版(2018年)1,404円(税込)  
その他、適宜プリントを配布。

### 担当者から一言

この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. Guidance/Course Introduction/On My Way to Silicon Valley
2. Welcome to San Francisco
3. First Day of Internship
4. Fun Times, but...
5. They Look Good on You
6. Tech Talk
7. You're Sitting on it...
8. Going Green  
小テスト
9. Time to Work
10. Know Your Business
11. The Job Interview
12. Is Your Company Right for You?  
Demonstration speech
13. Email Matters
14. On the Move
15. Good News  
定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

English Booster!  
Robert Hickling/ Yasuhiro Ichikawa  
Kinseido- 2,000 yen(税別)  
指定テキストはCheckLinkというオンラインワークブックがついている。指定テキストを買って、CheckLinkに登録しないと授業に参加できない。注意して下さい。

### 担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。  
1. プリントを整理する為のファイルを授業に持参して下さい。  
2. 5回以上欠席すると単位がもらえない。  
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

公務のための論文・面接 小林慶太郎	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	GSP01010	前学期	選 択

**授業のねらい**  
わたしたちが、役所の人(公務員)に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。  
この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。

**到達目標**  
市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
・課題等への取り組み状況:45%  
・講義時に指示する宿題の提出状況:30%  
・受講態度:25%  
提出された論文は、毎回添削して返却します。

**事前・事後学習**  
毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

**事前・事後学習**  
毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください(60分)。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください(毎日20分以上)。

ビジネスマナー 岡 良浩	実務	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
		GSHM1001	後学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。  
ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどのようにつくっていくのかを学びます。  
そのうえで、まずは一般的なマナーを学びます。表現には、言葉(言語)以外に、身ぶり・手ぶりといった非言語コミュニケーションも含まれます。  
この応用としてビジネスマナーがあります。職場内やお客様との間で、さまざまなシーンを想定して、そのマナーの基礎を学びます。

**到達目標**  
本講義の到達目標は以下の3点です。  
1. 人間関係づくりを学ぶこと  
2. 一般的なマナー(言語・非言語)を修得すること  
3. シーンごとのビジネスマナーの基礎を修得すること

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業での参加態度および課題の提出状況50%、定期試験50%  
課題は講義の振り返りとして課します。課題は採点して返却します。

**事前・事後学習**  
予習:テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)  
復習:授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)  
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくことが望まれます。

**事前・事後学習**  
予習:テキストで指定する範囲を読んでおくこと。(90分)  
復習:授業中に配布する理解度テストを行うとともに復習すること。(90分)  
留学生はN1向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくことが望まれます。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス:この授業の進め方  
第2講 文章の書き方(実習)  
第3講 面接の心構え(実習)  
第4講 論文のテーマ(実習)  
第5講 面接の態度(実習)  
第6講 論文の構成(実習)  
第7講 面接での性格PR(実習)  
第8講 論文の文体(実習)  
第9講 面接での志望動機(実習)  
第10講 論文の論旨(実習)  
第11講 面接での経験PR(実習)  
第12講 論文の論拠(実習)  
第13講 集団面接での受け答え(実習)  
第14講 論文のまとめ方(実習)  
第15講 集団討論(実習)  
  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

**担当者から一言**  
この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
1 講 9/27 ガイダンス(岡)  
人間関係づくり①チームワークと価値交流(長野)  
2 講 10/4 同②コミュニケーションとは(石田)  
3 講 10/11 同③パフォーマンス学(石田)  
4 講 10/18 同④-1 話し方・聞き方・考え方(木村)  
5 講 10/25 同④-2 話し方・聞き方・考え方(木村)  
6 講 11/1 一般的なマナー①-1 敬語(木村)  
7 講 11/8 同②-1 敬語(木村)  
8 講 11/15 同②-1 表情・声・身体表現(則武)  
9 講 11/22 同②-2 表情・声・身体表現(則武)  
10 講 11/29 ビジネスマナー①職場のルール(報連相)(則武)  
11 講 12/6 同②受付・案内・席次・訪問時のマナー(則武)  
12 講 12/13 同③一般文書とビジネス文書(田上)  
13 講 12/20 同④プレゼンテーション(田上)  
14 講 1/17 同⑤クレーム応対(川村)  
15 講 1/24 総合まとめ(長野)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストとしては以下を使用するので購入しておくこと。  
有限会社幸プランニング『コミュニケーション&ビジネスマナー』SEP 自己表現能力出版部 1,980円(税込)

**担当者から一言**  
ビジネスマナーは社会で生きていくための必須の資質です。学生時代に、先んじてビジネスマナーを学びたいと思う学生は是非受講して下さい。

サービス経営論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	岡 良浩	GSHM1002	前学期 選 択

**授業のねらい**

この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの3/4を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。

本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また初年次の受講者が多いことから、社会人の考え方の基礎としての「7つの習慣」についても副読します。サービス業に関わらず社会人に求められる資質を理解し習慣づけることを目指します。

**到達目標**

以下の3つを目標とします。

1. サービス業の特徴や経営の特徴を理解すること。
2. サービス業を含めた社会人に求められる資質を理解し、習慣づけることを行うこと。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

授業への参加態度(含む講義中の小レポート)40%  
 期末試験 60%  
 講義中の小レポートは以下のように毎回課します。

1. 講義の回：キーワードとコメントの提出⇒フィードバックはしません。
2. 7つの習慣の回：習慣の意味と自分の振り返り⇒コメントして返却します。

**事前・事後学習**

予習：資料を読んで理解しておくこと(90分)  
 復習：小テストの実施(90分)

**授業の位置づけ**

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

第1回	ガイダンス／7つの習慣(1)インサイド・アウト
第2回	サービス業の産業構造と経営的特徴
第3回	7つの習慣(2)主体的であること
第4回	サービス業の事例(1)リッターカールトン
第5回	7つの習慣(3)主体的であること
第6回	サービスの事例(2)クロネコヤマト
第7回	7つの習慣(4)最優先事項を優先する
第8回	サービスの事例(3)TESSEN(新幹線清掃チーム)
第9回	7つの習慣(5)最優先事項を優先する
第10回	ものづくりの3S、サービスのQSC
第11回	7つの習慣(6)まず理解に徹しそして理解される
第12回	サービス・マーケティング
第13回	7つの習慣(7)シナジーを創り出す
第14回	IT・ロボットとサービス
第15回	まとめ／7つの習慣(8)刃を研ぐ

**テキスト・教材(参考文献含む)**

副読書(7つの習慣)は、冊子としてお渡しします。  
 その他は特にテキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

**担当者から一言**

特にありません。

販売士講座／販売士論 <b>実務</b>	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	山川 和美	GSHM1003	前学期 選 択

**授業のねらい**

消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング(販売士)」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。

私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。

**到達目標**

就職の選択肢の多くを占める流通・小売業界に興味を持っていただくことを考えています。  
 また就職活動を一步リードできるようにスキルを身につけていきましょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

成績は次のような配分により評価します。

- ・平常点(授業態度、簡単な課題の提出状況等)60点
- ・定期試験(レポート)40点

なお、講義時に提出されたレポートは、3段階評価をつけて返却します。

**事前・事後学習**

事前(予習)：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。(90分)  
 事後(復習)：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。(90分)

**授業の位置づけ**

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

第1講	ガイダンス、ストアオペレーションのポイント①
第2講	ストアオペレーションのポイント②
第3講	ストアオペレーションのポイント③
第4講	小売業の種類のポイント①
第5講	小売業の種類のポイント②
第6講	小売業の種類のポイント③
第7講	マーチャングアイジングのポイント①
第8講	マーチャングアイジングのポイント②
第9講	マーチャングアイジングのポイント③
第10講	リテールマーケティングのポイント①
第11講	リテールマーケティングのポイント②
第12講	リテールマーケティングのポイント③
第13講	販売・経営管理のポイント①
第14講	販売・経営管理のポイント②
第15講	販売・経営管理のポイント③

定期試験(レポート提出)

**テキスト・教材(参考文献含む)**

なし。(必要に応じてプリントを配布します)  
**【参考文献】**  
 日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック(2冊セット)」カリアック(2019年)5,400円

**担当者から一言**

店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。

ビジネスコミュニケーション/秘書実務 <b>実務</b>	科目ナンバリング	2 年次	2 単位
<b>岡 良浩</b>	GSHM1004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 本科目では、ビジネスマナーの上級者としてのさまざまな技術を学びます。  
 講義には実務経験者や企業向けに講師をつとめている学外の方から、多彩なお話を聞くことができます。企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきたいと思います。

**到達目標**  
 企業人としてのコミュニケーションを実践的に学ぶこと。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 定期試験50% 参加態度および小テスト 50%  
 小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

**事前・事後学習**  
 予習：毎回のプリントをあらかじめ読んでおくこと。(90分)  
 復習：毎回の授業で学んだ技術を訓練するとともに、ふりかえりの小テストを行うこと。(90分)

グローバルコミュニケーション	科目ナンバリング	2 年次	2 単位
<b>富田 与</b>	GSHM1005	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 この講義では、多文化共存の状況とそこでの関係者の行動を見ながら、文化や行動の多様化と制約、そして、そうしたものに対応するにはどうしたらいいのかについて考えます。おもに、参加者とのディスカッションを中心に、「仕事の文化」という視点から、二つの文化が出会う場面でのホスト＝ゲスト関係を実践的な挑戦としてとらえていくことにしたいと思います。

**到達目標**  
 多文化共存の状況を理解し、日常生活や仕事の中でそれに対応できる能力を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 学期末に、参加度(発言、発表等)40%、レポート60%の割合で総合評価を出します。  
 レポートは希望者に返却します。  
 講義中の課題は、毎時間発表してもらいます。

**事前・事後学習**  
 予習：指示された教材を読み、必要なデータに目を通してください(90分)。  
 毎回、簡単な発表をしてもらいます。  
 復習：教材を読み直し、レポート等の課題を作成してもらいます(90分)。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

1	4/13	ガイダンス(岡)
2	4/20	ワンランク上の接客マナー「おもてなし」(武井)
3	4/27	パフォーマンス・価値交流(長野)
4	5/11	おもてなしの技術①笑顔・会釈・発声(武井)
5	5/18	同②②電話・レター・メール
6	5/25	ES(従業員満足)とCS(顧客満足)／報告・連絡・相談(武井)
7	6/1	色彩①カラーコーディネート・インテリア(林)
8	6/8	色彩②色彩心理・お客様に与える色のイメージ(林)
9	6/15	ビジネススキル①営業力(川村)
10	6/22	同②交渉力(ネゴシエーション)(川村)
11	6/29	自分も相手も大切にしたい話し方(安田)
12	7/6	リスク管理とは①(安田)
13	7/13	リスク管理とは②ウイズコロナ時代の自己管理(安田)
14	7/20	交流分析～人の心と行動を理解する～(石田)
15	7/27	タイムマネジメント&総復習(長野)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 定期試験50% 参加態度および小テスト 50%  
 小テストは、講義のふりかえりとして課します。提出されたものはコメントをつけて返却します。

**担当者から一言**  
 この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生を期待します。  
 1. この授業は「オペレーション演習」を受講する前提となります。  
 2. 希望者が多数の場合は「オペレーション演習」受講者を優先し、40名程度に履修者数を制限します。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

第1講	ガイダンス
第2講	第1章 なぜアジアに移住するのか。その1
第3講	第1章 なぜアジアに移住するのか。その2
第4講	第1章 なぜアジアに移住するのか。その3
第5講	第2章 和食職人の伝統。その1
第6講	第2章 和食職人の伝統。その2
第7講	第3章 「おもてなし」という感情労働。その1
第8講	第3章 「おもてなし」という感情労働。その2
第9講	第4章 日本化したアメリカ文化。その1
第10講	第4章 日本化したアメリカ文化。その2
第11講	第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その1
第12講	第5章 「国語」教育から「日本語」教育へ。その2
第13講	第6章 再発見された仕事の価値。その1
第14講	第6章 再発見された仕事の価値。その2
第15講	まとめ：グローバル化の中での仕事とコミュニケーション

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 『世界に広がる日本の職人』 青山玲次郎著 ちくま新書 820円

**担当者から一言**  
 多文化が共存する社会では、その文化を理解していなくても、異なった文化背景を持つ人々とコミュニケーションを取っていかなくてはなりません。そんな時、どうしたらいいのか。一緒に考えてみましょう。

オペレーション演習	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	永井 博・岡 良浩・杉谷克芳	GSHM1006	前学期 選 択

**授業のねらい**  
サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身に付けることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身に付けることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身に付けてもらう。

**到達目標**  
サービス業の中心である接客技術を身に付けることが目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
研修の態度70%、課題レポート30%

**事前・事後学習**  
2年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。(同時履修は可能)  
予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。(90分相当)  
復習：研修内容を整理すること。(90分相当)

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は、事前説明会に必ず出席すること。受け入れ先企業が決まるまで、夏季休暇中の予定を空けておくこと。参考までに、2019年度の受け入れ先企業とそれぞれの実習期間は以下の通りである。  
志摩スペイン村：9月3日(火)～9月7日(土)  
伊勢かぐらばリゾート千の杜：8月19日(月)～8月23日(金)  
鳥羽シーサイドホテル：8月23日(金)～8月27日(火)  
伊勢安土桃山文化村：8月12日(月)～8月16日(金)  
戸田家：8月12日(月)～8月16日(金)  
ねむりリゾート：8月27日(火)～8月31日(土)  
わんわんパラダイス：9月5日(木)～9月9日(月)

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。

**担当者から一言**  
学生の現地研修と言っても、客から見れば企業の一員である。社会人としての自覚をもって研修に臨むこと。また、事前の説明会に無断欠席、遅刻した場合、頭髪や服装に問題がある場合、あるいは留學生で日本語能力が著しく不足する場合は実習に参加させないことがある。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 グループ分け、グループワークの説明  
第3講 ビジネスマネジメントの実際  
第4講 ビジネスマネジメントの実際  
第5講 ビジネスマネジメントの実際  
第6講 ビジネスマネジメントの実際  
第7講 プレゼンテーション  
第8講 中間試験  
第9講 経営分析の視点と方法  
第10講 収益性の分析  
第11講 収益性の分析  
第12講 安全性の分析  
第13講 安全性の分析  
第14講 生産性の分析  
第15講 不確実性の分析  
定期試験  
第2講～第6講 グループワーク、第7講 プレゼンテーション

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
講義資料は毎回プリントを配布する。  
(参考文献)  
桜井久勝「財務諸表分析」中央経済社。

**担当者から一言**  
本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。

マーケティング演習	実務	科目ナンバリング	3年次	2単位
		GSHM1008	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客にニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っても良いでしょう。  
 ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。  
 この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。

**到達目標**  
 到達目標は以下の3点です。  
 ① 市場調査の一連の技法を身につけること  
 (調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案)  
 ② 市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること  
 ③ 実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50%  
 全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。

**事前・事後学習**  
 予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分)  
 復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

第1回	ガイダンス
第2回	マーケティングと市場調査の基礎理解
第3回	Microsoft Formの使い方
第4回	Microsoft Formによるアンケートの設計と回答
第5回	エクセルを使った単純集計
第6回	エクセルを使ったクロス集計
第7回	報告書の作成
第8回	仮設を設定した市場調査の設計
第9回	市場調査の実施
第10回	市場調査の集計
第11回	報告書の作成
第12回	報告書の確認
第13回	報告書の発表
第14回	市場調査の実際
第15回	まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 定期試験(レポート試験) 50% 参加態度 50%  
 全期間を通じて、その都度、理解度を確認しながらすすめます。

**担当者から一言**  
 Moodleを利用し、原則、コンピュータ室で演習を行います。

おもてなし特別講義 a	実務	科目ナンバリング	2年次	2単位
		GSHM1009	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 本講義は、おもてなしを担う企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。  
 企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。

**到達目標**  
 ・おもてなし経営の成功事例を理解する。  
 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用(普遍化)を考察する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業中に作成するレポート(40%)、グループワーク・発表(30%)、定期試験(30%)により評価します。  
 授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

**事前・事後学習**  
 日頃から、「おもてなし」をキーワードに企業経営、サービス、観光に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください(90分)。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**

第1回	ガイダンス
第2回	外部講師による講義
第3回	授業中レポート
第4回	外部講師による講義
第5回	授業中レポート
第6回	外部講師による講義
第7回	授業中レポート
第8回	外部講師による講義
第9回	授業中レポート
第10回	外部講師による講義
第11回	授業中レポート
第12回	記事担当の学生の振り分け・記事の執筆
第13回	記事の執筆
第14回	記事の仮提出と指導
第15回	記事の発表

定期試験  
 第12回～第14回 グループワーク、第15回 プレゼンテーション  
 ※日程は変更する可能性があります。  
 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。  
 ※履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。  
 参照資料として三重県「三重のおもてなし経営企業選」のホームページを参照してください。

**担当者から一言**  
 第12講以降PC教室を使用するため、履修登録者多数の場合、履修制限をする可能性があります。  
 「外部講師による講義」の際にも積極的に質問してください。多くの企業や経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。

おもてなし特別講義 b	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
池田幹男・岩崎祐子・岡 良浩		GSHM1010		

### 授業のねらい

様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。

### 到達目標

情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業態度30%、教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション30%、最終レポート40%で採点します。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。レポートの採点にはルーブリックを使用します。ルーブリックの基準については、教育支援システムで呈示します。

### 事前・事後学習

観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を定期的に調査してください。(毎日30分)

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 「おもてなし」と情報技術
- 第3講 おもてなしとロボット
- 第4講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として)
- 第5講 観光資源としてのロボット
- 第6講 インターネットとクラウドシステム
- 第7講 キャッシュレス決済
- 第8講 ビッグデータ
- 第9講 AI(音声合成、音声認識)
- 第10講 AI(対話システム、翻訳、ディープラーニング)
- 第11講 デジタルサイネージ
- 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1)
- 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2)
- 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3)
- 第15講 フリーディスカッション

### テキスト・教材 (参考文献含む)

教材は、教育支援システム(Moodle)を通じて呈示します。

### 担当者から一言

この授業は、コンピュータでの入力が必要となるので、人数に制限があります。最初の授業には必ず出席してください。  
この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。

観光英語 I / 英会話 a	和	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
エリック・ブレイ		GSET1001		

### 授業のねらい

In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills.このTravel Englishは1年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者向けです。

### 到達目標

The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus will be on helping students develop the English skills useful in a variety of situations and also help students understand the customs and values of people in English speaking countries.

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (60%). Feedback will be given on a regular basis.

### 事前・事後学習

Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- Week 1 - Introduction/Guidance
  - Week 2 - Talking about likes and dislikes
  - Week 3 - Talking about genre
  - Week 4 - Giving a summary 1
  - Week 5 - Giving a summary 2
  - Week 6 - Giving your reaction 1
  - Week 7 - Giving your reaction 2
  - Week 8 - Making a Prediction 1
  - Week 9 - Making a Prediction 2
  - Week 10 - Talking about culture 1
  - Week 11 - Talking about culture 2
  - Week 12 - Talking about people - Appearance 1
  - Week 13 - Talking about people - Appearance 2
  - Week 14 - Talking about a movie you saw
  - Week 15 - Review and Reflect
- 定期試験

### テキスト・教材 (参考文献含む)

Textbook: Movie Time!  
Publisher: Nan'un-do Publishing

### 担当者から一言

この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

観光英語Ⅱ／英会話b エリック・ブレイ	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
In this class students will do listening activities and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious Intermediate level students who want to improve their English skills.このTravel Englishは1年生から参加できますが、英語のレベルは中～上級者用です。

**到達目標**  
The goal of this class is to help students prepare for experiences as tourists or as workers abroad. As English is a commonly used language in many countries, the focus is on helping students develop the English skills useful in a variety of situations.

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
Students will be evaluated on their participation and effort in this class (40%), as well as the quality of their written work (60%). Feedback will be given on a regular basis.

**事前・事後学習**  
Students are expected to spend time on both written homework (90 minutes) and previewing the next lesson (90 minutes).

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
Week 1 - Introduction/Guidance  
Week 2 - Talking about likes and dislikes 2  
Week 3 - Talking about genre 2  
Week 4 - Giving a summary 3  
Week 5 - Giving your reaction 3  
Week 6 - Making a Prediction 3  
Week 7 - Talking about culture 3  
Week 8 - Talking about people - Character 1  
Week 9 - Talking about people - Character 2  
Week 10 - Talking about Proverbs  
Week 11 - Talking about World Languages  
Week 12 - Talking about Countries  
Week 13 - Talking about Music  
Week 14 - Talking about a movie you saw 2  
Week 15 - Review and Reflect  
定期試験

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
Textbook: Movie Time!  
Publisher: Nan'und-do Publishing

**担当者から一言**  
この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。

コンピュータ英語Ⅰ／英語でメモ・e-mail 柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語の基本を学びます。また、PythonやRのプログラミングも体験します。さらに、Excelの使用法に関わる英語を学び、毎回のノートはExcelで提出します。コンピュータとインターネットと英語を同時に学びたいという学生のみなさんのための授業です。

**到達目標**  
1. コンピュータ、インターネットに関わる基本的な英語を理解できる。  
2. Excelに関わる基本的な英語を理解できる。  
3. プログラムに関わる基本的な英語を理解できる。  
4. インターネットを利用して、基本的な英語情報を収集できる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートの小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

**事前・事後学習**  
英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSをながめてください。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。  
第2回 教育支援システムの利用法。  
第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。  
第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。  
第5回 Excelの英語の基礎2：高齢化グラフの作成。  
第6回 イラスト作成の英語の基礎1：Inkscapeの描画。  
第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeで名刺作成。  
第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpでクリーニング。  
第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。  
第10回 PythonとRの英語の基礎2：モンティホール問題。  
第11回 PythonとRの英語の基礎3：サイコロの同じ目がでる確率。  
第12回 会話ロボットのプログラムの基礎。  
第13回 株や仮想通貨の英語の基礎。  
第14回 経済の英語の基礎：自然エネルギーによるパワー・シフト。  
第15回 まとめ。  
定期試験

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
使用しません。

**担当者から一言**  
学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語の基礎を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。



コンピュータ英語Ⅱ／英語でコンピュータ 柴田啓文	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSET1004	後学期	選 択

### 授業のねらい

インターネットを利用して、コンピュータやアプリケーション、ニュース・サイトやクラウドに関わる英語を学びます。また、PythonやRのプログラムも作成します。さらに、Excelの使用方法に関わる英語を学び、毎回のノートとExcelを提出します。

### 到達目標

1. コンピュータ、インターネットに関わる英語を理解できる。
2. Excelに関わる英語を理解できる。
3. プログラムに関わる英語を理解できる。
4. インターネットを利用して、英語情報を収集できる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点50％と学期末試験50％により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcelを利用）の提出や小テストなどによります。提出ノートの小テストおよび学期末試験の得点は教育システムのコース上の「評定」に表示します。

### 事前・事後学習

英語に親しむことが英語学習のポイントです。タイトルや写真だけでもよいので、毎日30分はBBC NEWSを眺めてください。

英語表現Ⅰ／英語で映画 ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1005	前学期	選 択

### 授業のねらい

Presentation Skills and Performance  
In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. However, students will be expected to make short presentations and group performances based on the text.

### 到達目標

1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 英語の語彙を増やす。
3. 観光英語の知識を身に付けるとともに、日本文化をより深く理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	20%
Presentations and performances	30%
課題・小テスト	30%
定期試験	20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

1. 講座が始まる前に基礎英語のテキストを復習する。
2. In addition to any homework assignments, after each class try to spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the lesson. In addition, try and spend about 30 minutes preparing for the class.

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- 第1回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの登録。
- 第2回 教育支援システムの利用法。
- 第3回 ニュースの英語(毎回)、英語辞書と翻訳サイトの使用法。
- 第4回 Excelの英語の基礎1：基本的な使用法。
- 第5回 Excelの英語の基礎2：グラフの作成。
- 第6回 イラスト作成の英語の基礎1：InkscapeのText。
- 第7回 イラスト作成の英語の基礎2：Inkscapeでアニメーション。
- 第8回 写真編集の英語の基礎：Gimpのフィルター。
- 第9回 PythonとRの英語の基礎1：基本的な集計。
- 第10回 PythonとRの英語の基礎2：日本の高齢化。
- 第11回 PythonとRの英語の基礎3：世界の高齢化。
- 第12回 会話ロボットのプログラムの英語の基礎。
- 第13回 株や仮想通貨の英語。
- 第14回 経済の英語：自然エネルギーによる「パワー・シフト」。
- 第15回 まとめ。

### テキスト・教材（参考文献含む）

使用しません。

### 担当者から一言

学習支援システム(Moodle)を利用。コンピュータやスマートフォン、AIやプログラミング、およびインターネットに興味があり、これらを利用するための英語を身に付けたいと考える学生の受講を期待します。事前にExcelやプログラミングの知識は必要ありません。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. Guidance/ Radio Thriller
  2. Radio Thriller- Group performance
  3. Unit 1- People- Lesson A- Getting to know you
  4. Unit 1- People- Lesson B- Appearance
  5. Unit 2- Behavior- Lesson B- Actions
  6. Unit 2- Behavior- Lesson B- Feelings and Gestures
  7. Unit 3- Shopping- Lesson A- At the Market  
"Slow Food"- Group performance
  8. Unit 3- Shopping- Lesson B- Let's go shopping
  9. 小テスト
  10. Unit 4- Vacation- Lesson A- Weather
  11. Unit 4- Vacation- Lesson B- Travelers
  12. Unit 5 -Heroes Lesson A- Pioneers
  13. Unit 5- Heroes- Lesson B- Personal Heroes
  14. Unit 6- The Mind- Lesson A- Memory  
"The person I admire most"- Speech
  15. Unit 6- The Mind- Lesson B- Sleep
- 定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

World Link 1 - Stu. Book w/Online Workbook- 3rd Ed  
James R. Morgan- Cengage -¥3,290  
テキストはオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加ができない。英語表現ⅠとⅡのテキストは同じ。

### 担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。  
1. 英和辞典とプリントを整理するためのファイルが必要。  
2. 5回以上欠席すると単位がもらえない。  
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

英語表現Ⅱ／英語でドラマ ゴードン・リース	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1006	後学期	選 択

### 授業のねらい

Presentation Skills and Performance II  
This course is a continuation of 英語表現 I. In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. However, students will also be expected to make short presentations and group performances based on the reading in class.

### 到達目標

1. 英語の聴解力と話す力を高める。
2. 人の前で英語で話す自信を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

学習態度	20%
Speeches, performances and presentations	30%
課題・小テスト	30%
定期試験	20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

1. 英和辞典は必携。
2. In addition to any homework assignments, spend 60 minutes reviewing the class handouts, textbook exercises and videos covered in the previous class. Also try and spend about 30 minutes reading ahead in the text book and preparing for the class.

ビジネス英語Ⅰ デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1007	前学期	選 択

### 授業のねらい

ホテルや旅行代理店など、様々な観光業界に就職したプロの意見を交ぜながら、「おもてなし」の現場ならではの英語を身に付けるための授業です。The aim is to master the kind of English used in the "hospitality scene" of the tourism and travel-related working world.

### 到達目標

訪日観光客を相手に、交通、宿泊施設、観光地などについての案内や、日本食、伝統文化体験、お土産などの説明に必要なスキルをみがくことが大きな目標です。

The main target in this course is to polish up skills needed to offer guidance in areas like transportation, accommodation and sightseeing, as well as information about Japanese culture.

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

50% for Short Tests or class assignments  
50% for End-of-term exam  
Feedback: I'm happy to respond to questions or comments  
For online feedback, I will provide an email address in class

### 事前・事後学習

- BEFORE (90 min.)  
[1] Fill in "Vocabulary Check" & "Pre-Activity" (30)  
[2] Pre-read "Reading for Information" (30)  
[3] Follow travel-related media topics (30)  
AFTER (90 minutes)  
[1] Check you understood  
[2] Memorize dialogue scene.

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. Guidance/Course Introduction/ Ice Breaker
  2. Unit 7- City Life- Lesson A- My Neighborhood
  3. Unit 7- City Life- Lesson B- Big Cities
  4. Unit 8- All About You- Lesson A- Sports  
"My hometown"- Speech
  5. Unit 8- All About You- Lesson B- Personality
  6. Unit 9- Change- Lesson A- Habits
  7. Unit 9- Change- Lesson B- Goals
  8. 小テスト
  9. Unit 10- Health- Lesson A- The Body
  10. Unit 10- Health- Lesson B- Stress
  11. Unit 11- Achievement- Lesson A- Talented People
  12. Unit 11 -Achievement Lesson B- Risk  
Demonstration speech
  13. Unit 12- At the Movies- Lesson A- Types of Movies
  14. Unit 12- At the Movies- Lesson B- Movie Review
  15. Movie Review-presentation
- 定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

World Link 1 - Stu. Book w/Online Workbook- 3rd E  
James R. Morgan- Cengage -¥3,290  
テキストはオンラインワークブックがついている。オンラインワークブックがないテキストを買うと授業に参加ができない。英語表現ⅠとⅡのテキストは同じ。

### 担当者から一言

対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。  
1. 英和辞典とプリントを整理するためのファイルが必要。  
2. 5回以上欠席すると単位がもらえない。  
履修者が20名を超えた場合は抽選となります。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. Guidance. Example topic: "Transportation"
  2. "At a hotel check-in counter"
  3. "Hotel facilities and services"
  4. "Giving directions"
  5. "Recommending a trip"
  6. "Dining in Japan" (1)
  7. "Dining in Japan" (2)
  8. "Arranging a tour"
  9. "Staying at a ryokan inn"
  10. "Cultural experience in Japan" (1)
  11. "Cultural experience in Japan" (2)
  12. "Japanese souvenirs"
  13. "Health problems and emergencies"
  14. "Complaints and accidents"
  15. "Departure" and Final review
- Week 16: End-of-term exam

### テキスト・教材（参考文献含む）

上杉恵美、阿部佳、涓東史江、松島康彦、神末武彦、Jacob Schere 著、  
"Hospitality on the Scene"  
金星堂、2018年、定価:2,200円(税別)

### 担当者から一言

- [1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと
- [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること
- [3] ふつうは、欠席・遅刻しない
- [4] 有意義な授業になるように、おたがいに真面目に、活発な参加を目指す

ビジネス英語Ⅱ／ビジネス英語 デイビッド・ダイクス	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSET1008	後学期	選 択

### 授業のねらい

In this class, we will practice the English used in office work, at meetings, on business trips, for presentation talks, etc. Most lessons will feature workplace problems and ways of dealing with them, for example, how to keep a plan on schedule, or prepare for a presentation.

### 到達目標

The main target is to polish up skills needed for cooperating in office duties, discussing projects, making plans, and sharing information. Language for teamwork, goal sharing, and positive human relations will be stressed throughout.

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

50% for Short Tests and class Assignments  
50% for End-of-term exam

### 事前・事後学習

BEFORE (90 min.)  
[1] Check "Vocabulary Preview" & "Grammar Point" (30)  
[2] Fill in "Grammar" page (30)  
[3] Follow business English media topics (30)  
AFTER (90 min.)  
[1] Check you understood  
[2] Complete filling in  
[3] Memorize dialog scene.

検定英語Ⅰ 武藤和成	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSET1009	前学期	選 択

### 授業のねらい

- ねらいは下記の5点です。
- 1 英文法の重要事項に関しては、例文を活用し理解できるようにします。
  - 2 問題を解きながら文法事項を確認していきます。
  - 3 英文を読む上で必要な語彙の理解力を高めていきます。
  - 4 語彙力を活用できるように、文章を読みながら空所補充で活用力を鍛えていきます。
  - 5 可能な範囲で英語脳・耳を作れるように配慮します。

### 到達目標

- 次の5点を目標とします。
- 1 総合的な英語力を高める（最初の段階としては英検準2級に準ずる水準をめざす）
  - 2 英語に慣れる（英語脳を鍛える予備段階）
  - 3 TOEICに慣れ、大枠で理解できる部分を増やしていく（英語脳を鍛える）
  - 4 TOEICやその他の資格試験を意識して、自立した学修スタイルを確立する
  - 5 英語脳を自立した学修スタイルによってより鍛え、英検準2級、2級の水準にまず到達する

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点 30点(授業に出席し、授業に集中し、ノート作成に努めている姿勢であること)  
テスト 70点(40点は前期試験 30点はその他のテスト)

### 事前・事後学習

- 事前事後学習について 毎日1時間ほど学修しましょう。
- 1 テキストを音読し、英文を専用のノートに書写し、正しく日本語に翻訳し意味を理解すること。
  - 2 英文中の単語、熟語をまとめ、意味を調べ、単語熟語帳を作成すること。
  - 3 その他 英文ノート、単語帳とともに毎講座持参し、指示通りに提出できるようにしておくこと。(単位認定・成績評価の点となる) 英文ノートと単語熟語帳が1冊になっていてもよい。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

1. Guidance. Then small talk. Example topic: "This is my first visit."
  2. Questions: "How do you like Bangkok?"
  3. Scheduling: "It's going well so far."
  4. Reporting: "Have they decided on the design yet?"
  5. Help: "Could you take a look at them?"
  6. A problem: "My flight was canceled."
  7. Explaining a task: "What do you want me to do?"
  8. Poor human relations: "She knows marketing very well, but ..."
  9. Recruiting: "Thank you for coming to our interview."
  10. Marketing meeting: "The competition will be very strong."
  11. Before a presentation: "This is where we hold meetings."
  12. Presentation: "I'd like to talk about our latest model."
  13. Good human relations: "You are much better than me."
  14. Aiming for promotion: "If I were you, I wouldn't miss it."
  15. Announcing: "I'd like to propose a toast." Then review.
- Week 16: End-of-term exam

### テキスト・教材（参考文献含む）

角山照彦、Simon Capper 著:"Let's Read Aloud More"  
成美堂、2016年、定価:2200円(税別)

### 担当者から一言

- [1] 科目の履修を決めしだい、テキストを早めに買うこと
- [2] この科目用のホルダー(また、ノート)を用意すること
- [3] ふつうは、欠席・遅刻しない
- [4] 有意義な授業になるように、おたがいに真面目に、活発な参加を目指す

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

- TOEIC専用のテキストを用い英語力を高めます
- 第1講 ガイダンス その後、語彙力養成  
第2講 語彙力育成と文法・読解力育成  
第3講 同上  
第4講 同上  
第5講 テキスト(Building TOEIC L & R Test Skills) Unit 1 2  
第6講 同上 Unit 3 4  
第7講 同上 Unit 5 6  
第8講 同上 Unit 7 8  
第9講 これまでの振り返りまとめ  
第10講 同上  
第11講 Unit 9 10  
第12講 Unit 11 12  
第13講 Unit 13 14  
第14講 Unit 13 14  
第15講 Unit 15  
定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

Building TOEIC L & R Test Skills(南雲堂 2,200円)  
その他 英和辞書・和英辞書(電子辞書 可)  
英文法に関する各社の参考書は自分で用意すること。

### 担当者から一言

ベストの姿勢で受講しましょう。ベストの姿勢とは、どのような姿勢であるのかを毎回、自問し、出席しましょう。

検定英語Ⅱ／資格のための英語 武藤和成	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	GSET1010	後学期	選 択

**授業のねらい**  
国際コミュニケーションにおけるツールとして、大きな位置を占める英語。その英語において、英語力を表す指標の1つとして評価されているTOEICに対するの対策講座です。

**到達目標**  
1 TOEICのテスト形式に慣れ、対応力を身に付けます。  
2 語彙力を飛躍的に高めることができるように努めます。  
3 英語での表現方法に慣れ、読解のスピードを効率化します。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価  
平常点：30点(授業に出席し、授業に集中し、ノート作成に努めている) ノートは事前事後の学習をフィードバックさせたまとめとして活用してください。不定期に回収し、得点化します。  
テスト：70点(50点は後期試験 20点はその他のテスト)

**事前・事後学習**  
検定英語Ⅰと同じ以下に追記します。  
事前学習  
各UnitのSound Check及びGrammar Checkを辞書、文法書などを活用しながら熟読し、基本文Key Wordsなどをノートにまとめてマスターしましょう。(1時間程度)  
事後学習  
授業で扱ったリスニングのスキriptも参考にし、リスニング、(頭の中で日本語に翻訳しながらの)音読を重ね、英語力を身に付け、リスニング、リーディング力を高めましょう。  
事後学習として、既学習のノートづくりを徹底しましょう。(1時間程度)

メディアツール a 池田幹男	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	GSMD1001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
ラスタ画像とベクトル画像の違いについて知り、Web用のベクトル画像として標準化されたSVG (Scalable Vector Graphie) について学びます。SVGファイルを編集するソフトウェアであるInkscapeを使用してベクトル画像編集の基礎を学びます。

**到達目標**  
Inkscapeを使用してロゴやアイコンのデザインができるようになることを目標にします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業への参加態度 30%、提出課題 70%で評価し、定期試験は実施しません。  
フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

**事前・事後学習**  
授業のみでは操作に習熟することは不可能です。授業時間以外にもInkscapeを使用して操作に慣れるようにしてください。(週180分)

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス(授業の進め方)と語彙力育成  
第2講 Traffic  
第3講 Weather & Events  
第4講 Lunchtime  
第5講 Hotels  
第6講 Health  
第7講 A New Life  
第8講 これまでの振り返り確認テスト  
第9講 Job Hunting  
第10講 Workplaces & Products  
第11講 Customer Service & Office Crime  
第12講 Office Messages  
第13講 Ordering & Shipping  
第14講 Business Trips  
第15講 Success in Business  
定期試験

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
Terry O'brien 三原 京 他「TOEICテスト チャレンジ400」南雲堂 定価2,090円(税込)  
辞書(電子辞書)や参考書(文法書)は各自で準備すること。

**担当者から一言**  
ベストの姿勢で受講しましょう。事前のベストの準備、事後のベストの振り返り・復習が基本です。  
毎日の積み重ねで、英語力は必ず身に付きます。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
Windows PCを用いた演習を行います。  
第1講 ガイダンス ラスタ画像とベクトル画像  
第2講 SVG (Scalable Vector Graphic) について  
第3講 ベジェ曲線を描く  
第4講 ベジェ曲線の操作に慣れる  
第5講 パスツールを使用して曲線を変更する  
第6講 その他のInkscape組み込みの図形  
第7講 文字の入力と配置  
第8講 グループ化  
第9講 図形の切り取りと併合  
第10講 レイヤー  
第11講 その他のInkscapeの機能  
第12講 最終課題の制作(1)  
第13講 最終課題の制作(2)  
第14講 最終課題の制作(3)  
第15講 最終課題の提出と参加者による講評  
授業はいずれもPCを用いた実習です。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
全ての教材は四日市大学教育支援システム(Moodle)に提示します。  
参考図書「できるクリエイター Inkscape 独習ナビ」インプレスジャパン発行

**担当者から一言**  
InkscapeはGPLで配布されているソフトウェアで自由に使用することができます。可能ならば自分のPCにインストールしてInkscapeの様々な可能性に挑戦してください。

メディアツール a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
池上 貴文		GSMD1001		

**授業のねらい**  
DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるドロー系ソフトの定番、Adobe社の「イラストレーター」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。  
授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

**到達目標**  
ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業内の課題(100%)。  
課題の講評によってフィードバックします。

**事前・事後学習**  
世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。  
必要に応じて資料の準備などを指示します。

メディアツール a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
都 映里		GSMD1001		

**授業のねらい**  
Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社IllustratorとPhotoshopを使用。メディアツール a では主にIllustratorの実習を通して、色や文字、レイアウト、デザインの基本を習得し、視覚効果を学びます。  
・メディアツール a で得た知識と技術がメディアツール b で生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくことを強く薦めます。

**到達目標**  
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。  
どの分野の職業に進んでも、メディアツールで修得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。  
提出課題と取組み姿勢が成績評価の対象となります。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取組み姿勢すべての総合点。  
課題提出がすべてであっても取組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。  
制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

**事前・事後学習**  
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。  
Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
Macを用いた演習を行います。  
1. ガイダンス  
2. 基本操作  
3. 描画の基本  
4. 自由曲線による描画  
5. 色の指定、配色  
6. 文字の入力、変形  
7. イラストレーション  
8. その他のツール  
9. 写真の操作  
10. 文章の編集  
11. データの編集  
12. デザインの実践 1  
13. デザインの実践 2  
14. オリジナル作品制作  
15. 合評会

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

**担当者から一言**  
コンピュータやデザインに苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です！

メディアツール a	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
都 映里		GSMD1001		

**授業のねらい**  
Apple社Macintosh (Mac) でAdobe社IllustratorとPhotoshopを使用。メディアツール a では主にIllustratorの実習を通して、色や文字、レイアウト、デザインの基本を習得し、視覚効果を学びます。  
・メディアツール a で得た知識と技術がメディアツール b で生きてきますので、b を受ける前に a を受けておくことを強く薦めます。

**到達目標**  
インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。  
どの分野の職業に進んでも、メディアツールで修得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。  
提出課題と取組み姿勢が成績評価の対象となります。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取組み姿勢すべての総合点。  
課題提出がすべてであっても取組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。  
制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

**事前・事後学習**  
宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。  
Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

**授業の位置づけ**  
「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
Macを用いた演習を行います。  
第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac・Illustratorの基本操作  
第2講 色について・書体について  
第3講 トレーニング(回転・整列・パスファインダー・ペン・上下関係)  
第4講 四コマまんが(複製・移動・レイヤー)  
第5講 ロゴタイプ・ロゴマーク  
第6講 グッズデザイン  
第7講 名刺・封筒(レイヤー・文字組み)  
第8講 ポストカード(画像補正・変換・配置・マスク)  
DM  
第9講 本の表紙デザイン  
第10講 GIFアニメーション  
第11講 WEBバナー  
第12講 小テスト(筆記・実技)  
第13講 チラシ①  
第14講 チラシ②  
第15講

・欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。  
・欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。  
配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

**担当者から一言**  
技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力を身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

メディアツールb	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	池田 幹男 GSMD1002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 コンピュータにおける色表現と、さまざまなカラーのラスター画像ファイルフォーマットについて理解し、ラスター画像編集ソフトウェアGIMPの使用方法について学び、色の変更、画像の変形、合成、フィルターなどの様々な画像処理について学びます。

**到達目標**  
 GIMPを使用してラスター画像の色補正、画像の変形、合成など処理ができ、複数レイヤーを活用した画像が作れるようになることを目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業の演習課題(50%)と最終課題(30%)、授業への参加態度(20%)で評価します。定期テストは実施しません。フィードバックは教育支援システム(Moodle)を通じて実施します。

**事前・事後学習**  
 GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)GIMPは自由にインストールできるので、可能ならば自分自身のコンピュータで動かして操作してください。

メディアツールb	実務	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	池上 貴文	GSMD1002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
 DTPやWEBなど様々なメディアで、ビジュアル作成に利用されるペイント系ソフトの定番、Adobe社の「フォトショップ」を使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。  
 授業はApple社のマッキントッシュを使い、毎回の課題をひとつひとつこなしながら、自分の思考をビジュアル表現する楽しさを体感し、基礎技術を身につけます。

**到達目標**  
 ビジュアルコミュニケーション能力のスキルアップ。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業内の課題(100%)。課題の講評によってフィードバックします。

**事前・事後学習**  
 世の中の全てのメディアが教材となります。常に意識を持って接してください。必要に応じて資料の準備などを指示します。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
 Windows PCを用いた演習を行います。  
 第1講 ガイダンスとコンピュータでのラスター画像表現  
 第2講 レイヤー  
 第3講 フィルター  
 第4講 色の補正  
 第5講 パス  
 第6講 パスの編集  
 第7講 文字の入力と変形  
 第8講 レイヤーマスクとアルファチャンネル  
 第9講 スタンプを使用した画像の修正  
 第10講 画像ファイルへのエクスポートと注意点  
 第11講 GIMPのその他の機能  
 第12講 最終課題の制作(1)  
 第13講 最終課題の制作(2)  
 第14講 最終課題の制作(3)  
 第15講 最終課題の提出と講評  
 授業はいずれもPCを用いた実習です

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 GIMPの操作は簡単には身につけません。授業以外の時間にも操作して慣れるようにしてください。(週180分)

**担当者から一言**  
 GIMPはGPLで配布されているソフトウェアで無料で使用することができます。可能ならば自分自身のPCにインストールしてGIMPの様々な可能性に挑戦してください。描きたい絵を描くことが、上達することです。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
 Macを用いた演習を行います。  
 1. ガイダンス  
 2. 基本操作  
 3. 画像処理の基本  
 4. 選択範囲作成  
 5. 写真修正、画像合成コラージュ  
 6. 変形、拡大縮小と解像度  
 7. ペイント、色変換  
 8. 文字入力、加工  
 9. イラストレーション  
 10. フィルター、その他のツール  
 11. GIFアニメーション  
 12. デザインの実践1  
 13. デザインの実践2  
 14. オリジナル作品制作  
 15. 合評会

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 実習内容に応じて教員から参考資料、データなどを配布します。

**担当者から一言**  
 コンピュータやデザインに苦手意識がある方でも、好奇心があれば大丈夫です!

メディアツールb	実務	科目	1年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選択
都 映里		GSMD1002		

**授業のねらい**  
 Apple社Macintosh (Mac)でAdobe社PhotoshopとIllustratorを使用。メディアツールbでは主にPhotoshopの実習を通して、画像補正・加工・編集の基本を習得し、視覚効果の表現を広げ、DTP、WEB、映像などのメディアに展開できる知識と技術を身につけます。  
 \*メディアツールbではaで得た知識と技術が生きてきますので、bを受ける前にaを受けておくようになさってください。

**到達目標**  
 インプットした情報を整理し、目的を持って視覚的にアウトプットできる技術を身につけます。  
 どの分野の職業に進んでも、メディアツールで習得した知識や技能がいかせるような課題制作をします。  
 提出課題と取り組み姿勢が成績評価の対象となります。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 出席状況・課題の提出率・理解度と出来栄え・小テスト・取り組み姿勢すべての総合点。  
 課題提出がすべてあっても取り組み姿勢に問題があると判断した場合は単位は与えません。  
 制作物について各人にフィードバックし、その都度改善、向上してもらいます。

**事前・事後学習**  
 宿題を前の週の講義で指示します。忘れてくると実習が遅れるため必須。  
 Macを持っていなくても、インターネットを活用し、予習復習を行ってください。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
 Macを用いた演習を行います。  
 第1講 ガイダンス・ファイル管理から課題提出までの流れ・Mac、Photoshopの基本操作、色補正  
 第2講 移動・選択・テキスト・レイヤー・レイヤー効果  
 第3講 画像データの修正  
 第4講 切り抜きと合成(トレーニング)  
 第5講 デザインカード  
 第6講 ロゴデザイン  
 第7講 グッズデザイン  
 第8講 映画広告①  
 第9講 映画広告②  
 第10講 WEBサイトデザイン①(素材・部品作り)  
 第11講 WEBサイトデザイン②(レイアウト)  
 第12講 小テスト(筆記・実技)  
 第13講 スライドショー①(素材作り)  
 第14講 スライドショー②(素材作り)  
 第15講 スライドショー③(編集)

\*欠席すると理解不十分となっていくので、やむを得ない場合以外は必ず出席すること。  
 \*欠席した場合は、翌週までに欠席した分の講義内容を把握しておくこと。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 教員が用意するもの、及び、目に映るすべてのもの。  
 配布されたものは必ずファイリングして講義時に持参。

**担当者から一言**  
 技術的なことだけでなく、楽しみながら表現に対しての考える力身につけ、想像力を創造力にしていきたいと思います。

メディアツールc	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	選択
田中麻衣		GSMD1003		

**授業のねらい**  
 この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。  
 専門教育科目でメディアを学びたい学生に基礎を勉強し、スキルを積み上げていただきます。

**到達目標**  
 Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が「映像作品の完成」が目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 最終的に一人1作品を制作していただきます。  
 その作品の出来栄えと授業に対する意欲、授業での態度などを総合評価し成績を出します。

**事前・事後学習**  
 たくさんの映像作品にふれてもらいたいので、Youtubeにアップロードされているもの、TVドラマ、CM、ドキュメンタリー、映画など、最低でも1日に1本程度みることを準備学習とします。

**授業の位置づけ**  
 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

**授業計画**  
 Macを用いた演習を行います。  
 第1回:ガイダンス  
 第2回:色んな種類の映像を楽しむ  
 第3回:Premiere Pro「初期設定」  
 第4回:Premiere Pro「基本操作1」  
 第5回:Premiere Pro「基本操作2」  
 第6回:Premiere Pro「基本操作3」  
 第7回:Premiere Pro「応用編1」  
 第8回:Premiere Pro「応用編2」  
 第9回:実習1(企画&撮影)  
 第10回:実習1(編集)  
 第11回:実習2(企画&撮影)  
 第12回:実習2(編集)  
 第13回:最終課題制作(企画&撮影)  
 第14回:最終課題制作(編集)  
 第15回:最終課題制作(編集)

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 必要に応じてプリントを配布します。

**担当者から一言**  
 大学卒業後映像業界へ進む方、編集に興味がある人に、少しでもこの授業で学んだ事をいかしてもらえそうな授業をしたいと思っています。  
 楽しみながら、一緒に学びましょう。

メディアツール d	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
関根辰夫		GSMD1004		

### 授業のねらい

Apple社の音楽制作ソフトであるGarageBandをツールとして使い、楽器を演奏できない人でも自己表現の一つとしての音楽を作り出すことができるようにする。また映像に合わせて音楽やSE(効果音)などを編集する基礎を学ぶ。

### 到達目標

音源制作の基礎を学びオリジナルの音源を作り上げる力を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の実習態度及び課題や作品づくりを通して評価します。  
定期試験は行いません。  
作品づくり 1 (15%)、作品づくり 2 (30%)  
毎回の課題(55%)  
その場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日フィードバックします。

### 事前・事後学習

毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にし、不明な点は参考文献などで調べておくこと - 60分)  
またiPhoneやiPad版のGarageBandもあるので、持っている人はMacintosh版との共通点や異なる点を意識しつつ復習や予習のツールにする。(毎日30分程度)  
メディアツールの a、b を先行して履修し、Macintoshの操作には慣れていることが望ましい。

Webデザイン a	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
堀内敬弘		GSMD1005		

### 授業のねらい

この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Photoshop」、  
「Adobe Illustrator」を用いたデザインワークの学習を行います。そして、Webプログラミングで学習したHTML・CSSを応用して自らデザインしたコンテンツをどのようにWEB上で表現していくのか、その一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。

### 到達目標

この授業では、学生諸君がWebサイト製作、デザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトの制作ができるようになる事を到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・授業時に指示する簡単な課題の提出状況及び受講態度：20%  
・授業ごとに行う簡易的なプレゼンテーションへの積極的な参加態度：20%  
・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：60%  
・定期試験：定期試験はありません

### 事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)  
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

Macを用いた演習を行います。  
第1講 ガイダンス(履修者選抜のくじ引き)/音楽の基礎  
第2講 GarageBand体験  
第3講 Apple Loops の検索、配置  
第4講 Apple Loops 編集、オーディオ化など  
第5講 作品づくり 構想、企画  
第6講 作品づくり 打ち込み  
第7講 作品づくり ミキシング～作品提出～発表  
第8講 既成の曲の取り込み/編集  
第9講 生音の録音/編集  
第10講 エフェクトについて  
第11講 ミキシングについて  
第12講 作品づくり 2 構想、企画  
第13講 作品づくり 2 打ち込み等  
第14講 作品づくり 2 ミキシング～作品提出  
第15講 発表～まとめ  
授業はいずれもMacを用いた実習です。  
履修希望者が20名を超えていた場合、第1講においてクジ引きで受講者を選びます。  
第1講を欠席・遅刻した学生は、自動的に受講できなくなると考えてください。

### テキスト・教材 (参考文献含む)

配布するプリント。

### 担当者から一言

音楽を作るには楽器ができないと無理だと考えるかもしれませんが、今ではコンピューターを使い楽器の演奏ができなくても、音楽作品を作ることが可能です。この講義では音楽の理論の基礎も少しずつ学びながら、簡単な楽曲を仕上げる力を養います。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

Macを用いた演習を行います。  
第1講 <ガイダンス> 先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう  
第2講 Web デザインとは/ Web サイトの構造  
第3講 お気に入りのWEBサイトを探そう/実践の準備をしよう  
第4講 Adobe Photoshop 基本演習(1)  
第5講 Adobe Photoshop 基本演習(2)  
第6講 Adobe Illustrator 基本演習(1)  
第7講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(1)  
第8講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(2)  
第9講 Adobe Photoshop 応用演習-課題制作(3)/コーディング環境準備  
第10講 HTMLコーディング-課題制作(1)  
第11講 HTMLコーディング-課題制作(2)  
第12講 HTMLコーディング-課題制作(3)  
第13講 CSSコーディング-課題制作(1)  
第14講 CSSコーディング-課題制作(2)  
第15講 CSSコーディング-課題制作(3)

### テキスト・教材 (参考文献含む)

「Webプログラミング a」受講時に使用したノート、資料など持ち込み可。

### 担当者から一言

本講義はWebプログラミング a の事前受講が前提となっております。  
Webプログラミング a を受講し、よりWebデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみてください。  
先生と一緒にモノづくりの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。



Webデザインb	実務	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	堀内敬弘	GSMD1006	前学期	選 択

### 授業のねらい

この授業ではWebデザインaで学習したデザイン・コーディングのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザイン・構築・納品までのプロセスをチーム(※1)で学びます。  
※1 コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。

### 到達目標

チームで一丸となり一つのものを作り上げることでそのプロセスの楽しさ、大変さ、協調性、達成感などWebデザインにおける真の醍醐味を体験して頂くことを到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・チームとのコミュニケーション能力や協調性及び、受講態度:30%  
・第15講にプレゼンを行う課題の提出状況および制作のクオリティとプレゼン力:70%

### 事前・事後学習

日頃からスマートフォンやパソコンなどでいろんなWebサイトを閲覧し、気に入ったものはブックマークしておくこと。(毎日10分程度)  
上記でブックマークしたものは毎授業開始時に数名ずつ皆へサイトの紹介(プレゼンテーション)をしていただき、人前に立って発言する、説明する訓練を行います。

Webプログラミングa	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	片山清和・池田幹男・前川督雄	GSMD1007	後学期 選 択

### 授業のねらい

ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。

### 到達目標

HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「提出物」(55%)、「作品」(45%)  
提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。

### 事前・事後学習

講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること(60分)  
講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと(120分)。  
本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミングb」で学習します。

<h3>授業の位置づけ</h3> <p>「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。</p>
---

### 授業計画

Macを用いた演習を行います。  
第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド/お気に入りのWEBサイト集め  
第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とヒヤリング  
第3講 ワイヤフレーム制作(Adobe Illustrator)①  
第4講 ワイヤフレーム制作(Adobe Illustrator)②  
第5講 デザイン制作(Adobe Photoshop)①  
第6講 デザイン制作(Adobe Photoshop)②  
第7講 デザイン制作(Adobe Photoshop)③  
第8講 HTMLコーディング①  
第9講 HTMLコーディング②  
第10講 HTMLコーディング③  
第11講 CSSコーディング①  
第12講 CSSコーディング②  
第13講 CSSコーディング/CSS最終調整  
第14講 プレゼンテーション準備  
第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ  
授業はいずれもPCを用いた実習です。

### テキスト・教材(参考文献含む)

「Webプログラミングa」受講時に使用したノートや資料の持ち込み可。

### 担当者から一言

Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。  
Webデザインの授業の集大成でもあります。Webプログラミング、Webデザインaで学習したデザインスキル、HTML・CSSスキルを活かしてチームで1つのWebページを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。

<h3>授業の位置づけ</h3> <p>「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。</p>
---

### 授業計画

第1講 ガイダンス、WWWとWeb  
第2講 HTML概要  
第3講 画像とリンク  
第4講 箇条書き  
第5講 表組み  
第6講 入力フォーム  
第7講 CSS概要  
第8講 見出しと段落  
第9講 boxモデル  
第10講 ヘッダー  
第11講 表のスタイリング  
第12講 問合せフォーム  
第13講 Webサイト制作(1)  
第14講 Webサイト制作(2)  
第15講 Webサイト制作(3)

### テキスト・教材(参考文献含む)

赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書」 技術評論社 ¥2,600+税

### 担当者から一言

プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。

Webプログラミング b 池田 幹男	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1008	前学期	選 択

### 授業のねらい

この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれら进行操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。

### 到達目標

JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の授業の演習課題(70%)と、授業への参加態度(30%)で評価します。定期テストは実施しません。教育支援システム(Moodle)を通じてフィードバックします。

### 事前・事後学習

教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developerでの解説や例を予習(毎週90分)復習(毎週90分)することを推奨します。また、例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作るとより理解が深まります。

インターネット論 片山 清和	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	GSMD1009	前学期	選 択

### 授業のねらい

現在、スマホからパソコンに至るまでほとんど全てのコンピュータがインターネットでつながっている。そのインターネットを使って、電子メールを送受信したり、LINEなどのSNSを利用したりしています。この講義では、コンピュータネットワークの基礎知識と動作原理を最新の動向も含めて講義します。

### 到達目標

- ①インターネットの仕組みを説明できる。
- ②TCP/IPモデルを説明できる。
- ③ネットワーク機器の動作を説明できる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

「レポート・小テスト」(40%)、「定期試験」(60%)  
レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。

### 事前・事後学習

講義前にはテキストを読んでくること(60分)。  
講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと(120分)。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

Windows PCを用いた演習を行います。  
第1講 ガイダンスe-Learningの使用法  
第2講 JavaScriptを使用した動的なウェブページの例  
第3講 getElementById, getElementsByTagName, setInterval  
第3講 JavaScript(式と変数)  
第4講 JavaScript(関数)  
第5講 JavaScript(繰り返し)  
第6講 JavaScript(イベントとイベントハンドラ)  
第7講 JavaScriptによるHTMLの操作  
第8講 JavaScriptによるCSSの操作  
第9講 Canvas APIの解説  
第10講 Canvas APIプログラミング1  
第11講 Canvas APIプログラミング2  
第12講 自由課題(1)  
第13講 自由課題(2)  
第14講 自由課題(3)  
第15講 自由課題(4)  
授業はいずれもPCを用いた実習です。

### テキスト・教材(参考文献含む)

教育支援システム(Moodle)を通じて、資料やインターネット上の情報、プロトタイプを提供します。

### 担当者から一言

「Webプログラミング a」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。

### 授業の位置づけ

「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

### 授業計画

第1講 ガイダンス、インターネットの歴史  
第2講 ネットワークの基礎知識(1)  
第3講 ネットワークの基礎知識(2)  
第4講 ネットワークの基礎知識(3)  
第5講 信号の伝送と衝突(1)  
第6講 信号の伝送と衝突(2)  
第7講 信号の伝送と衝突(3)  
第8講 IPアドレッシング(1)  
第9講 IPアドレッシング(2)  
第10講 ルーティング(1)  
第11講 ルーティング(2)  
第12講 コネクションとポート番号(1)  
第13講 コネクションとポート番号(2)  
第14講 コネクションとポート番号(3)  
第15講 まとめ  
定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

網野衛二 著 「[改訂新版]3分間ネットワーク基礎講座」 ¥1,922  
【参考文献】  
三上信男 著 「ネットワーク超入門講座 第3版」 SBクリエイティブ ¥2,138

### 担当者から一言

インターネットは現代社会を支える極めて重要な要素です。内容はやや専門的で難しく感じるかもしれませんが、皆さんが楽しく受講できるように、身近な事例を多く紹介します。

<b>政策科学入門</b>	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	永井・奥原・鬼頭・小林慶・高田・鶴田・富田・中西・本部・松井・三田	PFC1001	前学期 必修

**授業のねらい**  
この講義では、総合政策学部の専門教育科目を学ぶ上で必要となる「準備」をします。1冊のテキストを総合政策学部の教員が分担して講義します。既に高校で学習した内容も含まれていますが、大学生となった今、再度、各テーマをじっくり捉え、理解して下さい。また、この講義で紹介される用語は基本中の基本なのでしっかりと覚えていきましょう。

**到達目標**  
学部の専門教育科目を学んでいくために必要となる基本的な用語や、現在の問題点や考え方を理解できるようになること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価は、講義への参加意欲、講義で課すレポート等(75%)、学期末試験(25%)で総合評価します。なお、担当教員からレポートの内容をもとに学生に対して総合的なコメントを返します。

**事前・事後学習**  
準備学習：テキストを読んでおくこと(60分)  
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ作成すること(90分)  
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16:00まで、提出先は授業課のレポートボックスです。

<b>総合政策論 I</b>	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	永井・岩崎祐・岡良・奥原・鬼頭・富田・中西・フェルリ・本部・松井・三田・若山	PFC2001	後学期 必修

**授業のねらい**  
総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず、社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していくこととすることです。この講義と2年前期の総合政策論IIでは、総合政策学部の教員が自己紹介をかねて、自分の考える「総合政策論」を持ち回りで担当するので、皆さんも「総合政策とは何か」を考えてください。

**到達目標**  
各教員の取り組み研究テーマについてその概要を理解するとともに、2年次以降の履修について考えるための基礎力を身につけることです。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価方法：各講で課す小レポート(75%) 期末試験(25%)  
課題：各講で課す小レポート  
フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、期末試験時に発表する。

**事前・事後学習**  
準備学習：新聞やニュースに目を通しておくこと(30分)  
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること(90分)  
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16:00まで、提出先は授業課のレポートボックスです。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1回(04月07日)ガイダンス(永井)  
第2回(04月14日)市民の社会①(永井)  
第3回(04月21日)市民の社会②(松井)  
第4回(04月28日)政治のしくみ①(中西)  
第5回(05月12日)政治のしくみ②(中西)  
第6回(05月19日)政治のしくみ③(小林)  
第7回(05月26日)経済のしくみ①(鶴田)  
第8回(06月02日)経済のしくみ②(奥原)  
第9回(06月09日)中間テスト(永井ほか)  
第10回(06月16日)国際社会のなりたち①(富田)  
第11回(06月23日)国際社会のなりたち②(鶴田)  
第12回(06月30日)環境問題①(本部)  
第13回(07月07日)環境問題②(鬼頭)  
第14回(07月14日)現代の社会(三田)  
第15回(07月21日)分野説明(小林・高田・鶴田)  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
土屋彰久著「公民のおさらい」自由国民社(2010年) 1,200円(税別)

**担当者から一言**  
4年間の学部での学修の基本になる大切な必修科目です。欠席や遅刻せずに必ず出席し、しっかりと15週間学んでください。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1回(09月28日)ガイダンス(永井)  
第2回(10月05日)総合政策学部と大学祭①(鬼頭)  
第3回(10月12日)同上②(鬼頭)  
第4回(10月19日)場所の哲学(フェルリ)  
第5回(10月26日)誕生日の力(三田)  
第6回(11月02日)会計の目的とは(奥原)  
第7回(11月09日)都市計画とまちづくりの関係(中西)  
第8回(11月16日)恋と文学と男と女(高田)  
第9回(11月30日)アジアの世紀(岩崎祐)  
第10回(12月07日)米野球球界の人材育成(若山)  
第11回(12月14日)道路はどのようにして造られるのか(本部)  
第12回(12月21日)市民活動とは何か(松井)  
第13回(01月11日)観光とまちづくり(岡)  
第14回(01月18日)会計情報はどのように役立つのか(奥原)  
第15回(01月25日)沖縄学入門——沖縄と考える(永井)  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。資料を配布することがある。

**担当者から一言**  
全体の総括は代表教員(永井)が行いますが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

総合政策論Ⅱ	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	永井・岡良・加納・小泉・リース・小林慶・鶴田・富田・中西・本部・松井	PFC2002	前学期 必修

**授業のねらい**  
この「総合政策論Ⅱ」は、1年次後期の「総合政策論Ⅰ」に引き続いて各教員が専門としているテーマについてできるだけやさしく講義し、皆さんの学問への興味を高めることがねらいです。

**到達目標**  
各教員の取り組む研究テーマについてその概要を理解すること、そして、今後、指導を受けたいと思う教員を見つけることが、本講義の到達目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価方法：各講で課す小レポート(75%) 期末試験(25%)  
課題：各講で課す小レポート  
フィードバック方法：各講の担当教員は提出されたレポートに対する講評を作成し、期末試験時に発表します。

**事前・事後学習**  
準備学習：新聞やニュースに目を通しておくこと(30分)  
事後学習：各講で課された小レポートを、授業内の内容を踏まえ、独自に調べた情報と合わせて作成すること(90分)  
なお、レポートの提出はその週の金曜日の16:00まで、提出先は授業課のレポートボックスです。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	奥原貴士	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解しなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。

**到達目標**  
会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
平常点(授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など) 80%  
課題レポート 20%  
なお、発表・発言については適宜コメントをします。

**事前・事後学習**  
新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。(毎日90分以上)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1回(4月12日)ガイダンス(永井)  
第2回(4月19日)データで見る三重・四日市(小林)  
第3回(4月26日)リアリティーの境界(富田)  
第4回(5月10日)フェイクニュースの怖さ(富田)  
第5回(5月17日)米国のファストフードと肥満の問題(リース)  
第6回(5月24日)Super Size Me(リース)  
第7回(5月31日)異文化理解の勧め(加納)  
第8回(6月07日)多文化共生社会と異文化コミュニケーション(加納)  
第9回(6月14日)本気で社会を変える(松井)  
第10回(6月21日)おもてなし経営とは何か(岡)  
第11回(6月28日)環境基本法の捉え方(中西)  
第12回(7月05日)地方鉄道の利用促進を図るには(本部)  
第13回(7月12日)Well-Rounded Exercise(小泉)  
第14回(7月19日)消費税率はなぜ10%になったのか?(鶴田)  
第15回(7月26日)沖縄学入門——その2:沖縄の声に耳を傾ける(永井) 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。教員がレジュメを配布することがある。

**担当者から一言**  
全体の総括は学部長が行うが、各教員が自分の担当部分については責任を持って講義し評価します。提出されたレポートの採点結果が成績評価の重要な要素になるので、しっかり時間をかけて書き上げてください。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 会計・簿記の学習  
第3講 会計・簿記の学習  
第4講 会計・簿記の学習  
第5講 会計・簿記の学習  
第6講 会計・簿記の学習  
第7講 会計・簿記の学習  
第8講 会計・簿記の学習  
第9講 会計・簿記の学習  
第10講 会計・簿記の学習  
第11講 会計・簿記の学習  
第12講 会計・簿記の学習  
第13講 会計・簿記の学習  
第14講 経営分析の基礎  
第15講 経営分析の基礎

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストはゼミが進んでから指定する。  
講義資料はプリントを適宜配布する。  
(参考文献)  
谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。  
桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。  
『合格テキスト日商簿記3級』、『同2級』TAC株式会社。

**担当者から一言**  
会計・簿記の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより決めます。発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

基礎演習 a  鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2001	前学期	必 修

### 授業のねらい

自ら学び、情報収集し、論理的な文章を書き、わかりやすくプレゼンし、積極的に議論するという、大学生としての学びの基礎を身に付ける演習である。具体的には、前半は、パワーポイントを活用して各自設定したテーマについてプレゼン（スライド20枚程度で5分間の発表）する。後半は、新聞を読んで「手書き」で資料をまとめ、自分なりの考えをまとめる作業を行う。就職活動では、手書きで論文を書いたり、自己PRをしたりすることが多くなる。ゼミの後半では手書きで文章を綴る機会を多く持ち、自分を表現する能力を磨く。

### 到達目標

人前で自分を表現する度胸をつけ、実際にプレゼンを完成させることを目標とする。また、アナログな手書きで自己表現する能力を身に付けることも大切な目標である。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

ゼミの中での議論、プレゼンのパフォーマンス（5割）や課題への取り組み（5割）により総合評価する。  
課題は添削やコメントを記して返却する。

### 事前・事後学習

ゼミは演習形式で各自が自分で課題に取り組むことになる。授業時間内では、課題の基本的な取り組み方を教員や学生間で議論するなどし、次の講義までに課題をまとめ上げることを繰り返していく。準備学習に必要な時間は、学生ごと、課題ごとに異なるが、15週間でトータル30～50時間を要する。

基礎演習 a  小泉 大亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2001	前学期	必 修

### 授業のねらい

本演習では、自身で学習・調査した内容を相手に説明や表現するスキルの向上をねらいとして、学習していきます。特に「健康とスポーツ」をテーマにして、テーマに関する資料や文献などの情報収集方法、レポートへのまとめ、プレゼンテーション資料の作成に至る発表スキルの向上を目指していきます。

### 到達目標

1) 学術論文・統計資料の「検索」・「収集」・「分析」・「まとめ」など、論文やレポート作成に必要な基礎的なスキルを身につける。2) プレゼンテーション技法（スライド作成やレジュメ作成）を身につける。3) 健康スポーツ科学に関する基礎知識を習得する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・授業への取り組み姿勢（レポート・発表などの準備）：50%  
・レポート・発表：50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

授業の際に、健康やスポーツに関する話題やトピックスなどを各々発表してもらうので、それらに関連する新聞記事や雑誌などを調べて、数分程度で発表できるようにまとめておくこと（準備学習 15分/日）発表資料やレポート作成などの課題があるので、授業までにしっかりと準備するように（60分）

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

1. ガイダンス 自己紹介でプレゼンテーションを練習（自己紹介と互いのコメント）
2. 顔写真入り自己紹介をPCで作成（PC教室）
3. プレゼンのテーマ決定（PC教室）
4. パワポ講義（ウィザードで流れをつくる）（PC教室）
5. 写真や図をネットから引用して貼り付け（PC教室）
6. パワーポイント作成作業（PC教室）
7. プレゼン仕上げ（PC教室）
8. 発表前半（報告5分＋質疑応答5分）感想シートの記入（PC教室）
9. 発表後半（報告5分＋質疑応答5分）感想シートの記入（PC教室）
10. 自己PRの練習
11. 専門基礎演習説明会
12. 手書きで文書作りⅠ 自己紹介と「くるくるコメント」
13. 手書きで文書作りⅡ 新聞をよんでまとめる
14. 手書きで文書作りⅢ 新聞をよんでまとめる
15. 打ち上げ懇親会（お茶とお菓子とお話と）

### テキスト・教材（参考文献含む）

講義の中でプリントを配布する。

### 担当者から一言

大学での学修に必要な基本的なコミュニケーション、情報収集・整理などを、楽しく学んでいこう！

<b>授業の位置づけ</b>
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 第1講  | ガイダンス 演習の概要       |
| 第2講  | 健康増進とスポーツ         |
| 第3講  | 高齢期における身体運動       |
| 第4講  | 調査資料の検索方法について     |
| 第5講  | 調査資料の収集方法について     |
| 第6講  | 調査資料の整理方法について     |
| 第7講  | 学術論文・文献の読み方       |
| 第8講  | 文献のまとめ方と発表の練習     |
| 第9講  | レポートの書き方・作成方法     |
| 第10講 | レポートの作成・プレゼン資料の作成 |
| 第11講 | レポートの作成・プレゼン資料の作成 |
| 第12講 | 発表・報告①            |
| 第13講 | 発表・報告②            |
| 第14講 | 発表・報告③            |
| 第15講 | 授業のまとめ            |

### テキスト・教材（参考文献含む）

【参考文献】  
竹島伸生、ロジャース・マイケル編集「高齢者のための地域型運動プログラム」の理論と実際（有）ナッパ社（2006年）

### 担当者から一言

健康科学やスポーツ科学に関連する最新の話題やトピックスなどは、インターネットやマスメディアを通して広く情報発信されています。日頃から積極的な情報収集を心がけ、疑問や課題を追求しましょう。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	小林慶太郎	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取り組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。

**到達目標**  
この演習では、地方公務員の仕事や組織に関する基本的な知識を身につけ、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知ることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回出席することが基本です。無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
・自身の担当回のレジュメ作成への取り組み姿勢:50%  
・受講態度および授業中の課題への取り組み状況:50%  
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

**事前・事後学習**  
公務員の仕事や組織について扱う回については、各人がいずれかの回を分担して、データや基本情報等を調べ、レジュメを作成して提出してもらいます(360分程度)。  
毎回欠かさず復習をし、分からなかったことを、そのまま分からないままにしないようにしてください(120分程度/回)。  
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(15分以上/日)。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	高田晴美	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
日常にあふれる様々な言葉や表現、物語は、人のどのような意識のもと発せられているのか。言葉や文化、作品の創作や享受の裏には、どのような時代状況・社会状況の反映があるのか。流行語や近現代の(広い意味での)文学作品を取り上げ、これらの分析を通して、人間・人生・人間関係のあり方、社会の模様について考えを深めることを試みます。作品等に向き合うことで、「読む」「調べる」「分析する」「問題を見つける」「論じる」「文章にまとめる」「口頭発表する」「議論する」といった能力を鍛えましょう。

**到達目標**  
・読解力、解釈力、問題発見力、言葉に対する感性を養う。  
・自分の考えを文章にまとめて論じたレジュメを作成できるようになる。  
・口頭発表や質疑応答などの議論のスキルを身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・発表(レジュメ内容、口頭発表の仕方、質疑応答の様子) 40%  
・毎回の取り組み姿勢(発言意欲、コメント内容など) 60%  
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。  
発表や議論に関して、授業内で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
基本的には、2週で1セットとなっています。1週目はみんなでコメントを出し合い、2週目に発表担当者がレジュメを準備したうえで口頭発表します。発表担当者は相当の時間(発表前1週間は毎日数時間ずつ)をかけて準備をすること。発表担当者以外も、与えられたテキストを事前に読み、それにまつわる情報(作者の情報、関連作品について等)を収集しておくこと(1時間程度)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 火事と救急出動(プレゼンテーションとディスカッション)  
第3講 消防士と消防団員(ク)  
第4講 防災・危機管理(ク)  
第5講 事件と事故(ク)  
第6講 警察と公安委員会(ク)  
第7講 消防士・警察官になるために  
第8講 公共事業と社会資本(プレゼンテーションとディスカッション)  
第9講 地域経済と産業振興(ク)  
第10講 スポーツと健康づくり(ク)  
第11講 地元企業で働くために  
第12講 子育てと福祉(プレゼンテーションとディスカッション)  
第13講 文化・市民活動(ク)  
第14講 多文化共生と人権(ク)  
第15講 自治体行政職員になるために

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。  
※ 状況が改善していれば、夏休みにゼミ旅行も予定したいと思います。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
テキスト：なし(必要に応じて、適宜プリントを配布します)  
参考文献：新藤宗幸『日曜日の自治体学』東京堂出版、2013年、2,200円+税

**担当者から一言**  
一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、文学ネタで自己紹介プレゼン  
第2講 流行語と社会と人々の心理の問題——皆で考える  
第3講 流行語と社会と人々の心理の問題——発表①  
第4講 流行語と社会と人々の心理の問題——発表②  
第5講 小説A①——読む・意見交換  
第6講 小説A②——発表・議論  
第7講 句会  
第8講 マンガ①——読む・意見交換  
第9講 マンガ②——発表・議論  
第10講 ビブリオバトル(書評合戦)——説明  
第11講 評論①——読む・意見交換  
第12講 評論②——発表・議論  
第13講 小説B①——読む・意見交換  
第14講 小説B②——発表・議論  
第15講 ビブリオバトル——実践

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
演習で扱う作品のテキストは、プリントにして配布します。  
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

**担当者から一言**  
法律や制度とは離れたところで日常に隠されている問題を見つけること、普段自分から出会うことはなかなかない文学作品を読み、さらに読み解くこと、そしてそれを誰かと共有して語り合うことは、刺激的な体験となりえます。みんなで面白がりましょう。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鶴田 利恵	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
この授業では、「マンガ」で描かれたテキストを使って基本的な経済学の考え方を理解します。経済学は、「難しそうな言葉や複雑な計算がたくさん出てきそうだ」と思われがちですが、いくつかのキーワードを理解しておけば、数学ができなくても十分に理解できる学問です。また、そのようにして習得した経済学的な思考を使って、現実に行き起きている経済問題について考えていく力をつけてもらうことが、この授業のねらいです。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

**到達目標**  
まずは、何がわからないかを声に出してみましょう。その上で、経済学の基本的な考え方を習得し、テレビや新聞で報道されている経済問題を理解し、さらにその問題について自分の意見を言えるようになることを、到達目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業内での報告や発言内容70%、レポート(2回)30%。  
なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。授業後、その日読んだマンガのテキストを必ず読み返し、どんなことを話し合ったかを思い出す(30分以上)。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
この演習では国際情報の性質を考えていきます。実際の授業では、具体的な報道記事を材料に、「誰が、何を、どう表現し」、それを「誰が、どのように受容したか」を、できるだけ一次資料にまで遡って分析し、その上で、入手できた資料を使いオリジナルの記事を作成してみましょう。最後の2回ではオリジナルの記事の合評会を予定しています。作業は留学生と日本人学生の混成グループにより進めることとし、作業中の使用言語は日本語と英語のみとします。

**到達目標**  
1、一次資料に遡れる調査能力の獲得  
2、資料に基づくレポート作成能力の獲得  
3、多言語コミュニケーション能力の獲得  
4、プレゼンテーション能力の獲得

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業中に指示した課題は、すべて、何らかの形で、授業中に発表してもらいます。授業中に発表してもらった課題(50%)を評価の対象とし、グループ作業への参加度(50%)を加味して総合評価とします。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
各回の内容に応じて、次のような準備が必要になります。  
1、材料とする報道記事の検索(1時間)  
2、報道記事の分析(1時間半)  
3、一次資料の調査(2時間)  
4、発表資料の作成(2時間)

**授業の位置づけ**  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 経済学って何をしようとする学問なの？  
第3講 モノの値段は何をもとに決まっている？  
第4講 「コスト＝費用」についての経済学的な考え方とは？  
第5講 マクロ経済学・ミクロ経済学って何？  
第6講 ニュースでよく出てくるGDP(国内総生産)って何？  
第7講 「日本はデフレ」ってどういう意味？  
第8講 ケインズって誰？ レポート提出①  
第9講 「超低金利政策」って何？ どうしてそんなことするの？  
第10講 消費したほうがいいのか？それとも貯蓄したほうがいいのか？  
第11講 財政政策って何？  
第12講 そもそもお金って何？  
第13講 金融政策って何？  
第14講 良いインフレと悪いインフレがあるらしい？レポート提出②  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
コピーを配布します。  
使用テキスト：井堀利宏「大学4年間の経済学がマンガでざっと学べる」KADOKAWA(2017年)1,200円(税抜き)

**担当者から一言**  
わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意しても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講:ガイダンス  
第2講:報道記事を解剖する(講義)  
第3講:出来事の選択  
第4講:記事の持ち寄り  
第5講:記事の選択(グループ作業)  
第6講:記事の解剖(グループ作業)  
第7講:情報源の特定(グループ作業)  
第8講:資料の抽出(グループ作業)  
第9講:資料の持ち寄り  
第10講:資料の評価  
第11講:記事作成のための資料選択(グループ作業)  
第12講:オリジナル記事の構成(グループ作業)  
第13講:オリジナル記事の作成(グループ作業)  
第14講:合評会  
第15講:合評会

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
特に指定しない。

**担当者から一言**  
ひとつの報道記事には、いくつかの別の主体の判断や認識が含まれているのが一般的です。イメージと感情に偏りがちが最近の国際情報環境のなかで、細部にこだわった情報の読み取りを一度経験しておくことで、報道記事の見方もきっと変わると思います。

基礎演習 a  中西紀夫	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	PSS2001	前学期	必修

**授業のねらい**  
この演習では、まず、自己紹介によるスピーチの練習から始めていきたいと考えております。最近の学生で多くみられる傾向として、メールなどでの簡単な会話は問題ないのですが、実際の面と向かっての会話は、苦手な学生が多いように思えますので、この点の改善には、各講のテーマに関係なく意識して時間を使いたいと思います。ここでは、ニュースや新聞などで話題となっているような社会問題を素材として扱います。

**到達目標**  
各自が設定したテーマに基づき、資料収集が出来ることはもとより、きちんとしたレジュメの作り方や報告方法までを到達目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 50%  
発表内容 30%  
レポート 20%  
報告で使用したレジュメや提出したレポートについては、その都度、指導します。

**事前・事後学習**  
毎日、新聞を読むこと(1日20分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

基礎演習 a  フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	PSS2001	前学期	必修

**授業のねらい**  
この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

**到達目標**  
芸術(文学、映画や音楽など)、化学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
ミニレポート:20%  
最終レポート:50%  
学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます(毎週約60分)。レポートを作成し、発表の準備をします(毎週約60分)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 自己紹介(スピーチの練習)  
第3講 資料の収集方法  
第4講 レジュメの形式について  
第5講 各自が目にした社会問題を意見交換(グループワーク)  
第6講 研究テーマと概要を報告し、ミニレポートで提出  
第7講 レジュメによる報告および意見交換①  
第8講 レジュメによる報告および意見交換②  
第9講 レジュメによる報告および意見交換③  
第10講 レジュメによる報告および意見交換④  
第11講 レジュメによる報告および意見交換⑤  
第12講 レジュメによる報告および意見交換⑥  
第13講 研究の進捗状況を報告し、ミニレポートで提出  
第14講 討論会(テーマは多数決で決める)  
第15講 まとめ、研究レポート提出

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
参考文献等は、必要に応じて紹介します。資料は適宜、配付します。

**担当者から一言**  
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 哲学とは何か  
第3講 哲学と私  
第4講 哲学と芸術作品  
第5講 哲学と日常生活  
第6講 古代哲学(1)  
第7講 古代哲学(2)  
第8講 中世哲学(1)  
第9講 中世哲学(2)  
第10講 近代哲学(1)  
第11講 近代哲学(2)  
第12講 現代哲学(1)  
第13講 現代哲学(2)  
第14講 哲学研究とは何か  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
『図解雑学シリーズ 哲学』  
貫成人(ナツメ社)  
(1,300円+税)ISBN 978-4-8163-3026-7

**担当者から一言**  
世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。



基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	松井真理子	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
 専門課程の学修の基礎力を養成するため、「社会課題の発見と解決」をテーマに、以下のことに取り組みます。  
 1 信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。→資料を探す力、まとめる力  
 2 作成した資料を使って発表する →プレゼンテーション力  
 3 発表に基づき、学生同士が討論を行う →討論する力  
 4 レポート作成→ 企画力、文章作成力

**到達目標**  
 1 資料を深く読み、自分で考えることができる。  
 2 わかりやすい資料を作成し、発表できる。  
 3 他者への質問力を付け、討論ができる。  
 4 テーマについて、論理的な文章を作成できる。  
 5 社会課題に関心を持ち、取り組むことができる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業の取り組み姿勢 80%  
 レポートの内容 20%  
 なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
 (授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
 授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
 (授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	三田泰雅	PSS2001	前学期 必修

**授業のねらい**  
 この演習は、現実の出来事を手がかりに世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。基礎演習aでは論説文の書き方を学びます。論説文は、レポートはもちろんプレゼンテーションの基本でもあります。自分の考えを正確にわかりやすく伝える力を高めましょう。

**到達目標**  
 原稿用紙のマスを埋めるだけの作文を卒業し、論理と構成を備えた文章作成能力を身につけましょう。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 期末レポート30%、授業への参加度(課題含む)70%で評価します。課題を忘れた場合は出席にならないので注意してください。提出した課題は授業内で教員を交えてディスカッションします。

**事前・事後学習**  
 各回の課題に取り組むこと(一日平均20分程度)

**授業の位置づけ**  
 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス、自己紹介、地域課題の検討  
 第2講 地域課題の検討  
 第3講 調査の発表と討論(1)  
 第4講 調査の発表と討論(2)  
 第5講 調査の発表と討論(3)  
 第6講 調査の発表と討論(4)  
 第7講 調査の発表と討論(5)  
 第8講 調査の発表と討論(6)  
 第9講 市民社会に関する文献講読と討論(1)  
 第10講 市民社会に関する文献講読と討論(2)  
 第11講 市民社会に関する文献講読と討論(3)  
 第12講 市民社会に関する文献講読と討論(4)  
 第13講 レポート作成(1)  
 第14講 レポート作成(2)  
 第15講 全体まとめ

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 参考文献を必要に応じて紹介します。

**担当者から一言**  
 専門分野の学問の入口です。問題意識を持つこと、わかりやすいプレゼンテーションをする力、集団討論の力は、就職にも必ず役に立つはずです。

**授業の位置づけ**  
 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
 1 ガイダンス  
 2 文章の書き方  
 3 文章の型を知る  
 4 型から文章を作る  
 5 文章の読み方  
 6 メモを取りながら読む  
 7 メモを活用する  
 8 文書資料の探し方  
 9 統計資料の探し方  
 10 レジューメをつくる  
 11 レジューメから文章へ  
 12 段落の構成  
 13 文の構成  
 14 接続詞を学ぶ  
 15 後学期ガイダンス

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
 宮内泰介・上田昌文、2020、『実践 自分で調べる技術』岩波書店。

**担当者から一言**  
 実践する演習です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

基礎演習 a	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2001	前学期	必 修

若山裕晃

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

<b>授業のねらい</b>
本演習では、スポーツ科学に関連した文献講読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成する。

<b>授業計画</b>
第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 レポートのテーマ検討 第3講 レポートのテーマ検討 第4講 スポーツ科学とは 第5講 文献講読・討論 第6講 文献講読・討論 第7講 文献講読・討論 第8講 文献講読・討論 第9講 文献講読・討論 第10講 文献講読・討論 第11講 文献講読・討論 第12講 文献講読・討論 第13講 文献講読・討論 第14講 文献講読・討論 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明

<b>到達目標</b>
文献検索や資料作成等、研究を進めるための基礎的な手法を習得する。

<b>テキスト・教材（参考文献含む）</b>
特に指定しないが、適宜指示する。

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
課題文献の解説・要約(50%)、レポート(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

<b>担当者から一言</b>
毎回担当者を決めて、課題文献の解説をしてもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。 状況によって、オンライン授業となる場合があります。

<b>事前・事後学習</b>
予習として、課題文献に関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

奥原貴士

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

<b>授業のねらい</b>
企業の財務諸表は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しているが、こうした会計情報を読み取るには、財務諸表がどのようにして作成されているのかを理解していなければなりません。そこで本講義は、会計・簿記の基礎知識を習得することを目的とします。そして、会計情報を利用して基礎的な経営分析を行います。また、日商簿記検定等の資格取得も目指します。

<b>授業計画</b>
第1講 ガイダンス 第2講 会計・簿記の学習 第3講 会計・簿記の学習 第4講 会計・簿記の学習 第5講 会計・簿記の学習 第6講 会計・簿記の学習 第7講 会計・簿記の学習 第8講 会計・簿記の学習 第9講 会計・簿記の学習 第10講 会計・簿記の学習 第11講 経営分析の基礎 第12講 経営分析の基礎 第13講 経営分析の基礎 第14講 経営分析の基礎 第15講 経営分析の基礎

<b>到達目標</b>
会計・簿記の基本的な知識を習得し、財務諸表を的確に読み取ることができるようになることを到達目標とします。これらは、専門演習での学習のベースとなります。また、日商簿記検定等の資格取得も目指していきます。

<b>テキスト・教材（参考文献含む）</b>
テキストはゼミが進んでから指定する。 講義資料はプリントを適宜配布する。  (参考文献) 谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。 『合格テキスト日商簿記3級』、『同2級』TAC株式会社。

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
平常点(授業への積極的な参加、発表内容、発言回数など) 80% 課題レポート 20% なお、発表・発言については適宜コメントをします。

<b>担当者から一言</b>
会計・簿記の講義回数に関しては、受講生との話し合いにより決めます。発表、ディスカッションへの積極的な参加を希望します。日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

<b>事前・事後学習</b>
新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。(毎日90分以上)

基礎演習 b  鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
自分を表現する能力を、具体的に自己PR大会などを通じて磨き上げる。また、新聞を使ったレポート作成やテーマ・課題を設定した小論文作成を行う。また、就職活動でよく質問される「大学時代に打ち込んだこと」を肉付けするために、積極的に課外活動を行う。具体的には、地域のイベントに実行委員として参加したり、大学祭などで学生が自ら企画して実行したりする。この演習は、専門演習の準備段階と位置づけ、コミュニケーション能力の向上とチームワーク作りにも力を入れていく。

**到達目標**  
新聞・テレビなどの報道を理解し、自分の力で考え、文章として書きあげる。そして、インパクトのあるプレゼンで魅力的に人に伝える能力を身に付けることが、この2年後期のがが鬼頭ゼミ；専門基礎の到達目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。  
課題は、添削やコメントを記して返却する。

**事前・事後学習**  
ニュースや新聞、ネットなどから1週間の社会の動きを調べる学習に1時間ほどかけること。また、第8～13回の小論文作成特訓では、事前に課題の予告(どんな分野の課題を出すか)をするので、それに関してネットで2時間ほどをかけて調べておくこと。

基礎演習 b  小泉 大亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
本演習では、論文作成やプレゼンテーションの基礎的な能力を養成する。テーマとして、「健康」・「身体運動」を取り上げ、レポート作成、発表、討論を行う。

**到達目標**  
資料(書籍・雑誌・新聞記事・論文等)を整理し、レポートやプレゼンテーションにまとめて発表できる

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・授業への取り組む姿勢(レポート・発表などの準備):50%  
・レポート・発表:50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
論文抄読用の資料準備(90分)  
発表用のレジュメやスライドの準備(90分)

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**

- ガイダンス;顔見せと自己紹介
- 自己紹介を手書きで作ろう
- 自己PR大会(一人5分で自己PR)
- たこ焼き・ワッフル模擬店経営を通して経済を学ぶ
- 新聞を読もう①気になる記事をまとめる(手書きレポート800字)
- 新聞を読もう②気になる記事について考えを書く(手書きレポート800字)
- 新聞を読もう③気になる記事の考察(手書きレポート1200字)
- 小論文作成特訓&ディスカッション①:400字原稿用紙×3枚
- 小論文作成特訓&ディスカッション②:小論文に関する討論
- 小論文作成特訓&ディスカッション③:400字原稿用紙×3枚
- 小論文作成特訓&ディスカッション④:小論文に関する討論
- 小論文作成特訓&ディスカッション⑤:400字原稿用紙×3枚
- 小論文作成特訓&ディスカッション⑥:小論文に関する討論
- コミュニケーション能力を身につける演習
- プレゼン能力を身に付ける演習

★毎ゼミの最初の10分で、1週間に起こった時事問題についてディスカッションする。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

**担当者から一言**  
ゼミの無断欠席は厳禁。鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**

- 第1講 ガイダンス 演習の進め方
- 第2講 自己紹介
- 第3講 資料の検索方法と資料の整理方法
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成と発表方法
- 第5講 レポート・プレゼンテーション資料作成①
- 第6講 レポート・プレゼンテーション資料作成②
- 第7講 レポート・プレゼンテーション資料作成③
- 第8講 レポート・プレゼンテーション資料作成④
- 第9講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第10講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第11講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第12講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第13講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第14講 プレゼンテーション・質疑応答・討論
- 第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

基礎演習 b  小林慶太郎	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
この演習では、将来、地方公務員や地域密着型の企業・団体等での就職を目指す学生を対象に、地域、まちづくり、地方自治、行政、公務員、市役所、選挙、政治、政策、地域振興、離島、過疎地、観光、まちおこし、マイノリティ、ダイバーシティ、多文化共生など、地域の課題とその解決のための取組みを知り、将来へのモチベーションを高めていくことを、ねらいとしています。

**到達目標**  
この演習では、地方公務員の仕事や組織に関する基本的な知識を身につけ、地域の抱えている様々な課題とその解決に向けた取り組みを知ることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回出席することが基本です。無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
・自身の担当回のレジュメ作成への取り組み姿勢:50%  
・受講態度および授業中の課題への取り組み状況:50%  
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

**事前・事後学習**  
毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。  
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(30分)。

**基礎演習 b**  
  
高田晴美

基礎演習 b  高田晴美	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
日本の近現代の文学作品を、前学期より系統的に分析していきます。一人の作家の初期から晩年までの作品を数作品、時代順に読んでいくことで、その作家や時代背景の移り変わりにも目を向け、考察します。中には元ネタがある作品も取り上げ、元ネタとの比較・分析をすることで作者の意図に迫るスキルも身につけます。単に作品だけを見るのではなく、作者や作者の人生、作品の背景を調べることで、より作品に対する理解を深め、そこから問題点を設定し自分なりの論点で論じていきましょう。

**到達目標**  
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。  
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。  
・口頭発表のスキルを向上させる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・毎回のコメントと受講態度 60%  
・発表と質疑応答の内容 40%  
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
・毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む(約1時間)。  
・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。

**基礎演習 b**  
  
高田晴美

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 課題の設定  
第3講 インターネット検索  
第4講 データの収集  
第5講 文献調査  
第6講 論点整理  
第7講 ヒアリング調査  
第8講 情報整理  
第9講 補充調査  
第10講 レジュメ作成  
第11講 レジュメ完成  
第12講 パワーポイント  
第13講 プレゼンテーション練習  
第14講 プレゼンテーション実践  
第15講 来年度に向けて

※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」(有志のみ)を、それぞれ予定しています。  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 課題の設定  
第3講 インターネット検索  
第4講 データの収集  
第5講 文献調査  
第6講 論点整理  
第7講 ヒアリング調査  
第8講 情報整理  
第9講 補充調査  
第10講 レジュメ作成  
第11講 レジュメ完成  
第12講 パワーポイント  
第13講 プレゼンテーション練習  
第14講 プレゼンテーション実践  
第15講 来年度に向けて

※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。各回に扱う内容は、各人の興味関心などに応じて、上記とは変更することがあります。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」(有志のみ)を、それぞれ予定しています。  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

**担当者から一言**  
一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう!

**基礎演習 b**  
  
高田晴美

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 小説A-作品について議論する  
第3講 小説A-作品を論じる  
第4講 小説B-作品について議論する  
第5講 小説B-元ネタとの比較分析  
第6講 小説B-作品を論じる  
第7講 小説C-作品について議論する  
第8講 小説C-作品を論じる  
第9講 小説D-作品について議論する  
第10講 小説D-元ネタとの比較分析  
第11講 小説D-作品を論じる  
第12講 小説E-作品について議論する  
第13講 小説E-作品を論じる  
第14講 小説F-作品について議論する  
第15講 小説F-作品を論じる

**到達目標**  
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。  
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。  
・口頭発表のスキルを向上させる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・毎回のコメントと受講態度 60%  
・発表と質疑応答の内容 40%  
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。授業内で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
・毎回、次回までに読んでくるべき資料を配布するので、それを読む(約1時間)。  
・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 小説A-作品について議論する  
第3講 小説A-作品を論じる  
第4講 小説B-作品について議論する  
第5講 小説B-元ネタとの比較分析  
第6講 小説B-作品を論じる  
第7講 小説C-作品について議論する  
第8講 小説C-作品を論じる  
第9講 小説D-作品について議論する  
第10講 小説D-元ネタとの比較分析  
第11講 小説D-作品を論じる  
第12講 小説E-作品について議論する  
第13講 小説E-作品を論じる  
第14講 小説F-作品について議論する  
第15講 小説F-作品を論じる

「基礎演習 a」では散発的に作品を読むという感じでしたが、「基礎演習 b」では1人の作家にじっくりと向き合い、年齢を重ね、時代が進むとともに作品がどう移り変わっていくかなどを分析するという経験値を上げていきます。作品にどっぷりと付き合い、あーだこーだと考え、議論することの楽しさを味わいましょう。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鶴田 利恵	PSS2002	後学期 必修

### 授業のねらい

この授業では、経済学のテキストを使い、基礎演習 a で学んだ内容を復習するとともに、より広い範囲の経済理論を理解することを目的とします。鶴田による解説だけではなく、常に自分たちの意見や疑問点を出し合い、ディスカッションすることによって幅広い視野を身につけていきましょう。

### 到達目標

基本的な経済理論と、身の回りで話題になっている経済問題を理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業内での報告や発言内容70%、レポート(2回)30%  
なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

### 事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。授業後、その日読んだテキストを必ず読み返し、どんなことを話したかを思い出す(30分以上)。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与	PSS2002	後学期 必修

### 授業のねらい

この演習では、「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ことを考えていきます。  
「疑問を見つけ、それを問題提起に作り上げる」ためには、観察力と論理的思考が必要になります。授業では、現代アート作品(写真)を使って、「疑問」を見つけるための観察力の養い方を実践します。一方、論理的思考は文章を作成するなかで養われます。観察の中で見つけた「疑問」を文章で表現し、更に、関連の調査を通して、解答可能な「問題提起」に仕立てていくことにしたいと思います。

### 到達目標

到達目標は「0.5秒で質問が作れるようになる」です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート、口頭発表:50%  
議論への参加:50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

授業の中で課題を出すので、次の授業までに報告できるように準備してください(180分)。

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 マクロ経済学とGDP(国内総生産)
- 第3講 三面等価の原則と物価指数
- 第4講 ケインズ経済学とGDPの決定
- 第5講 財市場と貨幣市場の均衡 IS-LMモデル
- 第6講 家計の消費行動と企業の投資行動
- 第7講 政府の役割
- 第8講 財政政策とクラウディングアウト レポート提出
- 第9講 貨幣の役割
- 第10講 金融政策
- 第11講 インフレとデフレ
- 第12講 バブル経済とその崩壊
- 第13講 貿易の利益と比較優位の原則
- 第14講 国際収支と為替レート
- 第15講 経済統合と通貨統合 レポート提出

### テキスト・教材(参考文献含む)

コピーを配布します。  
使用テキスト:井堀利宏「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」株式会社KADOKAWA(2019年)1,500円(税抜き)

### 担当者から一言

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 アートの写真①-1
- 第3講 アートの写真①-2
- 第4講 アートの写真②-1
- 第5講 アートの写真②-2
- 第6講 「疑問」を表現する
- 第7講 合評会①
- 第8講 合評会②
- 第9講 「疑問」から「問題提起」へ
- 第10講 「問題提起」を表現する
- 第11講 解答を探してみよう①
- 第12講 解答を探してみよう②
- 第13講 合評会
- 第14講 「問題提起」から「結論」までの構成
- 第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に指定しない。

### 担当者から一言

前期は誰かによって表現されたものを使って、表現されたことのエビデンスを考えました。後期は、表現の動機づけともいえる疑問について考えます。教員を質問攻めにして下さい。

基礎演習 b  中西紀夫	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
基礎演習 b では、基礎演習 a でも重視した新聞・TV のニュース・インターネットなどのトップページで扱われているような社会問題を素材とします。ここでは、自分が興味を持ったテーマを可能な限り詳しく調べ、ある程度、高度な発表ができるようにすることを講義のねらいとします。

**到達目標**  
社会における法律に関する諸問題を、ある程度、自分で思考し解決しようとする取っ掛かりの部分に身に着けることに重点を置いていきます。最終的な到達目標は、発表や意見交換の方法を学ぶところまでを予定しています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 50%  
発表内容 30%  
レポート 20%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
新聞やニュースで取り上げられた事件などの当該規定を、必要に応じて六法で調べるのはもとより、ジュリストなどの判例集もできるだけ読む習慣を身につけてください。(毎回、予習90分と復習90分)

基礎演習 b  フェリペ・フェハリー	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
この演習では、哲学の伝統をきちんと押さえ、2500年以上にもおよぶ哲学の原典をきちんと読む能力を養いながら、現在において、哲学の社会的な役割をディスカッションします。

**到達目標**  
芸術(文学、映画や音楽など)、化学や日常生活にある哲学の影響を認知し、現代社会において、哲学の役割を議論すること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度:30%  
発表のコメント:20%  
研究発表:50%  
研究発表については講義中にコメントします。

**事前・事後学習**  
毎回の講義で配布した資料をしっかりと読みます(毎週約60分)。レポートを作成し、発表の準備をします(毎週約60分)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 社会問題①(スピーチの練習)  
第3講 グループディスカッションの練習①  
第4講 グループディスカッションの練習②  
第5講 研究テーマと内容の報告①  
第6講 研究テーマと内容の報告②  
第7講 レジュメによる発表と質疑応答①  
第8講 レジュメによる発表と質疑応答②  
第9講 レジュメによる発表と質疑応答③  
第10講 レジュメによる発表と質疑応答④  
第11講 レジュメによる発表と質疑応答⑤  
第12講 社会問題②(発表の練習)  
第13講 社会問題③(発表の練習)  
第14講 意見交換の方法  
第15講 まとめ、レポート提出

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
必要に応じて、資料を配付します。

**担当者から一言**  
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンスと前期の復習  
第2講 倫理学  
第3講 美学  
第4講 論理学  
第5講 認識論  
第6講 哲学の原稿の書き方(1)  
第7講 哲学の原稿の書き方(2)  
第8講 発表と議論(1)  
第9講 発表と議論(2)  
第10講 発表と議論(3)  
第11講 発表と議論(4)  
第12講 発表と議論(5)  
第13講 発表と議論(6)  
第14講 発表と議論(7)  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
『図解雑学シリーズ 哲学』  
貫成人(ナツメ社)  
(1,300円+税)ISBN 978-4-8163-3026-7

**担当者から一言**  
世界を理解するには、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。私たちは、現代の日本社会において様々な問題について議論する必要があります。この演習では学生のみなさんに現代問題を考えてもらい、一緒に独立した考えを作りましょう。

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	松井真理子	PSS2002	後学期 必修

**授業のねらい**  
 専門課程の学修の基礎力を養成するため、以下のことに取り組みます。  
 1 専門分野の入門的な文献を読み込む → 深く読む力  
 2 自分の分析を加えた資料を作成して発表する → 考える力、プレゼンテーション力  
 3 発表に基づきグループ討論を行う → 討論する力  
 4 グループ討論の内容を全体発表する → まとめる力、プレゼンテーション力  
 5 レポート作成 → 文章作成力・研究力

**到達目標**  
 1 専門分野(社会課題への自発的な貢献)の基本を理解する。  
 2 資料を深く読み、整理し、自分で考えることができる。  
 3 わかりやすい資料を作成し、発表できる。  
 4 他者への質問力を付け、討論ができる。  
 5 テーマについて調査を行い、論理的な文章を作成できる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 授業の取り組み姿勢 80%  
 レポートの内容 20%  
 なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
 (授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
 授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
 (授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

基礎演習 b	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	三田泰雅	PSS2002	後学期 必修

**授業のねらい**  
 この演習は、世の中の仕組みを考える「社会学」に関心をもつ人を対象にしています。2年生の後学期は文章を読む力をのばすことに主眼をおき、文章を通して色々な社会の見方に触れていきます。

**到達目標**  
 1. 文章を読み、内容を吟味できるようになる  
 2. レジュメ作成の能力を身につける  
 3. 社会学の基本的な用語や考え方を身につける

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 各回の報告50%、授業への参加度50%で評価します。それぞれの報告は教員を含めた全員で議論します。

**事前・事後学習**  
 当日までに全員が指定された文献を読み、内容を理解しておくこと(1日10分)。

**授業の位置づけ**  
 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス、テーマ検討(1)  
 第2講 テーマ検討(2)  
 第3講 テーマ検討(3)  
 第4講 映像を見て考える  
 第5講 課題の整理  
 第6講 担当者による発表と討論(1)  
 第7講 担当者による発表と討論(2)  
 第8講 担当者による発表と討論(3)  
 第9講 担当者による発表と討論(4)  
 第10講 担当者による発表と討論(5)  
 第11講 担当者による発表と討論(6)  
 第12講 課題の整理  
 第13講 レポート作成(1)  
 第14講 レポート作成(2)  
 第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 教員が提供する教材を使います。

**担当者から一言**  
 3年生の本格的な研究の導入となる予備的な学びを行います。

**授業の位置づけ**  
 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 論説文の読み方  
 第3講 短い文章を読む1  
 第4講 短い文章を読む2  
 第5講 文章を吟味する1  
 第6講 文章を吟味する2  
 第7講 レジュメの作り方  
 第8講 報告と議論1  
 第9講 報告と議論2  
 第10講 報告と議論3  
 第11講 書評レポートの書き方  
 第12講 報告と議論4  
 第13講 報告と議論5  
 第14講 報告と議論6  
 第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 倉沢進ほか, 2001, 『新訂 社会学入門』放送大学教育振興会。

**担当者から一言**  
 同じものを見ても、知識のある人となない人とは感じる面白さが全然違います。本を読み、知識が増えれば、どんどん世界の面白さが開けてきます。どうせ生きていくなら面白いほうがいいですよね。

基礎演習 b  若山 裕晃	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSS2002	後学期	必 修

### 授業のねらい

本演習は、スポーツ・運動・健康をテーマとして、レポート及び論文作成のための基礎的な能力養成を目的とする。

### 到達目標

各種資料(書籍・雑誌・新聞記事・映像資料等)を整理し、レポートとしてまとめた上で発表する。その発表内容についてクラス全員で質疑応答や討論を重ねることによって、その後の研究テーマ選定へとつなげていく。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)。  
レポート等の評価は個別に開示する。

### 事前・事後学習

予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

専門演習 a  奥原 貴士	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3001	前学期	必 修

### 授業のねらい

財務会計や実証研究に関するテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。これら輪読では担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。

### 到達目標

会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、卒業研究のテーマを見つけることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など) 80%  
課題レポート 20%  
なお、発表・発言については適宜コメントをします。

### 事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

第1講	ガイダンス 授業の概要
第2講	レポート・論文の書き方
第3講	資料収集法
第4講	レポート作成(はじめに)
第5講	レポート作成(はじめに)
第6講	レポート作成(はじめに)
第7講	レポート作成(方法)
第8講	レポート作成(結果及び考察)
第9講	レポート作成(結果及び考察)
第10講	レポート作成(結果及び考察)
第11講	レポート発表・質疑応答・討論
第12講	レポート発表・質疑応答・討論
第13講	レポート発表・質疑応答・討論
第14講	レポート修正版完成
第15講	レポート修正版完成

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に指定しないが、適宜指示する。

### 担当者から一言

学生の自主的なテーマ選定・資料収集・レポート作成・討論参加を期待する。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第3講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第4講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第5講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第6講	論文の輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第7講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第8講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第9講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第10講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第11講	論文の輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第12講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第13講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第14講	テキストの輪読(担当者の発表・ディスカッション)
第15講	卒業研究のテーマに関するディスカッション

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは適宜指定します。  
論文は配布します。

### 担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。  
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。  
簿記、会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。



専門演習 a  鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3001	前学期	必 修

### 授業のねらい

ゼミでは、就職も意識しながら、生きる力を身につけることが到達目標である。具体的には、自分を表現すること、就職に向けた資格取得、イベント参加、懸賞論文作成を行う。また課外活動として、ボランティアやイベント参加を通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考える。これは、書籍や資料だけではとらえきれない現場の実際の姿を知ることがゼミ活動の重要な要素となる。このゼミでは、テーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を、懸賞論文の作成準備を通じて身につける。

### 到達目標

自分の学生生活後半をどう送るか、しっかりと目標を設定して少しでも近づくことが到達目標である。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。  
課題は、添削やコメントを記して返却する。

### 事前・事後学習

ニュースや新聞、ネットなどから1週間の社会の動きを調べる学習に1時間ほどかけること。また、第10～15回の懸賞論文作成作業では、講義時間外に20時間ほどをかける成果を出すこと。

専門演習 a  小泉 大亮	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3001	前学期	必 修

### 授業のねらい

本演習では、健康スポーツ科学に関連した文献購読及び討論を通して、論文作成のための知識を養成していきます。主に「健康増進と身体運動」に関する文献を討論し、その内容について理解を深めていくことを演習のねらいとします。

### 到達目標

健康スポーツ科学領域における研究デザインの作成、分析、発表の方法を修得する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・授業への取り組み姿勢(論文抄読・スライド作成・発表への準備): 50%  
・プレゼンテーション資料・発表および討論: 50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)  
発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

- ガイダンス:自己紹介でプレゼン練習(他学生の発表を記録する)
  - 自己PRプレゼンを手書き作成
  - 自己表現(大学履歴書用紙記入練習)
  - グループ・ディスカッション①
  - グループ・ディスカッション②
  - 就職談義(インターンシップを考える)
  - 大学時代に打ち込む個性発掘企画を作成
  - インターンシップを通して企業研究
  - 自分の課題に挑戦(秋の懸賞論文を目指してテーマ設定)
  - 懸賞論文作成の準備(基本的な情報収集)
  - 夏休みに行く懸賞論文の調査計画の作成①(ヒアリング計画:PC教室)
  - 夏休みに行く懸賞論文の調査計画の作成②(実際に依頼要請:PC教室)
  - 夏休みに行く懸賞論文の調査計画の作成③(必要な手続き:PC教室)
  - 懸賞論文構成(目次の作成・提出:PC教室)
  - 懸賞論文書き出し(A4×2枚:PC教室)
- ★毎ゼミの最初の10分で、1週間に起こった時事問題についてディスカッションする。

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 担当者から一言

鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- ガイダンス 演習の進め方 自己紹介を兼ねてスピーチ
- 健康スポーツ科学とは
- 関心のある身体運動の話題についてスピーチ①
- 関心のある身体運動の話題についてスピーチ②
- 健康・身体運動に関する論文抄読・討論①(グループディスカッション)
- 健康・身体運動に関する論文抄読・討論②(グループディスカッション)
- 健康・身体運動に関する論文抄読・討論③(グループディスカッション)
- 健康・身体運動に関する論文抄読・討論④(グループディスカッション)
- 研究テーマ文献の検索
- 研究テーマの決定
- 研究テーマに関する調査・分析
- 研究発表用レジュメ作成
- 研究発表用スライド作成
- 研究報告・質疑①(プレゼンテーション)
- 研究報告・質疑②(プレゼンテーション)

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(必要に応じて演習中に配布します)

### 担当者から一言

個々の積極的な授業参加によりゼミ生全員の力が向上します。ゼミ生同士が互いに協力し、時には刺激しあうような教室を作りましょう。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	小林慶太郎 PSS3001	前学期	必修

**授業のねらい**  
差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思えます。

**到達目標**  
身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
・課題への取り組み状況:45%  
・授業中の発言・受講態度:55%  
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

**事前・事後学習**  
自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。  
そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。  
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

**事前・事後学習**  
自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。  
そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。  
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	高田晴美 PSS3001	前学期	必修

**授業のねらい**  
日本近現代文学のゼミです。今期は今まで以上に学術的に、作品に向き合います。作品の背景などを調べるだけでなく、先行研究(論文)も読み、どういうところを問題として設定し論じるのかを学びます。その上で、先行研究も祖上に挙げて、みんなで作品を論じていきます。

**到達目標**  
・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。  
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。  
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。  
・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・毎回のコメントと受講態度 60%  
・発表と質疑応答の内容 40%  
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。発表や議論について、授業内で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
・次回までに読んでくるべきテキスト・資料を配布するので、それを読む(約1時間)。  
・自分が発表を担当する回に向けて、少なくとも1週間前から入念な発表準備をする(毎日数時間×7日間)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 「民主主義の学校」地方自治  
第3講 地方自治の本旨と日本国憲法  
第4講 団体自治と地方自治体の種類  
第5講 住民自治と選挙・直接請求  
第6講 二元代表制と議会・首長の役割  
第7講 自治体行政と公務員  
第8講 条例・規則と行政手続  
第9講 計画行政と予算  
第10講 地方自治のルーツを考える —英米型と大陸型—  
第11講 日本の前近代の地方自治の歴史  
第12講 近代日本の地方自治と地方行政  
第13講 現代日本の地方自治と地方分権改革  
第14講 小規模多機能自治 —地域における小さな自治—  
第15講 市民参加と協働  
  
※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思います。  
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」(東京堂出版、2013年、2,200円+税)は、一読しておいてください。

**担当者から一言**  
一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう!

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 小説Aについて議論する  
第3講 小説Aの参考文献を読んでまとめる  
第4講 小説Aを論じる  
第5講 小説Bについて議論する  
第6講 小説Bの参考文献を読んでまとめる  
第7講 小説Bを論じる  
第8講 歌会  
第9講 小説Cについて議論する  
第10講 小説Cの参考文献を読んでまとめる  
第11講 小説Cを論じる  
第12講 小説Dについて議論する  
第13講 小説Dの参考文献を読んでまとめる  
第14講 小説Dを論じる  
第15講 気になる文化現象について議論する

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
演習で扱う作品のテキスト、論文は、プリントにして配布します。その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

**担当者から一言**  
「専門演習 a」では、作者や時代・社会状況など、作品の背景となる情報の調査や、先行研究についての調査など、より専門的な手法で1つの作品の分析を深め、新たな視点、切り口で考察する、より実践的な研究手法を体験します。学問の醍醐味を味わいましょう。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	鶴田 利恵	PSS3001	前学期 必修

**授業のねらい**

- 男女共に働きやすい環境作りをしている企業や、高齢者や障害者に対して心配りをしている企業、ユニークな取り組みをしている企業を訪問して記事にします(グループワーク)。これまで、四日市ドームや近鉄四日市駅、ホンダカーズなどを訪問しました。なお、この活動は、学外のNPO法人の協力を得て行います。
- 経済に関する新聞記事を読んで、その内容、疑問に思ったことを報告し、全員でディスカッションします。

\* 上記は大学での面談講義や学外での活動が通常通り行われる場合です。活動が困難な場合は主に2を中心に行います

**到達目標**

- ①社会に出た際に必要となるコミュニケーション能力を身につけること。
- ②自分で感じたことを自分の言葉で表現できる力を身につけること。
- ③チームワークを通じて考える力や貢献できる力を身に付けること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

企業訪問の際の取り組み状況50%、新聞記事の報告内容50% フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントします。

**事前・事後学習**

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。また、それらの記事の書き方を注意深く見ながら、自分が記事を書く際の参考にする(常時)。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	富田 与	PSS3001	前学期 必修

**授業のねらい**

この演習では、プレゼンテーションの準備を中心に考えていきます。2年生の演習で進めた各自の研究テーマに関する調査をもとに、口頭によるプレゼンテーション資料を作成します。音声、文字、画像の違いを意識しながら、効果的なレジュメ、スライドの作り方や発表の構成を実践することにしたいと思います。

**到達目標**

自分のアイデアを効果的に相手に伝えることができる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**

発言等の参加 50%  
報告 50%  
口頭発表については授業内で逐次コメントする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

**事前・事後学習**

毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します(180分)。

**授業の位置づけ**

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**

- 第1講 ガイダンス、自己紹介
- 第2講 UDほっとねっとの活動報告(伊藤順子氏)
- 第3講 研修と練習① 電話によるアポ取り
- 第4講 研修と練習② 企業訪問の際のインタビュー
- 第5講 研修と練習③ 記事の書き方
- 第6講 訪問企業を決める
- 第7講 訪問企業及びその業界について調べる①
- 第8講 訪問企業及びその業界について調べる②
- 第9講 企業訪問をし、記事を書く、訪問先企業に記事の確認をする
- 第10講 企業訪問の振り返り
- 第11講 新聞記事の報告①
- 第12講 新聞記事の報告②
- 第13講 新聞記事の報告③
- 第14講 新聞記事の報告④
- 第15講 まとめ

**テキスト・教材 (参考文献含む)**

適宜指示します。

**担当者から一言**

わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

**授業の位置づけ**

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 研究テーマの確認
- 第3講 グループ分けの検討
- 第4講 口頭発表のメディア(音声、文字、画像)
- 第5講 メディアと内容の対応
- 第6講 口頭発表の準備1
- 第7講 口頭発表の準備2
- 第8講 口頭発表1
- 第9講 口頭発表2
- 第10講 口頭発表3
- 第11講 口頭発表4
- 第12講 TEDを参考に
- 第13講 再構想1
- 第14講 再構想2
- 第15講 まとめ

**テキスト・教材 (参考文献含む)**

特に指定しない。

**担当者から一言**

3年生では、自分で表現する事を考えてみましょう。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	中西紀夫 PSS3001	前学期	必修

### 授業のねらい

この専門演習では、現代社会における法の仕組みについての認識を深めることを、講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してありますが、複雑で多岐にわたる社会問題ですので関心のあるテーマを一つ選んで研究報告をしてもらいます。また、この研究はこれで終わりではなく、できれば継続性をもって引き続き図書や新聞、さらにはインターネットなども利用しながら研究内容を充実させてもらいたいと思います。そのとっかかりになる演習になればと考えております。

### 到達目標

これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、就職活動などでも困らないように最新の社会問題についても取り上げます。最終的な到達目標は、各自が入手した資料や新聞等の関係資料も照らし合わせたくうえで、レジュメを基にした報告を行い、みんなで議論するところまでを考えています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。  
 受講態度 50%  
 発表内容 30%  
 レポート 20%  
 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと(1日30分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	松井真理子 PSS3001	前学期	必修

### 授業のねらい

「社会課題の発見と解決」をテーマに、以下のことに取り組みます。  
 1 信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。→資料を探す力、まとめる力  
 2 作成した資料を使って発表する →プレゼンテーション力  
 3 発表に基づき、学生同士が討論を行う →討論する力  
 4 研究計画を作成し、それに基づく研究を行う→ 企画力、政策提言力

### 到達目標

- 1 現代におけるさまざまな社会課題を理解する。
- 2 社会課題の背景にある構造を理解する。
- 3 的確な文献調査ができる。
- 4 市民社会を理解する。
- 5 政策提言という視点を持つ。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢 80%  
 レポートの内容 20%  
 なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

### 事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
 授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
 (授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

<b>授業の位置づけ</b> プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。
---

### 授業計画

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 第1講  | ガイダンス                  |
| 第2講  | 研究テーマ及び報告の順番の決定等       |
| 第3講  | 法と裁判                   |
| 第4講  | 民事裁判                   |
| 第5講  | 刑事裁判                   |
| 第6講  | 裁判員制度①                 |
| 第7講  | 裁判員制度②                 |
| 第8講  | 憲法改正問題                 |
| 第9講  | 国家機密と国民の知る権利           |
| 第10講 | 国内法と国際法                |
| 第11講 | 公害・環境対策と法              |
| 第12講 | 手形・小切手①                |
| 第13講 | 手形・小切手②                |
| 第14講 | 独占禁止法                  |
| 第15講 | まとめ、レポート提出(研究報告したテーマで) |

### テキスト・教材 (参考文献含む)

必要に応じて、資料を配付します。

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座やスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

<b>授業の位置づけ</b> 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。
---

### 授業計画

- |      |                  |
|------|------------------|
| 第1講  | ガイダンス・地域課題の検討(1) |
| 第2講  | 地域課題の検討(2)       |
| 第3講  | 地域課題の検討(3)       |
| 第4講  | 現状把握(1)          |
| 第5講  | 現状把握(2)          |
| 第6講  | 現状把握(3)          |
| 第7講  | 研究方法の検討(1)       |
| 第8講  | 研究方法の検討(2)       |
| 第9講  | 文献調査と討論(1)       |
| 第10講 | 文献調査と討論(2)       |
| 第11講 | 文献調査と討論(3)       |
| 第12講 | 文献調査と討論(4)       |
| 第13講 | 文献調査と討論(5)       |
| 第14講 | 中間まとめの作成         |
| 第15講 | 全体討論             |

### テキスト・教材 (参考文献含む)

教員が提供する教材を使います。

### 担当者から一言

可能であれば、夏休みに現地調査を行います。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	三田泰雅	PSS3001	前学期 必修

**授業のねらい**  
この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。はじめにゼミ全体のテーマを一つ用意し、本を読みまします。その後いくつかのグループに分かれて、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者はデータを集め、整理と分析を行なって成果を発表します。また他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないまします。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。

**到達目標**  
①社会的な見方や考え方を身につける  
②データを取集・分析する力を身につける  
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける  
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
(課題と評価) 報告回での報告30%、期末レポート20%、授業への参加度50%  
※報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。  
(フィードバック) 報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論する。

**事前・事後学習**  
報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと(1日40分)

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 各自の関心を紹介する  
第3講 本を読む準備  
第4講 文献の報告と議論①  
第5講 文献の報告と議論②  
第6講 文献の報告と議論③  
第7講 文献の報告と議論④  
第8講 文献の報告と議論⑤  
第9講 グループワークの準備1  
第10講 グループワークの準備2  
第11講 グループ報告①  
第12講 グループ報告②  
第13講 グループ報告③  
第14講 グループ報告④  
第15講 合同報告会

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房。

**担当者から一言**  
世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習 a	科目 ナンバリング	3年次	2単位
	若山裕晃	PSS3001	前学期 必修

**授業のねらい**  
本演習では、2年次に取り組んだ研究を展開するために、追加の情報を取集し、論文の冒頭部分(はじめに)を作成し発表する。

**到達目標**  
文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
論文の進行状況(50%)、プレゼンテーション(50%)。  
レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、研究テーマに関連した資料取集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 関心のあるスポーツの話題についてスピーチ  
第3講 2年次作成のレポートの振り返り  
第4講 2年次作成のレポートの振り返り  
第5講 論文作成準備(追加情報取集)  
第6講 論文作成準備(追加情報取集)  
第7講 論文作成準備(追加情報取集)  
第8講 論文作成準備(追加情報取集)  
第9講 論文作成準備(追加情報取集)  
第10講 論文作成(はじめに)  
第11講 論文作成(はじめに)  
第12講 論文作成(はじめに)  
第13講 論文中間発表・質疑応答・討論  
第14講 論文中間発表・質疑応答・討論  
第15講 総括及び夏期休暇課題の説明

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
特に指定しないが、適宜指示する。

**担当者から一言**  
学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

専門演習 b  奥原 貴士	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

### 授業のねらい

専門演習 a に続いて、財務会計や実証研究のテキストを輪読することで会計に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、研究の内容を理解する能力を身につけることも目的とします。そして、実際に分析をしてその内容を発表します。これらでは担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。卒業研究のテーマについては適宜話し合いを行います。

### 到達目標

会計や研究方法の専門知識を習得したうえで、実際に分析ができるようになることを到達目標とします。そして、卒業研究のテーマを見つけることも到達目標です。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(発表内容、発言回数など) 60%  
課題レポート 40%  
発表や課題についてそのつどコメントします。

### 事前・事後学習

各自、分析を進めてください。また、新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こちらの企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください。そして、卒業研究のテーマの候補を考えてください。(毎日90分以上)

専門演習 b  鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

### 授業のねらい

このゼミでは、自由にテーマを設定し、自分で考え、調べ、結果を残すことができる能力を身につけ、就職活動につなげることが最大のテーマといえる。ゼミでは、就職も意識しながら、社会人として最低限持っていてほしい常識について学習する。具体的には、イベント参加などを通して「まちづくり」に参画しながら地域の問題点を考え、懸賞論文提出を目標に研究を進める。また、就職活動キックオフ(企業研究とインターンシップ参加)を通して社会を観る力を身につけることを重視していく。

### 到達目標

社会との接点を持つこと、学生懸賞論文で受賞レベルに到達することを通じ、就職活動のキックオフにつなげる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。  
課題は、添削やコメントを記して返却する。

### 事前・事後学習

懸賞論文の作成作業は、講義の時間以外に20時間ほどをかけること。また、自分の進路を決めるためにネットや新聞から情報を集め(20時間ほどをかける)、人間力を高める。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- |      |                       |
|------|-----------------------|
| 第1講  | ガイダンス                 |
| 第2講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第3講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第4講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第5講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第6講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第7講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第8講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第9講  | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第10講 | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第11講 | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第12講 | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第13講 | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第14講 | 輪読と分析の発表(発表・ディスカッション) |
| 第15講 | 卒業研究のテーマに関するディスカッション  |

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは適宜指定します。  
論文は配布します。

### 担当者から一言

発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。  
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- ガイダンス;夏休みを振り返り、今後のゼミ活動のビジョンをかためる
- CSC(キャリアサポートセンター)登録用紙の自己PR文作成と添削
- 全員の自己PRを交換して互いにコメントする
- 懸賞論文執筆作業①(情報収集と整理;PC教室)
- 懸賞論文執筆作業②(章立ての完成;PC教室)
- 懸賞論文執筆作業③(イントロとテーマ背景の作成;PC教室)
- 懸賞論文執筆作業④(途中経過の報告会;PC教室)
- 懸賞論文執筆作業⑤(論文執筆と添削指導;PC教室)
- 懸賞論文執筆作業⑥(論文執筆と添削指導;PC教室)⇒提出(A4×8ページ)
- 就職活動キックオフ懇談会
- 就職活動ネット裏ワザ指導①(インターネット活用;PC教室)
- 就職活動ネット裏ワザ指導②(インターネット活用;PC教室)
- インターンシップにエントリー(社会を観る能力の養成;PC教室)
- インターンシップに参加した感想を述べ合う
- 30社のエントリー予定リスト完成(PC教室)

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 担当者から一言

鬼頭ゼミの誇りは、過去、就職を希望して活動した者が全てほぼ希望に近い就職を決めてきたことである。これは、ゼミ活動の中で身につけた人間力を人前で表現できる能力が発揮できたからと考える。積極的にゼミ活動に参加してほしい。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	小泉大亮	PSS3002	後学期 必修

### 授業のねらい

本演習では、卒業研究のテーマの選定につなげることを目的とし、個人で自由に調査・研究テーマを設定し、資料をまとめて発表する。

### 到達目標

発表テーマの選定、レポート作成、プレゼンテーションを自身でおこなえるようにする。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
 ・授業への取り組み姿勢(レポート・発表などの準備):50%  
 ・レポート・発表:50%  
 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)  
 発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス 演習の概要
- 第2講 研究テーマの検討①
- 第3講 研究テーマの検討②
- 第4講 資料情報収集①
- 第5講 資料情報収集②
- 第6講 レポート・PCプレゼンテーション作成①
- 第7講 レポート・PCプレゼンテーション作成②
- 第8講 レポート・PCプレゼンテーション作成③
- 第9講 PCプレゼンテーション・質疑応答①
- 第10講 PCプレゼンテーション・質疑応答②
- 第11講 PCプレゼンテーション・質疑応答③
- 第12講 PCプレゼンテーション・質疑応答④
- 第13講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑤
- 第14講 PCプレゼンテーション・質疑応答⑥
- 第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

### 担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

専門演習 b	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	小林慶太郎	PSS3002	後学期 必修

### 授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？  
 このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思っています。

### 到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
 ・課題への取り組み状況:45%  
 ・授業中の発言・受講態度:55%  
 なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

### 事前・事後学習

自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。  
 そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。  
 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 課題の設定
- 第3講 インターネット検索
- 第4講 データの収集
- 第5講 文献調査
- 第6講 論点整理
- 第7講 ヒアリング調査
- 第8講 情報整理
- 第9講 補充調査
- 第10講 レジュメ作成
- 第11講 レジュメ完成
- 第12講 パワーポイント
- 第13講 ジョイントセミナー反省会
- 第14講 カンファレンス準備
- 第15講 学部カンファレンス

- ※ 基本的に毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。
- ※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

### 担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習 b  高田晴美	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
日本近現代文学のゼミです。研究発表会に向けて、研究テーマ（文学作品や文化現象など）を自分たちで設定し、調べる項目も自分たちで考え、様々な視点、手法でそのテーマについて取り組み、それを研究発表という形にすることを試みます。文学作品やサブカルチャーなどの文化現象には、興味深い研究の種が潜んでいます。それを自分たちで見つけて、調理することで、アイデアを生む力、調査能力、分析力、考察能力、論旨をまとめる力、プレゼン能力等、総合的な力を身につけることができるでしょう。

**到達目標**  
・関連情報を自分で調べ、考察する能力を身につける。  
・自分なりの論点で客観的・学術的に論じるスキルを向上させる。  
・自分の論を文章でまとめるスキルを向上させる。  
・口頭発表・質疑応答のスキルを向上させる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・毎回のコメントと受講態度 60%  
・発表と質疑応答の内容 40%  
原則的に遅刻や欠席は認めません。発表担当者が遅刻・欠席した場合は、単位を与えません。発表や議論に関して、授業内で適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
各自、調査をコツコツと進め、その報告や発表の準備をする（数時間）。

専門演習 b  鶴田利恵	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
日本経済や世界経済の諸問題について書かれたテキストを読みながら、解決策や今後の課題を理解していきます。授業では、鶴田による解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

**到達目標**  
日本経済や国際経済についての理解を深めるとともに考える力や視野を広く持つ力を身につけること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業内での報告や発言内容70%、レポート(2回)30%  
なお、2回のレポート提出については、コメントをつけて以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。また、それらの記事の書き方を注意深く見ながら、自分が記事を書く際の参考に（常時）。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 研究テーマ(取り上げる作品、文化現象等)を決める  
第3講 テーマについて、議論したうえで、調査項目を設定する  
第4講 調査内容を各自発表①  
第5講 調査内容を各自発表②  
第6講 調査内容を各自発表③  
第7講 チームに分かれてテーマを絞る  
第8講 発表準備①  
第9講 発表準備②  
第10講 発表準備③  
第11講 ゼミ内チーム対抗研究発表会  
第12講 さらに発表内容を練る①  
第13講 さらに発表内容を練る②  
第14講 発表練習  
第15講 研究発表会  
研究発表準備の進捗状況次第では、進め方に融通をきかせる可能性があります。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
設定したテーマにもよりますが、演習で扱う作品のテキストは、短い作品はプリントにして配布します。長い作品は購入するか図書館等で借りてください。  
その他、適宜、図書館等の資料を参照してください。

**担当者から一言**  
「専門演習 b」では、「わかもの学会予選」での研究発表を想定して、ゼミで研究テーマ(作品、文化現象等)を設定し、色々な角度で調査したり分析して、何らかの論を立て、口頭発表・発表資料の準備を行います。文学研究は基本的には個人プレーなのですが、たまにはチームプレーも楽しんでみましょう。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、自己紹介  
第2講 日本の景気は今どうなっていますか？  
第3講 物価が下がると得したきがするの、どうして困るのですか？  
第4講 これから給料はちゃんと上がるのですか？  
第5講 「働き方改革」は順調に進んでいるのですか？  
第6講 「ダイバーシティ」は日本企業でも取り入れられていますか？  
第7講 外国人労働者は今後どのくらい増えるのですか？  
第8講 M&Aや企業提携はこれからも増えますか？+レポート  
第9講 円高と円安、どちらが日本にとってプラスですか？  
第10講 消費税10%で日本経済はどうなりますか？  
第11講 日本は借金し続けて大丈夫ですか？  
第12講 東京五輪後の経済はどうなりますか？  
第13講 2021年はバイデン政権下でアメリカ経済は今後はどうなりますか？（補助資料使用）  
第14講 欧州はどこへ向かうのでしょうか？  
第15講 これから注目すべきアジアの新興国はどこですか？+レポート

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
コピーを配布します。  
使用テキスト：日本経済新聞社編「Q&A日本経済のニュースがわかる！2020年版」日本経済新聞出版社（2019年）1,500円（税抜き）

**担当者から一言**  
わからないことをどんどん声にして、みんなで少しずつ考えていきましょう。ただし、遅刻、私語、携帯電話の使用は禁止します。注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。



専門演習 b  富田 与	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

### 授業のねらい

この演習では、論文作成を中心に考えます。前期までに考えてきた各自のテーマを論文のスタイルで表現してみましょう。その準備段階として、「一文作文」、「構成」、「一枚作文」という3つの作業を順番に進めます。最後には、足りないデータを探す方法を考えたいと思います。

### 到達目標

自分で論文作成の準備ができる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

発言等の参加 50%  
報告 50%  
一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

### 事前・事後学習

毎時間、予習と復習を兼ねた課題を出します(180分)。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 研究テーマの確認
- 第3講 論文とは
- 第4講 論文の仕組み
- 第5講 「一文作文」の作成 1
- 第6講 「一文作文」の作成 2
- 第7講 「一文作文」から「構成」へ
- 第8講 「パラグラフ・ライティング」1
- 第9講 「パラグラフ・ライティング」2
- 第10講 「構成」から「一枚作文」へ 1
- 第11講 「構成」から「一枚作文」へ 2
- 第12講 「一枚作文」の合評会 1
- 第13講 「一枚作文」の合評会 2
- 第14講 追加データの確認
- 第15講 まとめ

### テキスト・教材（参考文献含む）

特に指定しない。

### 担当者から一言

3年生では、自ら表現することを中心に考えていきます。

専門演習 b  中西紀夫	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

### 授業のねらい

この専門演習では、環境法の仕組みを理解することを講義のねらいとしています。各講ごとのテーマは講義計画にも示してある通りですが、複雑で多岐にわたる環境問題ですので関心のあるテーマの一つを選んで、研究報告をしてもらいます。これまでの演習でも指摘しておきましたが、ここで報告した研究はこれで終わりではなく、できるだけ継続性をもって認識を深めていってほしいと考えています。

### 到達目標

到達目標としては、ここまでで取得した知識を土台として、卒業までの研究を視野に入れたものになりたいと考えています。前学期の演習では社会環境問題を素材としましたが、ここでは主に自然環境問題を素材とします。学問の構築だけでなく、就職活動でも困らないように最新の課題も議論し認識を深めます。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 50%  
発表内容 30%  
レポート 20%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと(1日30分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。また、本学の情報センターも積極的に利用しましょう。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 研究テーマ及び報告の順番の決定
- 第3講 公害と法
- 第4講 環境法の捉え方
- 第5講 環境法の伝統的な法体系
- 第6講 公害・環境規制法①
- 第7講 公害・環境規制法②
- 第8講 環境対策と法規制の概要①
- 第9講 環境対策と法規制の概要②
- 第10講 エネルギー問題①
- 第11講 エネルギー問題②
- 第12講 環境アセスメント
- 第13講 廃棄物・リサイクル
- 第14講 まとめ、レポート報告(提出)
- 第15講 学部の研究発表会

### テキスト・教材（参考文献含む）

必要に応じて、資料を配付します。

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。

専門演習 b  松井真理子	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

<b>授業のねらい</b>
<p>前学期に続き、選択した地域課題について研究を深め、オリジナルな政策提言を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 信頼できる資料を探して、わかりやすくまとめる。→資料を探す力、まとめる力</li> <li>2 作成した資料を使って発表する →プレゼンテーション力</li> <li>3 発表に基づき、学生同士が討論を行う →討論する力</li> <li>4 課題解決につながる政策提言を行う → 企画力、政策提言力</li> </ol>

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代におけるさまざまな社会課題を理解する。</li> <li>2 社会課題の背景にある構造を理解する。</li> <li>3 市民社会を理解する。</li> <li>4 政策提言という視点を持つ。</li> <li>5 自ら研究を行う力を身に付ける。</li> </ol>

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
<p>授業の取り組み姿勢 80% レポートの内容 20%</p> <p>なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。</p>

<b>事前・事後学習</b>
<p>(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度) 授業内容について事前に予習しておくこと(60分) (授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)</p>

<b>授業の位置づけ</b>
<p>地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>

<b>授業計画</b>
<p>第1講 ガイダンス これまでの振り返りと今後の研究計画の作成 第2講 研究の遂行(1) 第3講 研究の遂行(2) 第4講 研究の遂行(3) 第5講 研究の遂行(4) 第6講 研究の遂行(5) 第7講 研究の遂行(6) 第8講 現場との対話 第9講 対話の振り返り 第10講 レポート作成・発表原稿作成 第11講 レポート作成・発表原稿作成 第12講 レポート作成・発表原稿作成 第13講 レポート作成・発表原稿作成 第14講 レポート作成・発表練習 第15講 レポート完成・発表</p>

<b>テキスト・教材 (参考文献含む)</b>
<p>教員が提供する教材を使います。</p>

<b>担当者から一言</b>
<p>1年間の調査研究の総まとめを行います。</p>

専門演習 b  三田泰雅	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

<b>授業のねらい</b>
<p>この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。前学期に引きつづき、個別テーマを立てて調査を進めます。履修者は自分でデータや資料を集め、分析を行なって成果を発表します。また他者の発表を聞いてコメントし、意見交換を行ないます。データの使い方を身につけ、他者と議論する力を養うことがこのゼミのねらいです。</p>

<b>到達目標</b>
<ol style="list-style-type: none"> <li>①社会的な見方や考え方を身につける</li> <li>②データを収集・分析する力を身につける</li> <li>③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける</li> <li>④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける</li> </ol>

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
<p>報告回での報告30%、期末レポート20%、授業への参加度50%として評価します。報告担当回に欠席した場合、原則として単位を与えないので注意すること。期末レポートとして卒業研究の研究計画書を作成します。中間報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。</p>

<b>事前・事後学習</b>
<p>報告内容に関する資料や文献に目を通しておくこと(1日40分)</p>

<b>授業の位置づけ</b>
<p>プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。</p>

<b>授業計画</b>
<p>第1講 ガイダンス 第2講 各自の関心を紹介する 第3講 データの扱い方 第4講 報告と議論① 第5講 報告と議論② 第6講 報告と議論③ 第7講 報告と議論④ 第8講 報告と議論⑤ 第9講 報告と議論⑥ 第10講 報告と議論⑦ 第11講 報告と議論⑧ 第12講 報告と議論⑨ 第13講 コメント力を磨く 第14講 まとめ① 第15講 まとめ②</p>

<b>テキスト・教材 (参考文献含む)</b>
<p>白井利明・高橋一郎, 2013, 『よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房。</p>

<b>担当者から一言</b>
<p>世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。</p>

専門演習 b  若山裕晃	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PSS3002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
本演習では、卒業研究のテーマ選定を意識しつつ、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。

**到達目標**  
文献検索、論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
論文の進行状況(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

専門演習 c  奥原貴士	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。加えて、実証研究や財務諸表分析のテキストを輪読することで研究に関する専門的な知識を習得することを目的とします。また会計の学術論文についても輪読を行うことで、先行研究の内容を知識として蓄積することも目的とします。これら輪読においても担当者が発表を行い、続いて全員でディスカッションをすることで理解を深めていきます。

**到達目標**  
実証研究や財務諸表分析の専門的知識を習得したうえで、卒業論文の作成を進めることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
平常点(発表内容、発言回数など) 60%  
卒業論文に関する研究の進捗状況 40%  
なお、発表・発言については適宜コメントをします。

**事前・事後学習**  
各自の研究テーマに関する先行研究を読んで知識を深めてください。そして、卒業論文の執筆を進めていってください(毎日90分以上)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 論文作成準備(追加情報収集)  
第3講 論文作成準備(追加情報収集)  
第4講 論文作成準備(追加情報収集)  
第5講 論文作成(方法)  
第6講 論文作成(方法)  
第7講 論文作成(方法)  
第8講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める  
第9講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める  
第10講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める  
第11講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める  
第12講 「はじめに」及び「方法」の内容に沿って研究を進める  
第13講 論文中間発表・質疑応答・討論  
第14講 論文中間発表・質疑応答・討論  
第15講 総括

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
特に指定しないが、適宜指示する。

**担当者から一言**  
学生の積極的な研究及び討論への参加を期待する。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 研究の発表、テキストの輪読  
第3講 研究の発表、テキストの輪読  
第4講 研究の発表、テキストの輪読  
第5講 研究の発表、論文の輪読  
第6講 研究の発表、テキストの輪読  
第7講 研究の発表、テキストの輪読  
第8講 研究の発表、テキストの輪読  
第9講 研究の発表、論文の輪読  
第10講 研究の発表、テキストの輪読  
第11講 研究の発表、テキストの輪読  
第12講 研究の発表、テキストの輪読  
第13講 研究の発表、論文の輪読  
第14講 研究の発表、テキストの輪読  
第15講 卒業論文の内容に関するディスカッション

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストは適宜指定します。  
論文は配布します。

**担当者から一言**  
研究をどんどん進めてください。  
発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。  
日簿簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習 c  鬼頭 浩文	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
ゼミでは、就職指導もしながら、生きる力を身につけるさまざまな演習を行う。就職活動は、この専門演習cの時期と重なる。これをプラスに捉え、就職活動を通して社会を知り、自分について見つめなおし、内定を得た企業や日本社会のために自分がなすべきことを考える機会と考える。就職試験を通して企業の持つカルチャーを感じ、社会を自由自在に泳ぐ感性を身につけよう。社会のために役立つ仕事を見つけ、自己実現と生活の両立ができるよう、生きる力を強化しよう。

**到達目標**  
ゼミは就職活動のための研究で始まり、就職先が決定したものは社会に出る準備を整えることが到達目標となる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は、ゼミでの提出物(5割)と、プレゼンテーション(5割)から総合的に判断する。  
課題は、添削やコメントを記して返却する。

**事前・事後学習**  
課題をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ準備学習・振り返り学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。

専門演習 c  小泉 大亮	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
卒業研究にむけての研究指導。教員や他のメンバーと意見交換しながら卒業研究テーマを確定する。

**到達目標**  
卒業研究のテーマを確定し、論文作成や発表に向けた計画をたてる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・授業への取り組む姿勢(レポート・発表などの準備):50%  
・レポート・発表:50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
論文抄読用の資料準備(90分)  
発表用のレジュメやスライドの準備(90分)

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

- 授業計画**
1. ガイダンス:就職活動の中間報告会
  2. エントリーシートに磨きをかける
  3. 企業研究とディスカッション
  4. 課題作成に向けた準備
  5. 自分が進むキャリアの調査
  6. 自分が進むキャリアの研究
  7. 自分が進むキャリアに関する小論文を作成
  8. 自分が進む業界の調査
  9. 自分が進む業界の研究
  10. 自分が進む業界に関する小論文の作成
  11. 自分が就職する企業のライバルを調査
  12. 自分が就職する企業のライバルを研究
  13. 自分が就職する企業のライバルに関する小論文を作成
  14. 研究発表会①
  15. 研究発表会②

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

**担当者から一言**  
できるだけ早く内定をとり、社会に出るための準備をして、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

- 授業計画**
- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1講  | ガイダンス 演習の概要                |
| 第2講  | 研究テーマに関する意見交換①グループディスカッション |
| 第3講  | 研究テーマに関する意見交換②グループディスカッション |
| 第4講  | 研究テーマに関する意見交換③グループディスカッション |
| 第5講  | 研究テーマに関する意見交換④グループディスカッション |
| 第6講  | 卒業研究の概要作成①                 |
| 第7講  | 卒業研究の概要作成②                 |
| 第8講  | 卒業研究の概要作成③                 |
| 第9講  | 卒業研究の概要作成④                 |
| 第10講 | 卒業研究のスケジュール作成①             |
| 第11講 | 卒業研究のスケジュール作成②             |
| 第12講 | 研究の進捗状況報告①                 |
| 第13講 | 研究の進捗状況報告②                 |
| 第14講 | 研究の進捗状況報告③                 |
| 第15講 | 夏期休暇中の研究打ち合わせ              |

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

専門演習 c  小林慶太郎	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思えます。

### 到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
・課題への取り組み状況:45%  
・授業中の発言・受講態度:55%  
なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

### 事前・事後学習

自身が担当することになった回については、レジュメを作成して提出してもらいます(300分程度)。  
そのほか、担当回以外も、関連情報や分からない言葉などは調べておくようにしてください(60分程度)。  
また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(毎日15分以上)。

専門演習 c  高田晴美	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

日本近現代文学のゼミです。今期は各自、卒業論文の執筆に向けて、取り扱う作品や作家、文化現象を決め、テーマを設定し、論じていくための準備をしていきます。そのために、めいめいが扱う作品もしくはその作家の別作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の論の手がかりを得てもらいたいと思えます。皆さんの研究テーマに応じた、多種多様な作品を皆で読んでいきましょう。

### 到達目標

- ・卒業論文のテーマを自分で設定する。
- ・地道なテキスト・文献読み、調査を行う
- ・論を立て、展開し、まとめる能力を養う。
- ・みんなでディスカッションする能力を養う。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

- ・毎回のコメントと受講態度 70%
  - ・発表と質疑応答の内容 30%
- それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。

### 事前・事後学習

- ・毎回、次回までに、次回扱う作品や文献について読んでくること。(1時間程度)
- ・それと並行して、自分の卒業論文のための準備を進めていくこと。(数時間)

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 「民主主義の学校」地方自治
- 第3講 地方自治の本旨と日本国憲法
- 第4講 団体自治と地方自治体の種類
- 第5講 住民自治と選挙・直接請求
- 第6講 二元代表制と議会・首長の役割
- 第7講 自治体行政と公務員
- 第8講 条例・規則と行政手続
- 第9講 計画行政と予算
- 第10講 地方自治のルーツを考える —英米型と大陸型—
- 第11講 日本の前近代の地方自治の歴史
- 第12講 近代日本の地方自治と地方行政
- 第13講 現代日本の地方自治と地方分権改革
- 第14講 小規模多機能自治 —地域における小さな自治—
- 第15講 市民参加と協働

※ 第2講以降は毎回、プレゼンテーションとディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。夏休みには、ゼミ旅行も予定したいと思えます。  
※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきますが、さしあたって、新藤宗幸「日曜日の自治体学」(東京堂出版、2013年、2,200円+税)は、一読しておいてください。

### 担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。就職活動との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう!

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、卒論について
- 第2講 卒論で扱う作品の報告
- 第3講 小説を読む
- 第4講 1人目の研究対象について議論
- 第5講 2人目の研究対象について議論
- 第6講 小説を読む
- 第7講 3人目の研究対象について議論
- 第8講 4人目の研究対象について議論
- 第9講 句会
- 第10講 5人目の研究対象について議論
- 第11講 6人目の研究対象について議論
- 第12講 気になる文化現象について議論する
- 第13講 7人目の研究対象について議論
- 第14講 小説を読む
- 第15講 卒業研究中間発表

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト等については、適宜プリントを配布するか、購入してもらいます。各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。

### 担当者から一言

ゼミを通して、じっくりと自分の卒業論文のための準備をしていくとともに、並行して、他のメンバーの卒業研究の様子を知ること、研究のテーマやスタイル等の多様性も楽しみましょう。

専門演習 c  鶴田 利恵	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

3年間の大学生活の中で培ってきた知識をもとに各自で研究テーマを設定した上で、それに関する文献や情報を収集し、分析と考察を行います。授業では各自の報告だけでなく、私を含めたみなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

### 到達目標

自分で収集した文献をまとめて報告します。  
最終的には専門演習 d において研究の成果を報告できるように積みかさねていきます。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

文献収集の取り組み状況50%、研究報告内容50%  
フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。

### 事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

第1講 ガイダンス、3年生との顔合わせ  
第2講 研究テーマの設定  
第3講 文献報告①  
第4講 文献報告②  
第5講 文献報告③  
第6講 3年生の指導  
第7講 文献報告④  
第8講 文献報告⑤  
第9講 文献報告⑥  
第10講 文献報告⑦  
第11講 研究報告①  
第12講 研究報告②  
第13講 研究報告③  
第14講 研究報告④  
第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

適宜指示をします。

### 担当者から一言

4年生として、3年生への指導(取材方法や記事の書き方)も行ってもらいます。人を指導することで自分も成長できるという経験をしてください。

専門演習 c  富田 与	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

この演習では、卒業研究に向けた調査を中心とした作業と議論を進めていきます。作業は参加者各人で進めてもらいますが、議論を通じて、資料の妥当性を中心に資料批判をしていくことにしたいと思います。

### 到達目標

必要な資料の探索と見つけた資料の資料批判ができるようになる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

調査の達成度 50%  
報告の内容 50%  
一文作文を評価の課題とし、一文作文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

### 事前・事後学習

必要な調査を進め、報告の準備をする(180分程度)。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

第1講 ガイダンス  
第2講 研究テーマの確認  
第3講 必要な資料の報告と検討1  
第4講 必要な資料の報告と検討2  
第5講 必要な資料の報告と検討3  
第6講 見つけた資料の報告と検討1  
第7講 見つけた資料の報告と検討2  
第8講 見つけた資料の報告と検討3  
第9講 再構想1  
第10講 再構想2  
第11講 必要な資料の報告と検討1  
第12講 必要な資料の報告と検討2  
第13講 一文作文の再構成1  
第14講 一文作文の再構成2  
第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に指定しない。

### 担当者から一言

各自のテーマに沿った調査を進めるなかで、そこで出会った「情報」の意味を問い続けてください。

専門演習 c  中西紀夫	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

この専門演習では、環境法を中心に扱います。とくに都道府県が制定する上乗せ条例等に関する法的問題点や、国際標準化機構が発行するISO14001規格に関わる専門的な内容、さらには循環型社会構築のための知識を担当教員が実際に経験した実践的なノウハウも取り入れながら、現代の環境マネジメントシステムにもマッチできるように、できるだけ新しい素材を使いながら教授します。

### 到達目標

これまでの演習で取得した知識を土台として、残りの大学生活においての各自の研究につながるものにしたいと考えています。また、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築だけでなく、就職活動などでも困らないように最新の社会問題を議論することにも重点を置きたいと思います。最終的な到達目標は、全員が卒業研究に向けた進捗状況の報告を行い、経過報告としてレポートにまとめるところまでを考えています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。

受講態度 50%

発表内容 30%

レポート 20%

授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

毎日、新聞を読むこと(1日30分)はもちろん、毎回、予習90分と復習90分はお願いしたいと思います。内容は授業中にお話ししますが、分からなかったことも質問したり自分でも調べるようにしてください。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

- |      |                |
|------|----------------|
| 第1講  | ガイダンス          |
| 第2講  | 条例による規制とその問題点① |
| 第3講  | 条例による規制とその問題点② |
| 第4講  | ISO14001と環境法①  |
| 第5講  | ISO14001と環境法②  |
| 第6講  | 循環型社会構築のために①   |
| 第7講  | 循環型社会構築のために②   |
| 第8講  | 卒業研究の進捗状況の報告①  |
| 第9講  | 卒業研究の進捗状況の報告②  |
| 第10講 | 卒業研究の進捗状況の報告③  |
| 第11講 | 卒業研究の進捗状況の報告④  |
| 第12講 | 卒業研究の進捗状況の報告⑤  |
| 第13講 | 卒業研究の進捗状況の報告⑥  |
| 第14講 | 卒業研究の進捗状況の報告⑦  |
| 第15講 | まとめ、レポート提出     |

### テキスト・教材 (参考文献含む)

ガイダンスで指示します。

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

専門演習 c  松井真理子	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

### 授業のねらい

3年次の研究で身に付けた研究基礎力をベースに、より発展的に自らの研究課題を明確にし、研究論文にまとめる準備を行います。また、そのプロセスでお互いの研究を共有し、学生同士の討論を通じて、コミュニケーション力も高めます。

### 到達目標

- 1 自分の研究テーマを明確にする。
- 2 地域の課題と自分の研究テーマを結び付け、社会的な価値のある研究計画を作成する。
- 3 研究計画を作成し、研究に着手する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業の取り組み姿勢 80%

レポートの内容 20%

なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

### 事前・事後学習

(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
(授業後)学んだ内容を復習し、次の授業で質問や意見を出せるようにしておくこと(90分)

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

### 授業計画

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 第1講  | ガイダンス・研究テーマの検討(1) |
| 第2講  | 研究テーマの検討(2)       |
| 第3講  | 研究テーマの検討(3)       |
| 第4講  | 研究手法の検討(1)        |
| 第5講  | 研究手法の検討(2)        |
| 第6講  | 研究手法の検討(3)        |
| 第7講  | 研究計画の作成(1)        |
| 第8講  | 研究計画の作成(2)        |
| 第9講  | 研究計画の作成(3)        |
| 第10講 | 研究(1)             |
| 第11講 | 研究(2)             |
| 第12講 | 研究(3)             |
| 第13講 | 研究(4)             |
| 第14講 | 中間報告(1)           |
| 第15講 | 中間報告(2)           |

### テキスト・教材 (参考文献含む)

教員が提供する教材を使います。

### 担当者から一言

自分の研究テーマを持ち、研究することで、学生生活の集大成をしましょう。

専門演習 c  三田泰雅	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
履修者は卒業研究の準備を行いません。自ら文献を調べ、データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行いません。  
この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。

- 到達目標**
- ①社会的な見方や考え方を身につける
  - ②データを取集・分析する力を身につける
  - ③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身につける
  - ④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身につける
  - ⑤大学生としての文章作成能力を身につける

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
報告回での報告50%、授業への参加度50%として評価します。報告担当回に欠席した場合は、原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。

**事前・事後学習**  
報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分)  
新聞・ニュースに親しんでおくこと(1日20分)

専門演習 c  若山裕晃	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4001	前学期	必 修

**授業のねらい**  
本演習では、卒業研究のテーマを確定し、これまで習得したスポーツ科学に関する知識を基に、論文を作成し発表する。これまでの研究概要について、教員や他のメンバーと意見を交換して、卒業研究のテーマを熟考していく。

**到達目標**  
卒業研究のテーマを決定し、文献検索、卒業論文作成、プレゼンテーションを自分の意思で進める。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
論文の進行状況(50%)、プレゼンテーション(50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス
  - 第2講 各自の関心を発表する
  - 第3講 卒業研究報告①
  - 第4講 卒業研究報告②
  - 第5講 卒業研究報告③
  - 第6講 卒業研究報告④
  - 第7講 中間まとめ
  - 第8講 卒業研究報告⑤
  - 第9講 卒業研究報告⑥
  - 第10講 卒業研究報告⑦
  - 第11講 中間まとめ
  - 第12講 卒業研究報告⑧
  - 第13講 卒業研究報告⑨
  - 第14講 卒業研究報告⑩
  - 第15講 まとめ
- 各報告についてはゼミ全員でディスカッションします。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
必要に応じて資料を配布します。

**担当者から一言**  
世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス 授業の概要
  - 第2講 研究について簡単なスピーチ
  - 第3講 研究について簡単なスピーチ
  - 第4講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第5講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第6講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第7講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第8講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第9講 これまでの研究概要発表・意見交換
  - 第10講 卒業研究テーマ決定・意見交換
  - 第11講 卒業研究テーマ決定・意見交換
  - 第12講 卒業研究テーマ決定・意見交換
  - 第13講 卒業研究テーマ決定・意見交換
  - 第14講 卒業研究テーマ決定・意見交換
  - 第15講 総括及び夏期休暇課題の説明

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
特に指定しないが、適宜指示する。

**担当者から一言**  
学生の積極的な研究及び討論参加を期待する。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。



専門演習 d  奥原貴士	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	PSS4002	後学期	必修

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

<b>授業のねらい</b>
卒業論文に関する研究の発表を行い、その内容について全員でディスカッションを行うことで、研究内容を向上させていきます。

<b>授業計画</b>
第1講 ガイダンス 卒業論文の進捗状況の報告 第2講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第3講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第4講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第5講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第6講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第7講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第8講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第9講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第10講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第11講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第12講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第13講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第14講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション) 第15講 研究の発表(担当者の発表・ディスカッション)

<b>到達目標</b>
研究のレベルが高い卒業論文を完成させることを到達目標とします。加えて、発表のスキルを身につけること、積極的に発言できるようになることも目標とします。

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
平常点(発表内容、発言回数など)50% 卒業論文50% 発表のつどコメントします。

<b>テキスト・教材(参考文献含む)</b>
テキストや論文に関しては適宜指定します。

<b>事前・事後学習</b>
先行研究をしっかりと読んで、研究を進めてください(毎日90分以上)。

<b>担当者から一言</b>
発表、ディスカッションへ積極的に参加してください。 日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

専門演習 d  鬼頭浩文	科目 ナンバリング	4年次	2単位
	PSS4002	後学期	必修

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

<b>授業のねらい</b>
大学生生活の最後の半年を、卒業研究を完成させることに専念したい。卒業研究(5000字程度の論文)は、懸賞論文をベースにより深く探求し、研究結果をプレゼン(パワーポイントで作成して発表)で人に伝えることを目標とする。なお、この演習と別に卒業論文(2万字程度)を書き上げて2単位の取得を目指す場合は、履修登録を別途することを忘れないように。詳しくは履修要綱を参照のこと。

<b>授業計画</b>
1. ガイダンス 2. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた調査 3. 卒業研究(懸賞論文のブラッシュアップ)に向けた準備研究 4. 設定したテーマに関する情報収集と整理 5. 設定したテーマに関する情報収集と研究 6. 設定したテーマに関する背景の執筆 7. 設定したテーマに関する概要の執筆 8. テーマを深く探求するための研究整理 9. テーマを深く探求する考察 10. 卒論執筆 11. 卒論校閲 12. プレゼン準備 13. プレゼン作成 14. 研究発表会 15. 学部研究発表会

<b>到達目標</b>
卒業研究を完成させ、全員がゼミの中での発表会で頂点をめざして切磋琢磨することを通じ、考える力と伝えるパワーを修得する。

<b>成績評価方法・課題・フィードバックの方法</b>
成績は、卒業研究(5割)と、プレゼン(5割)から総合的に評価する。 課題は、添削やコメントを記して返却する。

<b>テキスト・教材(参考文献含む)</b>
テキストは、とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

<b>事前・事後学習</b>
卒業研究をやり遂げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、就職にも役立つ学習をする。これらの学習には、毎講義3時間ほどを要する。

<b>担当者から一言</b>
社会に出るための準備をしつつ、じっくり卒業研究に取り組んでほしい。

専門演習 d  小泉大亮	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

### 授業のねらい

本演習では、これまでの演習で身につけた知識や情報を利用し、卒業論文作成および卒業発表を展開する。

### 到達目標

卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
 ・授業への取り組む姿勢(レポート・発表などの準備):50%  
 ・レポート・発表:50%  
 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

論文抄読用の資料準備(45分)  
 発表用のレジュメやスライドの準備(45分)

専門演習 d  小林慶太郎	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

### 授業のねらい

差別、いじめ、うつ病、エイズ、過労死、失業…。政府が市民を守ってくれるはずなのに、なぜ、このような問題が起きるのでしょうか？  
 このゼミ(専門演習)では、身近な地域での問題の解決策(政策)や、その問題解決策を実行していく体制(行政や地域の様々な団体など)、あるいは、そうした解決策を決定する仕組み(政治)等について、その基礎的な知識を身につけていくとともに、それらがどのようなあり方であることが望ましいのかについても、みんなで考えていきたいと思えます。

### 到達目標

身近な地域の問題を発見し、その解決策を考えていく力を身につけることが、このゼミの到達目標です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。  
 ・課題への取り組み状況:45%  
 ・授業中の発言・受講態度:55%  
 なお、課題として作成されたレジュメについては、授業の中で講評します。

### 事前・事後学習

毎回、何らかのことを調べたり整理したりレジュメを作成したりして来てもらいます(150分程度)。  
 また、社会のさまざまな問題に関心を持ち、新聞やテレビのニュースなどに、よく目を通しておいてください(30分)。

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス 演習の概要
- 第2講 卒業研究進捗状況の報告①
- 第3講 卒業研究進捗状況の報告②
- 第4講 卒業研究進捗状況の報告③
- 第5講 卒業研究進捗状況の報告④
- 第6講 卒業研究進捗状況の報告⑤
- 第7講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換①
- 第8講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換②
- 第9講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換③
- 第10講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換④
- 第11講 卒業研究発表プレゼンテーションと意見交換⑤
- 第12講 卒業研究発表
- 第13講 卒業研究発表
- 第14講 卒業研究報告会
- 第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。

### 担当者から一言

発表担当者は、責任を持って資料を準備するように。

<b>授業の位置づけ</b>
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 課題の設定
- 第3講 インターネット検索
- 第4講 データの収集
- 第5講 文献調査
- 第6講 論点整理
- 第7講 ヒアリング調査
- 第8講 情報整理
- 第9講 補充調査
- 第10講 レジュメ作成
- 第11講 レジュメ完成
- 第12講 パワーポイント
- 第13講 ジョイントセミナー反省会
- 第14講 カンファレンス準備
- 第15講 学部カンファレンス

※ 基本的に毎回、グループワークやプレゼンテーション、ディスカッションを行います。90分という授業時間の枠にとらわれることなく、3・4限目の連続で、3・4年生のゼミを合同で行っていきます。秋には大学祭での「四日市とんてき」の模擬店の出店を、冬には他大学のゼミとの合同研究発表会「ジョイントセミナー」を、それぞれ予定しています。

※ 各人の興味や新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、内容が変更になる場合があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし(必要な資料等は、演習の際に配布する予定です)。参考文献等については、演習を進めていく中で、適宜紹介していきます。

### 担当者から一言

一人ひとりが知的好奇心を持って、積極的に取り組んでいくことを望みます。「よく学びよく楽しむゼミ」を目指しています。卒業に向けた準備・勉強との両立は大変だと思いますが、オンもオフも精一杯がんばりましょう！

専門演習 d  高田晴美	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
日本近現代文学のゼミです。今期はいよいよ、各自、卒業論文の完成に向けて研究を進めていきます。前期に引き続いて、めいめいが扱う作品もしくはその作家の関連作品について、ゼミのメンバー皆で読みあい、議論することで、各自の卒業論文の参考にし、論文をまとめていきましょう。

**到達目標**  
・卒業論文のテーマにそって、論旨を組み立てていく。  
・そのための地道なテキスト・文献読み、調査を行う  
・論を「卒業論文」という形にまとめる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
・毎回のコメントと受講態度 30%  
・発表と質疑応答の内容 20%  
・卒業論文 50%  
それぞれの卒業研究について、ゼミ内で適宜コメントをします。

**事前・事後学習**  
自分の卒業論文のための準備と執筆を進めていくこと。(数十時間)

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、卒論について  
第2講 卒業研究進捗状況報告  
第3講 参考文献リストについての報告  
第4講 1人目、2人目の研究対象について再び議論  
第5講 3人目、4人目の研究対象について再び議論  
第6講 5人目、6人目の研究対象について再び議論  
第7講 7人目の研究対象について再び議論  
第8講 卒業論文中間発表①  
第9講 卒業論文中間発表②  
第10講 卒業論文中間発表③  
第11講 歌会  
第12講 座談会風小説を読む①  
第13講 座談会風小説を読む②  
第14講 卒業論文発表会&口頭試問  
第15講 研究発表会

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
テキスト等については、適宜プリントを配布します。  
各自、自分の卒業論文のためのテキスト読解や文献調査のために、図書館等の書籍を有効活用すること。

**担当者から一言**  
いよいよ卒業論文を執筆し、仕上げていきます。大学での学びの集大成です。情熱を傾けて、ひたむきに取り組んでいきましょう。そして、他のメンバーの研究にもアドバイスをし、切磋琢磨していきましょう。

専門演習 d  鶴田利恵	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
前期で行った、文献や情報の収集とその報告を何度か繰り返して卒業研究を完成させていきます。各自による報告だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

**到達目標**  
年度末の研究報告の完成を目指します。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
文献や情報収集などへの取り組み(50%)、研究報告の内容(50%)  
フィードバック方法:ゼミ中に適宜コメントする。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 3年生の指導  
第3講 卒業研究報告とディスカッション  
第4講 卒業研究報告とディスカッション  
第5講 卒業研究報告とディスカッション  
第6講 卒業研究報告とディスカッション  
第7講 卒業研究報告とディスカッション  
第8講 卒業研究報告とディスカッション  
第9講 卒業研究報告とディスカッション  
第10講 卒業研究報告とディスカッション  
第11講 卒業研究報告とディスカッション  
第12講 卒業研究報告とディスカッション  
第13講 卒業研究報告とディスカッション  
第14講 卒業研究報告とディスカッション  
第15講 3、4年生合同報告会

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
適宜指示します。

**担当者から一言**  
大学4年間の集大成です。思いっきり楽しんで研究報告を完成させてください。

専門演習 d  富田 与	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
この演習では、卒業論文の完成を目指します。これまでやってきた作業の繰り返しと、文章の作成を中心に進めていきます。

**到達目標**  
卒業論文の完成

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
卒業研究の達成度 100%  
卒業論文を評価の課題とし、卒業論文については授業内で逐次コメントをする他、発表準備等でも個別に相談に乗ります。

**事前・事後学習**  
とにかく卒業論文を書き進めてください。(180分以上)

専門演習 d  中西紀夫	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
この専門演習では、全体としての指導というよりマンツーマンでの指導が多くなります。この演習はこれまでの集大成として精度の高い研究を目指しておりますので、ただ完成させるということではなく、社会人になってからでも自信をもって発信できるものにしていただきたいと考えております。そのため、第3講から第9講までは毎回、進捗状況をできるだけ細かく報告してもらい、素晴らしい研究発表となるように丁寧な指導をしたいと考えております。

**到達目標**  
到達目標としては、社会人になってからでも必要不可欠となる学問の構築はもとより、継続中の就職活動などでも困らないように最新の社会問題も議論できればと考えています。この演習によって、自信をもって社会人になっていただくための必要不可欠な法律知識を身につけ、その特徴を生かし、あらゆる場面で頼りにされる人材になるための土台をつくることができると考えています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような評点配分です。  
受講態度 50%  
研究成果 50%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
発表者には、発表の一週間前の授業時間中までに、テーマと内容を簡単に報告してもらおう。  
また、週6日は新聞やニュース等も含め1日に30分以上は学習すること。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 一文作文の確認  
第3講 一文作文から構成へ1  
第4講 一文作文から構成へ2  
第5講 草稿の報告と検討1  
第6講 草稿の報告と検討2  
第7講 草稿の報告と検討3  
第8講 草稿の報告と検討4  
第9講 作成論文の報告と検討1  
第10講 作成論文の報告と検討2  
第11講 作成論文の報告と検討3  
第12講 作成論文の報告と検討4  
第13講 発表会1  
第14講 発表会2  
第15講 まとめ

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
特に指定しない。

**担当者から一言**  
4年のまとめを形に残すことを常に心がけてください。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 研究内容の確認及び指導  
第3講 研究の進捗状況報告及び指導  
第4講 研究の進捗状況報告及び指導  
第5講 研究の進捗状況報告及び指導  
第6講 研究の進捗状況報告及び指導  
第7講 研究の進捗状況報告及び指導  
第8講 研究の進捗状況報告及び指導  
第9講 研究の進捗状況報告及び指導  
第10講 研究発表会に向けた指導  
第11講 卒業研究の発表会  
第12講 卒業研究の発表会  
第13講 卒業研究の発表会  
第14講 まとめ、卒業研究論文の提出  
第15講 学部の研究発表会

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
適宜指示します。

**担当者から一言**  
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や就職活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。有意義な卒業研究になるように、精一杯がんばりましょう。

専門演習 d  松井真理子	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
前学期に引き続き、自分の研究計画に従い、4年間の学びの集大成となる研究を行います。

**到達目標**  
1 自分の進路や4年間の学びの集大成となる研究を完成させる。  
2 調査・研究の手法や、論文の書き方を身に付ける。  
3 これからの時代への視座を持つ。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業の取り組み姿勢 50%  
卒業研究の内容 50%  
なお、講義時に提出した課題については、評価とともに以降の講義で返却します。

**事前・事後学習**  
(授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
(授業後)学んだ内容を復習し、卒業研究に生かせるようにしておくこと(90分)

専門演習 d  三田泰雅	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
この演習では、社会学の視点と社会調査の方法を用いて世の中の問題を考えます。  
前学期に引きつづき、履修者は自ら調査データを集め、ゼミ内で議論しながらデータの整理と分析を行なって成果を発表します。また、他者の発表に対してコメントし、意見交換を行ないます。  
最終的に卒業論文またはそれに準ずるレポートを執筆します。この演習のねらいは、文章作成能力を高め、プレゼンテーション能力を磨き、議論する力を養うことです。

**到達目標**  
①社会的な見方や考え方を身に付ける  
②データを取集・分析する力を身に付ける  
③分析結果を効果的にプレゼンテーションする力を身に付ける  
④他者の言葉に耳を傾け、建設的に意見を交わす力を身に付ける  
⑤大学生としての文章作成能力を身に付ける

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
卒業研究40%、ゼミでの報告30%、授業への参加度30%で評価します。報告担当回に欠席した者は、原則として単位を与えないので注意すること。報告は教員を含めた全員で内容を吟味し、議論します。

**事前・事後学習**  
報告内容に関する資料に目を通しておくこと(40分)  
新聞・ニュースに親しんでおくこと(1日20分)

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探究する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス・研究計画の確認  
第2講 調査の方法・論文の書き方  
第3講 卒業研究(1)  
第4講 卒業研究(2)  
第5講 卒業研究(3)  
第6講 卒業研究(4)  
第7講 卒業研究(5)  
第8講 中間発表会  
第9講 卒業研究(6)  
第10講 卒業研究(7)  
第11講 卒業研究(8)  
第12講 卒業研究(9)  
第13講 卒業研究発表会  
第14講 ふりかえり  
第15講 3年生研究発表会参加

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
各自が探してきた資料が中心です。  
適宜教員も必要な教材を提供します。

**担当者から一言**  
4年間の集大成を行います。これからの自分の進路に生かせる学びにします。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 卒業研究報告とディスカッション  
第3講 卒業研究報告とディスカッション  
第4講 卒業研究報告とディスカッション  
第5講 卒業研究報告とディスカッション  
第6講 卒業研究報告とディスカッション  
第7講 中間まとめ  
第8講 卒業研究報告とディスカッション  
第9講 卒業研究報告とディスカッション  
第10講 卒業研究報告とディスカッション  
第11講 まとめ①  
第12講 卒業研究報告とディスカッション  
第13講 論文指導  
第14講 論文指導  
第15講 まとめ②

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
必要に応じて資料を配布します。

**担当者から一言**  
世の中の「あたりまえ」を疑うところが社会学の魅力です。学生諸君の積極的な参加を期待します。

専門演習 d  若山裕晃	科目 ナンバリング	4 年次	2 単位
	PSS4002	後学期	必 修

**授業のねらい**  
本演習では、これまでに習得した知識や情報を活かして、計画的に卒業研究を展開していく。

**到達目標**  
卒業研究を展開し、卒業論文を完成させる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
研究内容 (50%)、プレゼンテーション (50%)。レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、研究テーマに関連した資料収集を実施しておくこと (90分)。復習として、授業内で討論された問題について自分なりに整理しておくこと (90分)。

地方自治論  小林慶太郎	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PCD2001	後学期	分野必修

**授業のねらい**  
この授業は、地域・まちづくり分野の分野必修科目です。主に、地方自治の仕組みと課題について扱います。公立学校、ゴミの収集・処理、上下水道、道路整備、消防・救急…。それぞれの地域での私たちの生活は、様々な場面で、地方自治体の活動によって支えられています。私たちの暮らしている地域の仕組みやまちづくりの課題について基礎的なことを学ぶことが、今後の総合政策学部での地域・まちづくり分野の学修に役立てられ、さらに将来の地域での生活やまちづくり活動に役立てられることを、この授業のねらいとしています。

**到達目標**  
この授業では、学生諸君が、地方自治の仕組みや課題に関する基本的な用語や知識を身につけ、テレビや新聞の地方自治関連のニュースを理解できるようになることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%  
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%  
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビや新聞の地域ニュースに目を通すこと (毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと (40分)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第3講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第4講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第5講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第6講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第7講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第8講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第9講 卒業研究進捗状況報告・意見交換  
第10講 卒業研究についてプレゼンテーション  
第11講 卒業研究についてプレゼンテーション  
第12講 卒業研究についてプレゼンテーション  
第13講 卒業研究についてプレゼンテーション  
第14講 卒業研究についてプレゼンテーション  
第15講 総括

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
特に指定しないが、適宜指示する。

**担当者から一言**  
毎回担当者を決めて、卒業研究について発表してもらう。学生の積極的な討論参加を期待する。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 「民主主義の学校」地方自治  
第3講 地方自治の本旨と日本国憲法  
第4講 団体自治と地方自治体の種類  
第5講 住民自治と選挙・直接請求  
第6講 二元代表制と議会・首長の役割  
第7講 自治体行政と公務員  
第8講 条例・規則と行政手続  
第9講 計画行政と予算  
第10講 地方自治のルーツを考える —英米型と大陸型—  
第11講 日本の前近代の地方自治の歴史  
第12講 近代日本の地方自治と地方行政  
第13講 現代日本の地方自治と地方分権改革  
第14講 小規模多機能自治 —地域における小さな自治—  
第15講 市民参加と協働

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)  
【参考文献】  
新藤宗幸「日曜日の自治体学」 東京堂出版、2013年  
阿部齋・今村都南雄・寄本勝美編著「地方自治の現代用語(新版第一次改訂版)」学陽書房、2000年

**担当者から一言**  
遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

地域経済論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	岡 良浩	PCD2002	前学期 分野必修

### 授業のねらい

地域経済とは、日本では行政的区分である都道府県や経済的区分である首都圏・近畿圏などのことで、厳密に言えば『1つの国内を対象として、国民経済内部を地理的に分割した自立的な経済圏』のことを意味しています。  
このような地域の経済諸問題を対象とするのが地域経済学という学問分野です。この講義では地域経済学を概説します。

### 到達目標

以下の3つを掲げています。  
①地域経済を理解する上で重要な基礎的概念を理解すること。  
②具体的な地域(中部圏)がどのような特徴をもった地域かということを理解すること  
③実証分析をするために、データの所在と分析方法を理解すること。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への参加態度(含む講義中の小テスト)20%、期末試験 80%。  
提出されたものは添削して返却します。

### 事前・事後学習

(予習)資料をあらかじめ読んでおいてください。経済学の応用分野ですから、経済学を復習しておいてください。(90分)  
(復習)講義中に理解度を確かめる小テストを課します。(90分)

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

第1講 ガイダンス／地域の時代  
第2講 地域とはなにか・都市とはなにか  
第3講 経済学で地域をみる  
第4講 地域経済の開放性  
第5講 地域所得の決定  
第6講 地域経済の成長  
第7講 地域間格差  
第8講 都市の成立と発展  
第9講 都市圏の設定と都市化の過程  
第10講 中心地理論と都市システム  
第11講 中部経済のポイント  
第12講 都市・地域の経済分析(その1)人口分析、コーホート分析  
第13講 都市・地域の経済分析(その2)工業分析  
第14講 都市・地域の経済分析(その3)商業分析  
第15講 まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキストは特に使用せず、講義中に資料配付します。

### 担当者から一言

経済理論を積極的に応用し、地域経済を理解しようとする意欲のある学生の履修を期待します。

政策過程論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	小林慶太郎	PCD2003	後学期 分野必修

### 授業のねらい

公害、経済格差、差別…。私たちの暮らしている社会には様々な問題があふれています。そうした問題を解決・改善していくための方策が、政策です。  
この授業では、問題の発見から政策の立案・決定、実行、そしてその結果の評価に至るまでの過程を取り上げ、いつ、誰が、どのように、その過程に関わっていくかを考えます。  
学生諸君が将来、自らが暮らす地域をより良いものにするまちづくりの過程に主体的に関わっていけるような人になることを、ねらいとしています。なお、この授業は地域・まちづくり分野の分野必修科目です。

### 到達目標

この授業を通じて、学生諸君が、政策の過程についての理解を深め、社会を担う主体的な人間になっていくことを、到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%  
・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%  
なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

### 事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の、政治や地域のニュースに目を通すこと(毎日20分以上)。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講 ガイダンス:この講義の進め方  
第2講 政策循環と政策過程  
第3講 静的政策過程論と動的的政策過程論  
第4講 政策過程の担い手と「鉄の三角形」  
第5講 経済成長の政策過程①  
第6講 経済成長の政策過程②  
第7講 合理モデルと満足モデル・漸変モデル  
第8講 組織過程モデルと組織内政治モデル  
第9講 政策類型論とブルーリズム(多元主義)  
第10講 コーポラティズム  
第11講 エリート理論とテクノクラート理論  
第12講 新制度論と政府間関係論  
第13講 政策評価論  
第14講 市民参加と協働  
第15講 コミュニティと自治  
定期試験

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト・教材(参考文献含む)なし。(必要に応じてプリントを配布する場合があります)

#### 【参考文献】

伊藤光利、田中愛治、真淵勝「政治過程論」有斐閣アルマ(2000年)

### 担当者から一言

遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。

現代財政学	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	鶴田利恵	PPT2001	前学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義では、財政の基本的な理論や考え方、経済政策や社会保障制度、税の基礎理論と税制の仕組みについて、ミクロ経済学・マクロ経済学の両面から学んでいきます。また、現在の日本が抱えている財政上の諸問題についても適宜解説していきます。授業では、鶴田による解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をぶつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めていきます。

**到達目標**  
財政の基本的な考え方や仕組みを理解し、日本の財政政策について自分なりの意見を言える力を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。  
フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

行政法	実務	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	小林慶太郎 他	PPT2002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では、行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。  
講師として、現在四日市市の職員として働いている本学OB（清水さん、中村さん、室田さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話いただきます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくれることを、ねらいとしています。

**到達目標**  
法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。なお、課題・宿題の提出内容が著しく酷い場合や、授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。  
成績は以下の配分により評価します。  
・取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況:75%  
・定期試験(レポート):25%  
なお、講義時に提出された課題に対しては、以降の講義でコメントします。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと(60分)。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと(60分)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 政府の役割  
第3講 市場と政府  
第4講 財政の仕組み  
第5講 公共財  
第6講 経済政策  
第7講 社会保障制度  
第8講 社会政策  
第9講 税制の設計  
第10講 直接税  
第11講 間接税と税制改革  
第12講 政府の借金  
第13講 地方分権  
第14講 公民連携  
第15講 まとめ  
定期試験  
\*対面での講義を予定していますが、受講者数によってはオンデマンドになる場合もあります。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
コピーを配布します。  
使用テキスト：山重慎二「財政学」中央経済社ベーシックプラスシリーズ(2016年)2,400円(税別)

**担当者から一言**  
質問や意見はおおきに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス～「行政法」について～(小林)  
第2講 法学の中の行政法(中西)  
第3講 法令と条例(小林)  
第4講 先端産業・企業誘致と法規制(清水)  
第5講 スポーツ・文化活動と社会教育法(中村)  
第6講 中心市街地活性化と法律(清水)  
第7講 農業や伝統産業の振興と法(清水)  
第8講 選挙活動と公職選挙法(中村)  
第9講 公営ギャンブルと法(清水)  
第10講 公務員倫理と法(室田)  
第11講 公共施設の指定管理(中村)  
第12講 観光・シティプロモーションと法(中村)  
第13講 市民協働を促進するための条例(室田)  
第14講 夜の街と法規制(室田)  
第15講 行政・まちづくりと法規範(小林)  
定期試験(レポート提出)

\* 講師の都合や新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、日程や内容が変更になる場合があります。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
なし。(必要に応じて資料を配布する場合があります)

**担当者から一言**  
学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。  
※ 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定科目です。



行政学	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	藤本和弘	PPT2003	後学期	選 択

### 授業のねらい

社会における主な政策遂行主体が行政であることから、行政の役割、政策立案機能、政策立案手法、政策執行の現状や評価等を体系的に学ぶ。行政事例として、三重県という地方自治体行政を取り上げ、政策立案、政策執行過程を広く学ぶ。この学びを通じ、将来、三重県内のいずれの職に赴こうとも、県内外の政策動向を理解できるようにすることを旨とする。

### 到達目標

毎日報道されている新聞記事やニュース内容、さらには、政策動向に関する図書について、理解が早まること。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

以下のような配分で評価する。  
講義時に提示する簡単な課題への提示状況及び受講態度 50%  
定期試験時に提出してもらう、これまでの講義に即したレポート課題 50%  
なお、毎回提出してもらう課題については、翌週回において説明する。

### 事前・事後学習

事前学習においては、毎日、新聞やニュースを見ること(30分)。新聞やニュースで見た政策動向に関係する図書を読むこと(60分)。事後学習においては、講義に使用したレジメや自らが記述したノートを見直し、必要事項を覚えるとともに、不明なキーワード等は、参考文献等で調べておくこと(90分)。

都市法	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	中西紀夫	PPT3001	前学期 選 択

### 授業のねらい

本講義のねらいは、都市計画の骨子と環境対策の基本を学ぶことである。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる都市をつくり、改善もしていく仕組みです。これは憲法25条の「生存権」から導き出されることも考えられます。都市計画の学び方としては、「都市計画を定める仕組み」という法律学の観点から学んでいきます。また、都市計画に必要となる環境対策においても現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。

### 到達目標

本講義では、都市計画や環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市計画や環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。  
定期試験 70%：すべて持込可。  
なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

### 事前・事後学習

毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学習を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した地域力と人間力を習得する。多様で幅広い視野と思考力を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス、行政学について
2. 日本の行政構造の組織的側面
3. 日本の行政構造の財政的側面
4. 地方行政機構成立の基盤
5. 地方行政機構の現状
6. 地方行政機構の業務
7. 総合計画の策定
8. 地域産業の振興
9. 観光産業の振興
10. 市街地活性化政策
11. 医療健康福祉政策
12. 地域環境保全政策
13. 教育政策
14. インフラ整備政策
15. 行政経営

### テキスト・教材（参考文献含む）

なし。

### 担当者から一言

講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止する。守られない者には、退出を命じることがある。真剣で誠実な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス  
～都市計画編～
  - 第2講 都市計画の基本的枠組み
  - 第3講 第2次世界大戦前と後の都市計画の時代
  - 第4講 現行都市計画法の制定時の都市計画の時代、地区計画・規制緩和・コンパクトシティの時代
  - 第5講 これだけは知っておきたい都市計画用語、都市計画図書の読み方
  - 第6講 都市計画区域と都市計画の内容のポイント
  - 第7講 都市計画のための手続きと土地利用に関する都市計画の実現手法
  - 第8講 まとめ  
～環境対策編～
  - 第9講 環境法と既存の法(憲法・行政法・民法・刑法)との関係
  - 第10講 環境対策と法規制、主な環境規制法
  - 第11講 環境アセスメントの考え方
  - 第12講 私法的な救済方法
  - 第13講 条例による規制とその問題点
  - 第14講 環境マネジメントシステム
  - 第15講 まとめ
- 定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

参考文献：佐々木晶二著『いちからわかる知識&雑学シリーズ 都市計画のキホン』ぎょうせい(2018年)2,000円+税(価格)  
参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院(2010年)  
プリントを配布しますが、最新の内容は提供します。

### 担当者から一言

授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。

政策法務  中西紀夫	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PPT3002	後学期	選 択

**授業のねらい**  
自治体の政策に関わる法律の実務、すなわち自治体法務について学びます。憲法との関係を基本に置きつつ、民法や地方自治法などの法律の規定や行政実例を覚えることを繰り返していても、法処理技術(法務能力)を身につけることは困難であると考えられています。そこで、法律や条例を使いこなすために必要な「法的な捉え方」が身につくように工夫しながら、一方的な講義形式にならないような形にしていきたいと思っています。

**到達目標**  
市役所等を目指している人にとって、就活時に法律や条例を実務上で使いこなせる能力、すなわち、法的な考え方が出来る学び方をしたというアピールをできるくらいになるまでの学力の修得を、教育目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は、次のような評点配分です。  
受講態度 30%：授業中に行うテキストの購読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果や出席状況も含む。  
定期試験 70%：すべて持込可。  
なお、授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。

**事前・事後学習**  
毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。

地域産業論  岡 良浩	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PCD2001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
地域の将来を考えると、それぞれの地域の産業がどのように発展するかが重要です。産業構造が変化するなかで、地域の産業は一様ではありません。我が国では、地域の既存集積や資源を活用して、どのように産業を産み出していくかが重要になりつつあります。地域産業政策も、基盤整備型・産業誘致型の政策から、産業創造力を支える仕組みづくりが重要になりつつあります。  
本講義では、地域産業に関する緒論や産業立地論を解説するとともに、日本の産業地形成・地域産業政策を解説します。

**到達目標**  
到達目標は、以下の3つです。  
1. 地域産業に関する緒論を理解する  
2. 産地形成と四日市・北勢地域の地域企業や産業を知る  
3. 地域産業政策を理解する

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
学期末試験(80%)小レポート(20%)  
提出されたものは添削して返却します。

**事前・事後学習**  
配付資料に事前に目を通しておいてください。(90分)  
講義中に課される小レポートを行ってください。(90分)

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 法的なものの考え方(1)  
第3講 法的なものの考え方(2)  
第4講 法律問題の考え方(1)  
第5講 法律問題の考え方(2)  
第6講 法の解釈適用～基礎編～(1)  
第7講 法の解釈適用～基礎編～(2)  
第8講 法の解釈適用～応用編～(1)  
第9講 法の解釈適用～応用編～(2)  
第10講 条例、規則、要綱  
第11講 契約と行政処分のおくみ  
第12講 行政手続のおくみ  
第13講 自治体の組織のおくみ  
第14講 法律問題の実際、条例の役割  
第15講 まとめ

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
テキスト：森幸二著『1万人が愛した はじめての自治体法務テキスト』第一法規(2017年)2,400円+税(価格)  
参考文献：吉田勉著『事例から学ぶ 実践!自治体法務・入門講座』学陽書房(2018年)2,600円+税(価格)

**担当者から一言**  
授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらにも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取って下さい。出席する以上は、集中して受講しましょう。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 地域産業の緒論(1)ベティークラークの法則/産業分類  
第3講 地域産業の緒論(2)ホフマンの法則/ロストウの発展段階説  
第4講 地域産業の緒論(3)工業化の終焉/産業空洞化  
第5講 産業立地論(1)工業立地論の概観/輸送費問題  
第6講 産業立地論(2)ウェーバー工業立地論  
第7講 産業立地論(3)商業立地論(ホテルリングモデル)  
第8講 日本の産業地形成(1)概観  
第9講 日本の産業地形成(2)地場産業論  
第10講 日本の産業地形成(3)近江商人  
第11講 地域産業政策(1)新産業構造ビジョン  
第12講 地域産業政策(2)大都市工業論/産業集積論  
第13講 地域産業政策(3)地域産業政策の変遷  
第14講 地域産業政策(4)三重県・四日市市の産業振興  
第15講 まとめ  
※この授業はオンデマンド方式で行います。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
特に使用せず、講義中に資料配布します。

**担当者から一言**  
講義を通じて、自分の故郷や関心のある地域をイメージし、どのような産業発展を経験し、どのような課題・展望があるかを考えるきっかけにしてください。

地域開発論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	岡 良浩	PCD2004	後学期 選 択

### 授業のねらい

この講義では、都市を中心に空間利用のあり方を考えます。そのねらいは大きくわけて以下の4つです。第1は、人類の長い歴史のなかで、都市がなぜ、どのように形成されていったのか(都市の原理)を理解することです。第2は、産業革命後の都市問題の発生と解決方法(近代都市計画)の形成過程を知ることです。第3は、現在の都市がどのような制度によって計画されているか(都市計画制度)を理解することです。第4は、これからの都市のあり方がどのように考えられているかということを理解することです。

### 到達目標

到達目標としては、講義のねらいの4つ(都市の原理・近代都市計画・都市計画制度・都市のあり方)を理解し、まちづくりを空間利用という観点から考える基礎を身につけることを目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業への参加態度(含む講義中の小テスト)20%  
期末試験80%  
理解度を確認する小テスト(作文)を講義中に課します。  
提出されたものは添削して返却します。

### 事前・事後学習

予習:資料を読んでおくこと(90分)。  
復習:講義中に課される小テスト(作文)を行ってください(90分)。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1講  | ガイダンス/地域開発と都市              |
| 第2講  | 都市の時代(世界人口・都市人口)           |
| 第3講  | 世界の都市形成史                   |
| 第4講  | 動画でみる世界の都市形成史              |
| 第5講  | 日本の都市形成史                   |
| 第6講  | 動画でみる日本の都市形成史              |
| 第7講  | 都市と人間(都市の原理)               |
| 第8講  | 近代都市計画の萌芽(1)都市問題と近代都市計画    |
| 第9講  | 近代都市計画の萌芽(2)田園都市論          |
| 第10講 | 近代都市計画の萌芽(3)近隣住区論          |
| 第11講 | 日本の都市計画制度(1)都市計画の内容/土地利用計画 |
| 第12講 | 日本の都市計画制度(2)都市計画事業         |
| 第13講 | 日本の都市計画制度(3)都市施設の整備        |
| 第14講 | これからの都市~コンパクトシティを中心に~      |
| 第15講 | 国土計画と都市計画/まとめ              |

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に使用せず必要に応じて講義中に資料配布します。

### 担当者から一言

都市は、日常生活にかかわる身近な場です。自分のふるさとや魅力あるまちを頭に思い浮かべながら、皆さんが都市づくりに関心を持つことを期待します。  
本科目は三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格の認定対象科目です。

地域福祉論/福祉住環境論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	柴田啓文	PCD2002	前学期 選 択

### 授業のねらい

福祉は社会で排除された人々を社会に取り戻す活動です。特に、障害者や女性、子ども、高齢者、経済的困窮者などいわゆる「社会的弱者」の生活向上、社会参画の支援、権利を擁護することで、共に生きる社会を創造することを目標としています。  
この科目では、まず、福祉の理念を学び、その観点から地域にどのような問題があるのか、また、どのような対応が可能であるかについて、できるかぎり具体的なデータに基づいて検討します。

### 到達目標

福祉の理念を理解し、地域の現状を知り、あるべき地域福祉のあり方を自ら考える力を身につけます。また、そのために関係データを収集し、処理するスキルを養います。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート(主にExcel)の提出と小テストなどによります。小テストの得点は直後に、提出ノートの得点は一週間以内に教育支援システムのコースの「評定」に表示します。

### 事前・事後学習

福祉関連サイトを紹介しますので、毎日30分は各サイトを閲覧し、福祉についての最新の情報を収集してください。また、授業で取り上げた各テーマについてのデータをまとめて分析してください。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

- |      |                                |
|------|--------------------------------|
| 第1回  | ガイダンス:授業の内容と評価(毎回の授業ノートはExcel) |
| 第2回  | 教育支援システムの登録                    |
| 第3回  | 少子高齢化社会と福祉                     |
| 第4回  | 国家予算と福祉                        |
| 第5回  | 福祉の理念:障害の社会モデル                 |
| 第6回  | 福祉の理念:障害者の自立とノーマライゼーション        |
| 第7回  | バリアフリーとユニバーサルデザイン              |
| 第8回  | 地域における特別のニーズとは何か?              |
| 第9回  | 地域における特別のニーズとは何か?              |
| 第10回 | 福祉職の現状                         |
| 第11回 | 福祉とAIの1                        |
| 第12回 | 福祉とAIの2                        |
| 第13回 | 福祉とInternet of Things          |
| 第14回 | 多様な人々                          |
| 第15回 | まとめ                            |

### テキスト・教材(参考文献含む)

使用しません。

### 担当者から一言

学習支援システム(MOODLE)を利用。ExcelやWordの基本的な用法についても解説します。「地域福祉論」を通して、自分の暮らしや社会のあり方について考えようとするみなさんの受講を期待します。

社会保障論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	李 修二	PCD2005	後学期 選 択

### 授業のねらい

この講義では、現代日本における社会保障制度の基本的な枠組みを概観して学んでいきます。社会保障制度は、少子高齢化を前提とする今後の日本社会にとって、最も重要な社会経済制度と位置づけられるものの一つになっています。そして、たとえば経済体制のかなりの部分が、何らかの形で社会保障制度と関係するようにさえなっています。そこで、現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴を理解することが講義のねらいとなります。

### 到達目標

この講義で学ぶ様々な社会保障制度がなぜ必要とされているか、どのような経緯で成立させられてきたのか、そして、将来に向けてどのような課題があるのか。将来の日本の社会保障のあり方をめぐる意欲的な学説や見解に注目し、それらを学ぶことを通じて、社会保障論の要点を理解することが講義の到達目標となります。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎授業ごとのミニッツペーパーで50%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で50%評価します。(ミニッツペーパー評価基準はガイダンス時に説明します。授業ごとの提出ミニッツペーパーや質問等には、MOODLEを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。)

### 事前・事後学習

毎回の授業後、ミニッツペーパー(小レポート)を書いてもらい、次の授業回に提出してもらいます。また、必ず授業前に講義ノートを復習して授業にのぞんでください。(ミニッツペーパー作成、復習、計60分以上)  
さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブなどでの社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。(30分以上)

地域社会学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	三田 泰雅	PCD2003	前学期 選 択

### 授業のねらい

この授業では地域社会を社会的に考える方法を学びます。地域社会を語る語彙と視点を身につけることが目標です。

### 到達目標

現代社会を考えるための基礎的知識を身につけ、より広い視点から地域の問題を考えられるようになる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

〈評価〉毎回の小レポート30%、中間試験35%、期末レポート35%  
〈フィードバック〉小レポートは翌週の授業内でコメントする

### 事前・事後学習

新聞・ニュースに目を通す(1日30分)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス、「人生前半の社会保障」とは～その1
第2講	「人生前半の社会保障」とは～その2
第3講	ライフサイクル論
第4講	日本の社会保障の特徴
第5講	社会保障をめぐる新しい課題
第6講	教育と社会保障
第7講	若者基礎年金構想
第8講	年金論
第9講	福祉国家および再分配論
第10講	定常型社会論と社会保障
第11講	資本主義論と社会保障
第12講	環境論と社会保障
第13講	総合政策論と社会保障
第14講	医療政策論～その1
第15講	医療政策論～その2
	定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト  
広井良典『持続可能な福祉社会』2006年、ちくま新書  
テキストの内容に沿った書き込み式の講義ノートを毎回配布します。

参考文献  
広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済  
原野美智子ほか『はじめての社会保障』2020年、有斐閣

### 担当者から一言

社会保障制度の知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。なぜ、そのような制度となっているのか、意味を理解するように学んでください。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	都市の成長
第3講	都市の人間関係
第4講	都市空間の家族と親族
第5講	都市の社会集団
第6講	都市の類型
第7講	都市と社会階層
第8講	家と村
第9講	グローバル化と地域社会
第10講	大学と地域
第11講	まとめ①
第12講	社会地図を作る①
第13講	社会地図を作る②
第14講	社会地図を作る③
第15講	まとめ②

必要に応じてグループワークを行います。

### テキスト・教材(参考文献含む)

〈参考文献〉  
森岡清志編『地域の社会学』有斐閣、2008年。

### 担当者から一言

コンピュータ教室での実習があります。学生諸君の積極的な参加を期待します。

環境社会学	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
吉見勝治		PCD2006		

**授業のねらい**  
環境社会学という学問の基本的な知識や考え方を習得することを目指します。過去および現在の様々な環境問題について理解し、その解決方法について考察します。また、近年深刻化している野生生物の問題を題材としてディスカッションを行い、問題解決能力の向上を図ります。

**到達目標**  
人間社会と環境の間にある複雑かつ多岐にわたる様々な環境問題について歴史を学び、そのから得た教訓を踏まえ、一人一人が考え、行動できるよう、基礎知識や思考方法を身に付けることを目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
出席率と積極性(40%)、定期試験(60%)を元に総合的に評価します。毎回出欠確認を兼ねて小レポートを提出してもらいます。レポートについてはコメントの上、次回の講義でフィードバックします。

**事前・事後学習**  
前回までの講義内容を復習した上で講義に臨んでください。また、日頃からインターネット、新聞等で環境社会学に関連する情報を収集し、分からない用語などがあれば調べて下さい。さらに、その問題の根源が何なのか自分なりに考えて下さい。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 環境社会学とは  
第3講 自然保護を考える  
第4講 身近な自然を考える  
第5講 生活と水を考える  
第6講 農業と食を考える  
第7講 ごみ問題を考える  
第8講 市民活動を考える  
第9講 地域づくりと環境を考える  
第10講 歴史的環境と景観を考える  
第11講 公害・差別・リスクを考える  
第12講 資源・エネルギー問題を考える  
第13講 地球環境問題を考える  
第14講 ケーススタディー(グループワーク)  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
自作プリント・プレゼン資料  
参考文献：鳥越皓之・帯屋博明編著「よくわかる環境社会学」ミネルヴァ書房(2017年)

**担当者から一言**  
環境問題の解決に絶対的な正解はありません。それぞれの立場、立ち位置により味方が大きく異なります。その中で最善の解を見出すために何をすれば良いのか、誰を動かせば良いのか、考えるきっかけになればと思います。

食とまちづくり	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
小林慶太郎		PCP2001		

**授業のねらい**  
この授業では、食とまちづくりについて扱っていきます。近年、まちづくりとの関係から注目されるようになってきている食文化。この授業では、食文化を通じてまちづくりの可能性について、四日市とんてきなどの食を通じて実際にまちづくり活動に取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、各地域の食文化や取り組みの違いについて探求したりすることを通じて学びます。学生諸君が、まちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

**到達目標**  
この授業では、学生諸君が、まちづくりの実際を知ることを経て、まちづくりについての自分なりの考え方を身につけることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。成績は以下の配分により評価します。  
・グループワークや実習への取組姿勢:75%  
・定期試験(レポート):25%  
なお、グループワークや実習で出された質問に対しては、コメントを返します。

**事前・事後学習**  
日頃から食やまちづくりに関するテレビや新聞のニュースに目を通すこと(90分/週)。ご当地グルメを求めて積極的に情報を収集すること(1泊分の旅行に相当する程度の情報)。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス:まちづくりとは何だろう  
第2講 方法・地域資源・担い手  
第3講 地域資源とSWOT分析  
第4講 四日市の魅力を発掘(グループワーク)  
第5講 四日市の魅力を伝えるために(グループワーク)  
第6講 地域資源としての食  
第7講 まちづくりと参加・協働・ダイバーシティ  
第8講 四日市の地域課題と四日市とんてきによるまちおこしの取り組み  
第9講 B-1グランプリと四日市  
第10講 津ぎょうざ小学校の取り組み  
第11講 農林水産業と食材  
第12講 食品加工と6次産業化  
第13講 飲食店とナイトエコノミー  
第14講 食と観光  
第15講 食によるまちづくりの課題と可能性(グループワーク)  
定期試験(レポート提出)  
  
※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況などによっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。(必要に応じて資料を配布する場合があります)  
【参考文献】  
依慎「B級ご当地グルメでまちおこし」学芸出版社(2011年)

**担当者から一言**  
今年度は実習はできない見込みですが、もし状況が好転し、食を活用したイベントなどが開催される際には、積極的に参加するようにして下さい。なお、実習先までの交通費は、原則として個人負担となります。

祭りとまちづくり	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	選 択
岩崎恭典 他		PCO2003		

**授業のねらい**  
 地域の文化は、そこに生活する人々によって育まれている。しかし、高齢化や生活様式、価値観の多様化により、伝統文化の継承は、危機に瀕している場合が多い。  
 この講義では、「大入道山車」(三重県指定有形民俗文化財)、富田の鯨船行事(ユネスコ文化遺産)を事例として、伝統文化の保存・継承には、どのような課題があるか、保存・継承の持つ意味を、実際に祭りや保存活動に参加することにより、考えてもらおうとするものである。

**到達目標**  
 講義と実習を通じて、祭りの持つ意味と、祭りの果たす地域統合の役割について学び、自分自身がこれからの地域社会で何ができるのかを明確にすることを到達目標とする。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 講義については、いわゆる「大福帳」を用いてフィードバックを行なう。成績評価については、組立実習や祭りなどへの取り組み意欲(50%)、レポート(A4版3枚以上)の評価(50%)により行う。現地実習に際しては、その都度、振り返りを行う。

**事前・事後学習**  
 講義期間中については、専門家による講義もあるので、前回までの講義内容の復習をしておくことが必要である。実習期間までに、間があるので、講義内容は実習までに復習しておくこと。また、形態の異なる3つの実習に参加するので、それぞれについて、復習が必要である。(1日30分)

音楽とまちづくり／芸術学	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	後学期	選 択
鬼頭浩文・関根辰夫・前川督雄		PCO2006		

**授業のねらい**  
 四日市市では、「街は劇場、通りは舞台 主役はあなた」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。  
 この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。

**到達目標**  
 音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40%(①～⑧)、定期試験(レポート)30%で総合評価する。小レポートに関しては、採点し、学生の疑問や理解の足りない部分について、授業の中でフィードバックする。

**事前・事後学習**  
 座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、課題に取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを振り返ること。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス  
 第2講 地域文化の意味(岩崎)  
 第3講 祭りとイベント 第3～7講担当者…前田憲司氏(芸能評論家)  
 第4講 四日市祭の歴史  
 第5講 四日市祭の現在  
 第6講 四日市祭の課題  
 第7講 保存継承の問題点と今後の課題  
 第8講 岩戸山の復活 講義(岩戸山保存会会長)  
 第9講 大入道山車の保存継承上の課題 講義(大入道保存会会長)  
 第10講 富田鯨船の保存継承上の課題 講義(富田鯨船中島組会長)  
 第11講 現地実習① 7月24日 土曜日 終日(大入道の組み立てへの参加)  
 第12講 現地実習② 8月8日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山、大入道の演技への参加  
 第13講 現地実習② 8月8日 日曜日 終日 大四日市祭 岩戸山、大入道の演技への参加  
 第14講 現地実習③ 8月15日 日曜日 終日 富田鯨船行事への参加  
 第15講 現地実習③ 8月15日 日曜日 終日 富田鯨船行事への参加

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 なし。必要に応じてレジメを出す。

**担当者から一言**  
 この講座は、四日市市中納屋町大入道保存会のご協力を得て過去13年にわたって開講しているものである。地域の祭りに主体的に参加してみようとする学生諸君の参加を希望する。なお、コロナ禍のため、夏の祭りの実習ができない場合には、不開講となる場合がある。履修登録までには、開講か不開講かを確定させる予定である。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講(9/30)ガイダンス①  
 第2講(10/7)JAZZフェスとまちづくり(実行委員長 柳川)②  
 第3講(10/14)イベント打ち合わせ(実行委員会 山川)③  
 第4～9講(10/16-17)現地実習(10/21)休講  
 第10講(10/28)四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛(実行委員会 阪)④  
 第11講(11/4)四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア(実行委員会 山川)⑤  
 第12講(11/11)四日市JAZZフェスティバルの会場設営(実行委員会 堀木)⑥  
 第13講(11/18)音楽イベントと音響(関根)⑦  
 第14講(11/25)音楽イベントとしてのオペラの制作とミュージカルとの比較(関根)⑧  
 (12/2以降は予備日)  
 第15講(2022/1/27)まちづくりにおける音(前川)⑨  
 定期試験  
 ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 JAZZフェスのパンフレットと配布資料。

**担当者から一言**  
 最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。

鉄道とまちづくり	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
岩崎恭典		PCO2007		

**授業のねらい**  
 自動車が移動手段として普通となっている北勢地域であるため、どの鉄道会社も、通勤・通学客の減少によって、苦境にあることは事実である。  
 では、このまま、鉄道は消え去る運命にあるのだろうか。  
 この講義では、今後の超高齢社会のなかでは、必要性が高まるに違いないはずの鉄道事業者たる三岐鉄道を素材として、その経営戦略を具体的に学ぶとともに、地域社会はどうあるべきか、公共交通体系はどうあるべきか、そのためには、企業とともに我々住民はどうあるべきかを、具体的に学ぼうとするものである。

**到達目標**  
 この講義を通じて、公共交通の重要性を知るとともに、そのために住民としてどう行動すべきかを知り、また、鉄道の利用者増を目指したさまざまなイベントのノウハウを取得することも到達目標とする。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 成績評価は、研究テーマへの取り組み意欲 (50%)、成果報告のプレゼンテーション結果の評価 (50%) により行う。現地視察、サンタ電車の運行を含む毎回の講義については「大福帳」を通じてフィードバックを行う。

**事前・事後学習**  
 地方鉄道の苦境、特に近隣のあすなろう鉄道や養老鉄道、伊賀鉄道の動向を伝える新聞記事、ネット情報を収集しておくように。イベント企画や事例研究の際に役立つであろう。(1日30分)

**到達目標**  
 1. 地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。  
 2. さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、  
 3. 実際の町内会の運営を理解することにより知る。

コミュニティ論	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
岩崎恭典		PCO2002		

**授業のねらい**  
 この講義では、主として包括的な地縁組織として深く住民の生活に関わっている町内会・自治会(以下、町内会)を取り上げる。  
 市町村合併終了後、狭域の自治を育む仕組みとして、町内会は再評価されている。しかし、その一方で、自治体行政の下請機関化した町内会を、そのまま、新しい自治の単位とすることについては、多くの危惧がある。  
 そこで、講義では、町内会の歴史を辿り、問題点や課題を整理し、自治の単位としての「近隣政府」の可能性を追究し、実習を通じて、新たな地縁組織の必要性について理解する。

**到達目標**  
 1. 地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。  
 2. さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、  
 3. 実際の町内会の運営を理解することにより知る。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 講義への出席は前提である。定期試験55%、県内の実地調査による地域自治組織のレポートあるいは課題図書レポート45%の割合で評価する。  
 講義に際しては、「大福帳」を使用し、講義内容についての質疑応答を行う。

**事前・事後学習**  
 諸君が居住する地域で町内会・自治会がどのような状況にあるか、日常的に関心を持ってしておくように。レポートの題材となる場合もある。  
 講義は、町内会の歴史的変遷を扱うことから、予習・復習は欠かせない。  
 また、フィールドワークを実施する際には、十分な事前準備が必要となる。(1日30分)

**到達目標**  
 1. 地縁組織としての町内会の歴史的な役割を理解し、コミュニティとの違いを理解する。  
 2. さらに、今後の地域社会のなかでの団体の果たすべき役割と個人としての関わり方を、  
 3. 実際の町内会の運営を理解することにより知る。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス 開講の狙い 三岐鉄道の経営戦略 講義(担当者…岩崎)  
 第2～3講 10月3日・日曜日を予定 現地見学 北勢線を実際に乗り回し、ボランティア運営による施設(軽便鉄道博物館、貨物鉄道博物館等)、東員駅のCTC等を見学する  
 第4講 鉄道とまちづくり 北勢地域の鉄道 講義(岩崎)  
 第5講 三岐鉄道の鉄道事業概要 講義(㈱三岐鉄道鉄道部長及び担当者)  
 第6講 個別研究のテーマ出し  
 第7講 テーマ別の研究班編成  
 第8講 研究班ごとのグループワーク  
 第9講 研究班ごとのグループワーク  
 第10講 研究班ごとのグループワーク  
 第11講 研究班ごとのグループワーク  
 第12講 サンタ電車運行準備  
 第13講 サンタ電車運行準備  
 第14講 12月18日・土曜日を予定 北勢線サンタ電車運行  
 第15講 グループワーク成果報告会・反省会、レポート提出

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 教材は、コピーにて配布する。希望者には、(株)三岐鉄道・四日市大学総合政策学部編「地域活性化に地方鉄道が果たす役割—三岐鉄道の場合」(2008年9月、交通新聞社)を貸し出す。

**担当者から一言**  
 この講座は、三岐鉄道の全面的な協力により実施されるものです。実際に、三岐鉄道の事業に触れて、鉄道の存続に賭ける社員の情熱を感じてください。  
 講義、実習、ゼミ形式と様々な形式で行われますから、特に日程に注意して下さい。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス 現地調査プランの提起とレポートの詳細提示  
 第2講 地域団体とは何か、町内会の現状と課題  
 第3講 町内会の歴史 1  
 第4講 町内会の歴史 2  
 第5講 町内会の歴史 3  
 第6講 町内会の展望 なぜ、今、近隣政府か  
 第7講 事例研究に向けて 四日市市における町内会の概要について  
 第8講 事例研究に向けて 大学近隣の町内会の現状について(四日市市内の町内会役員)  
 第9講 事例研究 町内会の取り組み実習 11月中旬の土曜日あるいは日曜日を予定  
 第10講 事例研究  
 第11講 事例研究  
 第12講 事例研究  
 第13講 まとめ 1 事例研究 報告会  
 第14講 まとめ 2 事例研究 報告会  
 第15講 まとめ 3 近隣政府をつくるための住民団体の役割とは何か  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 なし、レジュメと資料を配布する。

**担当者から一言**  
 町内会は、風土の賜物といわれるぐらい、地域によってそのあり方が違います。そこで、フィールドワークをしてもらいます。その日程は、土日が中心になりますが、参加は必須です。活発に活動されている地域の高齢者の方々と話をしてみてください。

NPO論	実務	科目	2年次	2単位
		ナンバリング	前学期	選 択
松井真理子		PCO2005		

**授業のねらい**  
 社会を構成している3つのセクター（政府、企業、市民）のうち、市民セクター（市民社会ともいいます）は他のセクターとは異なる特徴と重要性があります。四日市市の市民セクターにはさまざまな担い手が活動していますが、どのような担い手が、どんな活動を行っているのかを、地域の実践家を招いて具体的に紹介します。これらを通じて、市民セクターの存在意義を深く理解するとともに、市民が市民を支える社会づくりへの参画の一歩とします。

- 到達目標**
- 1 市民社会の基本理念を理解する。
  - 2 多様な市民社会の担い手の存在を理解する。
  - 3 市民社会が抱える課題や、それに対する新しい方向性について理解する。
  - 4 市民が市民を支える社会づくりについて関心を高め、一歩を踏み出す。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 毎講義時の課題 30%  
 定期試験 70%  
 毎講義時の課題として提出された内容について、次回の授業でフィードバックする。

**事前・事後学習**  
 (授業前)日頃からテレビや新聞のニュースに目を通しておくこと(毎日30分程度)  
 授業内容について事前に予習しておくこと(60分)  
 (授業後)学んだ内容を復習し、インターネット等で関連する文献を読むこと(90分)

マイノリティ政策	科目	1年次	2単位
		ナンバリング	前学期
小林慶太郎		PRP2001	選 択

**授業のねらい**  
 この授業では主に、マイノリティ（少数者）に関する政策について扱っていきます。一口にマイノリティといっても、少数民族や外国人、性同一性障害者や同性愛者、障害者や難病患者など、その内訳は様々です。また、時と場合によっては誰もがマイノリティになる可能性も持っています。しかしながら、これまでしばしばマイノリティは、その存在が無視されたり差別の対象となってきたりしました。この講義は、こうしたマイノリティの存在を知ることによって社会の多様性に気づき、寛容な心を持つようになってくれることを、ねらいとしています。

**到達目標**  
 この授業では、学生諸君が、日本の社会においてマイノリティが直面している様々な問題に関する基本的な知識を身につけ、マイノリティの存在を念頭に置いた思考が出来るようになることを、到達目標としています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 成績は次のような配分により評価します。  
 ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度:30%  
 ・定期試験(自筆ノートのみ持込可):70%  
 なお、講義時に提出した課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

**事前・事後学習**  
 日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(40分)。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス・NPOとボランティアとは何か
  - 第2講 さまざまな市民活動
  - 第3・4講 ささえあいのまち創造基金公開プレゼンテーション参加(実習)
  - 第5講 NPOの機能(1)公共サービス提供
  - 第6講 NPOの機能(2)人と人をつなぐ(コミュニティ形成)
  - 第7講 NPOの機能(3)社会を変える(アドボカシー)
  - 第8講 若者とNPO活動
  - 第9講 NPO活動と資金
  - 第10講 社会的企業・コミュニティビジネス
  - 第11講 協同組合
  - 第12講 中間支援組織
  - 第13講 新しい公共
  - 第14講 地域から世界への市民のつながり
  - 第15講 まとめ

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 毎回講義時に、教員が作成した資料を配布します。

**担当者から一言**  
 ボランティアセンターが紹介する地域のボランティア活動にも、ぜひ参加してください。

**授業の位置づけ**  
 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。幅広い人間力を身につける。

- 授業計画**
- 第1講 ガイダンス:この講義の進め方
  - 第2講 あなたの隣のマイノリティ(グループワーク)
  - 第3講 民族と国民国家
  - 第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～
  - 第5講 日本における少数民族政策
  - 第6講 もう一つの民族問題 在住外国人
  - 第7講 日本における在住外国人政策
  - 第8講 地域における在住外国人政策
  - 第9講 セクシュアルマイノリティとLGBT
  - 第10講 トランスジェンダーと性同一性障害
  - 第11講 同性愛・両性愛と異性愛
  - 第12講 性感染症をめぐる差別とタブー
  - 第13講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策
  - 第14講 日本の歴史の中のマイノリティ
  - 第15講 これからのマイノリティ政策(グループワーク)
- 定期試験
- ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 なし(必要に応じてプリントを配布する場合があります)。  
**【参考文献】**  
 塩川伸明「民族とネーション」岩波新書(2008年)  
 小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社(2016年)

**担当者から一言**  
 遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。



環境政策	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鬼頭 浩文・岡 良浩	PRP2002	前学期 選 択

**授業のねらい**  
 環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。

**到達目標**  
 環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通して、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 小レポート5点×約10回として全体の50%、学期末試験50%の配分で、総合的に評価する。フィードバックとして、小レポートから課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。

**事前・事後学習**  
 シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。

観光政策／観光実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	千葉 賢・岡 良浩	PRP2003	前学期 選 択

**授業のねらい**  
 新型コロナの影響で停滞しているが、日本はインバウンド観光を利用した地域の活性化に力を入れている。本授業ではインバウンド観光を含め、日本人も対象としたツーリズムによる経済活性化と地域おこしの方法と事例について学ぶ。また、自然環境と歴史文化資源などの地域の魅力を観光に生かす方法を学ぶ。授業の後半で、地域魅力発見体験合宿を行い、地域の方々と触れあい、田舎暮らしを体験し、地域の仕事を手伝える。この中で、地域の魅力を自分の目で発見する。これら経験をもとめてプレゼンする能力の育成も行う。

**到達目標**  
 ツーリズムによる地域経済の活性化や地域おこしの手法を学ぶとともに、それに関連した自然環境と歴史文化資源の保全の重要性を理解できるようになる。地域魅力発見体験合宿を通じて、地域の隠れた観光資源を発掘する方法を習得する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 講義と合宿の取組み姿勢(60%)、合宿成果発表会(20%)、合宿成果レポート(20%)により評価する。合宿に参加しない者、合宿成果発表会で発表しない者、合宿成果レポートを提出しない者には単位を与えない。実習時や成果発表会を通じて学生に学習進度をフィードバックする。

**事前・事後学習**  
 マイクロツーリズム、グリーンツーリズムなどの資料、答志島の自然資源や歴史文化資源の資料を配布するので、予習(180分)して授業に臨むこと。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

**授業計画**  
 4/13 第1講 ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える(岡)  
 4/20 第2講 循環型社会とリサイクル(岡)  
 4/27 第3講 災害ゴミの処理(鬼頭)  
 5/11・18 第4・5講 四日市公害と中国の大気汚染対策①②(鬼頭)  
 5/25 第6講 四日市公害と夜景クルーズ(ゲスト講師=寺本)  
 6/1 第7講 三重の産廃問題とモンゴル・インドネシアの環境問題(ゲスト講師=武本)  
 6/8 第8講 ICETTの取り組み(ゲスト講師=ICETTより)  
 6/15・22 第9・10講 伊勢湾の水質問題と環境政策①②(千葉)  
 6/29 第11講 地球温暖化の仕組みと現状(鬼頭)  
 7/6 第12講 三重の地球温暖化対策(ゲスト講師=三重県)  
 7/13 第13講 映像で観る今日の環境政策の課題①(鬼頭)  
 7/20 第14講 映像で観る今日の環境政策の課題②(鬼頭)  
 7/27 第15講 まとめと講義の振り返り(鬼頭)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 講義でプリントを配布する。

**担当者から一言**  
 仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。

**授業の位置づけ**  
 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス、ツーリズムとは  
 第2講 ツーリズム概論(講師:岡)  
 第3講 ツーリズム概論(講師:岡)  
 第4講 ツーリズム概論(外部講師)  
 第5講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)  
 第6講 ツーリズムと環境問題(講師:千葉)  
 第7講 地域魅力発見合宿のガイダンス(講師:岡、千葉)  
 第8-13講 地域魅力発見合宿(3泊4日前後)  
 第14-15講 合宿成果発表会(合宿地にて)(講師:岡、千葉)  
 レポート 合宿成果をレポートとして提出  
 定員:合宿を行う関係から、履修者上限を20名とする。  
 合宿期間:8月下旬から9月上旬  
 合宿予定地:鳥羽市答志島桃取町  
 合宿費用、旅費:学生負担。ただし、大きな負担にならないように配慮する。  
 食事:自炊

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 なし。資料を配布する。

**担当者から一言**  
 田舎暮らしを体験し、地域の方々と触れ合い、地域の魅力を発見し、それを発表するアクティブラーニング形式の授業です。観光産業に興味のある人、農業、漁業、田舎暮らしや神社仏閣や史跡に興味のある人、企画好きな人は是非参加してください。

経済政策	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	鬼頭 浩文	PRP2005	後学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義では、経済政策の効果について考えていく。この経済政策の効果は、まず「競争」についての知識がないと理解できない。ここでは映像や外部講師により、直感的・感覚的に「競争」を感じながら学んでいく。そこでは、できるかぎり事例を紹介しながら説明する。講義の後半には、実際の日本の経済政策について各自で調べ、資料を作成していく課題に取り組む。その上で、テーマごとにディスカッションを通し、より深く経済政策を理解する。

**到達目標**  
経済政策について深く理解し、自分の考えをレポートにまとめる力を身につけることが目標である。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
テーマごとに実施するレポート試験(25%; 5回を予定)、2つの課題(30%)、学期末試験(45%)により、総合的に評価する。課題は期末試験に持ち込んで参考にするため、フィードバックとして、課題の解説や学生の主な間違いを指摘し、要望のある学生には課題の点数を伝える。

**事前・事後学習**  
レポートや課題に取り組む準備学習・事後学習の時間を確保すること。必要な時間は、レポート各3時間(15時間)ほど、課題は各10時間ほど(20時間)が必要である。また、期末試験に向けて、授業全体を振り返る復習が10時間ほど必要である。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

都市政策	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	藤本 和弘	PRP2004	前学期 選 択

**授業のねらい**  
地域・まちづくり分野においては、地域づくりやまちづくりの現状や課題を学ぶことが最重要と考える。都市政策を、まちづくりの実態を学ぶ主要な機会と位置付け、その成り立ち、構造、仕組み、実態、課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。その学びを通じ、将来、官民いずれの職に赴こうとも、政策遂行や社会動向に関心を持ち、かつ理解でき、自らの立場を組織や社会に生かせるよう学修することを目指す。

**到達目標**  
毎日報道されている新聞記事やニュース内容、さらには、政策動向に関する図書について、理解が早まること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
以下のような配分で評価する。  
講義時に提示する簡単な課題への提出状況及び受講態度 50%  
定期試験時に提出してもらう、これまでの講義に即したレポート課題 50%  
なお、毎回提出してもらう課題については、翌週回において説明する。

**事前・事後学習**  
事前学習においては、毎日、新聞やテレビニュースを見ること(30分)。新聞やニュースで見た政策動向に関する図書を読むこと(60分)。事後学習においては、講義に使用したレジメや自らが記述したノートを見直し、必要事項を覚えるとともに、不明なキーワード等は、参考文献等で調べておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。系統的に学修し、進路に即した地域力と人間力を習得する。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
9/29 1:ガイダンス  
10/6 2:コロナ禍の金融政策  
10/13 3:金融制度の裏側を知る  
10/20 4:中国の医療に関する政策①  
10/27 5:中国の医療に関する政策②  
11/3 6:日本の医療保険と生活保護①  
11/10 7:日本の医療保険と生活保護②  
11/17 8:独占禁止政策①  
11/24 9:独占禁止政策②  
12/1 10:独占禁止政策③  
12/8 11:実際の独占禁止政策(講師:公正取引委員会)  
12/15 12:コロナ禍の地域経済政策  
12/22 13:復興の財政政策  
1/12 14:復興の金融政策  
1/19 15:講義の振り返り

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。

**担当者から一言**  
出席して、参加して、理解すること、これらの全てが重要である。提出されたレポートや課題によって参加意欲と理解度を厳しく判定する。楽しくて、かつ社会に出て役立つ何かを獲得できる講義を目指す。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献できる人材になる。系統的に学修し、進路に即した地域力と人間力を習得する。幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
1. ガイダンス、都市政策とは  
2. 都市政策の歴史  
3. 都市政策の構造と手法  
4. 都市政策のハード  
5. 都市政策のソフト  
6. 「住む」都市政策  
7. 「働く」都市政策  
8. 「憩う」都市政策  
9. 「移動する」都市政策  
10. 総合的都市政策の必要性  
11. 持続可能な都市政策  
12. 都市、農村・山村・漁村連携のあり方  
13. 都市間連携のあり方  
14. 広域連携のあり方  
15. 地域政策としての都市政策

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止する。守られない者には、退出を命じることがある。真剣で誠実な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。

**担当者から一言**  
講義中における遅刻、中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動並びに使用は禁止する。守られない者には、退出を命じることがある。真剣で誠実な態度で受講すること。講義中に指名されたら元気に返事すること。

交通政策	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PRP2006	後学期	選 択

本部 賢一

### 授業のねらい

地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど住民が地域で生きていく上での土台となる総合的な社会的政策づくりです。

本講義では、交通政策づくりを進めるため、①「地域交通政策を考える上での基本的な認識と考え方」、②「まちづくり、福祉、教育、交通安全など地域の課題とともに交通問題を解決していこうとする各地の取り組み事例」、③「人口減少・高齢社会における地域交通政策に必要な要件とその政策を実現する運動の進め方」などについて学びます。

### 到達目標

授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域交通政策づくりに参加した際、地域の抱える問題の本質を見極めるとともに、他の地域における成功事例を参考にしながら、より良い政策提言を行なうことができる力を身につけることを到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により総合的に評価します。  
 ・授業時に出す課題の提出状況および受講態度:40%  
 ・定期試験:60%  
 なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。  
 4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

### 事前・事後学習

配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう(90分程度)。  
 ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。单元ごとに課題(小レポート)が出されますので、必ず提出してください(90分程度)

都市計画論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	PRP3001	前学期	選 択

本部 賢一

### 授業のねらい

都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。

本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画、都市防災計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。

### 到達目標

授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域や公務員として従事される自治体職場での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できるようになるだけでなく、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により総合的に評価します。  
 ・授業時に出す課題の提出状況および受講態度:40%  
 ・定期試験:60%  
 なお、授業時に提出した課題については、添削の上、以降の授業で返却します。  
 4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。

### 事前・事後学習

配布されたプリントには必ず目を通し、疑問点を整理しておきましょう(90分程度)。  
 ノート整理を行い、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。单元ごとに課題(小レポート)が出されますので、必ず提出してください(90分程度)

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

第01講	ガイダンス(講義内容の説明)
第02講	地域交通が抱える課題
第03講	地域交通をめぐる国の動き
第04講	地域交通をめぐる自治体の動き
第05講	地域交通政策づくりとその実現を自治体に移譲する必要性について
第06講	総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(1)
第07講	総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(2)
第08講	総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(3)
第09講	総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(4)
第10講	地域協議会でつくりあげた木曾岬町生活交通システム
第11講	市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(1)
第12講	市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(2)
第13講	市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(1)
第14講	市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(2)
第15講	講義のまとめ 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(单元ごとにプリントを配布)

### 担当者から一言

スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。  
 講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

第01講	ガイダンス(講義内容の説明)
第02講	都市形成のメカニズム(1)
第03講	都市形成のメカニズム(2)
第04講	現代都市の問題
第05講	都市の進化とプランニング
第06講	計画概念とプランナーの役割(1)
第07講	計画概念とプランナーの役割(2)
第08講	暮らしを支える都市
第09講	豊かな都市空間を考える
第10講	都市環境計画(1)
第11講	都市環境計画(2)
第12講	環境保全対策
第13講	環境経済評価
第14講	都市防災計画
第15講	まとめ 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

なし。(单元ごとにプリントを配布)

### 担当者から一言

スライドを見ながら口頭で説明する内容が多いので、ノートテイクが重要です。  
 講義中の遅刻、中座、飲食、携帯電話の使用などは禁止です。

からだところ 萩・大西・杉崎・別所	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSH2002	前学期	分野必修

### 授業のねらい

この授業ではこころの健康と精神の発達について、人間の成長発達及び生涯発達の視点で概観する。  
またこころとからだの健康の保持増進、メンタルヘルス不調の予防について学ぶ。

### 到達目標

1. 人のからだところの健康に関する基礎知識を理解する。
2. 精神の発達について人の成長発達の視点から理解する。
3. メンタルヘルスの保持増進について理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

1. レポート課題50%
  2. 定期試験50% (持ち込み不可)
- 講義中、講義後に質問を受けつけ、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回講義で説明を追加する。

### 事前・事後学習

1. 日常生活やメディアから人間発達や、精神健康についての関連することをを見つけ、調べてみる(毎講30分)
2. 授業で学んだ内容に関して、疑問や興味を持ったことに関してさらに文献で調べてみる(60分)

### 授業の位置づけ

系統的に学習し、進路に即した人間力の根幹を形成する。  
幅広い人間力を身につける。

### 授業計画

- |      |               |                     |
|------|---------------|---------------------|
| 第1講  | ガイダンス         | メンタルヘルスとその不調について(萩) |
| 第2講  | ストレスとコーピング    | (萩)                 |
| 第3講  | こころのあらわれ成り立ち① | (大西)                |
| 第4講  | こころのあらわれ成り立ち② | グループディスカッション(大西)    |
| 第5講  | 思春期とこころの健康    | (大西)                |
| 第6講  | 豊かな人生をめざす     | (萩)                 |
| 第7講  | 乳児期の発達        | (別所)                |
| 第8講  | 幼児期の発達        | (別所)                |
| 第9講  | 児童期の発達        | (別所)                |
| 第10講 | 青年期の発達①       | (杉崎)                |
| 第11講 | 青年期の発達②       | グループディスカッション(杉崎)    |
| 第12講 | 成人期の発達①       | (杉崎)                |
| 第13講 | 成人期の発達②       | グループディスカッション(杉崎)    |
| 第14講 | 老年期の発達①       | (杉崎)                |
| 第15講 | 老年期の発達②       | グループディスカッション(杉崎)    |

### テキスト・教材(参考文献含む)

1. 担当教員が配布する資料と授業内で示すスライドを中心とする。
2. 参考文献 船島なをみ「看護のための人間発達学」第5版 医学書院

### 担当者から一言

学んだことを自分自身の日常生活や成長発達と関連づけて考えてみて下さい。

こころの科学 若山裕晃	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSH2003	後学期	分野必修

### 授業のねらい

本講義では、対人関係の中で生きている人間の存在について、社会心理学的観点から検討する。社会的認知、対人相互作用、個人と集団等のトピックを取り上げ、社会と人間の関係についての理解を深める。

### 到達目標

自分自身の存在と社会との関係性について考察を加え、今後の社会生活にいかせる実践的な知識を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

### 事前・事後学習

予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、自己と他者、対人関係、集団、社会等に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直ししておくこと(90分)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- |      |                |
|------|----------------|
| 第1講  | ガイダンス          |
| 第2講  | 社会的認知          |
| 第3講  | 社会的認知          |
| 第4講  | 社会的影響          |
| 第5講  | 社会的影響          |
| 第6講  | 対人関係と対人相互作用    |
| 第7講  | 対人関係と対人相互作用    |
| 第8講  | 個人と集団          |
| 第9講  | 個人と集団          |
| 第10講 | マスコミュニケーションの影響 |
| 第11講 | マスコミュニケーションの影響 |
| 第12講 | ソーシャルネットワーク    |
| 第13講 | ソーシャルネットワーク    |
| 第14講 | 社会心理学を理解するために  |
| 第15講 | 社会心理学を理解するために  |

### テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献:「よくわかる社会心理学」ミネルヴァ書房  
授業では、講義内容に沿った資料を配付する。

### 担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ政策論	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	小泉大亮 PSH2001	後学期	分野必修

**授業のねらい**  
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者やスポーツクラブのクラブマネージャーとしての必要なマネジメントの知識、心構えや法的知識等を学習する。

**到達目標**  
国家のスポーツ政策から自治体のスポーツ政策に至るまでの幅広い知識を身につけるとともに、様々な対象に応じたスポーツマネジメントを理解し、クラブマネジメントの実践に活かせるようにする。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義内で指示するミニレポート:80%  
・レポート課題:20%  
ミニレポートおよびレポート課題は全てmoodleにて提出していただきます。講義レポートは、5段階評価により採点し、moodleにてフィードバックします。

**事前・事後学習**  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)  
授業内容に関して適宜指示をしますので、自分なりにまとめること(90分)

スポーツ指導論	科目ナンバリング	1 年次	2 単位
	若山裕晃 PSB2001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。

**到達目標**  
スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
【オンデマンド授業にて実施】  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 スポーツ行政とその関わり・スポーツ振興  
第3講 競技スポーツ政策  
第4講 健康体力政策・スポーツ基本計画と健康日本21  
第5講 スポーツマネジメント  
第6講 大学スポーツのマネジメント  
第7講 子どもスポーツのマネジメント・障害者スポーツのマネジメント  
第8講 高齢者スポーツのマネジメント・高齢者を取り巻く環境  
第9講 地域スポーツを取り巻く環境  
第10講 地域スポーツクラブの機能とその役割・スポーツ少年団について  
第11講 総合型クラブについて・総合型クラブを取り巻く環境  
第12講 総合型クラブの立ち上げ方式の分類・総合型クラブのマネジメント  
第13講 総合型クラブの具体的な事例(設立から運営まで)・クラブマネージャーの位置づけ  
第14講 総合型クラブの自主運営に必要な条件・スポーツとNPO・法人格の取得  
第15講 まとめ

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編「よくわかるスポーツマネジメント」ミネルヴァ書房

**担当者から一言**  
本講義はオンデマンドで実施します。課題提出期限は1週間以内としますので、注意してください。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 スポーツ指導者とは  
第3講 指導者の心構え・視点  
第4講 競技者育成プログラムの理念  
第5講 スポーツと健康  
第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気  
第7講 救急処置  
第8講 指導計画の立て方  
第9講 スポーツ活動と安全管理  
第10講 中高年者とスポーツ  
第11講 女性とスポーツ  
第12講 障害者とスポーツ  
第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係  
第14講 ミーティングの方法  
第15講 総括

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
参考文献:財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

**担当者から一言**  
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツトレーニング論 若山裕晃	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PSB2002	前学期	選 択

### 授業のねらい

本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。

### 到達目標

トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

### 事前・事後学習

予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス 授業の概要
第2講	体力とは
第3講	体力とは
第4講	トレーニングの進め方
第5講	トレーニングの進め方
第6講	トレーニングの種類
第7講	トレーニングの種類
第8講	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第9講	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第10講	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴
第11講	発育発達期に多いケガや病気
第12講	発育発達期に多いケガや病気
第13講	発育発達期のプログラム
第14講	発育発達期のプログラム
第15講	総括

### テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

### 担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ心理学 若山裕晃	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PSB2003	後学期	選 択

### 授業のねらい

本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲・学習・発達・性格特性・集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。

### 到達目標

スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

### 事前・事後学習

予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス・スポーツ心理学とは
第2講	スポーツと心
第3講	スポーツにおける動機づけ
第4講	技能の練習と指導
第5講	プレイヤーの個人指導と心理的問題
第6講	チームの指導と心理的問題
第7講	コーチングの評価
第8講	メンタルマネジメントとは
第9講	リラクゼーション
第10講	イメージトレーニング・集中力トレーニング
第11講	心理的コンディショニング
第12講	プレッシャー・あがり・スランプの克服
第13講	指導者のメンタルマネジメント
第14講	スポーツ環境における精神障害と対策
第15講	総括

### テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献：日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃・渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社

### 担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ社会学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSB2004	後学期	選 択

若山裕晃

### 授業のねらい

本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。  
現代がスポーツに及ぼす影響は大きい。われわれの生活とスポーツ活動は密接に関わっており、社会制度や地域社会においてスポーツが果たす役割が増大している。最近では、スポーツの商業化が加速したことによりスポーツ産業の発展が著しいが、一方ではスポーツの商業主義を優先することにより、勝利至上主義などの社会病理現象が表出している。本講義では、関連する最新データを用いてスポーツの社会構造について学習する。

### 到達目標

近代から現代のスポーツ文化を社会学の観点から検討し、スポーツの社会構造と社会への影響を考察できる視点を身につける。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

### 事前・事後学習

予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ社会学に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス 授業の概要
第2講	スポーツの歴史と概念
第3講	スポーツ行政の仕組み
第4講	スポーツ振興策
第5講	スポーツ事業の効果的運営
第6講	スポーツ指導者論1
第7講	スポーツ指導者論2
第8講	スポーツ指導者論3
第9講	スポーツ施設管理論
第10講	スポーツ系理論
第11講	スキルとは何か
第12講	地域スポーツ経営論
第13講	スポーツとメディア
第14講	スポーツにおける逸脱行為
第15講	総括

### テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献:財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
授業では、講義内容に沿った資料を配付する。

### 担当者から一言

授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ生理学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSB2005	前学期	選 択

小泉大亮

### 授業のねらい

この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、呼吸、循環、代謝、筋、血液、神経といった身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。

### 到達目標

スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
・講義内ミニレポート:70%  
・レポート試験:30%  
レポート課題は全てmoodleにて提出。  
講義レポートは、5段階評価により採点し、moodleにてフィードバックします。

### 事前・事後学習

シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)  
授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

オンデマンド授業にて実施	
第1講	ガイダンス 講義の進め方
第2講	運動器と身体運動学
第3講	筋の構造と筋の生理学
第4講	筋の収縮様式とエネルギー供給
第5講	呼吸器系と運動
第6講	循環器系と運動①
第7講	循環器系と運動②
第8講	神経系と運動①
第9講	神経系と運動②
第10講	内分泌系・免疫能と運動
第11講	特殊環境下での運動
第12講	老化に伴う機能の低下
第13講	運動処方①
第14講	運動処方②
第15講	まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】  
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
Scott K. Powers, Edward T. Howley「Exercise Physiology」Human Kinetics

### 担当者から一言

レポート等の課題提出は1週間以内とし、未提出のものは欠席とします。

健康スポーツ論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	小泉大亮	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。健康科学やスポーツ科学の学習から具体的な健康スポーツ指導に必要な運動方法を身につけるとともに、様々な対象者に応じたスポーツ指導方法を学習する。

**到達目標**  
健康スポーツ科学の基礎知識と様々な対象者の特徴を理解し、スポーツ指導の際に必要な方法を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示するミニレポート:40%  
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60%  
講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

**事前・事後学習**  
日頃から健康スポーツに関する話題を調べる(毎日20分程度)  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(15分)  
授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめておくこと(40分)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

スポーツ栄養学	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	櫻井智美	PSB2007	後学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。  
スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。

**到達目標**  
スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度:50%  
定期試験:50%  
尚、課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

**事前・事後学習**  
予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある(90分)  
復習として講義内容の資料等の見直し(90分)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

健康スポーツ論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
小泉大亮	PSB2006	後学期	選 択

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 健康の概念・ヘルスプロモーション  
第3講 健康とスポーツ・運動不足と健康障害  
第4講 メタボリックシンドローム・認知行動療法  
第5講 ロコモティブシンドローム  
第6講 中間テスト  
第7講 エアロビクス運動の理論  
第8講 レジスタンス運動の理論  
第9講 柔軟性運動の理論  
第10講 バランス運動の理論  
第11講 中高年者のスポーツ指導  
第12講 女性とスポーツ  
第13講 女性のスポーツ指導  
第14講 障害者のスポーツ指導  
第15講 まとめ  
定期試験

**到達目標**  
健康スポーツ科学の基礎知識と様々な対象者の特徴を理解し、スポーツ指導の際に必要な方法を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示するミニレポート:40%  
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60%  
講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

**事前・事後学習**  
日頃から健康スポーツに関する話題を調べる(毎日20分程度)  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(15分)  
授業内容に関して適宜指示をするので、自身でまとめておくこと(40分)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】  
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
竹島伸生編「ウエルビクスのすすめ」有限会社ナップ

スポーツ栄養学	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
櫻井智美		PSB2007	後学期	選 択

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 5大栄養素の役割(糖質・たんぱく質・脂質)  
第3講 5大栄養素の役割(ビタミン・ミネラル)  
第4講 スポーツ選手の基本の食事  
第5講 トレーニングとエネルギー消費量  
第6講 スポーツ選手の身体組成  
第7講 熱中症の予防と水分補給  
第8講 目的別の食事  
第9講 試合前後の食事  
第10講 トレーニング時の食事  
第11講 競技者に多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴  
第12講 サプリメントとエルゴジェニックエイド  
第13講 ジュニア期の栄養管理  
第14講 競技者の栄養教育のすすめ方  
第15講 まとめ  
定期試験

**到達目標**  
スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度:50%  
定期試験:50%  
尚、課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。

**事前・事後学習**  
予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある(90分)  
復習として講義内容の資料等の見直し(90分)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿った資料の提供。  
【参考文献】  
公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅲ(公益社団法人日本スポーツ協会)  
新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満編著(市村出版)  
スポーツ栄養学 鈴木志保子著

**担当者から一言**  
遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。  
これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。  
オンデマンド型授業の際は、レポート課題の提出期限を遵守してください。



アスリート育成論  若山裕晃	科目 ナンバリング	1年次	2単位
	PSP2001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。

**到達目標**  
アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
レポートの内容(60%)及び定期試験(40%)で成績評価する。レポートは毎回提出することとし、1回4点満点で評価(4点×15回=60点)。レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと(90分)。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと(90分)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 授業の概要  
第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開  
第3講 競技者育成と評価競技  
第4講 競技者育成システムにおける指導計画  
第5講 競技力向上のためにチームマネジメント  
第6講 スポーツとIT  
第7講 アスリートの健康管理  
第8講 アスリートの内科的障害と対策  
第9講 アスリートの外傷・傷害と対策  
第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画  
第11講 コンディショニングの手法  
第12講 スポーツによる精神障害と対策  
第13講 特殊環境下での対応  
第14講 アンチドーピング  
第15講 総括

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
授業では、講義内容に沿った資料を配布する。

**担当者から一言**  
授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。  
状況によっては、オンライン授業となる場合があります。

スポーツ応用科学  小泉大亮	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	PSP2003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。

**到達目標**  
最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示するミニレポート:40%  
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):60%  
講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

**事前・事後学習**  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)  
授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 健康に関連する体力要素  
第3講 身体運動学  
第4講 トレーニング指導 -健康づくりを目指した運動指導について-  
第5講 トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング  
第6講 スピードトレーニング・持久力トレーニング  
第7講 トレーニング計画①「トレーニングの目標設定」  
第8講 トレーニング計画②「トレーニングプログラムの設計」  
第9講 トレーニング計画③「疲労および回復」・「トレーニング環境の整備」  
第10講 中間テスト  
第11講 測定評価「テストの選択と実施の原則」  
第12講 測定評価「身体組成の評価」  
第13講 測定評価「筋力・筋パワー」「無酸素性能力・有酸素性能力」「測定結果の活用」  
第14講 スキルトレーニングの原理・スキルの獲得過程について  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】  
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

**担当者から一言**  
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。状況によってはオンライン授業にて実施します。

スポーツメディカル論  小泉大亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSP2005	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。

**到達目標**  
身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示するミニレポート:50%  
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):50%  
講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

**事前・事後学習**  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)  
授業内容に関して適宜指示をしますので、自分なりにまとめること(90分)

地域スポーツ論  小泉大亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PSP2004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。講義を通じて、スポーツクラブをマネジメントするための知識・技術の習得を目指す。また、「組織のあり方」、「コミュニケーション能力」を意識しながら、スポーツクラブだけでなく、集団活動の場に適応できる力を養う。

**到達目標**  
スポーツ場面における多様なニーズに対応方法、クラブ育成に関する知識を身につけ、クラブマネジメントの実践に役立てる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・講義時に指示するミニレポート:50%  
・中間試験・定期試験(授業内配布資料持込可):50%  
講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します。

**事前・事後学習**  
シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)  
授業内容に関して適宜指示をしますので、自分なりにまとめること(90分)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 加齢と体力  
第3講 スポーツ医学の基礎知識①「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」  
第4講 スポーツ医学の基礎知識②「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」  
第5講 スポーツ医学の基礎知識③「体液と体温調節」  
第6講 スポーツ医学の基礎知識④「スポーツと内分泌系」  
第7講 スポーツ医学の基礎知識⑤「身体運動学・機能解剖」  
第8講 中間テスト  
第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性)  
第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性)  
第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害  
第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(上肢)  
第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(下肢)  
第14講 救急処置(救急蘇生法)  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】  
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
目崎登「スポーツ医学入門」分光堂

**担当者から一言**  
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。状況によってはオンデマンドにて実施します。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 地域スポーツ組織の事業と運営  
第3講 国家施策としての地域スポーツクラブ  
第4講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの位置づけと求められる能力  
第5講 クラブマネジャー・アシスタントマネジャーの役割  
第6講 中間テスト  
第7講 クラブマネジャーに求められる能力「コミュニケーション・ロジカルシンキング」  
第8講 クラブマネジャーに求められる能力「経営戦略」・「マーケティング」  
第9講 クラブマネジャーに求められる能力「ヒト・組織のマネジメント」  
第10講 クラブマネジャーに求められる能力「ホスピタリティ」・「施設の管理と運営」  
第11講 クラブマネジャーに求められる能力「財務・会計」・「事業計画作成」  
第12講 クラブ設立の準備・総合型クラブの自主運営に必要な条件  
第13講 クラブの作り方・クラブの運営  
第14講 総合型クラブ 事例クラブ紹介  
第15講 まとめ  
定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
講義内容に沿ったプリントを配布。  
【参考文献】  
公益財団法人日本体育協会編「公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」  
公益財団法人日本体育協会編「公認アシスタントマネジャー養成テキスト」

**担当者から一言**  
遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命じ、欠席扱いといたします。状況によってはオンデマンドにて実施します。

スポーツ実技／スポーツ実技 b  若山 裕 晃	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PSP2002	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業では、適度な運動量が得られレクリエーションにも利用しやすい各種スポーツを実施する。種目については、人数や学生の希望等を考慮しながら、状況に応じて選定する。また、序盤と終盤に体力テストを実施し、自分自身のデータを基に「スポーツ習慣による心身への効果」というテーマのレポートを作成する。

**到達目標**  
ルールを覚え、楽しく安全にスポーツを体験することによって、生涯スポーツによる健康維持増進を自ら実践できる能力及び習慣を身につける。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業への参加姿勢・服装(50%)とレポートの内容(50%)で成績評価する。学期中の累積点数は、希望があれば本人にいつでも開示する。

**事前・事後学習**  
予習として、授業以外の日にも、積極的に身体活動を実施しておくこと(90分)。復習として、授業内で実施した種目の動作について、動画サイト等も活用しながら確認しておくこと(90分)。

介護予防スポーツ／スポーツ実技 a <b>実務</b>  池田 裕 美 子	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PHH2002	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この授業のメインテーマは「地域社会と介護予防運動」です。現在、社会的問題にもなっている介護や認知症に関する知識を深め、介護現場は勿論、日常の運動不足解消など、様々な場面で活用することが出来る「介護予防運動・体操(元気ダンス)」を習得します。具体的には、地域社会における介護予防の必要性、介護に関する基本的な知識や、高齢者が運動するうえで注意すべきこと、ダンスを実施するうえで必要なリズムの知識や指導方法などを学び、それらを生かし実際に体を動かして「元気ダンス」の実技を行います。

**到達目標**  
講義過程を通じて、運動・音楽・介護予防・地域社会などについての知識を深めること。  
日本介護予防ダンス協会公認「学生3級ゼネラルアドバイザー」資格を取得することを目標とします。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
授業への積極性 30%  
毎回の小テスト・小レポート 30%  
実技試験・定期試験 40%  
授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
地域包括ケア、高齢者の健康に関わるニュース等に関心を持ち積極的にチェックして下さい。(1日20分以上)  
毎回の講義内容の復習。特に実技内容は反復練習を望みます。(20分)

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講:ガイダンス 授業の概要  
第2講:体力テスト  
第3講:体力テスト  
第4講:実技  
第5講:実技  
第6講:実技  
第7講:実技  
第8講:実技  
第9講:実技  
第10講:実技  
第11講:実技  
第12講:体力テスト  
第13講:体力テスト  
第14講:実技  
第15講:まとめ・レポート提出

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。

**担当者から一言**  
学生の積極性に期待する。安全性を考慮し、スポーツ活動に適した服装(シューズも含む)で参加すること。  
状況によって、オンライン授業となる場合があります。

**授業の位置づけ**  
地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

**授業計画**  
第1講 学科① ガイダンス  
第2講 学科② 現代社会における「元気ダンス」  
第3講 学科③ 色々な音楽・リズム(学科)  
第4講 学科④ 地域と介護予防  
第5講 学科⑤ 危険予測・回避・処置(学科)  
第6講 学科⑥ 学科総合  
第7講 講演 この地域での介護予防【講演】  
第8講 実技① 元気ウォームアップ・元気ベーシック(実技)  
第9講 実技② 元気マンボ・元気クールダウン(実技)  
第10講 実技③ 元気ダンス指導法Ⅰ(実技)  
第11講 実技④ 元気ダンス指導法Ⅱ(実技)  
第12講 実技⑤ 元気ダンス指導法Ⅲ(実技)  
第13講 実習 【交流実習】  
第14講 試験 実技試験  
第15講 試験 学科試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
・テキスト 日本介護予防ダンス協会出版「ゼネラルアドバイザー教本」2015年発行  
\*テキストを購入しない場合は授業をうけることが出来ません。  
・プリント 必要に応じて配布します。

**担当者から一言**  
学科も実技も参加型の授業です。「ダンス」とはありますが、音楽に合わせて身体を動かす「運動・体操」となりますので、技術は必要ありません。遅刻・授業中の中座・私語・飲食などは原則禁止しますが、明るく楽しく授業への積極性を求めます。

健康スポーツ実技／スポーツ実技c  小泉大亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PHH2004	前学期	選 択

**授業のねらい**  
健康の維持・増進のためにはスポーツや身体運動の実践が必要である。本講義では、生涯を通じて実践可能なスポーツの方法やルールを学ぶ。また、スポーツの創作なども通じてスポーツ指導者としての想像性を育む。

**到達目標**  
ルールを覚え、楽しく安全にスポーツができる方法を学ぶことにより、生涯を通じたスポーツ実践につなげる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績は次のような配分により評価します。  
・日頃の準備学習や復習の様子や受講態度:70%  
・レポート:30%  
レポート等の評価は個別に開示する。

**事前・事後学習**  
実技に関して、インターネット等で動画を検索し、ルールや動き方などの技術を確認しておくこと(毎日20分)  
実技に関するルールを調べておく(45分)

こころの健康／健康科学  萩 典子・工藤安史・後藤由紀	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PHH2001	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では人間の健康に影響を及ぼす生活習慣や人間関係、ストレス対処等の傾向を理解することをめざします。健康は一日にして成るものではなく、毎日の積み重ねにより築かれます。自己の生活を振り返り、健康とは何かを考え、自分自身の生活につなげてもらいたいと考えています。

**到達目標**  
人間のこころとからだの健康に関する基本知識を理解すると共に、自己の日常生活に生かし、健康の維持増進につなげる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度(20%)  
レポート(80%)  
講義中、講義後に質問を受けつけ、タイムリーにコメントをフィードバックし、内容によっては次回講義で説明を追加する。

**事前・事後学習**  
書籍やインターネットなどで健康に関連する情報を得る(毎週2時間程度)  
配布されたプリントを読み返し、学んだことを整理し、自分自身の生活に取り入れる目標を決め実践する(30分以上)

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス 講義の進め方  
第2講 体力測定 1  
第3講 体力測定 2  
第4講 競技ルールの解説  
第5講 実技  
第6講 実技  
第7講 実技  
第8講 実技  
第9講 実技  
第10講 実技  
第11講 実技  
第12講 実技  
第13講 実技  
第14講 体力測定 3  
第15講 体力測定 4

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
雨天時 運動解説「DVD」

**担当者から一言**  
授業は屋外でおこないます。運動のできる服装(ウェア・シューズ)を用意して参加する事。服装を用意していない場合は欠席扱いとします。雨天時は屋内で実施しますので、体育館シューズを持参してください。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。  
幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
1 ガイダンス 健康とは(萩)  
2 人間の発達と健康(萩)  
3 人間関係と健康(萩)  
4 メンタルヘルス不調(萩)  
5 生活習慣と健康① 食生活と健康(後藤)  
6 生活習慣と健康② 運動と健康(後藤)  
7 生活習慣と健康③ 睡眠と健康(後藤)  
8 生活習慣と健康④ たばこ・アルコール(後藤)  
9 セルフマネジメント① 怒りのコントロール(後藤)  
10 感染症と健康①(工藤)  
11 感染症と健康②(工藤)  
12 自分自身の健康観について知る①(工藤)  
13 自分自身の健康観について知る②(工藤)  
14 自分自身へのフィードバック(萩)  
15 まとめ(萩)

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
プリントを配布します。

**担当者から一言**  
人間の健康を生活していくうえで重要な要素となります。これからの人生を自分らしく豊かに生きていくための資源としてぜひ活用して下さい。

こころと文学  高田晴美	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PHH2003	前学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では、文学作品を読むことで、人間の様々な心のあり方、人と人との関係、人生の様相について、その深みに触れ、味わい、思いをはせることを目指します。「事実が小説より奇なり」とはよく言われます。しかし、「事実」だけがそんなに偉いのか。事実としては他人事であるかもしれない、自分では体験できないような人生も含めて、この世界と人間の想像力を表現し得るのが文学。それを他人事ではなく我が事として実感し、複雑怪奇で多様な世界を知ることができる。この授業を通して、それを体験してもらいたいと考えています。

**到達目標**  
・ステレオタイプではない心のあり方というものを知る。  
・人間や心、人生社会のあり方に対する感受性や洞察力、分析力、そして広く受け入れる寛容性や批判性を養う。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回の小レポート 50%  
レポート試験 50%  
毎回の小レポートについては、次回の講義の際にコメントをします。

**事前・事後学習**  
講義で取り上げた文学作品やその作家の別作品を、図書館の書籍やネット上の青空文庫などでいくつか読んでみましょう。映像化されている作品を観てみるのもおすすめです(毎週3時間程度)。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス、まずは短歌や俳句を味わってみよう  
第2講 物狂おしい恋心—芥川龍之介の詩  
第3講 男は皆ロリコン?—田山花袋「少女病」  
第4講 バトルしてこそなんぼ?—田村俊子の作品  
第5講 変態も純情の一種?—江戸川乱歩「人間椅子」  
第6講 人は恋してクズになる?—横槍メンゴ「クズの本懐」  
第7講 情欲と業—円地文子の作品  
第8講 苦々しい人生—アリス・マンローの作品  
第9講 秘めた恋—ウィリアム・トレヴァー「パラダイスラウンジ」  
第10講 青春の苦悩—太宰治「斜陽」  
第11講 嫉妬と妄執—中勘助「提婆達多」  
第12講 華やぐ命—岡本かの子「老妓抄」  
第13講 人生、捨てたものじゃない—岡本かの子「家霊」  
第14講 海の向こうにはこんな国もある—エドウィージ・ダンティカ『デュー・プレーカー』  
第15講 まとめ  
話題作など気になる作品が出たら、内容を多少変えて、その作品を取り上げる可能性があります。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
毎回、プリントを配布します。

**担当者から一言**  
まずは気軽に、変わった話が聞きたい、小説を味わいたい、物語を楽しみたいという気分で受講してください。心を柔らかく、広く、深く——。きっと世界が、もっと広く深く甘く渋くなる。

国際経済事情  鶴田利恵	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PIM2001	後学期	分野必修

**授業のねらい**  
この講義では、貿易の理論や為替レートの決定理論など、国際経済を理解する上で必要となる国際経済学の基本的な理論を解説するとともに、第二次世界大戦後の国際経済体制の変容、途上国問題、直接投資、地域統合、リーマン・ショック後の国際経済の状況について解説します。また、日本の経済が国際経済の変化からどのような影響を受けてきたのかについても講義します。授業では鶴田の解説だけでなく、みなさんの意見や疑問をおつけ合い、活発なディスカッションを行いながら進めます。

**到達目標**  
国際経済学の基本的な理論を理解するとともに、国際経済の現状を知ることによって、今後の国際経済と日本経済の行方を自分で考察できるようにすること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
受講態度(20%)、定期試験(80%)により評価します。  
フィードバック方法：講義中や講義後の質問や疑問には適宜コメントをします。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日読んだテキストを必ず読み返す(30分以上)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 国際収支の内容  
第3講 貿易の理論(1)  
第4講 貿易の理論(2)  
第5講 第二次世界大戦後の国際経済体制  
第6講 外国為替市場と為替レートの決定理論  
第7講 発展途上国の諸問題  
第8講 国際経済と直接投資  
第9講 ブラザ合意以降の国際経済(1)  
第10講 ブラザ合意以降の国際経済(2)  
第11講 サブプライム・ローンからリーマン・ショック、世界同時不況へ  
第12講 産業間貿易と産業内貿易  
第13講 地域統合の動き(1)  
第14講 地域統合の動き(2)  
第15講 まとめ  
定期試験  
\*対面での講義を予定していますが、受講者数によってはオンデマンドになる場合もあります。

**テキスト・教材 (参考文献含む)**  
プリントを配布します。

**担当者から一言**  
質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

国際関係論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	富田 与 PIM2002	前学期	分野必修

### 授業のねらい

最近の国際ニュースを見ると、企業やテロ組織など国家以外のアクター(主体)の行為が問題視されることが増えています。ところが、いったん国際的な問題が発生すると、国家が国連などの国家の集まりが解決するしかありません。この講義では、ナイの『国際紛争』をテキストに、国際関係の歴史と理論を考えていきます。このテキストからは、理論や歴史だけではなく、現実的な対応への手掛かりを見つけることができるでしょう。毎回の課題に関するディスカッションを中心に講義を進めます。

### 到達目標

到達目標は「最近の国際ニュースが説明できるようになる」です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

講義への参加度(発言等):30%  
講義期間中のレポート:30%  
最終レポート:40%  
講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。  
最終レポートは希望者に返却します。

### 事前・事後学習

毎回、各章末につけられた「学習上の論点」からレポート課題を出します(180分)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス
第2講	第1章 国際政治における紛争には一貫した論理があるか
第3講	第2章 20世紀における大紛争の期限
第4講	第3章 バランス・オブ・パワーと第一次世界大戦
第5講	第3章 つづき
第6講	第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦
第7講	第4章 つづき
第8講	第5章 冷戦
第9講	第5章 つづき
第10講	第6章 介入、制度、地域・エスニック紛争
第11講	第7章 グローバリゼーションと相互依存
第12講	第8章 情報革命、脱国家主体とパワーの分散
第13講	第8章 つづき
第14講	第9章 新しい世界秩序
第15講	まとめ

### テキスト・教材(参考文献含む)

『国際紛争』 ジョセフ・ナイ著 有斐閣 2,600円

### 担当者から一言

出来るだけ時事問題を取り上げていきたいと思えます。  
関心のある出来事があったら、教員に伝えて下さい。

経営管理論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	楓 森博	PIM2003	後学期	分野必修

### 授業のねらい

本講義は企業そのものを理解するため、企業活動の目的、ルール、管理の基本知識を講義します。経営学(経営戦略・マーケティング・会計・財務管理)、ファイナンス、企業経済学などの発展的研究への導入講義です。経営戦略など経営管理の基本を解説します。講義で学ぶ経営管理論の基礎を活用しながら企業経営の実際をケーススタディにより理解を深めることを、この講義のねらいとします。

### 到達目標

この講義では、日本の企業経営や社会に関する基本的な用語や知識を身につけ、社会人としてビジネスの基礎力を習得することを、到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期的に講義内容の確認レポートを提出。小テストまたは確認レポート50%、最終レポート50%  
無断欠席者については、減点等ペナルティを課すことがある。  
レポートにて理解度を確認し、授業進行を調整する。  
なお、提出したレポートは、評価して以降の講義内で返却します。

### 事前・事後学習

日ごろから新聞やテレビのビジネス関連ニュースに目を通す。(60分)  
講義で提示した新しい用語等を自分で再度調べてみる。また、新聞・雑誌・インターネット等で事例を確認する。(120分)

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス、講義の概要
第2講	企業経営とは
第3講	経営管理の全体の流れ
第4講	古典的管理論
第5講	企業の組織化
第6講	経営戦略の基礎
第7講	マネジメントイノベーション
第8講	財務管理の基礎(企業の財務情報)
第9講	経営理念と企業目標
第10講	企業と社会
第11講	コーポレート・ガバナンス
第12講	企業倫理、企業文化、社会的責任
第13講	コンプライアンス
第14講	ケース・スタディ I (講義の時点で話題となっている企業を取り上げる)
第15講	全体のまとめ 最終レポート

### テキスト・教材(参考文献含む)

レジュメを配布する。

### 担当者から一言

受講予定者は、第1回講義に必ず出席してください。  
講義内容で不明な点は、積極的に質問してください。また、授業中はリアクションできる真摯な態度で受講してください。

日本経済事情	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	PIU2001	後学期	選 択

杉谷 克芳

### 授業のねらい

バブル崩壊(1991年)以降の「失われた30年(?)」を経て、日本の経済も社会も大きく様変わりしました。しかし、そもそも日本経済とはどんな経済であり、どんな特質を持っていたのか。たとえば、バブル崩壊以降の「日本的経営」「日本的雇用システム」の終焉が言われますが、「日本的経営」や「日本的雇用システム」とは何だったのか。現在の日本の経済や社会の閉塞感の実相を理解する前提として、第2次世界大戦以後の日本の経済・社会の歩みをふり返りたいと思います。

### 到達目標

日本的経営、大衆消費社会、高度経済成長、オイルショック、バブル経済など、知っているようで知らない、もしくは実感としてピンと来ないのではないですか。この講義では、経済学を学ぶ前提として、日本経済の常識的、基礎的な理解を身につけることを目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

基本的には定期試験の結果によって評価します(80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います(20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

新聞、雑誌などの日本経済に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。

金融論	実務	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
		PIU2002	前学期	選 択

岩崎 祐子

### 授業のねらい

この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。

### 到達目標

一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期試験(60%)および授業中に作成する小レポート(40%)により評価します。授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。

### 事前・事後学習

日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい(30分、週3日以上)。授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください(90分)。

授業の位置づけ
---------

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス、講義の概要
  - 第2講 スミスの「見えざる手」、世界恐慌、ケインズ政策
  - 第3講 戦後復興期①：焼跡闇市、アメリカの占領政策、東西冷戦の始まり
  - 第4講 戦後復興期②：経済の民主化(農地改革、労働改革、財閥解体)
  - 第5講 戦後復興期②：復興インフレ、傾斜生産方式、団塊の世代
  - 第6講 1949年の日本：ドッジライン、デフレ不況、朝鮮戦争
  - 第7講 「3丁目の夕日」の時代(1958年)①：特需景気、もはや戦後ではない
  - 第8講 「3丁目の夕日」の時代②：所得倍増計画、集団就職、三種の神器
  - 第9講 ベトナムの戦後史
  - 第10講 「バッチギ」の時代(1968年)①：昭和元祿、大衆消費社会
  - 第10講 「バッチギ」の時代(1968年)②：ベトナム戦争と日本、日本的経営の三種の神器
  - 第11講 二つのニクソンショックとオイルショック、高度成長から安定成長へ、『ジャパン・アズ・ナンバーワン』
  - 第12講 バブル経済、失われた〇〇年
  - 第13講 テーラーシステムとフォーディズム、トヨタイズム
  - 第14講 デフレと経済政策
  - 第15講 そして「今」
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

参考文献  
 菊池史彦『「幸せ」の戦後史』トランスビュー(2013年)  
 橋本寿朗『現代日本経済史』岩波書店(2000年)  
 松尾匡『不況は人災です!』筑摩書房(2010年)

### 担当者から一言

あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。

授業の位置づけ
---------

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
  - 第2講 金融市場1
  - 第3講 金融市場2
  - 第4講 金融機関1(銀行、信用金庫)
  - 第5講 金融機関2(証券会社)
  - 第6講 金融商品1(債券)
  - 第7講 金融商品2(株式、投資信託)
  - 第8講 金融政策
  - 第9講 為替相場の見方
  - 第10講 国際通貨制度
  - 第11講 リスク管理
  - 第12講 トピックス1
  - 第13講 トピックス2
  - 第14講 トピックス3
  - 第15講 まとめ
- 定期試験

※第12講はグループワークをします。

### テキスト・教材(参考文献含む)

使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。  
 参考文献：「みんなが欲しかった! FPの教科書 3級 2021-2022年」滝澤 ななみ(著)TAC出版、5月出版予定、前年は1,760円

### 担当者から一言

日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。

国際経営論  吉成 亮	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PIU2003	後学期	選 択

**授業のねらい**  
日本国内の市場は人口減少のためにこれ以上、大きくなることを期待できません。したがって、企業が海外の市場へ展開することは、日本企業が今後とも存続していく上で不可欠です。それゆえどのような企業の、どのような事業を企業の発展段階に応じて海外に展開していくのかと学ぶ必要があります。主に中心は国内の企業を事例にあげるものの、留学生も配慮し、海外の企業の事例も取り上げ、これらのことを企業戦略との関連で学習することが授業のねらいです。

**到達目標**  
留学生を含め、国内および海外の特定の企業を取り上げ、自国における企業の海外進出を段階的に自分で説明できるようになることを目標にしています。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
各授業の評価点 小テスト90% まとめテスト10%  
以上の割合を基本にしながら総合的に判断する。小テストは各授業で実施し、小テストの評価は次回の授業でフィードバックする。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとする。

**事前・事後学習**  
講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習（それぞれ1日30分程度）を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

国際協力論  富田 与	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	PIU2004	後学期	選 択

**授業のねらい**  
この講義では「ODA（政府開発援助）はなぜ必要なのか」という問いを考えていきます。近年、「途上国」と呼ばれていた国々が急速に経済成長を遂げ、「新興経済国」として世界経済のけん引役ともなりつつあります。そうした中で、ODAはなぜ必要なのでしょう。この講義では、ODA政策を開発経済と外交政策の両面から考えていくことにします。講義は毎回の課題に関するディスカッションを中心に進めていきます。

**到達目標**  
到達目標は「なぜ、ODAが必要なのかを説明できる」です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
講義への参加度（発言等）：30%  
講義期間中のレポート：30%  
最終レポート：40%  
講義期間中のレポートは毎回発表してもらいます。  
最終レポートは希望者に返却します。返却する最終レポートにはコメントを付けます。レポートの作成については希望に応じて個別に指導します。

**事前・事後学習**  
毎回の講義で課題を出すので、予習と復習を兼ねて取り組んでください（180分）。

**授業の位置づけ**  
プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。  
幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
第1講. ガイダンス  
第2講. 国際経営とは何か  
第3講. 海外直接投資の理論(1)  
第4講. 海外直接投資の理論(2)  
第5講. 多国籍企業による国際競争の歴史  
第6講. 多国籍企業の組織デザイン  
第7講. トランスナショナル経営  
第8講. 海外子会社の経営  
第9講. 国際マーケティング  
第10講. 国際生産戦略  
第11講. ものづくりの国際拠点展開  
第12講. 研究開発の国際化  
第13講. 国際的な人的資源管理  
第14講. 国際パートナーシップ  
第15講. 日本企業のさらなる国際化のために+まとめ  
  
定期試験  
本授業ではディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
教科書として下記の書籍を使用します。必ず購入して授業に取り組んでください。  
中川 功一、林 正、多田 和美、大木 清弘 著『はじめての国際経営』有斐閣ストゥディア  
2015年0、A 5判、定価 1,980円ISBN 978-4-641-15017-1

**担当者から一言**  
国内だけでなく、海外に目を向けて幅広い視野でビジネスを考えることができるようになります。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講: ガイダンス  
第2講: なぜ、ODAは必要なのか(1): 開発経済からの知見1  
第3講: なぜ、ODAは必要なのか(2): 開発経済からの知見2  
第4講: なぜ、ODAは必要なのか(3): 開発経済からの知見3  
第5講: なぜ、ODAは必要なのか(4): 国際関係からの知見  
第6講: なぜ、ODAは必要なのか(5): 日本の政治経済から  
第7講: ODA予算の推移  
第8講: ODAを巡る政策決定過程1  
第9講: ODAを巡る政策決定過程2  
第10講: ODAと日本外交史(1): 1950年代  
第11講: ODAと日本外交史(2): 1960年代  
第12講: ODAと日本外交史(3): 1970-80年代  
第13講: ODAと日本外交史(4): 1990年代  
第14講: ODAと日本外交史(5): 2000年代  
第15講: 人間の安全保障

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
テキストと参考文献は特に指定しません。

**担当者から一言**  
講義の中では、できるだけ関連した時事問題を取り上げながら進めることにしたいと思います。国際情勢に関心のある学生の受講を期待しています。



開発経済学	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	鶴田 利恵	PIU2005	前学期 選 択

### 授業のねらい

この講義では、日本を含むアジア諸国の経済発展がどのような変遷を辿ってきたのかを、経済理論と実際の流れによって説明します。特に、国内の工業化政策、諸外国との貿易と直接投資、外国からの政府開発援助 (ODA)、そして、グローバル化が進む国際経済における自由貿易 (FTA) や地域連携協定 (EPA) が、経済成長を進める上でどのような役割を担っているのかに焦点を置いて講義していきます。授業では鶴田の解説だけでなく、活発なディスカッションを行いながら進めます。

### 到達目標

経済成長に関する基本的な理論とアジア諸国の実情を理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

授業態度 (20%)、定期試験 (80%) により評価します。  
フィードバック方法：授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと (毎日 1 時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのも OK です)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す (30 分以上)。

簿記入門	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	奥原 貴士	PBM2001	前学期 選 択

### 授業のねらい

企業は日常的に様々な活動をしています。たとえば、商品を仕入れてその商品を販売したり、事務所に使う建物を購入したり、資金が不足したら銀行から借り入れたりなど多種多様な取引を行っています。そして、これらの取引は簿記によって記録され、その記録に基づいて財務諸表が作成されます。本講義では、企業が行う取引について簿記の技術を用いてどのように記録するのかを学習します。

### 到達目標

簿記では、企業が行う取引を仕訳によって記録していきます。よって、まず仕訳のルールを理解します。そして、商品の売買や銀行からの借入れなどの取引に関する仕訳の方法を身につけます。最後に、仕訳の内容に基づいて試算表が作成できるようになることを本講義の到達目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績評価方法  
平常点 (授業への積極的な参加、小テスト等) 60%  
定期試験 40%  
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

### 事前・事後学習

予習は必要ないですが、講義で学習した内容をそのつど復習してください。新聞や雑誌などで企業の会計数値 (売上高や利益額など) を見て、この企業の経営はうまくいってそうか、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください (毎日 90 分以上)。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第 1 講 ガイダンス  
第 2 講 GDP の決定 (1)  
第 3 講 GDP の決定 (2)  
第 4 講 財政政策  
第 5 講 金融政策  
第 6 講 為替・国際収支  
第 7 講 マルサスの罠  
第 8 講 ベティ＝クラークの法則  
第 9 講 2 部門モデル  
第 10 講 工業化の初期条件と輸入代替工業化  
第 11 講 輸出志向型工業化と対外直接投資  
第 12 講 日本の政府開発援助  
第 13 講 多様化する外国資本投資とアジア通貨危機  
第 14 講 アジア経済の新動態  
第 15 講 まとめ  
定期試験  
\* 対面での講義を予定していますが、受講者数によってはオンデマンドになる場合もあります。

### テキスト・教材 (参考文献含む)

プリントを配布します。

### 担当者から一言

質問や意見はおおきに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出 (もちろん欠席扱い) を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第 1 講 ガイダンス 簿記の基礎  
第 2 講 日常の手続き (簿記上の取引・仕訳など)  
第 3 講 日常の手続き (転記・試算表作成の基礎)  
第 4 講 商品売買  
第 5 講 商品売買  
第 6 講 商品売買  
第 7 講 現金・当座預金  
第 8 講 現金・当座預金  
第 9 講 小口現金・手形  
第 10 講 小口現金・手形  
第 11 講 その他の期中取引 (貸付金・借入金など)  
第 12 講 その他の期中取引 (固定資産・有価証券など)  
第 13 講 その他の期中取引 (税金の支払など)  
第 14 講 試算表の作成  
第 15 講 試算表の作成  
定期試験

### テキスト・教材 (参考文献含む)

講義資料は毎回プリントを配布します。  
(参考文献)  
『合格テキスト日商簿記 3 級』TAC 株式会社。  
『合格トレーニング日商簿記 3 級』TAC 株式会社。

### 担当者から一言

簿記の知識を習得するには連続した学習が必要です。したがって、毎回の出席と復習が重要となります。  
電卓を毎回用意してください。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。

会計学総論	科目 ナンバリング	1 年次	2 単位
	奥原貴士	PBM2002	後学期 選 択

### 授業のねらい

会計に関する知識は、経済社会を生き抜いていくためには必要不可欠だといわれています。企業の決算書を見ると、その企業はどのようにして利益をあげているのかを知ることができます。また、その企業が将来に倒産するおそれがあるのかとといったことも推測することができます。ただし、このようなことを決算書から読み取るには会計の知識が必要となります。したがって、本講義は、会計学の主要な論点をとりあげて解説を行い、会計学の基礎知識を身につけることを目的とします。

### 到達目標

まず会計の役割を理解し、資産や負債などに関する会計学の基本的な知識を習得します。そして、それらの知識に基づいて企業の決算書から、その企業の財政状態・経営成績などを読み取ることができるようになることを到達目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60%  
小テストは15回の講義中に4回程度行います。  
定期試験40%  
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

### 事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
  - 第2講 会計情報の役割
  - 第3講 会計制度と社会(1)
  - 第4講 会計制度と社会(2)
  - 第5講 会計の仕組み(1)
  - 第6講 会計の仕組み(2)
  - 第7講 貸借対照表(1)
  - 第8講 貸借対照表(2)
  - 第9講 在庫の会計
  - 第10講 生産設備の会計
  - 第11講 金融資産の会計
  - 第12講 負債と資本の会計
  - 第13講 損益計算書(1)
  - 第14講 損益計算書(2)
  - 第15講 営業活動の会計
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

講義資料は毎回プリントを配布します。  
(参考文献)  
谷武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。  
桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞出版社。

### 担当者から一言

進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。  
日商簿記検定等の資格試験についても対応していきます。

財務諸表論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	奥原貴士	PBM2004	前学期 選 択

### 授業のねらい

企業の決算書は、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出しており、こうした会計情報に関する知識は、ビジネスの世界で活躍するためにも不可欠だといわれています。そして、会計情報を的確に読み取るためには、財務諸表がどのようなルールに基づいて作成されているのかを理解する必要があります。したがって本講義では財務会計の重要な論点を取り上げて解説を行い、財務会計の重要な論点を網羅的に理解することを目的とします。

### 到達目標

まず財務会計の役割、会計基準の必要性などの基礎知識を習得します。続いて、財務会計における主要な論点を理解することを到達目標とします。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

平常点(授業への積極的な参加、小テスト等)60%  
小テストは15回の講義中に4回程度行います。  
定期試験40%  
なお、小テストについては、各自に点数を伝えます。また、小テストの模範解答も以降の講義で示します。

### 事前・事後学習

新聞や雑誌などで企業の会計数値(売上高や利益額など)を見て、この企業の経営はうまくいってそうだが、こっちは企業は倒産の危険があるんじゃないか、ということに関心をもってください(毎日90分以上)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス
  - 第2講 財務会計の機能と制度
  - 第3講 利益計算の仕組み
  - 第4講 利益計算の仕組み
  - 第5講 会計理論と会計基準
  - 第6講 会計理論と会計基準
  - 第7講 利益測定と資産評価の基礎概念
  - 第8講 利益測定と資産評価の基礎概念
  - 第9講 現金預金と有価証券
  - 第10講 売上高と売上債権
  - 第11講 棚卸資産と売上原価
  - 第12講 有形固定資産と減価償却
  - 第13講 損益計算書と貸借対照表
  - 第14講 損益計算書と貸借対照表
  - 第15講 連結財務諸表
- 定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

講義資料は毎回プリントを配布します。  
(参考文献)  
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社。  
桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣。  
桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞出版社。

### 担当者から一言

進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。  
日商簿記検定等の資格取得の相談にも対応します。  
簿記・会計に関する講義で学習した内容を復習しておいてください。

経営戦略論	実務	科目	1 年次	2 単位
		ナンバリング	後学期	選 択
西浦尚夫		PBM2003		

### 授業のねらい

経営戦略論は、企業が競争に勝ち、長期的に成長し発展するための方策を目指しています。授業では、経営戦略の基本的フレームワークおよび戦略手法について解説します。企業経営の核心ともいえる経営戦略の意義を理解した上で、環境分析、事業戦略、競争戦略等に対する実践プロセスを習得し、企業活動の考察を通して経営戦略の基礎を学ぶことを目的としています。

### 到達目標

受講修了後、経営戦略策定に当たり、①企業におけるミッション、理念、ビジョンの重要性が理解できる。②経営資源の質と量の差にもとづいた競争上の地位に相応しい戦略が構想できる。③企業を支えるのは顧客であること。戦略を構築するために必要な視点を理解することを到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
 ・授業時に指示する課題の提出状況 45%  
 ・定期試験 55%  
 毎回提出する課題レポートで、学習意欲、理解度、文章構成力を確認し評価します。  
 3回以上課題レポートを提出しない学生には、原則として単位を与えません。なお、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の経済ニュースに目とおし、自分が利用するサービスや購入した商品等がどのような経営戦略を用いているかを考えること（1日20分以上）。講義内容のテキストやノートを見返して、不明な点などは、参考文献等で調べておくこと（40分）。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス・企業活動と経営戦略
  - 第2講 経営戦略の概念
  - 第3講 基本戦略の内容(経営戦略構成要素)
  - 第4講 経営管理(PCDAサイクル)
  - 第5講 競争優位の実現(SWOT分析)
  - 第6講 競争の戦略(1)
  - 第7講 競争の戦略(2)
  - 第8講 差別化戦略
  - 第9講 顧客価値
  - 第10講 成長戦略
  - 第11講 戦略事例(1)
  - 第12講 戦略事例(2)
  - 第13講 戦略事例(3)
  - 第14講 イノベーション戦略
  - 第15講 経営戦略論まとめ
- 定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

市販のテキストは使用せず、適宜資料、パワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。

### 担当者から一言

遅刻、授業中の中座、スマートフォンの操作等は原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。就職活動の参考になるよう、企業活動の考察を通して経営戦略を学ぶという実践的な授業義を目指しています。真剣な態度で受講してください。

マーケティング論	実務	科目	2 年次	2 単位
		ナンバリング	前学期	選 択
西浦尚夫		PBM2005		

### 授業のねらい

「マーケティング」は、企業経営における中核的な理念や活動の指針として着目され、果たす役割は、ますます大きくなっています。本授業では、実践されている企業活動の考察を通して、マーケティングの基礎を学ぶことを目的としています。

### 到達目標

受講修了後、「マーケティング」とは何かと尋ねられた時、定義と具体例によって、論理的かつ端的に自らの考えを話し、文章を作成できることを到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

成績は次のような配分により評価します。  
 ・授業時に指示する課題の提出状況 45%  
 ・定期試験 55%  
 毎回提出する課題レポートで、学習意欲、理解度、文章構成力を確認し評価します。  
 3回以上課題レポートを提出しない学生には、原則として単位を与えません。なお、授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

日頃からテレビや新聞の経済ニュースに目とおし、自分の購入した商品等がどういう戦略を用いているかを考えること（1日20分以上）。講義内容のテキストやノートを見返して、不明な点などは、参考文献等で調べておくこと（40分）。

授業の位置づけ
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

- 第1講 ガイダンス・マーケティングの基礎概念
  - 第2講 マーケティングの基礎課題
  - 第3講 マーケティングの進め方:「B+STP+M」の概念
  - 第4講 顧客分析
  - 第5講 マーケティング計画(1)
  - 第6講 マーケティング計画(2)
  - 第7講 経営資源
  - 第8講 戦略・戦術的マーケティング
  - 第9講 市場戦略と競争対応
  - 第10講 マーケティングリサーチ
  - 第11講 ブランド戦略(1)
  - 第12講 ブランド戦略(2)
  - 第13講 グローバルマーケティング
  - 第14講 マーケティングの社会的な役割
  - 第15講 マーケティング論まとめ
- 定期試験

### テキスト・教材（参考文献含む）

市販のテキストは使用せず、適宜、資料、パワーポイントを活用しながら、理解を深める授業を展開します。

### 担当者から一言

遅刻、授業中の中座、スマートフォンの操作等は原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。就職活動の参考になるよう、企業活動の考察を通してマーケティングを学ぶという実践的な授業義を目指しています。真剣な態度で受講してください。

中小企業論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	岡 良浩	PBM2008	後学期 選 択

### 授業のねらい

この講義は企業経営を人的側面からみることをねらいとしています。企業経営には「正解」というものはありません。企業は、日々、自らの事業の改良や新しいビジネスを模索しています。この講義では、毎回、経営者の対談やエピソードに関する映像を見ていただき、その経営者が何を重要と思いながら日々経営を考えているか、なぜそのような経営理念が生まれるのかを探ることを目標とします。

### 到達目標

- 以下の3つを目標とします。
1. 中小企業の役割や課題を理解する。
  2. 企業の経営理念と事業内容の関係を理解する。
  3. 全体を通じて中小企業がもつ経営の特質を理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

毎回の要約(50%)  
学期末のレポート試験(50%)  
提出された要約は添削して返却します。

### 事前・事後学習

予習:とりあげる企業の概要を調べておくこと(90分)  
復習:毎回の要約の提出(90分)

### 授業の位置づけ

地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。

### 授業計画

- |      |                           |
|------|---------------------------|
| 第1講  | ガイダンス                     |
| 第2講  | ユニバーサルスタジオジャパン            |
| 第3講  | 星野リゾート                    |
| 第4講  | コメダ珈琲                     |
| 第5講  | 喫茶ルノワール                   |
| 第6講  | 佐藤可士和                     |
| 第7講  | ハローキティ                    |
| 第8講  | the people's super market |
| 第9講  | 葉っぱビジネスいろいろ               |
| 第10講 | マザーハウス                    |
| 第11講 | 矢場トン                      |
| 第12講 | 井村屋                       |
| 第13講 | ワークマン                     |
| 第14講 | ものづくりツアー-in三重             |
| 第15講 | まとめ                       |
- ※とりあげる企業は、変更する可能性があります。

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に使用しません。  
四日市大学教育支援システム(moodle)を使用します。

### 担当者から一言

皆さんも経営者になった気持ちで、受講してください。  
毎回、映像の内容を要約するのは大変ですが、よい訓練になります。

人事管理論	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	吉成 亮	PBM3001	前学期 選 択

### 授業のねらい

この授業のねらいは企業ではたらくさまざまなひとびとに関する様々な問題と、その解決策としての人事の制度を理解することです。企業ではたらくひとびとの問題は多岐にわたるとともに、企業の根幹をなしています。なぜならば、企業ではたらくひとびとを管理し、ひとびとを育てずに長期的な成長を夢見することはできないからです。そのためこれから就職をしようと考えている学生にとって重要な科目です。

### 到達目標

この授業の到達目標は、企業が抱えている、はたらくひとびとの問題点を複数、自分で発見できるだけでなく、企業ではたらくひとびとの問題点への対処法を自分なりに考え、その考えでまわりのひとびとに納得させることができることが目標です。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

各授業の小テスト90%、まとめテスト10% 成績評価は以上の割合を基本にしなが総合的に判断します。小テストのフィードバックは小テストの実施後の授業で行います。まとめテストとは授業前半のまとめと期末テストとします。

### 事前・事後学習

講義の前後に授業中で指示された単元の予習、復習(それぞれ1日30分程度)を行うことが望ましいです。また課題の提出を課すこともあります。

### 授業の位置づけ

プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。  
幅広い人間力を身につける。

### 授業計画

- |      |                     |
|------|---------------------|
| 第1講  | ガイダンス 人事管理とは        |
| 第2講  | 組織をつくる              |
| 第3講  | 働くということ             |
| 第4講  | システムとしての人事管理        |
| 第5講  | 社員格付け制度:雇用関係を支える仕組み |
| 第6講  | 採用と退出:雇用関係を交わす      |
| 第7講  | 配置:仕事を割り振る          |
| 第8講  | 評価と報酬:報いる           |
| 第9講  | 人材育成:「育つ」と「育てる」の交差  |
| 第10講 | 労使関係:従業員尊重のための人事管理  |
| 第11講 | 非正社員の基幹化            |
| 第12講 | 女性の活躍推進             |
| 第13講 | ワーク・ライフ・バランスと働き方改革  |
| 第14講 | グローバル経営と国際的人事管理     |
| 第15講 | 人事管理の未来             |
- 定期試験

本授業ではディスカッション、ディベート、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。

### テキスト・教材(参考文献含む)

指定の教科書は下記の教科書になります。授業は始まる前にそらえておいてほしいです。  
平野 光俊, 江夏 幾多郎 著『人事管理 - 人と企業, とともに生きるために』有斐閣ストゥディア  
2018年06月, A 5 判, 定価 2,310円 ISBN 978-4-641-15047-8です。

### 担当者から一言

特に企業はどのように人を育てているのかということを理解し、自分の活かし方を学んでほしいです。

ものづくり経営	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	楓 森博 PBM2006	後学期	必修

### 授業のねらい

本講義は企業の生産活動を理解するため、ものづくりの理念、過程、管理の基本知識を講義します。経営管理の中で生産管理について製造業を中心に概観する講義です。経営戦略など経営管理の基本も解説します。講義で学ぶ生産管理の基礎を活用しながら企業経営の実際をケーススタディにより理解を深めることを、この講義のねらいとします。

### 到達目標

この講義では、日本のものづくりの実態を概観し、生産管理の基本的な用語や知識を身につけ、社会人としてビジネスの基礎力を習得することを、到達目標としています。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

定期的に講義内容の確認レポートを提出。小テストまたは確認レポート50%、最終レポート50%  
無断欠席者については、減点等ペナルティを課すことがある。  
レポートにて理解度を確認し、授業進行を調整する。  
なお、提出したレポートは、評価して以降の講義内で返却します。

### 事前・事後学習

日ごろから新聞やテレビの講義に関連したニュースに目を通す。(60分)講義で提示した新しい用語等を自分で再度調べてみる。また、新聞・雑誌・インターネット等で事例を確認する。(120分)

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス、講義の概要
第2講	ものづくり経営とは
第3講	経営管理の全体の流れ
第4講	生産のプロセス
第5講	企業の組織化
第6講	経営戦略の基礎
第7講	マネジメントイノベーション
第8講	生産管理の基礎(企業の財務情報)
第9講	経営理念と企業目標
第10講	企業と社会
第11講	コーポレート・ガバナンス
第12講	企業倫理、企業文化、社会的責任
第13講	コストの管理—原価管理
第14講	ケース・スタディ I (講義の時点で話題となっている企業を取り上げる)
第15講	全体のまとめ 最終レポート

### テキスト・教材 (参考文献含む)

レジュメを配布する。

### 担当者から一言

受講予定者は、第1回講義に必ず出席してください。  
講義内容で不明な点は、積極的に質問してください。また、授業中はリアクションできる真摯な態度で受講してください。

流通論	科目 ナンバリング	2 年次	2 単位
	杉谷克芳 PBM2007	前学期	選択

### 授業のねらい

本講義では、現実の流通業の動向にホットな関心を抱きつつ、「流通の社会的役割」「農産物流通」「投機的流通から延期的流通へ」等の流通経済の理論的な話をしていきます。流通業は、もっとも身近な産業だと言えます。私たちは毎日どこかで買物をしており、流通業の変化は私たちの消費生活に直接的に影響を与えます。また、卒業後のあなたの方の就職先として流通業が近年ますます大きな比重を占めてもいます。流通業の動きに興味をもったり、何気なく買物をしていた店舗を見る眼が変わったりのきっかけになればと思っています。

### 到達目標

流通論の基本的用語や理論を理解した上で、現実の流通業の動きに関心をもち、自分なりに分析する力を培うこと。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

基本的には定期試験の結果によって評価します(80%)。また、授業への積極的な参加度、小テスト、レポート(任意提出)等による加点を行います(20%程度)。定期試験だけで秀をとる人はきわめて稀です。受講態度や小テスト等による加点をねらいましょう。授業中・授業後の質問には、適宜、授業内で回答していきます。

### 事前・事後学習

新聞、雑誌などの流通業に関する記事に目を通すこと、テレビやインターネットでも構いません(毎日30分以上)。講義後は、その日のノートを見返して、不明な点を参考文献等で調べておくこと(60分以上)。

### 授業の位置づけ

系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

### 授業計画

第1講	ガイダンス、講義の概要
第2講	必要としての買物と娯楽としての買物
第3講	小売業の定義、小売業と卸売業、小売業とサービス業
第4講	社会的分業と流通、生産と消費の間の懸隔の架橋
第5講	流通の4要素と流通フロー、流通の担い手とは
第6講	商業者の存立基盤、取引数最小化の原理
第7講	農産物流通—卸売市場流通と卸売市場外流通、食料品ニーズの変化、
第8講	農産物流通—卸売市場の誕生とその目的
第9講	農産物流通—卸売市場の仕組み
第10講	農産物流通—青果物流通の現在、畜産・米・お茶の流通
第11講	在庫の役割、危険プールの原理
第12講	投機的流通の延期化、ファーストファッション
第13講	延期と投機、回転寿司
第14講	SPAと延期化、ユニクロ
第15講	セブンイレブン・ジャパン、コンビニを支えるもの

### テキスト・教材 (参考文献含む)

特になし。講義中に適宜プリントを配布します。

### 担当者から一言

あまり難しい話にならず、学生さんの興味を引く授業にしたいと思いますが、そのためには学生さんの協力が必要です。私語は苦手ですので、よろしく。また、講義中のスマホ使用も禁止します。

農業経営論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	鶴田利恵・杉谷克芳	PBM2009	後学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義では、前半(杉谷担当)において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半(鶴田担当)では国際的な視点から農業問題を考えます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスがどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT(貿易と関税に関する一般協定)やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。

**到達目標**  
日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
前半のレポート(50%)と後半の試験(50%)により評価します。  
フィードバック方法：講義中や終了後の質問や疑問には適宜コメントします。

**事前・事後学習**  
日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(30分以上)。

起業論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	岡 良浩	PBM2010	前学期 選 択

**授業のねらい**  
この講義では起業家精神(アントレプレナーシップ)を養うための講義と演習を行います。  
起業家精神とは、事業を起こす可能性を追求する能力のことです。このような能力は、例えば暗記したり学説を理解したりする能力とは全く異なり、創造的思考が必要です。  
まずアントレプレナーシップの事例を学びます。次に創造的思考の技法を学びます。最後に、ソーシャルビジネスを事例に、これらがどのような共通の発想で成り立っているかを理解したうえで、自らビジネスモデルの立案を試みます。

**到達目標**  
以下の3つを掲げています。  
① アントレプレナーシップが事業者にどのように活用されているかを理解する。  
② 創造的思考の技法を身につける。  
③ 自ら事業企画を立案する。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
課題への取り組み(50%)学期末のレポート試験(50%)  
提出された課題は、コメントをつけて返却します。

**事前・事後学習**  
参考文献は講義中に示します。事前に学習してください(90分)。報告や小レポートの提出を求めますので自宅で行ってください(90分)。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 ガイダンス  
第2講 日本の農業の現状①:農地、農家、農業産出額  
第3講 日本の農業の現状②:農業生産の縮小と食糧自給率の低下  
第4講 日本の農政①:戦後改革と農業、食糧制度  
第5講 日本の農政②:高度成長と農業、農業基本法、総合農政  
第6講 日本の農政③:グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法  
第7講 農業のビジネス化、地域の農業:農業生産法人、企業の農業参入  
第8講 前半のまとめ  
第9講 世界の食糧事情と問題点  
第10講 穀物貿易の特質  
第11講 農業保護政策  
第12講 輸出競争とGATT農業交渉  
第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ  
第14講 FTA(自由貿易協定)と農業問題  
第15講 後半のまとめ  
\*対面での講義を予定していますが、受講者数によってはオンデマンドになる場合もあります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
プリントを配布します。

**担当者から一言**  
質問や意見はおおきに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。

**授業の位置づけ**  
系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

**授業計画**  
第1講 4/8 ガイダンス  
第2講 4/15 アントレプレナーシップと事業事例1  
第3講 4/22 アントレプレナーシップと事業事例2  
第4講 5/6 アントレプレナーシップと事業事例3  
第5講 5/13 創造的思考実習1(ブレインストーミング/KJ法)  
第6講 5/20 創造的思考実習2(ソーシャルビジネスの企画立案)  
第7講 5/27 企画立案のフィードバック  
第8講 6/3 ビジネスプランコンテスト  
第9講 6/10 事業計画の構成1(総論)  
第10講 6/17 事業計画の構成2(フィナンシング)※1  
第11講 6/24 ビジネスモデル立案の実習1  
第12講 7/1 ビジネスモデル立案の実習2  
第13講 7/8 ビジネスモデルのフレームワーク  
第14講 7/15 企業家育成経営塾 ※2  
第15講 7/22 まとめ  
※1は、株式会社三十三総研が提供する授業です。  
※2は、三重県信用保証協会が提供する授業です。  
※1・※2は日程・内容などが異なる場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
特に使用しません。講義中に適宜プリントを配布します。

**担当者から一言**  
この授業を通じてビジネスプランが完成すれば、株式会社三十三総研のビジネスプランコンテストに応募していただきます。是非、応募をめぐってください。

出版文化論	実務	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	稲葉年計	PCF2001	前学期	選 択

**授業のねらい**  
 本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。  
 時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。

**到達目標**  
 全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。  
 文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。  
 できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業ではMoodleあるいは出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 成績評価は、授業への参加度40%、定期試験（レポート）60%による。レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。Moodleあるいは出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）については、次の回の授業の冒頭で、質問があれば回答し、また良いもの、面白いものがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思えます。

**事前・事後学習**  
 本や小説、映画等により時事的なニュースや社会に触れること。(80分)  
 授業後には配布資料に目を通し復習すること。(10分)

日本文化論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	永井 博	PCF2002	前学期 選 択

**授業のねらい**  
 いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。  
 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたかについて一緒に考えてみたい。

**到達目標**  
 「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標とする。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。

**事前・事後学習**  
 予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。(90分)  
 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。(90分)

**授業の位置づけ**  
 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。

- 授業計画**
- ガイダンス
  - 1960年代の文学の展開(松本清張)
  - 1960年代の文学の展開(三島由紀夫) ——全体性の喪失——
  - 東浩紀『動物化するポストモダン』
  - 東浩紀『ゲーム的リアリズムの誕生』
  - 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』①
  - 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』②
  - 宇野常寛『ゼロ年代の想像力』③
  - 村上春樹論
  - 宇野常寛『母性のディストピア』
  - 永江朗『小さな出版社の作り方』①
  - 永江朗『小さな出版社の作り方』②
  - 永江朗『小さな出版社の作り方』③
  - 著作権について
  - 全講義のまとめ  
定期試験

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 (テキスト)宇野常寛著「母性のディストピアⅡ 発動篇」早川書房(2019年)定価：924円  
 (参考文献)宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房(2011年)定価：902円  
 毎講義において、PowerPoint資料あるいはプリントを提示します。

**担当者から一言**  
 授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるよう考えます。また留学生にもできる限り配慮したいと思えます。

**授業の位置づけ**  
 幅広い人間力を身につける。

- 授業計画**
- 第1回 ガイダンス
  - 第2回 「文化」概念について
  - 第3回 「日本文化論」の問題点について
  - 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ① 「日本文化私観」
  - 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論 ② 「ニッポン」
  - 第6回 日本の食文化 お雑煮
  - 第7回 加藤周一〈雑種文化論〉 ① その背景
  - 第8回 加藤周一〈雑種文化論〉 ② その主張
  - 第9回 加藤周一〈雑種文化論〉 ③ その特長と問題点
  - 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要
  - 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点
  - 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特長
  - 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論
  - 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容
  - 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想的意味  
定期試験

**テキスト・教材（参考文献含む）**  
 プリントなどの資料を配布する。

**担当者から一言**  
 日本の文化論がこれまでにそのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っています。

東洋文化論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	加納 光	PCF2003	後学期 選 択

**授業のねらい**  
 アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。  
 アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。  
 アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。

**到達目標**  
 この授業では、社会・文化・宗教・言語など、さまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。

**事前・事後学習**  
 毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください(90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください(90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。

**事前・事後学習**  
 毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください(90分)。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください(90分)。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。

西洋文化論	科目 ナンバリング	2年次	2単位
	山本 伸	PCF2004	後学期 選 択

**授業のねらい**  
 本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにすることです。

**到達目標**  
 近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識すること、それが大きな目標となります。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
 平常点(積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等)50%、レポート(期末試験)50%で総合的に判断します。なお、確認テストについては毎回授業の最後に行い、添削して翌週返却(受講者多数の場合はその限りではない)します。

**事前・事後学習**  
 前週に出された課題(テキストの熟読/わからない用語の検索等)に90分、学習した箇所の復習(前週の確認テストの誤答分析/テキストのおさらい/ノート整理等)に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。

**授業の位置づけ**  
 幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講:ガイダンス、講義の概要  
 第2講:アジアとは何か  
 第3講:アジアの地理学的な規定1  
 第4講: 同上 2  
 第5講:アジアの地域区分  
 第6講:アジアの語源  
 第7講:アジアの多様性  
 第8講:民族の多様性  
 第9講:言語の多様性 グループ発表①  
 第10講:宗教の多様性1 グループ発表②  
 第11講: 同上 2 グループ発表③  
 第12講:中国近代史1  
 第13講: 同上 2  
 第14講: 同上 3  
 第15講: 同上 4 まとめ  
 定期試験  
 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 プリント教材(適宜教材を配布します)。

**担当者から一言**  
 日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。

**授業の位置づけ**  
 幅広い人間力を身につける。

**授業計画**  
 第1講 ガイダンス、導入「本講義で学べること」  
 第2講 カリブ海地域における異文化コミュニケーション  
 第3講 歴史と教育①  
 第4講 社会・人種・アイデンティティー①/アフリカ系とインド系  
 第5講 社会・人種・アイデンティティー②/インド系内比較  
 第6講 社会・人種・アイデンティティー③/中国系  
 第7講 台湾映画『セデック・バレ』(前半)  
 第8講 台湾映画『セデック・バレ』(後半)  
 第9講 文化とコミュニティ/カーニバルと精神文化  
 第10講 文化と宗教  
 第11講 クレオリズムとグローカリズム①/ハイチのクレオリズム  
 第12講 クレオリズムとグローカリズム②/ジャマイカのグローカリズム  
 第13講 平和  
 第14講 カリブ文学研究の現代的意義  
 第15講 まとめ  
 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
 山本 伸著 『カリブ文学研究入門』(世界思想社)2005年 定価:1,500円(税込)

**担当者から一言**  
 カリブ(およびアジア)の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。



地域文化論／文化論 a <b>実務</b>	科目 ナンバリング	3 年次	2 単位
	前田 憲司	PCF2005	前学期 選 択

**授業のねらい**  
文化とは人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。それぞれの民族・地域・社会に固有の文化があり、学習によって伝習されるとともに、相互の交流によって発展してきました。文化の地域的特質を考えると、三重県と四日市市にもさまざまな文化的資源があります。その紹介を通じて、心豊かな社会生活を送るために、将来にわたって必ず役立つ基本的な教養と具体的な知識を身につけることを目的とします。さらには、自らの郷土が有する文化資産に対して再認識するきっかけづくりとし、地域社会に対する関心を高めることを目的とします。

- 到達目標**
1. 三重県および四日市市の多岐にわたる文化的特徴を学ぶことにより
  2. この地域にある文化資源の概要が把握でき、特色が理解できる。
  3. 自身の出身地に対してもどのような特色があるのか探究心を持つ。
  4. 地域社会に対する関心が高まる。
  5. 国の内外を問わず、地域外の人々がこの地域のどこに魅力を感じるのか客観的にわかる。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
毎回講義(1 回目～15 回目)ごとに提出させるミニレポート 35%  
※1 講義当たり 0～25 ポイントで評価し通算します。  
試験(語句解説等と論述) 65%  
以上を採点合計し、総合的に判断する。  
なお、授業内容に関する質問は毎回提出するミニレポートに記入するものとし、質問に対する回答、レポート内容に誤りがある場合の指摘等は次の授業で行います。

**事前・事後学習**  
日頃から新聞の地域面、タウン誌や広報などに目を通し、地域文化情報を察知する術を身につけておくこと(毎日30分程度)。授業資料を見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと(30分)。機会があれば授業で取り上げた文化資源の所在地へ赴くこと。(最低1カ所)

メディアの150年史	科目 ナンバリング	13カリ	2 単位
	木村 眞知子	前学期	選 択

**授業のねらい**  
古くから私たちの暮らしはメディアと深く結びついています。メディアの変化が我々人類の政治や経済、社会、文化の変容にどうかかわってきたかを学び、これからのメディアと私たちの未来を展望します。また、これまでメディアが、何を、どのように語り、描いてきたかを振り返り、メディアの役割を考察するものとします。授業内容をより理解するために、ミニレポートや課題レポートを課します。

**到達目標**  
メディアと人類の歴史を概観することでメディアが歴史に及ぼしてきた影響を知り、変化し続けるメディア環境を生きる私たちと今の社会を理解していきます。

**成績評価方法・課題・フィードバックの方法**  
成績評価は次の通りとします。  
ミニレポート・課題レポート:50%  
定期試験:50%  
課題レポートについては、以降の講義で取り上げ応答していきます。

**事前・事後学習**  
課題レポート等のためのリサーチ・分析も事前学習と認めます。その準備として「メディア」をより理解するために、毎日30分程度、ネットやテレビ、ラジオ、新聞、雑誌などで、今、どのような情報が発信されているかを調べ、分析すること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次の講義で質問できるように準備をすること。

**授業の位置づけ**  
幅広い人間力を身に付ける。

- 授業計画**
1. ガイダンス
  2. 文化とは
  3. 三重が誇れるもの(「三重」の知名度は低いと誇れるものがいっぱい)
  4. 伊勢神宮
  5. 熊野古道(世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」)
  6. 海女と忍者
  7. 街道と交通(東海道を中心に)
  8. 伝統工芸(松阪木綿・伊勢型紙・日永うちわ・鈴鹿墨・伊勢根付など)
  9. スポーツ文化と伝統芸能
  10. 食文化
  11. 三重の人々
  12. 三重のまつり(世界遺産「山・鉾・屋台行事」から)
  13. 四日市が誇れるもの(四日市の日本一・近代産業遺産と夜景など)
  14. 地域文化資源の活用(三重国体開会式典のとりまとめを例に)
  15. 振り返り
- ※ 試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
参考図書 ・「新視点 三重県の歴史」(山川出版社)  
・「伊勢神宮とはなにか」(集英社新書)  
・「目で見る 鳥羽・志摩の海女」(海の博物館)  
授業内容に応じて参考図書の紹介を行います。

**担当者から一言**  
2021年に開催される三重とこわか国体の式典専門委員長を務めるなど、地域文化をもとにした事業企画や、メディア取材など、さまざま経験から得た、三重県や四日市市の文化的特長について、画像や映像を紹介しながら講義します。いわば「雑学」を得る感覚で受講してください。

**授業の位置づけ**  
「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修(教養)を積み上げていきます。

- 授業計画**
- 第1講 講義ガイダンス——メディアの歴史を読み解く意味
  - 第2講 メディア事始め——人類が生き抜くために
  - 第3講 文字の登場——歴史の始まり
  - 第4講 メディアの変化と歴史1印刷革命 宗教改革へ
  - 第5講 メディアの変化と歴史2動く映像の登場
  - 第6講 メディアの変化と歴史3電信・ラジオ ヒットラー&ルーズベルト
  - 第7講 メディアの変化と歴史4ラジオ 玉音放送
  - 第8講 メディアの変化と歴史5テレビ ケネディvsニクソン～ベトナム戦争
  - 第9講 メディアが描いたもの①高度経済成長と「豊かさ」
  - 第10講 メディアの変化と歴史6テレビ新時代 ベルリンの壁崩壊
  - 第11講 メディアが描いたもの②広告と暮らし
  - 第12講 メディアの変化と歴史6 SNS アラブの春
  - 第13講 メディアが描いたもの③災害とメディア——同時性とアーカイブ
  - 第14講 変わりゆくメディア、変わりゆく世界
  - 第15講 まとめ——課題試験に向けて
- 定期試験

**テキスト・教材(参考文献含む)**  
なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。

**担当者から一言**  
歴史を学ぶことは単に史実を知ることだけでなく、歴史から今の私たちへのメッセージを受け取ることです。メディアの歴史からのメッセージを読み取り、今の私たちを、時代を深く理解したいと思っています。

線型代数	科目 ナンバリング	13カリ	2単位
		前学期	選 択

金 岩 稔

### 授業のねらい

この講義では線形代数の基礎を理解するために、一般的な集合と写像の理解からはじめ、ベクトルや行列の性質を理解します。これらを用いて連立一次方程式の解法の理論化を行います。

### 到達目標

集合・写像の理解と、線形代数における関数の理解、ベクトル行列の性質や解法を理解する。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

期末試験により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。

### 事前・事後学習

講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと(60分)。講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと(120分)。

統計学	科目 ナンバリング	13カリ	2単位
		後学期	選 択

井 岡 幹 博

### 授業のねらい

環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。

### 到達目標

確率変数の意味を理解する。2つの確率変数の相関係数が計算できる。正規分布の意味を理解する。回帰分析が実行できる。

### 成績評価方法・課題・フィードバックの方法

課題提出50% 定期試験50%  
提出した課題はその都度採点して返却します。

### 事前・事後学習

配布されるプリントを熟読すること(予習)。毎回課される課題を自宅で演習すること(復習)。

<b>授業の位置づけ</b> 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
---

### 授業計画

第1講 ガイダンス、線形代数とは  
第2講 集合と写像  
第3講 数ベクトルと行列  
第4講 行列とその演算  
第5講 行列とその演算(つづき)  
第6講 色々な行列  
第7講 逆行列の求め方  
第8講 内積と直交行列  
第9講 連立方程式の解き方  
第10講 平面上の一次変換  
第11講 固有値と固有ベクトル  
第12講 行列式の展開公式  
第13講 行列式の計算法  
第15講 行列式の計算法(つづき)  
定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

特に設定しません。

### 担当者から一言

復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。

<b>授業の位置づけ</b> 「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。
---

### 授業計画

第1講 ガイダンス  
第2講 平均の性質  
第3講 分散と標準偏差  
第4～5講 回帰分析  
第6講 相関係数  
第7講 順列と組み合わせ  
第8講 標本空間と事象  
第9講 確率  
第10講 条件付き確率  
第11講 ベイズの公式  
第12講 確率変数  
第13講 正規分布(1)  
第14講 正規分布(2)  
第15講 データが世の中でどのように使われているか  
定期試験

### テキスト・教材(参考文献含む)

テキスト・教材  
長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社 1,706円  
参考文献  
宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣 ¥2,800+税

### 担当者から一言

授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。

卒業研究  小泉・リース	科目 ナンバリング	13カリ	2単位	授業の位置づけ プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける。 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける。
		後学期	選 択	
授業のねらい 学生が自分の将来や興味からテーマを設定し、卒業論文執筆や卒業制作を進めていく。卒業研究のテーマは指導教員との相談で設定していく。また、地域イベントへの参画、各種コンテスト応募、クラブ活動、大学祭実行委員会活動、作品制作などを通して社会を研究し、その成果を記録する「卒業制作」も卒業研究として認める。				授業計画 基本的に教員と学生が個別にスケジュールを相談し、9月末を目途に研究計画を決定する。基本的に授業時間外に個別指導を行うが、日時の設定などは個別に相談して決めていく。
到達目標 テーマを深く追求し、その根本にあるものを学び取り、それを他者に論文や作品として伝えることが到達目標である。				
成績評価方法・課題・フィードバックの方法 個別指導によって卒業研究をすすめていくなかでフィードバックを行う。各自のテーマにそった論文・作品としての完成度をもって評価する。				
事前・事後学習 論文・作品を仕上げることも大切だが、ニュースや新聞などから社会の動きを知り、いつでも卒業論文・卒業制作に反映できるよう、日々の学習をしてほしい。				
				テキスト・教材（参考文献含む） 必要に応じて各自収集する。
				担当者から一言 興味があれば、深く、詳しく追求できるはず。どんなテーマを設定しても、必ず将来の仕事・生活に役立つはず。大変ではあるが、ぜひ、自分らしい論文・作品を完成させよう！

授業科目名	総合政策特別講義Ⅲ	授業コード	113513	科目ナンバリング	PSL2003
担当教員	前川督雄、片山清和、千葉 賢				
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選択
授業の位置づけ	調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける 幅広い人間力を身につける				
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会(ネット)とフィジカル社会(現実社会)とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いて AIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスと AI についてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス序論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身につけてもらいます。				
到達目標	データサイエンスと AI について基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身につける。				
授業計画	第1講(9/29) ガイダンス 第2講(10/6) 社会で起きている変化① Society5.0(前川) 第3講(10/13) 社会で起きている変化② AI(前川) 第4講(10/20) 社会で起きている変化③ データ駆動型社会(前川) 第5講(10/27) 社会で活用されているデータ(片山) 第6講(11/3) データ・AI 利活用の最新動向(前川) 第7講(11/10) データ・AI の活用領域(片山) 第8講(11/17) データ・AI の利活用のための技術(片山) 第9講(11/24) データ・AI 利活用の現場(片山) 第10講(12/1) データを読む・説明する・扱う(導入)(片山) 第11講(12/8) データを読む・説明する・扱う(演習)(片山) 第12講(12/15) データ・AI 利活用における留意事項①(千葉) 第13講(12/22) データ・AI 利活用における留意事項②(千葉) 第14講(1/12) データを守るうえでの留意事項(千葉) 第15講(1/19) まとめ 定期試験 (必要に応じて内容・順序を変更することがあります)				
テキスト・教材(参考文献含む)	テキスト 岡嶋ほか「はじめての AI リテラシー」技術評論社 税別 1680 円 参考文献 江間「絵と図でわかる AI と社会」技術評論社 税別 2000 円				
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること(60分)。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと(120分)。				
成績評価方法・課題・フィードバック方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題 60%、定期試験 40%で総合評価する。				
担当者から一言	なし。				

## 索引(担当教員) 50音順

	担当教員	科目名	ページ
い	井岡幹博	情報と職業	13
		統計学(13カリ)	135
	池上貴文	メディアツール a	57
		メディアツール b	59
	池田幹男	情報倫理	12
		アプリケーション演習I/アプリケーション演習b	14
		アプリケーション演習II/アプリケーション演習a	14
		おもてなし特別講義 b	52
		メディアツール a	57
		メディアツール b	59
		Webプログラミング a	62
		Webプログラミング b	63
	池田裕美子	介護予防スポーツ/スポーツ実技 a	120
	石田修二	コンピュータリテラシー	12
	磯野巧	地理学概論	28
		地誌	28
	伊藤薫	こころの健康/健康科学	121
	伊藤晴苗	基礎日本語 I	3
		基礎日本語 II	4
		日本語中級 I	10
		日本語中級 II	10
		日本語上級 I	11
		日本語上級 II	11
	稲葉年計	出版文化論	132
	岩崎恭典	「人間たれ」	1
		祭りとまちづくり	107
		鉄道とまちづくり	107
		コミュニティ論	108
	岩崎祐子	入門演習 I	1
		入門演習 II	2
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
		国際協力研修/青年海外協力研修	37
		ビジネスマネジメント	50
		マーケティング演習	51
		おもてなし特別講義 a	51
		おもてなし特別講義 b	52
		総合政策論 I	64
		金融論	124
え	エリック・プレイ	英語コミュニケーション I	5
		英語コミュニケーション II	6
		観光英語 I / 英会話 a	52
		観光英語 II / 英会話 b	53
お	大西信行	からだとこころ	113
	岡佑哉	地域社会の歴史	15
		日本史概論/歴史学	27
	岡良浩	四日市学	15

	担当教員	科目名	ページ
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
		ビジネスマナー	47
		サービス経営論	48
		ビジネスコミュニケーション/秘書実務	49
		オペレーション演習	50
		マーケティング演習	51
		おもてなし特別講義 a	51
		おもてなし特別講義 b	52
		総合政策論 I	64
		総合政策論 II	65
		地域経済論	100
		地域産業論	103
		地域開発論	104
		環境政策	110
		観光政策/観光実務	110
		中小企業論	129
		起業論	131
	奥原貴士	入門演習 I	1
		入門演習 II	2
		ビジネスマネジメント	50
		政策科学入門	64
		総合政策論 I	64
		基礎演習 a	65
		基礎演習 b	71
		専門演習 a	77
		専門演習 b	83
		専門演習 c	88
		専門演習 d	94
		簿記入門	126
		会計学総論	127
		財務諸表論	127
か	楓森博	コンピュータリテラシー	12
		経営管理論	123
		ものづくり経営	130
	片山清和	情報倫理	12
		Webプログラミング a	62
		インターネット論	63
	金岩稔	線型代数(13カリ)	135
	加納光	基礎日本語 I	3
		基礎日本語 II	4
		中国語 I / 基礎中国語 I	6
		中国語 II / 基礎中国語 II	7
		日本語中級 I	10
		日本語中級 II	10
		日本語上級 I	11
		日本語上級 II	11

	担当教員	科目名	ページ
		総合政策論Ⅱ	65
		東洋文化論	133
き	鬼頭浩文	四日市学	15
		地域防災／総合政策特講 a (地域防災)	17
		経済学	19
		インターンシップ	38
		公務のための経済学	44
		政策科学入門	64
		総合政策論Ⅰ	64
		基礎演習 a	66
		基礎演習 b	72
		専門演習 a	78
		専門演習 b	83
		専門演習 c	89
		専門演習 d	94
		音楽とまちづくり／芸術学	107
		環境政策	110
		経済政策	111
	木村真知子	メディアの150年史(13カリ)	134
け	ケント・スコット	基礎英語Ⅰ	2
		基礎英語Ⅱ	3
こ	小泉大亮	総合政策論Ⅱ	65
		基礎演習 a	66
		基礎演習 b	72
		専門演習 a	78
		専門演習 b	84
		専門演習 c	89
		専門演習 d	95
		スポーツ政策論	114
		スポーツ生理学	116
		健康スポーツ論	117
		スポーツ応用科学	118
		スポーツメディカル論	119
		地域スポーツ論	119
		健康スポーツ実技／スポーツ実技 c	121
		卒業研究(13カリ)	136
	ゴードン・リース	基礎英語Ⅰ	2
		基礎英語Ⅱ	3
		英語コミュニケーションⅠ	4
		英語コミュニケーションⅡ	5
		公務のための英文理解	46
		英語表現Ⅰ／英語で映画	54
		英語表現Ⅱ／英語でドラマ	55
		総合政策論Ⅱ	65
		卒業研究(13カリ)	136
	後藤由紀	こころの健康／健康科学	121
	小林聖仁	民法入門	23
	小林慶太郎	入門演習Ⅰ	1

	担当教員	科目名	ページ
		入門演習Ⅱ	2
		地域連携特別講義 a	18
		地域連携特別講義 a	18
		政治学	20
		公務のための政治学	44
		公務のための論文・面接	47
		政策科学入門	64
		総合政策論Ⅱ	65
		基礎演習 a	67
		基礎演習 b	73
		専門演習 a	79
		専門演習 b	84
		専門演習 c	90
		専門演習 d	95
		地方自治論	99
		政策過程論	100
		行政法	101
		食とまちづくり	106
		マイノリティ政策	109
さ	櫻井智美	スポーツ栄養学	117
し	柴田啓文	基礎英語Ⅰ	2
		基礎英語Ⅱ	3
		コンピュータ英語Ⅰ／英語でメモ・e-mail	53
		コンピュータ英語Ⅱ／英語でコンピュータ	54
		地域福祉論／福祉住環境論	104
す	杉崎一美	からだところ	113
	杉谷克芳	入門演習Ⅰ	1
		入門演習Ⅱ	2
		文章表現論(留学生以外のクラス)	25
		オペレーション演習	50
		日本経済事情	124
		流通論	130
		農業経営論	131
せ	関根辰夫	メディアリテラシー	21
		キャリア基礎Ⅰ	34
		キャリア基礎Ⅱ	35
		キャリア基礎Ⅲ	36
		メディアツール d	61
		音楽とまちづくり／芸術学	107
た	高田晴美	ジェンダー論	21
		キャリア基礎Ⅰ(公務員クラス)	34
		キャリア基礎Ⅱ(公務員クラス)	35
		キャリア基礎Ⅲ(公務員クラス)	36
		公務のための数的推理／公務のための数的処理	42
		公務のための判断推理	43
		公務のための現代文	43
		公務のための自然科学	46
		政策科学入門	64

	担当教員	科 目 名	ページ
		総合政策論	I 64
		基礎演習	a 67
		基礎演習	b 73
		専門演習	a 79
		専門演習	b 85
		専門演習	c 90
		専門演習	d 96
		こころと文学	122
	田中伊知郎	コンピュータリテラシー	12
		情報倫理	12
		自然科学概論	30
		生物学概論 / 生物学	32
		生物と進化	32
		心理学	33
		キャリア基礎	I 34
		キャリア基礎	II 35
		キャリア基礎	III 36
		データ分析の基礎 / データ分析論	39
		統計的分析 / 社会調査のための統計学	40
	田中麻衣	メディアツール	c 60
	ち千葉賢	情報倫理	12
		情報科学	13
		観光政策 / 観光実務	110
	つ角田延之	基礎日本語	I 3
		基礎日本語	II 4
		日本語中級	I 10
		日本語中級	II 10
		日本語上級	I 11
		日本語上級	II 11
	鶴田利恵	入門演習	I 1
		入門演習	II 2
		政策科学入門	64
		総合政策論	II 65
		基礎演習	a 68
		基礎演習	b 74
		専門演習	a 80
		専門演習	b 85
		専門演習	c 91
		専門演習	d 96
		現代財政学	101
		国際経済事情	122
		開発経済学	126
		農業経営論	131
	てデイビッド・ダイクス	基礎英語	I 2
		基礎英語	II 3
		ビジネス英語	I 55
		ビジネス英語 II / ビジネス英語	56
	と富田与	入門演習	I 1

	担当教員	科 目 名	ページ
		入門演習	II 2
		フィールドワーク論 / 比較文化論	41
		グローバルコミュニケーション	49
		政策科学入門	64
		総合政策論	II 65
		基礎演習	a 68
		基礎演習	b 74
		専門演習	a 80
		専門演習	b 86
		専門演習	c 91
		専門演習	d 97
		国際関係論	123
		国際協力論	125
	な永井博	入門演習	I 1
		入門演習	II 2
		四日市学	15
		文学	25
		文章表現論 (留学生クラス)	26
		キャリア基礎	I 34
		キャリア基礎	II 35
		キャリア基礎	III 36
		オペレーション演習	50
		政策科学入門	64
		総合政策論	I 64
		総合政策論	II 65
		日本文化論	132
	中西紀夫	日本国憲法 / 憲法	22
		法学	23
		キャリア基礎 I (公務員クラス)	34
		キャリア基礎 II (公務員クラス)	35
		キャリア基礎 III (公務員クラス)	36
		公務のための法学	45
		政策科学入門	64
		総合政策論	I 64
		総合政策論	II 65
		基礎演習	a 69
		基礎演習	b 75
		専門演習	a 81
		専門演習	b 86
		専門演習	c 92
		専門演習	d 97
		行政法	101
		都市法	102
		政策法務	103
	に西浦尚夫	マーケティング演習	51
		経営戦略論	128
		マーケティング論	128
	の野呂達哉	地域社会と環境	17

	担当教員	科目名	ページ
は	萩典子	からだところ	113
		ところの健康 / 健康科学	121
ふ	フェリペ・フェハリ	基礎英語 I	2
		基礎英語 II	3
		ポルトガル語 I	8
		ポルトガル語 II	9
		倫理学	24
		哲学	24
		総合政策論 I	64
		基礎演習 a	69
		基礎演習 b	75
	藤本和弘	行 政 学	102
		都 市 政 策	111
へ	別所史子	からだところ	113
ほ	堀内敬弘	Web デザイン a	61
		Web デザイン b	62
	本部賢一	入 門 演 習 I	1
		入 門 演 習 II	2
		コンピュータリテラシー	12
		アプリケーション演習 I / アプリケーション演習 b	14
		アプリケーション演習 II / アプリケーション演習 a	14
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
		政策科学入門	64
		総合政策論 I	64
		総合政策論 II	65
		交 通 政 策	112
		都 市 計 画 論	112
ま	前川督雄	メディアリテラシー	21
		文化論 / 文化論 b	26
		Web プログラミング a	62
		音楽とまちづくり / 芸術学	107
	前田憲司	祭りとまちづくり	107
		地域文化論 / 文化論 a	134
	牧田直子	化学概論 / 化学 I	31
		キャリア基礎 I	34
		キャリア基礎 II	35
		キャリア基礎 III	36
	松井真理子	市 民 教 育	16
		人 権 論	16
		ボランティア活動 a・b	37
		政策科学入門	64
		総合政策論 I	64
		総合政策論 II	65
		基礎演習 a	70
		基礎演習 b	76
		専 門 演 習 a	81

	担当教員	科目名	ページ
		専 門 演 習 b	87
		専 門 演 習 c	92
		専 門 演 習 d	98
		N P O 論	109
み	三田泰雅	入 門 演 習 I	1
		入 門 演 習 II	2
		社 会 学	20
		ジ ェ ン ダ ー 論	21
		社会調査入門 / 社会調査論	38
		社会調査の技法 / 社会調査方法論	39
		社会調査実習 1 / まちづくり研究	41
		社会調査実習 2 / コース別研修	42
		政策科学入門	64
		総合政策論 I	64
		基礎演習 a	70
		基礎演習 b	76
		専 門 演 習 a	82
		専 門 演 習 b	87
		専 門 演 習 c	93
		専 門 演 習 d	98
		地 域 社 会 学	105
	都 映 里	メ デ ィ ア ツ ー ル a	58
		メ デ ィ ア ツ ー ル b	60
む	武藤和成	海外語学研修 a (英語) / 海外語学研修	9
		検 定 英 語 I	56
		検定英語 II / 資格のための英語	57
も	森 康 則	地 学 概 論	31
や	安田由紀子	基礎日本語 I	3
		基礎日本語 II	4
		日本語中級 I	10
		日本語中級 II	10
		日本語上級 I	11
		日本語上級 II	11
	山川和美	販売士講座 / 販売士論	48
	山本敦也	コンピュータリテラシー	12
	山本伸	メディアリテラシー	21
		西洋文化論	133
よ	吉成亮	経 営 学	19
		国際経営論	125
		人 事 管 理 論	129
	吉見勝治	数 学 概 論	30
		データ解析の技法 / 量的データ解析法	40
		環 境 社 会 学	106
	吉山青翔	中国語 I / 基礎中国語 I	7
		中国語 II / 基礎中国語 II	8
		科学的思考論	29
		科学思想史	29
		環 境 論	33



	担当教員	科目名	ページ
		キャリアア基礎 I	34
		キャリアア基礎 II	35
		キャリアア基礎 III	36
り	李 修二	入門演習 I	1
		入門演習 II	2
		四日市学	15
		社会福祉概論 / 社会福祉論	22
		世界史概論	27
		キャリアア基礎 I	34
		キャリアア基礎 II	35
		キャリアア基礎 III	36
		公務のための人文科学	45
		社会保障論	105
わ	若山裕晃	総合政策論 I	64
		基礎演習 a	71
		基礎演習 b	77
		専門演習 a	82
		専門演習 b	88
		専門演習 c	93
		専門演習 d	99
		こころの科学	113
		スポーツ指導論	114
		スポーツトレーニング論	115
		スポーツ心理学	115
		スポーツ社会学	116
		アスリート育成論	118
		スポーツ実技 / スポーツ実技 b	120

## 索引(科目名) 50音順

	科 目 名	担当教員	ページ
あ	ア ス リ ー ト 育 成 論	若 山 裕 晃	118
	アプリケーション演習I/アプリケーション演習b	池田幹男・本部賢一	14
	アプリケーション演習II/アプリケーション演習a	本部賢一・池田幹男	14
い	イ ン タ ー ネット 論	片 山 清 和	63
	イ ン タ ー ン シ ッ プ	鬼 頭 浩 文	38
う	W e b デ ザ イ ン a	堀 内 敬 弘	61
	W e b デ ザ イ ン b	堀 内 敬 弘	62
	Web プ ロ グ ラ ミ ン グ a	片山清和・池田幹男・前川督雄	62
	Web プ ロ グ ラ ミ ン グ b	池 田 幹 男	63
え	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	ゴ ー ド ン ・ リ ー ス	4
	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I	エ リ ッ ク ・ プ レ イ	5
	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	ゴ ー ド ン ・ リ ー ス	5
	英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II	エ リ ッ ク ・ プ レ イ	6
	英 語 表 現 I / 英 語 で 映 画	ゴ ー ド ン ・ リ ー ス	54
	英 語 表 現 II / 英 語 で ド ラ マ	ゴ ー ド ン ・ リ ー ス	55
	N P O 論	松 井 真 理 子	109
お	オ ペ レ ー シ ョ ン 演 習	永井 博・岡 良浩・杉谷克芳	50
	おもてなし特別講義 a	岩崎祐子・岡 良浩	51
	おもてなし特別講義 b	池田幹男・岩崎祐子・岡 良浩	52
	音楽とまちづくり / 芸術学	鬼頭浩文・関根辰夫・前川督雄	107
か	海外語学研修a(英語) / 海外語学研修	武 藤 和 成	9
	会 計 学 総 論	奥 原 貴 士	127
	介護予防スポーツ / スポーツ実技a	池 田 裕 美 子	120
	開 発 経 済 学	鶴 田 利 恵	126
	化 学 概 論 / 化 学 I	牧 田 直 子	31
	科 学 思 想 史	吉 山 青 翔	29
	科 学 的 思 考 論	吉 山 青 翔	29
	か ら だ と こ こ ろ	萩・大西・杉崎・別所	113
	環 境 社 会 学	吉 見 勝 冶	106
	環 境 政 策	鬼頭浩文・岡 良浩	110
	環 境 論	吉 山 青 翔	33
	観 光 英 語 I / 英 会 話 a	エ リ ッ ク ・ プ レ イ	52
	観 光 英 語 II / 英 会 話 b	エ リ ッ ク ・ プ レ イ	53
	観 光 政 策 / 観 光 実 務	千 葉 賢 ・ 岡 良 浩	110
き	起 業 論	岡 良 浩	131
	基 礎 英 語 I	リス・フェハリス・スコット・柴田・ダイク	2
	基 礎 英 語 II	リス・フェハリス・スコット・柴田・ダイク	3
	基 礎 演 習 a	奥 原 貴 士	65
	基 礎 演 習 a	鬼 頭 浩 文	66
	基 礎 演 習 a	小 泉 大 亮	66
	基 礎 演 習 a	小 林 慶 太 郎	67
	基 礎 演 習 a	高 田 晴 美	67
	基 礎 演 習 a	鶴 田 利 恵	68
	基 礎 演 習 a	富 田 与	68
	基 礎 演 習 a	中 西 紀 夫	69
	基 礎 演 習 a	フェリペ・フェハーリ	69
	基 礎 演 習 a	松 井 真 理 子	70
	基 礎 演 習 a	三 田 泰 雅	70

	科 目 名	担当教員	ページ
	基 礎 演 習 a	若 山 裕 晃	71
	基 礎 演 習 b	奥 原 貴 士	71
	基 礎 演 習 b	鬼 頭 浩 文	72
	基 礎 演 習 b	小 泉 大 亮	72
	基 礎 演 習 b	小 林 慶 太 郎	73
	基 礎 演 習 b	高 田 晴 美	73
	基 礎 演 習 b	鶴 田 利 恵	74
	基 礎 演 習 b	富 田 与	74
	基 礎 演 習 b	中 西 紀 夫	75
	基 礎 演 習 b	フェリペ・フェハーリ	75
	基 礎 演 習 b	松 井 真 理 子	76
	基 礎 演 習 b	三 田 泰 雅	76
	基 礎 演 習 b	若 山 裕 晃	77
	基 礎 日 本 語 I	加納・伊藤晴・角田・安田	3
	基 礎 日 本 語 II	加納・伊藤晴・角田・安田	4
	キ ャ リ ア 基 礎 I	岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山	34
	キャリア基礎I(公務員クラス)	高田晴美・中西 紀夫	34
	キ ャ リ ア 基 礎 II	岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山	35
	キャリア基礎II(公務員クラス)	高田晴美・中西 紀夫	35
	キ ャ リ ア 基 礎 III	岡良・岩崎祐・永井・本部・李・関根・田中伊・牧田・吉山	36
	キャリア基礎III(公務員クラス)	高田晴美・中西 紀夫	36
	行 政 学	藤 本 和 弘	102
	行 政 法	小 林 慶 太 郎 他	101
	金 融 論	岩 崎 祐 子	124
く	グ ロー バ ル コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	富 田 与	49
	け 経 営 学	吉 成 亮	19
	経 営 管 理 論	楓 森 博	123
	経 営 戦 略 論	西 浦 尚 夫	128
	経 済 学	鬼 頭 浩 文	19
	経 済 政 策	鬼 頭 浩 文	111
	健康スポーツ実技 / スポーツ実技c	小 泉 大 亮	121
	健 康 ス ポ ー ツ 論	小 泉 大 亮	117
	現 代 財 政 学	鶴 田 利 恵	101
	検 定 英 語 I	武 藤 和 成	56
	検定英語II / 資格のための英語	武 藤 和 成	57
こ	交 通 政 策	本 部 賢 一	112
	公務のための英文理解	ゴ ー ド ン ・ リ ー ス	46
	公務のための経済学	鬼 頭 浩 文	44
	公務のための現代文	高 田 晴 美	43
	公務のための自然科学	高 田 晴 美	46
	公務のための人文科学	李 修 二	45
	公務のための数的推理 / 公務のための数的処理	高 田 晴 美	42
	公務のための政治学	小 林 慶 太 郎	44
	公務のための判断推理	高 田 晴 美	43
	公務のための法学	中 西 紀 夫	45

	科 目 名	担当教員	ページ
	公務のための論文・面接	小林慶太郎	47
	国際関係論	富田与	123
	国際協力研修／青年海外協力研修	岩崎祐子	37
	国際協力論	富田与	125
	国際経営論	吉成亮	125
	国際経済事情	鶴田利恵	122
	こころと文学	高田晴美	122
	こころの科学	若山裕晃	113
	こころの健康／健康科学	萩典子・工藤安史・後藤由紀	121
	コミュニティ論	岩崎恭典	108
	コンピュータ英語I／英語でメモ・e-mail	柴田啓文	53
	コンピュータ英語II／英語でコンピュータ	柴田啓文	54
	コンピュータリテラシー	本部・田中伊・石田楓・山本敦	12
さ	サービス経営論	岡良浩	48
	財務諸表論	奥原貴士	127
し	ジェンダー論	高田晴美・三田泰雅	21
	自然科学概論	田中伊知郎	30
	市民教育	松井真理子	16
	社会学	三田泰雅	20
	社会調査実習1／まちづくり研究	三田泰雅	41
	社会調査実習2／コース別研修	三田泰雅	42
	社会調査入門／社会調査論	三田泰雅	38
	社会調査の技法／社会調査方法論	三田泰雅	39
	社会福祉概論／社会福祉論	李修二	22
	社会保障論	李修二	105
	出版文化論	稲葉年計	132
	情報科学	千葉賢	13
	情報と職業	井岡幹博	13
	情報倫理	片山・池田・田中伊・千葉	12
	食とまちづくり	小林慶太郎	106
	人権論	松井真理子	16
	人事管理論	吉成亮	129
	心理学	田中伊知郎	33
す	数学概論	吉見勝冶	30
	スポーツ栄養学	櫻井智美	117
	スポーツ応用科学	小泉大亮	118
	スポーツ実技／スポーツ実技b	若山裕晃	120
	スポーツ指導論	若山裕晃	114
	スポーツ社会学	若山裕晃	116
	スポーツ心理学	若山裕晃	115
	スポーツ政策論	小泉大亮	114
	スポーツ生理学	小泉大亮	116
	スポーツトレーニング論	若山裕晃	115
	スポーツメディカル論	小泉大亮	119
せ	政策科学入門	永井・奥原・鬼頭・小林慶・高田・鶴田・富田・中西・本部・松井・三田	64
	政策過程論	小林慶太郎	100
	政策法務	中西紀夫	103

	科 目 名	担当教員	ページ
	政治学	小林慶太郎	20
	生物学概論／生物学	田中伊知郎	32
	生物と進化	田中伊知郎	32
	西洋文化論	山本伸	133
	世界史概論	李修二	27
	線型代数(13カリ)	金岩稔	135
	専門演習 a	奥原貴士	77
	専門演習 a	鬼頭浩文	78
	専門演習 a	小泉大亮	78
	専門演習 a	小林慶太郎	79
	専門演習 a	高田晴美	79
	専門演習 a	鶴田利恵	80
	専門演習 a	富田与	80
	専門演習 a	中西紀夫	81
	専門演習 a	松井真理子	81
	専門演習 a	三田泰雅	82
	専門演習 a	若山裕晃	82
	専門演習 b	奥原貴士	83
	専門演習 b	鬼頭浩文	83
	専門演習 b	小泉大亮	84
	専門演習 b	小林慶太郎	84
	専門演習 b	高田晴美	85
	専門演習 b	鶴田利恵	85
	専門演習 b	富田与	86
	専門演習 b	中西紀夫	86
	専門演習 b	松井真理子	87
	専門演習 b	三田泰雅	87
	専門演習 b	若山裕晃	88
	専門演習 c	奥原貴士	88
	専門演習 c	鬼頭浩文	89
	専門演習 c	小泉大亮	89
	専門演習 c	小林慶太郎	90
	専門演習 c	高田晴美	90
	専門演習 c	鶴田利恵	91
	専門演習 c	富田与	91
	専門演習 c	中西紀夫	92
	専門演習 c	松井真理子	92
	専門演習 c	三田泰雅	93
	専門演習 c	若山裕晃	93
	専門演習 d	奥原貴士	94
	専門演習 d	鬼頭浩文	94
	専門演習 d	小泉大亮	95
	専門演習 d	小林慶太郎	95
	専門演習 d	高田晴美	96
	専門演習 d	鶴田利恵	96
	専門演習 d	富田与	97
	専門演習 d	中西紀夫	97
	専門演習 d	松井真理子	98

	科 目 名	担当教員	ページ
	専 門 演 習 d	三 田 泰 雅	98
	専 門 演 習 d	若 山 裕 晃	99
そ	綜 合 政 策 論 I	永井・岩崎祐・岡良・奥原・鬼頭・高田・中西・フェハリー・本部・松井・三田・若山	64
	綜 合 政 策 論 II	永井・岡良・加納・小泉・リース・小林慶・鶴田・富田・中西・本部・松井	65
そ	卒 業 研 究 (13 カ リ )	小 泉 ・ リ ー ス	136
ち	地 域 開 発 論	岡 良 浩	104
	地 域 経 済 論	岡 良 浩	100
	地 域 産 業 論	岡 良 浩	103
	地 域 社 会 学	三 田 泰 雅	105
	地 域 社 会 と 環 境	野 呂 達 哉	17
	地 域 社 会 の 歴 史	岡 佑 哉	15
	地 域 ス ポ ー ツ 論	小 泉 大 亮	119
	地域福祉論／福祉住環境論	柴 田 啓 文	104
	地域文化論／文化論 a	前 田 憲 司	134
	地域防災／総合政策特講a(地域防災)	鬼 頭 浩 文	17
	地域連携特別講義 a	小 林 慶 太 郎	18
	地域連携特別講義 b	小 林 慶 太 郎	18
	地 学 概 論	森 康 則	31
	地 誌	磯 野 巧	28
	地 方 自 治 論	小 林 慶 太 郎	99
	中国語Ⅰ／基礎中国語Ⅰ	加 納 光	6
	中国語Ⅰ／基礎中国語Ⅰ	吉 山 青 翔	7
	中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ	加 納 光	7
	中国語Ⅱ／基礎中国語Ⅱ	吉 山 青 翔	8
	中 小 企 業 論	岡 良 浩	129
	地 理 学 概 論	磯 野 巧	28
て	データ分析の基礎／データ分析論	田 中 伊 知 郎	39
	データ解析の技法／量的データ解析法	吉 見 勝 冶	40
	哲 学	フェリペ・フェハリー	24
	鉄 道 と ま ち づ くり	岩 崎 恭 典	108
と	統 計 学 (13 カ リ )	井 岡 幹 博	135
	統計的分析／社会調査のための統計学	田 中 伊 知 郎	40
	東 洋 文 化 論	加 納 光	133
	都 市 計 画 論	本 部 賢 一	112
	都 市 政 策	藤 本 和 弘	111
	都 市 法	中 西 紀 夫	102
に	日 本 経 済 事 情	杉 谷 克 芳	124
	日 本 国 憲 法 ／ 憲 法	中 西 紀 夫	22
	日 本 語 上 級 I	加納・伊藤・角田・安田	11
	日 本 語 上 級 II	加納・伊藤・角田・安田	11
	日 本 語 中 級 I	加納・伊藤・角田・安田	10
	日 本 語 中 級 II	加納・伊藤・角田・安田	10
	日 本 史 概 論 ／ 歴 史 学	岡 佑 哉	27
	日 本 文 化 論	永 井 博	132
	入 門 演 習 I	三田・岩崎祐・奥原・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・李	1

	科 目 名	担当教員	ページ
	入 門 演 習 II	三田・岩崎祐・奥原・小林慶・杉谷・鶴田・富田・永井・本部・李	2
	「 人 間 た れ 」	岩 崎 恭 典	1
の	農 業 経 営 論	鶴田利恵・杉谷克芳	131
は	販 売 士 講 座 ／ 販 売 士 論	山 川 和 美	48
ひ	ビ ジ ネ ス 英 語 I	デイビッド・ダイクス	55
	ビジネス英語Ⅱ／ビジネス英語	デイビッド・ダイクス	56
	ビジネスコミュニケーション／秘書実務	岡 良 浩	49
	ビ ジ ネ ス マ ナ ー	岡 良 浩	47
	ビ ジ ネ ス マ ネ ジ メ ン ト	岩崎祐子・奥原貴士	50
ふ	フィールドワーク論／比較文化論	富 田 与	41
	文 学	永 井 博	25
	文 化 論 ／ 文 化 論 b	前 川 督 雄	26
	文章表現論(留学生以外のクラス)	杉 谷 克 芳	25
	文章表現論(留学生クラス)	永 井 博	26
ほ	法 学	中 西 紀 夫	23
	簿 記 入 門	奥 原 貴 士	126
	ボランティア活動 a・b	松 井 真 理 子	37
	ポ ル ト ガ ル 語 I	フェリペ・フェハリー	8
	ポ ル ト ガ ル 語 II	フェリペ・フェハリー	9
ま	マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習	岡 良 浩・岩崎祐子・西浦尚夫	51
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	西 浦 尚 夫	128
	マ イ ノ リ テ ィ 政 策	小 林 慶 太 郎	109
	祭りとまちづくり	岩 崎 恭 典 他	107
み	民 法 入 門	小 林 聖 仁	23
め	メ デ ィ ア ツ ー ル a	池 田 幹 男	57
	メ デ ィ ア ツ ー ル a	池 上 貴 文	58
	メ デ ィ ア ツ ー ル a	都 映 里	58
	メ デ ィ ア ツ ー ル b	池 田 幹 男	59
	メ デ ィ ア ツ ー ル b	池 上 貴 文	59
	メ デ ィ ア ツ ー ル b	都 映 里	60
	メ デ ィ ア ツ ー ル c	田 中 麻 衣	60
	メ デ ィ ア ツ ー ル d	関 根 辰 夫	61
め	メディアの150年史(13カリ)	木 村 眞 知 子	134
	メ デ ィ ア リ テ ラ シ ー	前川督雄・関根辰夫・山本 伸	21
も	も の づ くり 経 営	楓 森 博	130
よ	四 日 市 学	鬼頭・岡良・永井・李	15
り	流 通 論	杉 谷 克 芳	130
	倫 理 学	フェリペ・フェハリー	24

学籍番号

氏名

---